1

ナルニア国物語 2
ライオンと魔女と衣装だんす

C・S・ルイス　土屋京子・訳　玉樹庵・画

（光文社古典新訳文庫刊）

——むかし

スーザン

エドマンド

ルーシー
という

ピーター

四人の
子どもたちが
いた

「この物語は

ガタ

ゴト

四人の
子どもたちが
戦争中に
空襲を避けて

ガタ

ゴトッ

ロンドンから
疎開していたあいだに
起こったことである



第1話　ルーシー、衣装だんすをのぞく

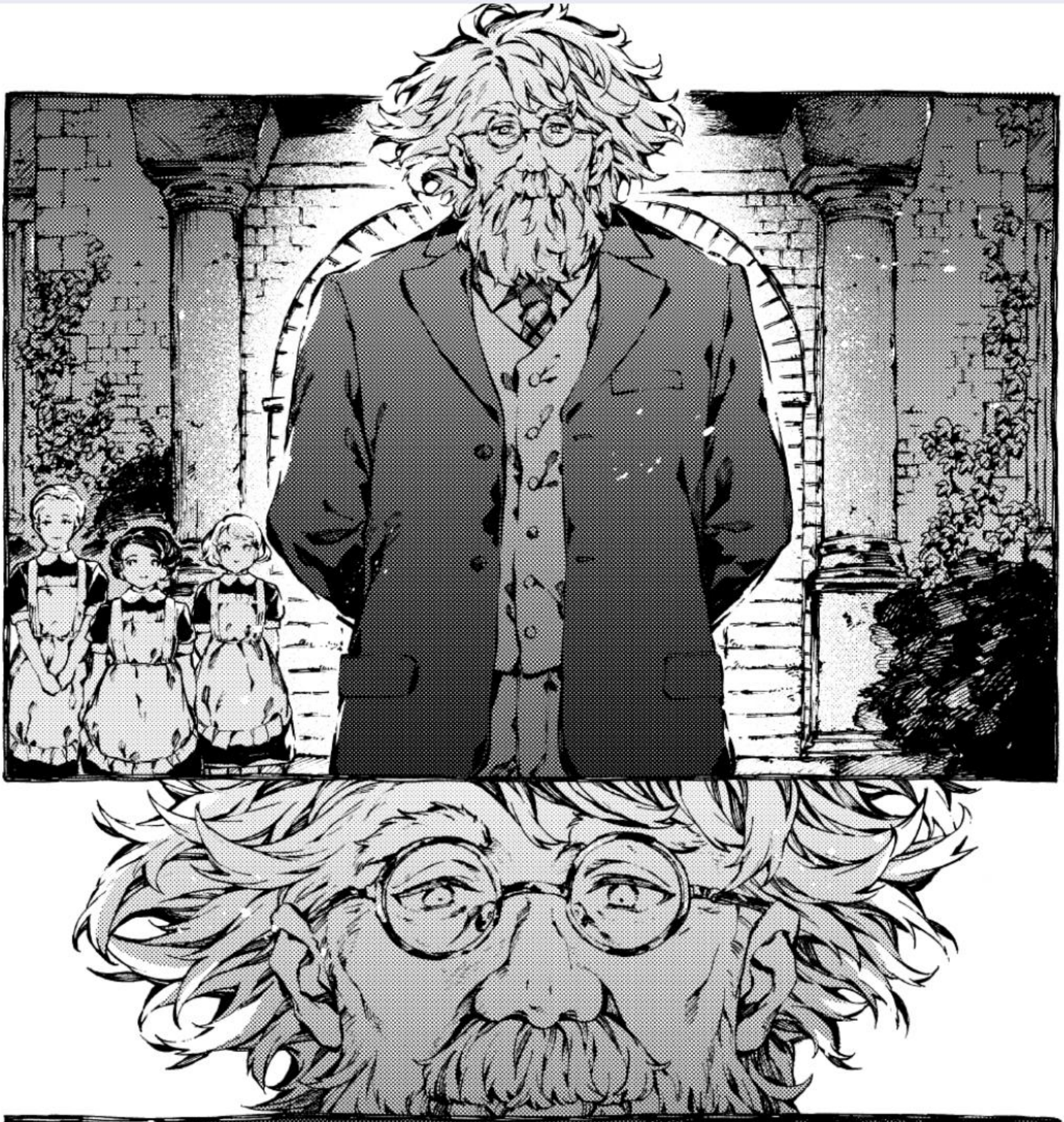
着きましたよ

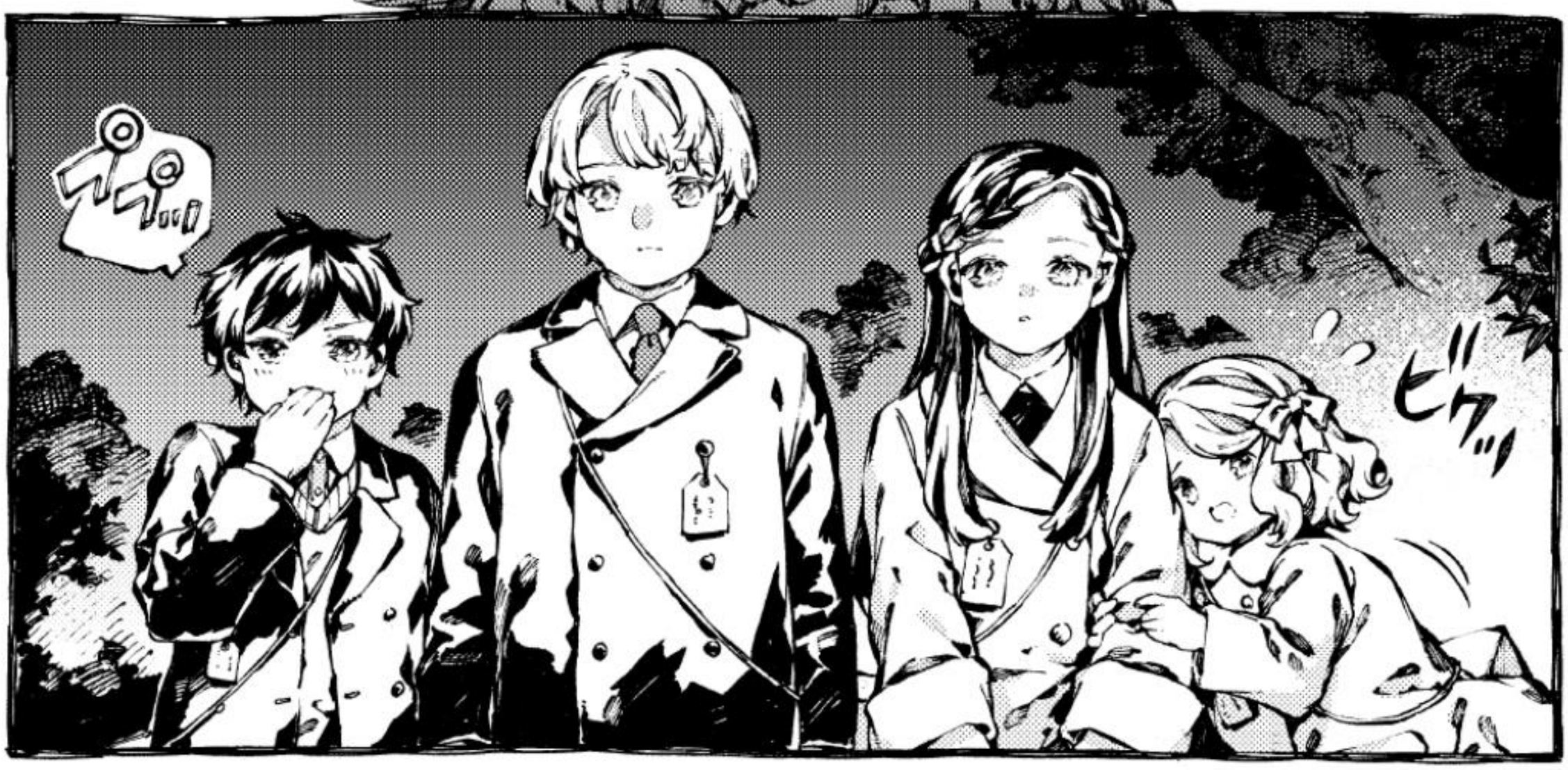
フルルッ

ありがとうございますマクレディさん

カーク教授

子どもたちをお連れしました




ヒィ!!

遠いところから
よく来たね

さ

お入り

お世話に
なります

よろしく
お願いします

ゴソ

教授
おやすみなさい
おはいおやすみ
ゴンゴン

ぼくたち
運がいいぞ

まちがいない

これは
楽しく
なるぞ！

あのおじいさんなら
何でも好きなように
させてくれるよ

よさそうな
人じゃないの

ふん
偉そうに！

そういう
言い方

どういう
言い方？

やめて
ほしいね

どっちに
しても
あんた

ほら

もう寝る
時間でしょ

また
母さんみたいな
口きいて

『もう寝る
時間でしょ』
だって

何様の
つもりだよ？

自分こそ
さっさと
寝りゃいいだろ

みんな
もう寝たほうが
いいんじゃない？

こんなふうに
しゃべってるのが
見つかったら
きっと
叱られるわよ

だいじょうぶ
だよ

こういう
屋敷じゃ
ぼくたちが
何やってるか
なんて
誰も気にしや
しないよ

どっちに
しろ
ぼくたちの声は
聞こえない
だろうし

だって

ここから階下のダイニング・ルームまで 歩いて一〇分もかかるんだよ？

しかも

そのあいだには階段や廊下がいっぱいあるし

ピカッ！

え

いまの音

何？

ゴロン

ただの鳥だよ

バ～カ

フクロウの声だよ

ここはいろんな鳥がいっぱいいると思うよ

ぼくもう寝ようっと

ね

あした

みんなで
探検に
出かけようよ

こういう
場所だもの

いろんなものが
見つかると思うんだ

来るとき
山が
見えただろう？

森も
あったし

ワシがいるかもしれないよ

あと雄(お)ジカとか

タカも

アナグマも！

ウサギも！

キツネも！



エド
ぶつくさ
言わないの

どうせ
こんなことだろうと
思ったよ！

キッ!!

きっと
一時間もすれば
雨なんかやむわよ

それまでは
ここで遊べば
いいじゃない

ラジオも
あるし

本も
たくさんあるし

ワン

うーん

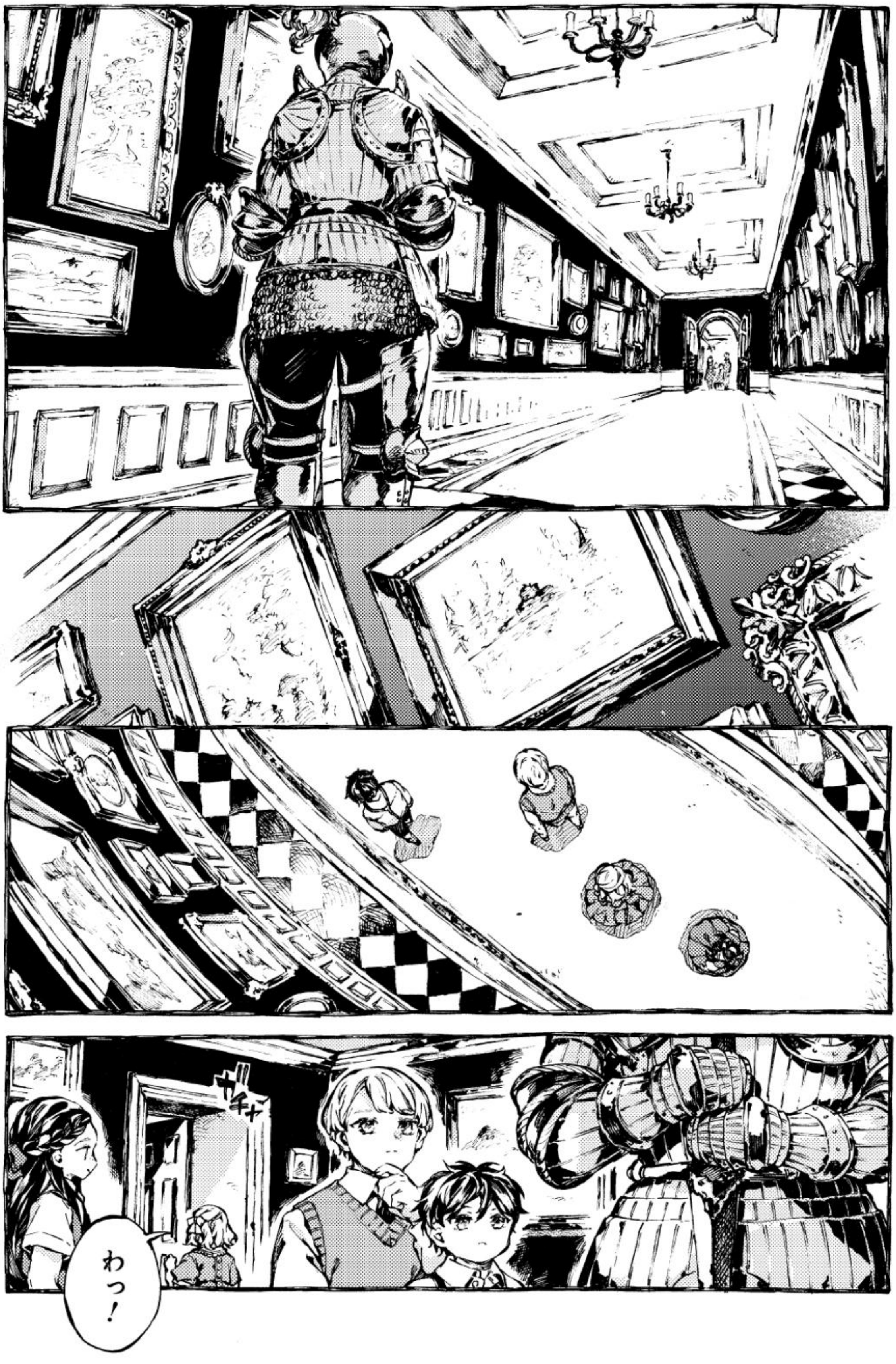
ぼくは
ちがうこと
したいな

?

この屋敷を探検するんだ

賛成！




わっ！

ぜんぶ緑色！

何この部屋には何があるのかな？



ギ!!
ア
ア
ア…
ギ!!
ギ!!
ギ!!
ヨロ
ヨロ
何もなし！


ゴゴ
ゴゴ
ゴゴ

毛皮のにおいと
さわり心地
大好き！

どれだけ大きな
たんすなの！

17…

！

どう
なってるの？

し

ヒヤ…

まだここにも
樟脳玉(しょうのうだま)が
落ちてたのかしら？

何これ？

木の枝みたい！

ｷﾗｷﾗ

ｷﾗｷﾗ

ｷﾗ…

ｷﾗ…

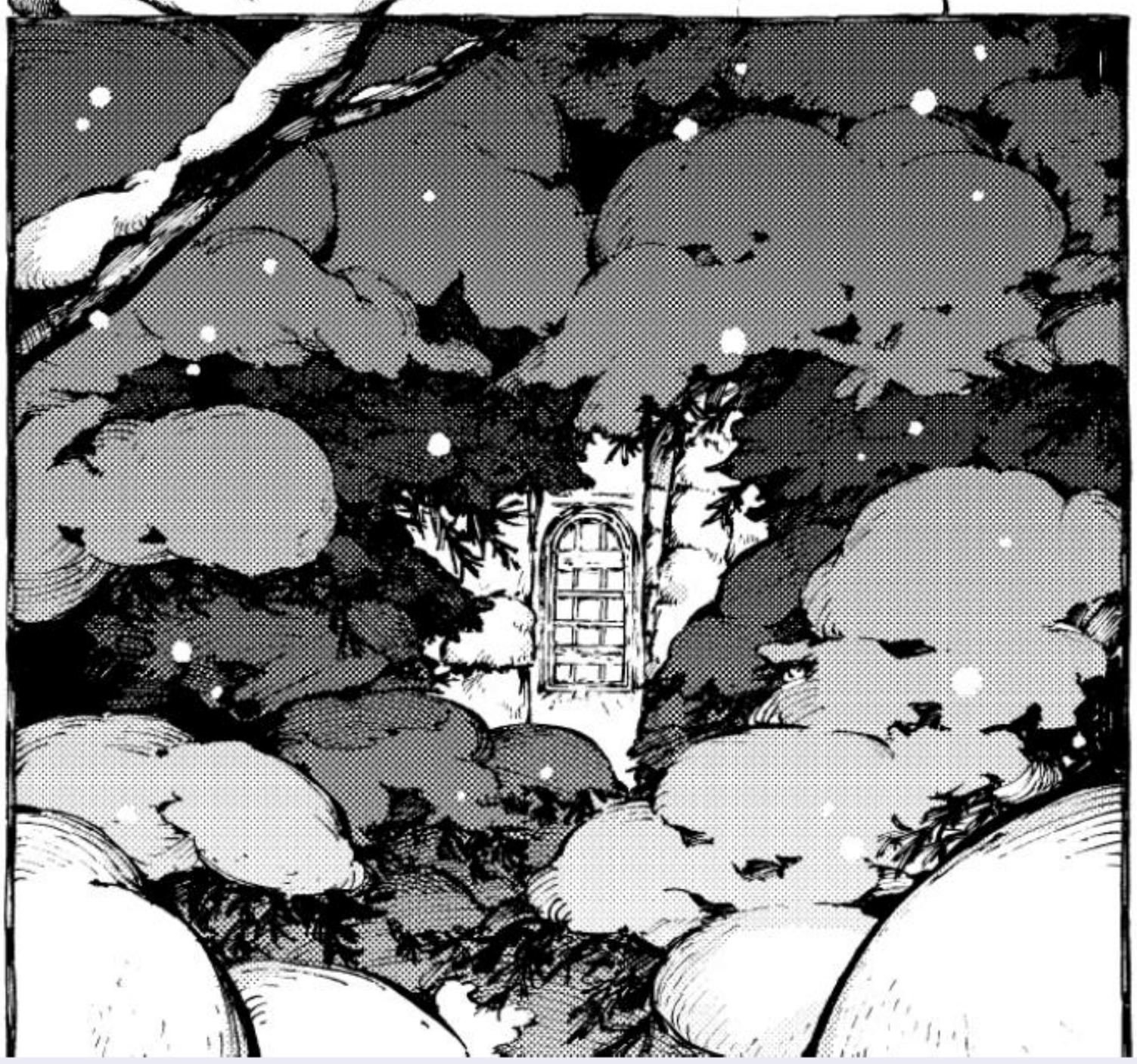
















いつでも
もどればいいわ

まずいことに
なったら

なぜ
こんな森の中に
街灯が立って
いるのかしら

…これから
どうしよう

……わぁあっ！

ドン

これは
なんと！

なんと！

つづく



第2話　ルーシーが見たもの（前編）

これは
なんと！

なんと！


こんばんは
どうも
こんばんは
です
こんばんは

あの
おそれいります…

——その
立ち入ったことを
おたずねするようで
失礼ですが

おたくは
イヴの娘さんで
あると思って
まちがいございません
でしょうか？

ひょっとして

キョト…

はい

わたし
ルーシーって
言います

でも
おたくは——

…失礼ですが

いわゆる女の子…というものでしょうかね？

もちろんわたしは女の子よ

とすると

もしかして

人間ということで？

？

もちろん人間です

…そうでしょうね

そうでしょうとも

まったく

わたしときたら

馬鹿なことを

聞いて！

でも

わたし

アダムの

息子さんや

イヴの娘さんを

これまで一度も

見たことが

ないのです

いやぁ

うれしいな

だって――

…よかった
うれしい
です

？

自己紹介を
させてください

わたしは
タムナスと
申します

はじめまして
タムナス
さん

ひとつ
おたずねしても
よろしいでしょうか
イヴの娘であられる
ルーシーさん？

ナルニアへは
どのようにして
おいでになった
のですか？

ナルニア？
何のこと
ですか？

ここは
ナルニア国
なのです

わたしたちが
いまいる

この場所は

この
街灯から
東の海辺にそびえる
ケア・パラヴェルの
お城まで

ずうっと
ナルニアの国
なのです

…とすると

あなたは
つまり……

西のほうの森から
やってこられた
わけですか？

わたしは
その……

客間の
衣装だんすから
はいって来たんです

はぁ！

子どものころ
もっと
ちゃんと地理を
勉強しておけば
よかった

そうすれば
いろんな
外国の話も
もっとわかった
だろうに

いまさら
手遅れですね

ううん

外国なんかじゃ
ないんです

この後ろの
ほんの
すぐそこ……

…だと
思います
けど

あっちは
夏でした

それに
ひきかえ ナルニアは
冬です

ずっとずっと
前から
冬なんです

さっき
こんな
雪の中で
立ち話を
していたら

わたしたち
二人とも
かぜをひいて
しまいますよ

とこしえの夏が
まぶしい
〈いっしょたんす〉の
街が栄える

遠き
〈きゃふま〉の国から
おいでになった
イヴの娘さん

わが家へいらして
お茶でも一杯
いかがでしょう？

でも
わたし

もう
帰らないと

どうも
ありがとう
ございます

タムナスさん

うちは
すぐそこ
ですから

暖炉の火が
あかあかと
燃えていますし
トーストも
ありますよ

オイル・
サーディンも
ギュ
ル

ケーキも
ル

まあ
ル

それは
ご親切に

ん――

じゃ
ほんの
少しだけ

どうぞ

わたしの腕を
お取りになって

イヴの娘さん

二人で
この傘にはいって
まいりましょう

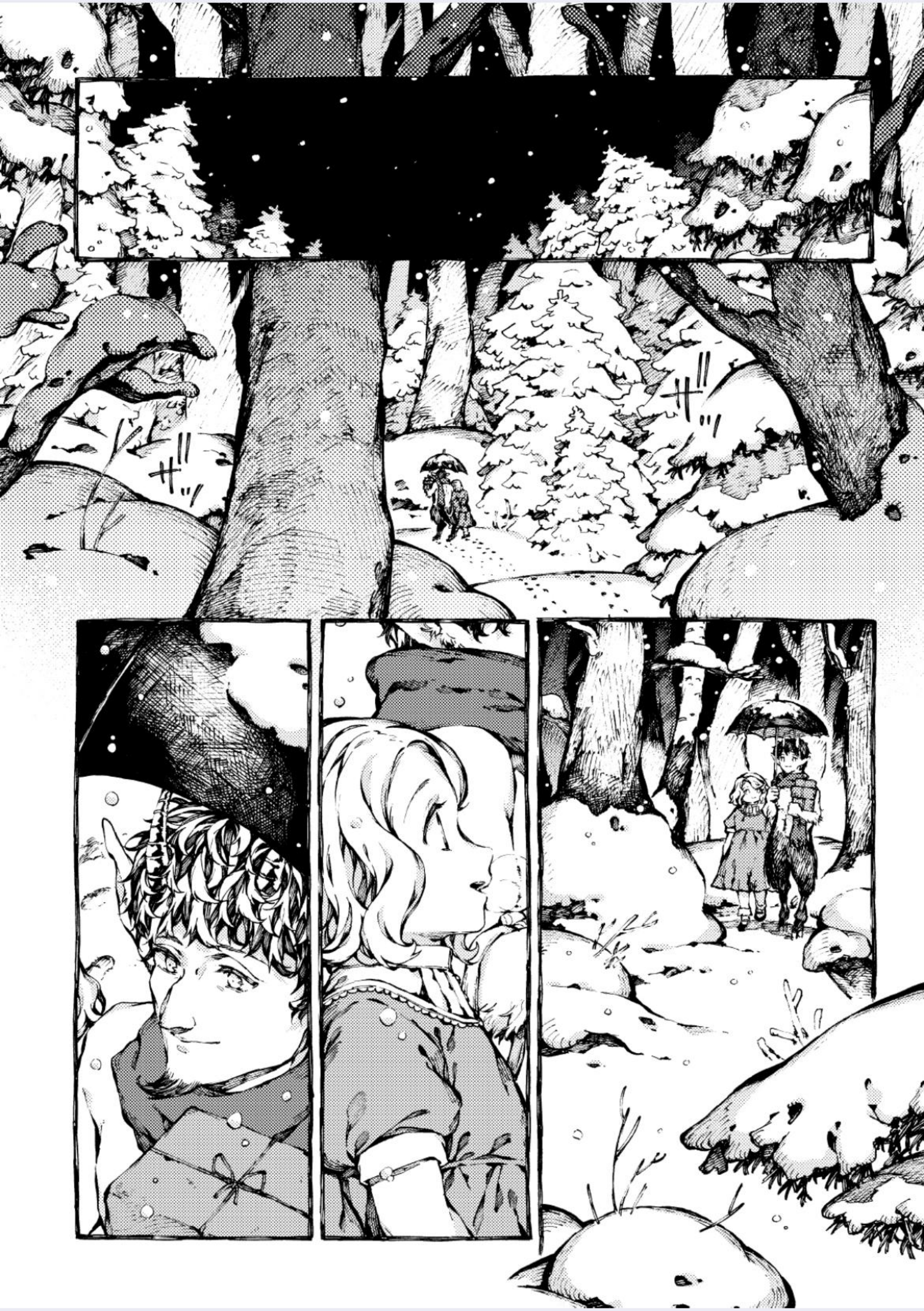
ギュ

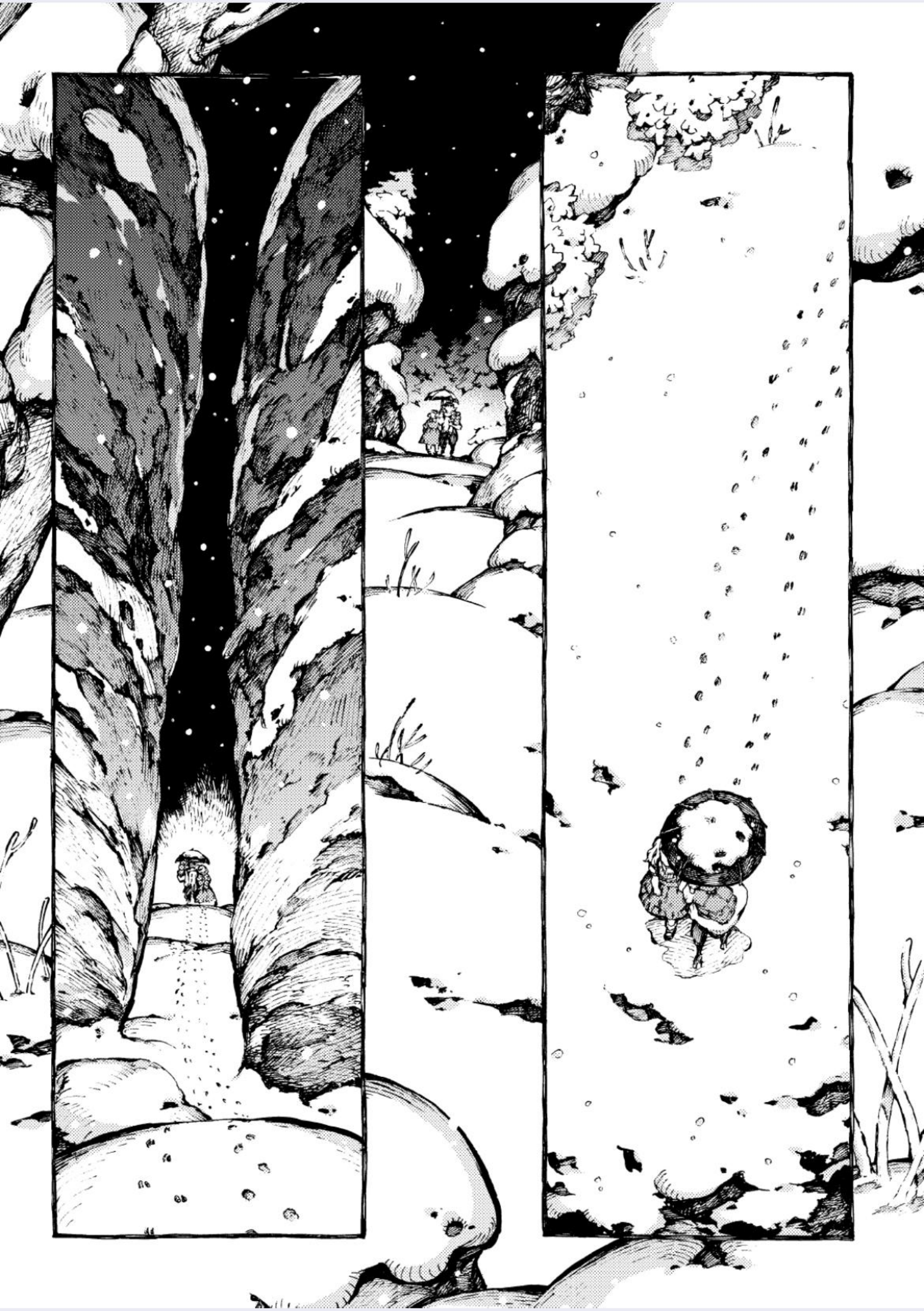
そうです

そうです

さ

まいり
ましょう







ピロン

ピキ

ピキ

ピキ

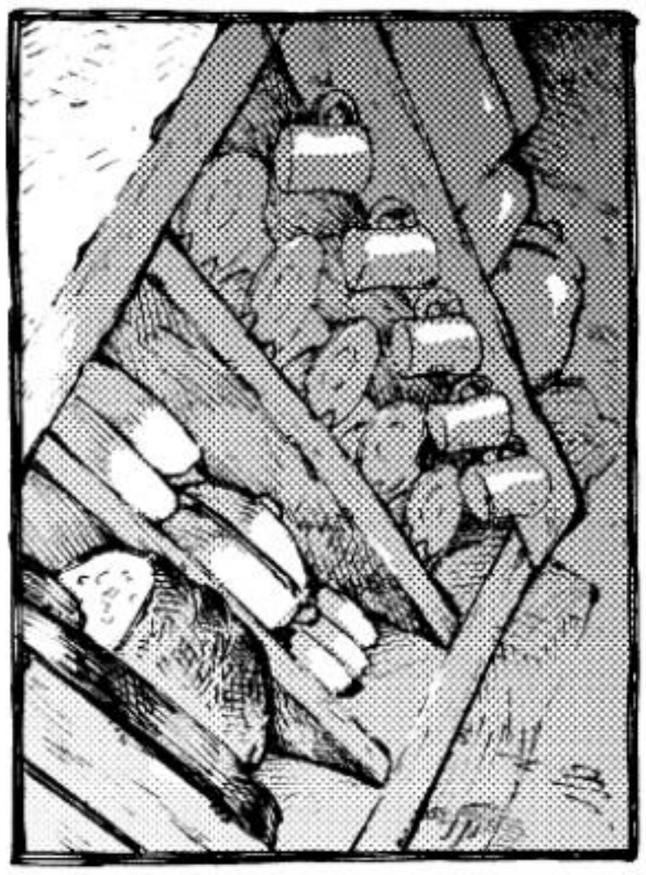



ぺ
ハーキ
ハーキ
入って
入って
！



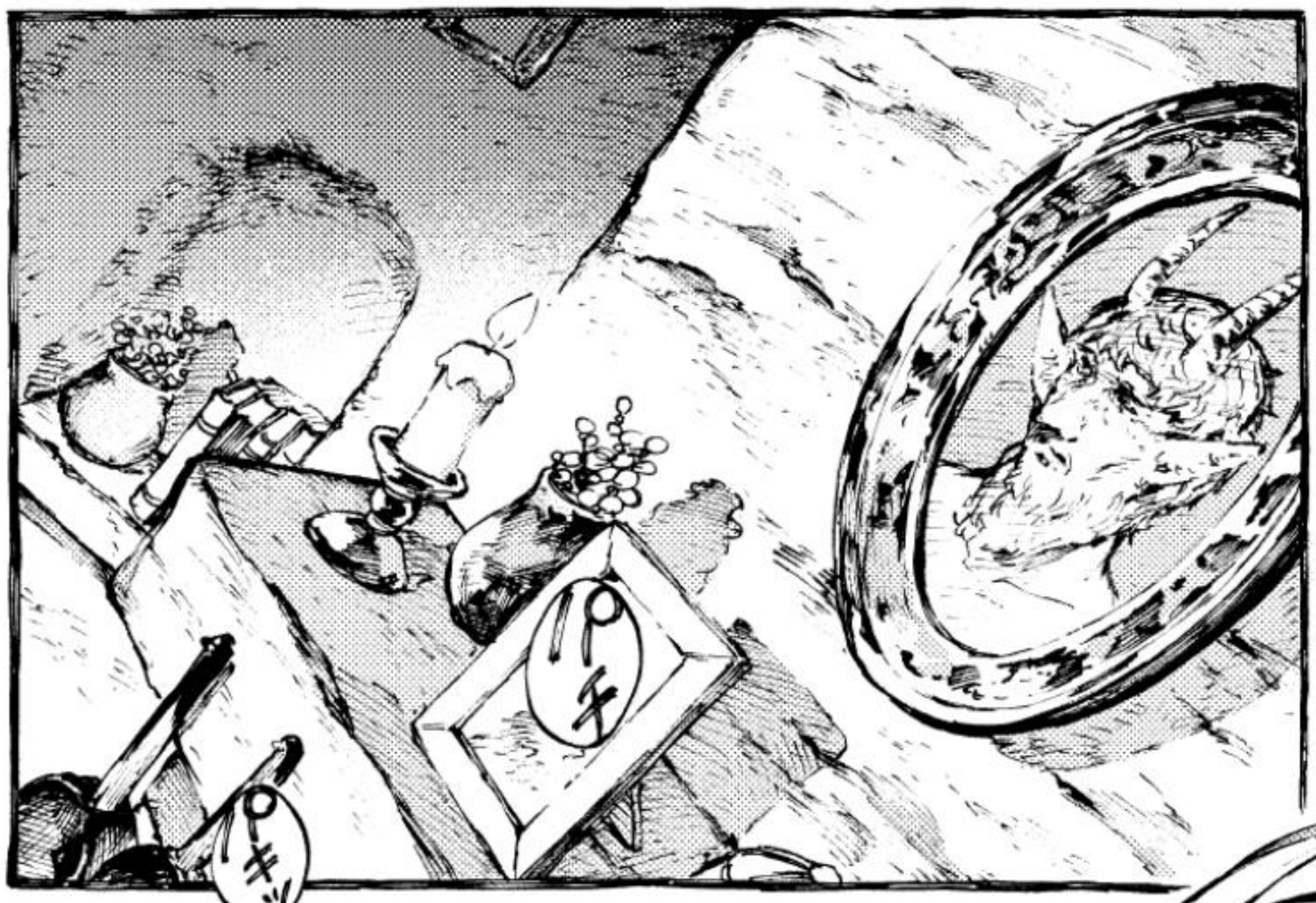

すぐに
したくを
しますからね


トポポ…











こんなに
すてきな場所は
見たことがないわ！

キョロ

キョロ

『人間と修道士と森番
——民間伝承の一考察』

『シレノスの生涯
および著作』

『人間は神話か？』

『ニンフの
ならわし』

さあ
どうぞ
イヴの
娘さん！



ポポ…

——長い冬が来る前

森(ここ)での暮らしはたいそうすばらしいものでした

ホゥ…

泉のニンフや
森のドリュアスが
姿をあらわし

真夜中
踊りあかす
ダンスパーティー

願いをかなえる
ミルク色の雄ジカを
追って

延々と続く
狩猟パーティー

森の地下

はるか
深いところにある
鉱床や洞窟

気性の荒い
赤ドワーフ族と
いっしょに楽しむ
宴会や宝探し

夏になって
森が
緑になるころ

太ったロバに乗って
訪ねてくる
年取った
森の精シレノス

バッカス御大(おんたい)が
顔を見せるときには
森を流れる水すべてが
ワインに変わり

何週間も続く
森をあげての
お祭り騒ぎ——

コトッ

…いまじゃ

冬以外の
季節なんか
なくなっちゃって

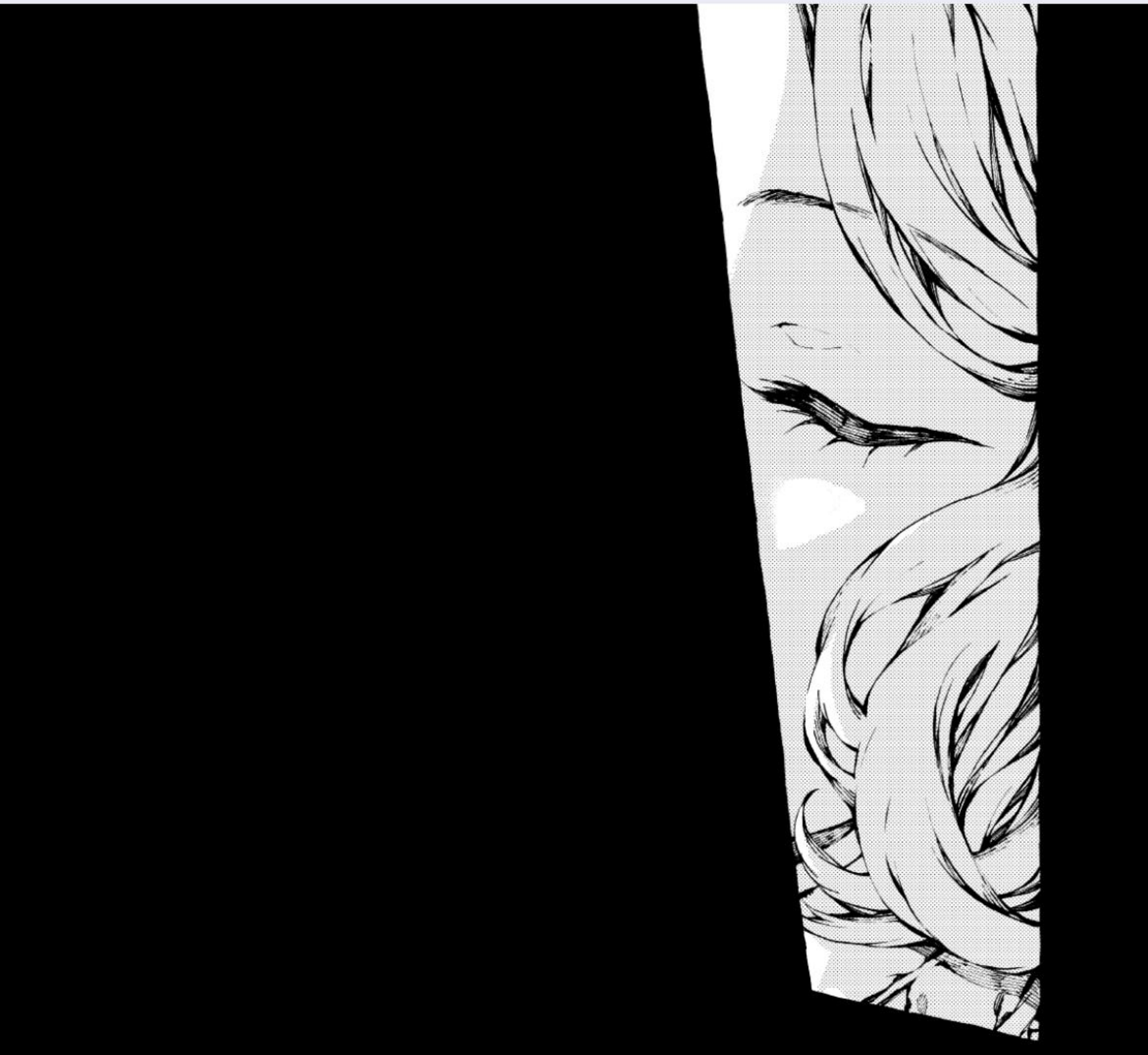
10キッ

10チ

10チ







カ!!!!!!

何時間ここにいたのかしら

あの

タムナスさん

まだ
途中なのに
ごめんなさい

とっても
すてきな
曲なんだけど

ほんとうに
わたし
もう帰らないと

ほんの五分くらい
おじゃまするだけの
つもりだったのに

カチ…

ワル

ワル

もうだめですよ

いまごろ

つづく

第3話　ルーシーが見たもの（後編）

もうだめですよ

いまごろ

ミトキッ！

もうだめ

……って？

ガ!!!!!

どういうことですか？

わたし

いますぐ帰らなくちゃならないの

みんなわたしのことを心配してると思うし――

……！

タムナスさん！

ポタ!!

どうしたの？

……

……う……

おおおお

ゴッ

……

おう――

おおう――

ギュッ

ボク

ボク

ボク

おおう！

ゴッ

ボク

ボク

タムナスさん！

キ

！！

泣くのをやめてくださいってば！

いますぐ！

ユキ

ユキ

恥ずかしいと思わないの

あなたみたいなりっぱな大人のフォーンが

いったい何をそんなに泣いているの？

ううう…

おう…

わたしは悪いフォーンなんです

だから泣いているんです

おおう…

タムナスさんは
ちっとも悪いフォーンだとは思わないわ

おう――

ほんとうのことを知ったら
そんなこと言わないでしょう

タムナスさんはとってもいいフォーンだと思います

おおう――

わたしが会ったことのある中でいちばん親切なフォーンだわ

わたしは悪いフォーンなのです

世界が始まって以来わたしほど悪いフォーンはいないと思います

でもタムナスさんが何をしたというの？

わたしの父だったら……

そこの
暖炉の上に
かかっている絵が
わたしの
父なんですが

父だったら

こんなことは
ぜったいに
しなかったと思います

どんなこと？

……わたしが
したようなことです

白い魔女に
仕えるなんて……

……それがわたしの
正体なんです

わたしは白い魔女に
使われているんです

……白い魔女？

それって
誰ですか？

誰って

ナルニア全土を
がっちり
支配しているのが
白い魔女ですよ

ナルニアを
一年じゅう
冬にしているのも
その
魔女なんです

いつまでも
ずっと冬で
そのくせ
クリスマスは
ぜったい来ないんです

考えても
みてください！

なんて
ひどいことなの！

でも
その魔女は
何の目的で
あなたを
使っているの？

そこが
最悪なところ
なんです

わたしは
人さらいなんです

魔女に命令されて
人さらいを働くんです

イヴの
娘さんよ

このわたしを
見てください

どういう者に
見えます？

フォーンが森の中で
何の罪もない
いたいけな子どもと
出会う

ほんとうの目的は
その子を眠らせて
白い魔女に
引き渡すことなんです

その子は
フォーンに何ひとつ
悪さをした
わけでもないのに

フォーンは
親しげなふりをして
お茶に招いて
家に誘いこむ……

わたし

そういうことを
するフォーンに
見えませんか？

いいえ
あなたは
そんなことを
する人じゃないと
思うわ

でも
そうなん
です

……
だとしたら
それはかなり
悪いことだと
思います

だとしたら

だけど
あなたは
すごく後悔している
ようだから

っ

もう二度と
そんなことは
しないでしょう？

イヴの娘さん

わからないの
ですか？

これは

わたしが以前に
やったことでは
ないんです

まさにいま

いまのいま
やっている
ことなんです

この瞬間に


なんですって？
あなたが
その子どもなのです
ﾋｷ
ﾋｷ…

わたしは

森で
アダムの息子か
イヴの娘を
見かけるような
ことがあったら

つかまえて
引き渡すように

…と白い魔女から
命令されているのです

そして

あなたは

わたしが
初めて出会った
イヴの娘さん
なのです

だから

わたしは
友だちのふりをして
あなたをお茶に誘って

さっきから
ずっと

あなたが
眠りこむのを待って
魔女に通報しようと
していたのです

えっ！

でも
そんなこと
しないでしょう
タムナス
さん？

ね
しないで
しょう？
つ

だめです

そんなこと
しちゃだめです

おおう…

通報
しなければ

かならず
魔女に見つかって
しまいます

ﾋﾟﾁ
ﾋﾟﾁ

見つかったら
しっぽを
ちょん切られて

角をのこぎりで
切られて

あごひげを
むしられて

魔女の杖の
ひと振りで

わたしのこの美しい
二つ割れのひづめを

割れ目なしの
ひづめに
されてしまいます

みっともない
馬のひづめ
みたいに

うう…

おおっ…

魔女の怒りが
もっと大きければ



わたしは石に
されてしまいます

魔女の恐ろしい館に
並んでいる石像に
されてしまうんです

その呪いは

ケア・パラヴェルの
四つの王座に
四人の王たちが
就くまで

とけません

そんな日が
いつ来るのか……

そもそも
そんな日が
ほんとうに来るのか
どうかだって

わからないん
です

タムナスさん

とてもお気の毒だとは思いますけど

わたしを家に帰してください

もちろんです

そうしますよ

スクッ

もちろんです

帰してあげなくては

あなたに出会うまで

わたしは人間というものがどういうものなのか知りませんでした

いまになってわかりました

もちろん
あなたを
魔女に渡すなんて
できっこありません

あなたと
知りあった
いまとなっては

いますぐ
出発
しましょう

街灯の
ところまで
お送りします

もちろん
わかります

そこから
〈きゃふま〉と
〈いっしょたんす〉
までの道は
わかりますね？

できるだけ
物音をたてずに
行かなくては
なりません

森じゅう
あちこちに
魔女のスパイが
いますから

木々の
中にさえ
魔女の側に
ついている者が
あるんです

ドーン…




イヴの娘さん
ここから先の道は
わかりますね？

ええ
衣装だんすの
扉が
見えるわ

じゃ
急いで
お帰りなさい

あ
あの……

…わたしが
しようとしたこと

許して
くれますか？

もちろんよ

ニヤッ

わたしの
せいで

あなたが
恐ろしい目に
あわなければ
いいんだけど

さらばです

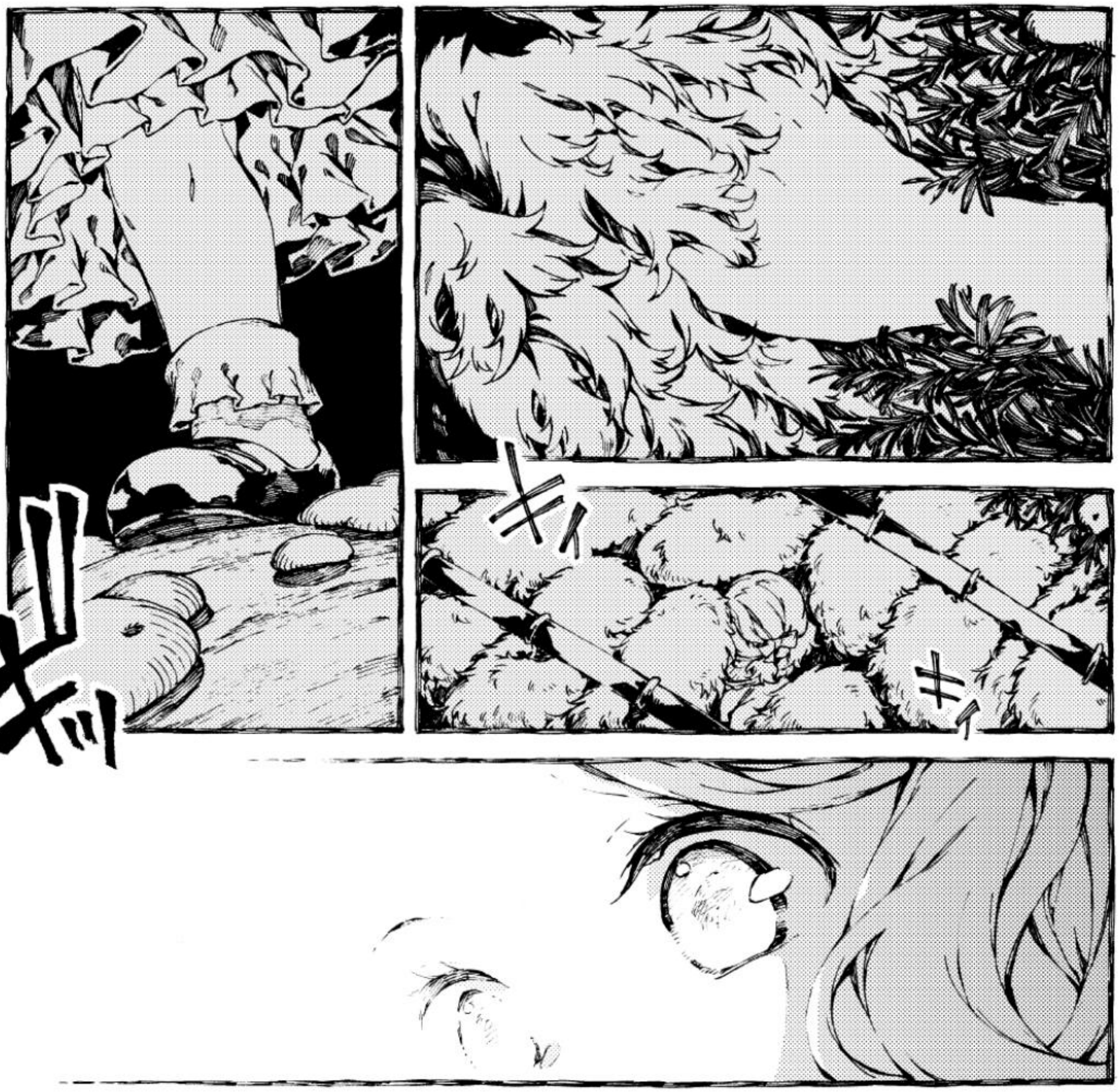
イヴの娘さん

このハンカチ
いただいておいて
いいですか？

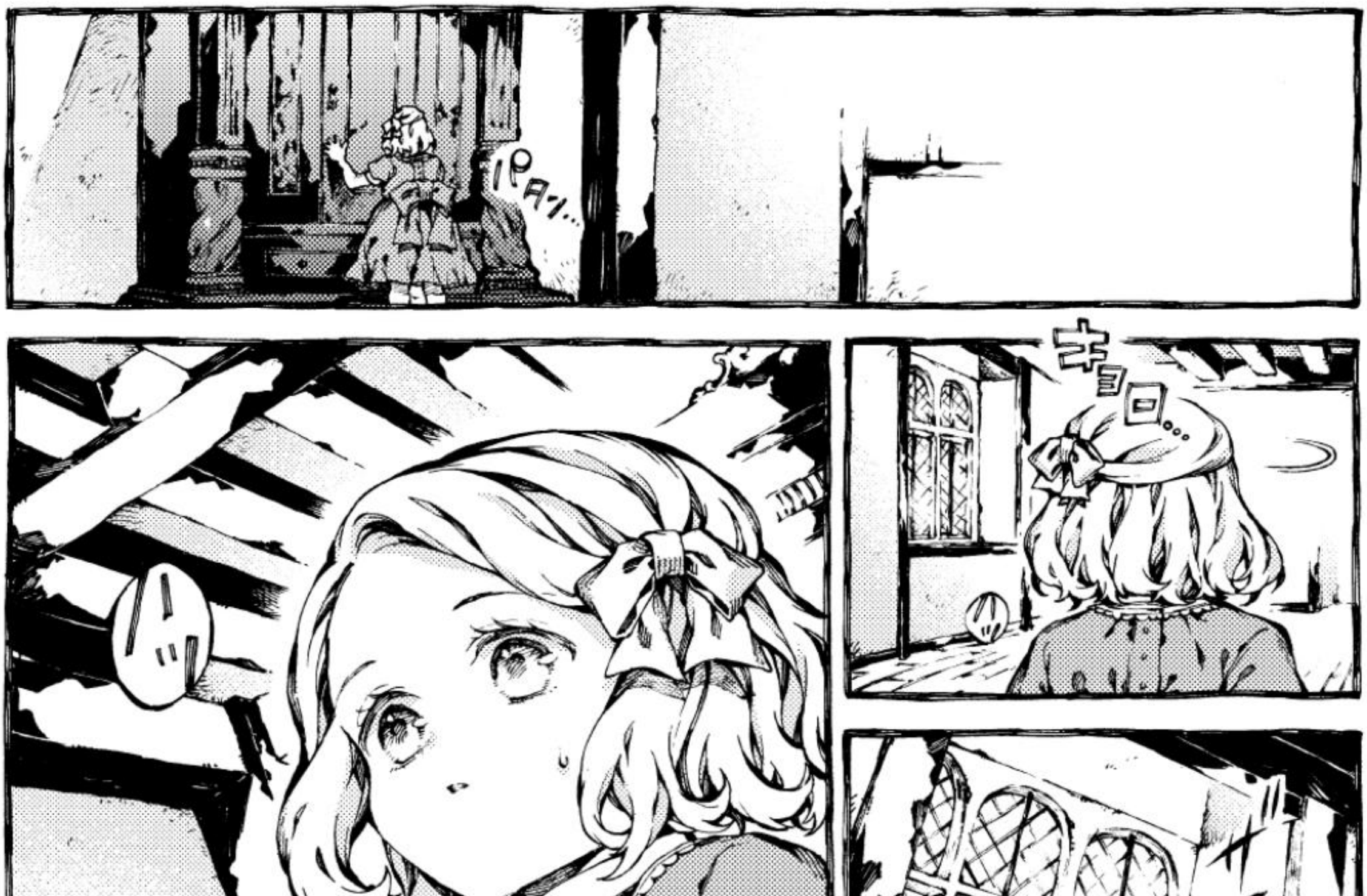
ヒュッ

もちろん！




ザッ
ザッ
ザッ


ドカーン
ドカーン…


パ…
キョロ…

ドドド

第４話　エドマンドと衣装だんす（前編）

パタ

パタ

パタ

パタン

だいじょうぶよ

ヒヤ

ヒヤ

わたし

もどってきたから

ルーシーったら
何言ってんの？
え？
みんな
わたしがどこへ行ったんだろうって探してたんじゃないの？
つまりルーは隠れてたんだね？

かわいそうに

せっかく
隠れてたのに
誰も気がついて
くれなかったんだ！

みんなに探して
もらいたかったら

もうちょっと
長いあいだ
隠れてないと
だめだよ

だって
わたし

何時間も
むこうに
行ってたのよ？

ここが
いかれたんじゃ
ないか？

完全に
いかれてる

どういうことなのルー？

だからいま言ったとおりよ

朝ごはんのあとすぐ衣装だんすの中にはいったの

それで何時間も何時間もむこうへ行ってて

お茶もしたしいろんなことが起こったの

馬鹿なこと言わないでよルーシー

わたしたち
いま あの部屋から
出てきたばかりよ

あんた
さっきまで
そこに
いたじゃないの

ルーシーは
馬鹿なこと
言ってる
わけじゃ
ないよ

おもしろい
作り話を
しただけさ

そうだろ
ルー？

それなら
話はわかる

ちがうん
だってば
ピーター

作り話
じゃないの

あれは――

衣装だんすの
中に
森があって

……あれは



魔法の
衣装だんすなの

雪が
降ってて

フォーンが
いて

魔女が
いて

ナルニア国
っていう
場所なの


いっしょに
来て
見てみてよ

ほら！

中にはいって
自分の目で
見てみてよ！

変な子ねぇ

ギギ…



ふつうの
衣装だんすじゃ
ないの

ほら

そこの
背板までで
終わりでしょ！

うまく
かついだね
ルー

すっかり
だまされ
ちゃったよ

もしかしたら
ほんとうかと
思っちゃった

かついだんじゃ
ないのよ

ほんとうに
ほんとう
なの！

さっきまで

ぜんぜん
ちがってたん
だから

うそじゃない
ほんと
なんだもん
もう
いいだろう
ルー

ちょっと
やりすぎだよ

もう十分に
楽しませて
もらったから

そのくらいに
しといたら？



ぜんぶ
作り話の冗談

…って
ひとこと
言えたら

みんなと
すぐに仲直り
できる

……でも

あれは
ほんとうにあった
ことだもん

私がうそを
ついていると
思っているんだわ

きっと
みんな

……それも。

くだらない
うそを……

おーい

ぼくも
連れて行って
くれよー

あの
なんとかって国に
行くのか？

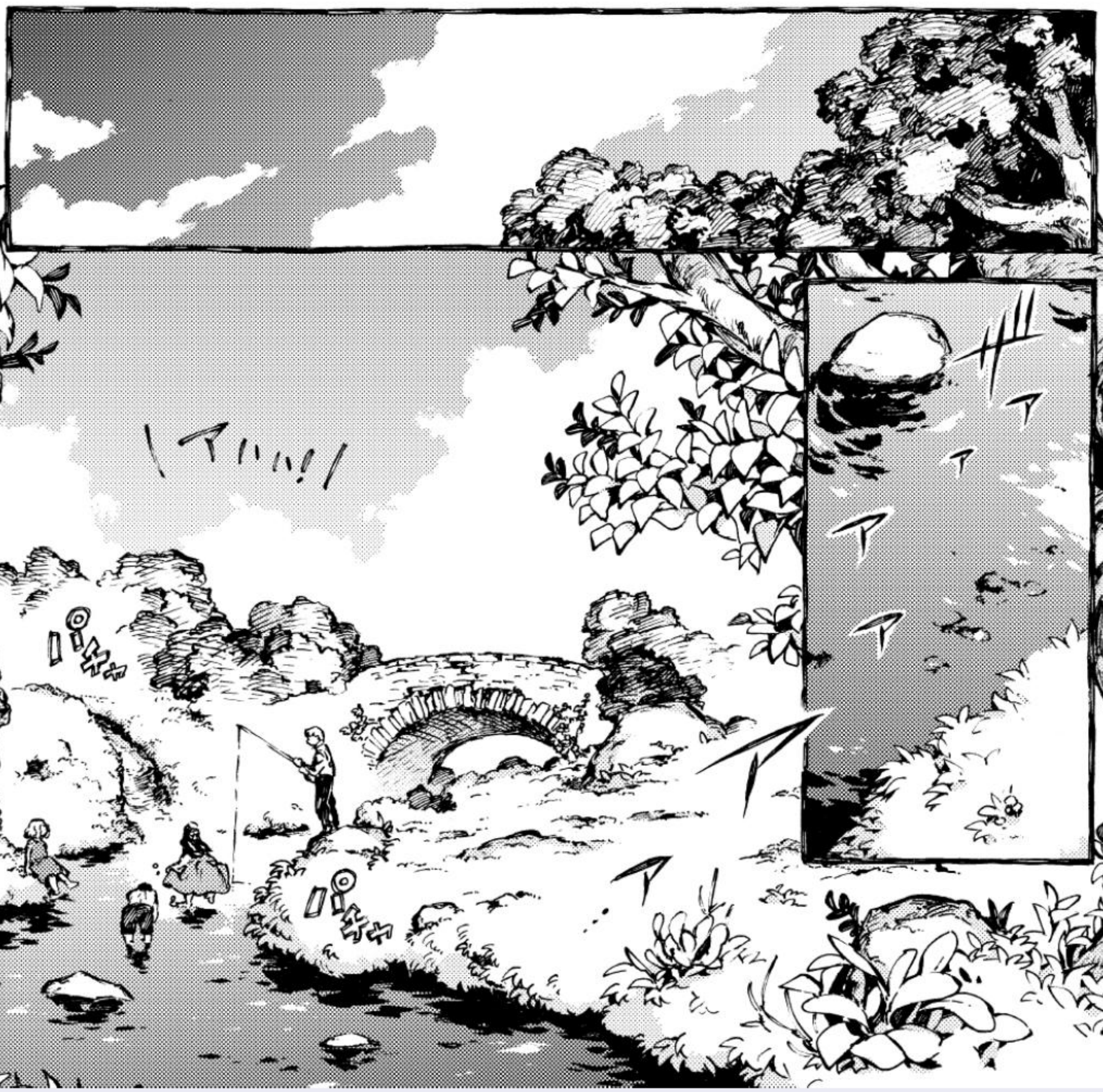
おっ

この戸棚から
新しい国に
行けるかもよ？

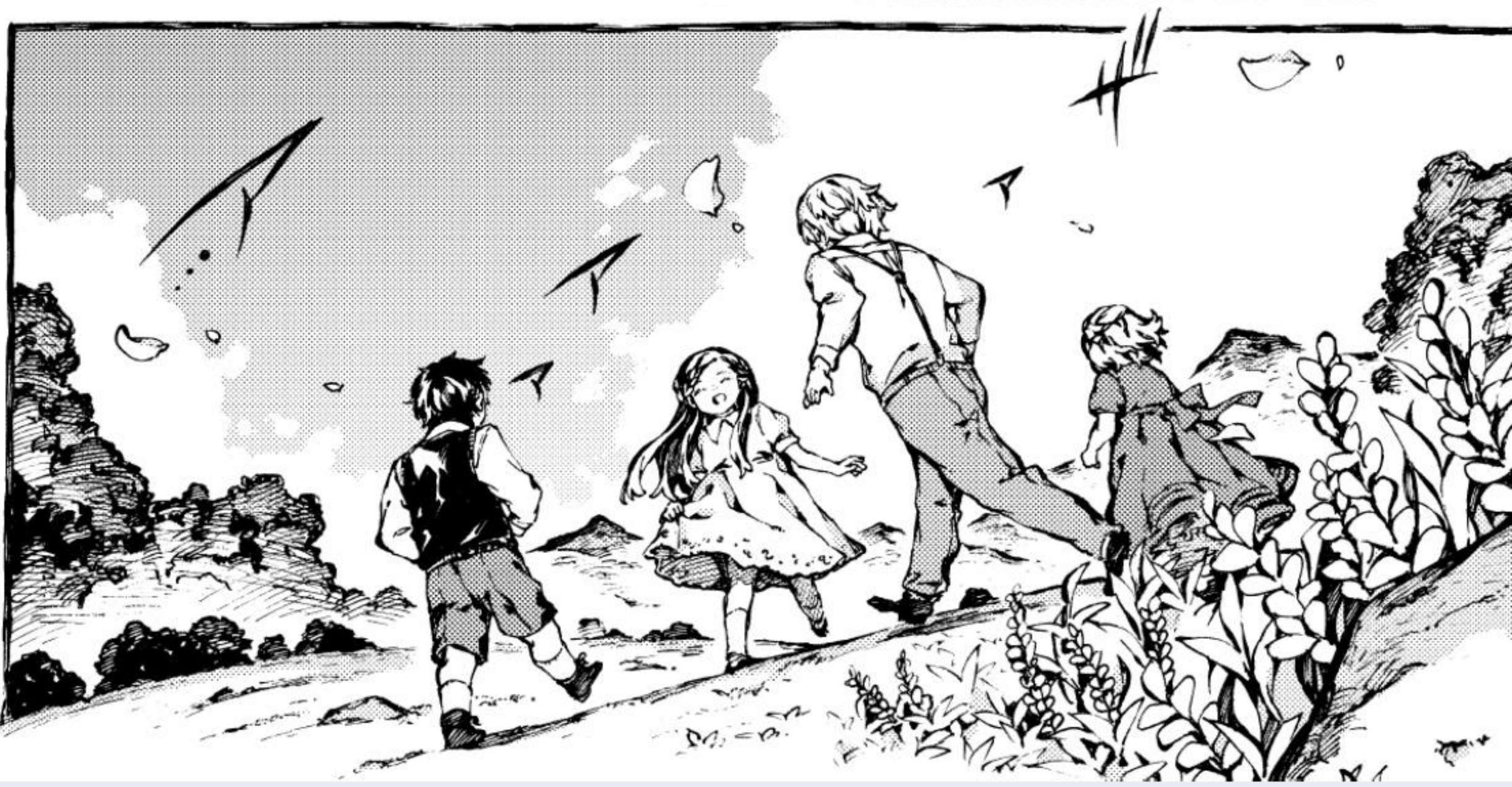
ズン
ズン
ズン

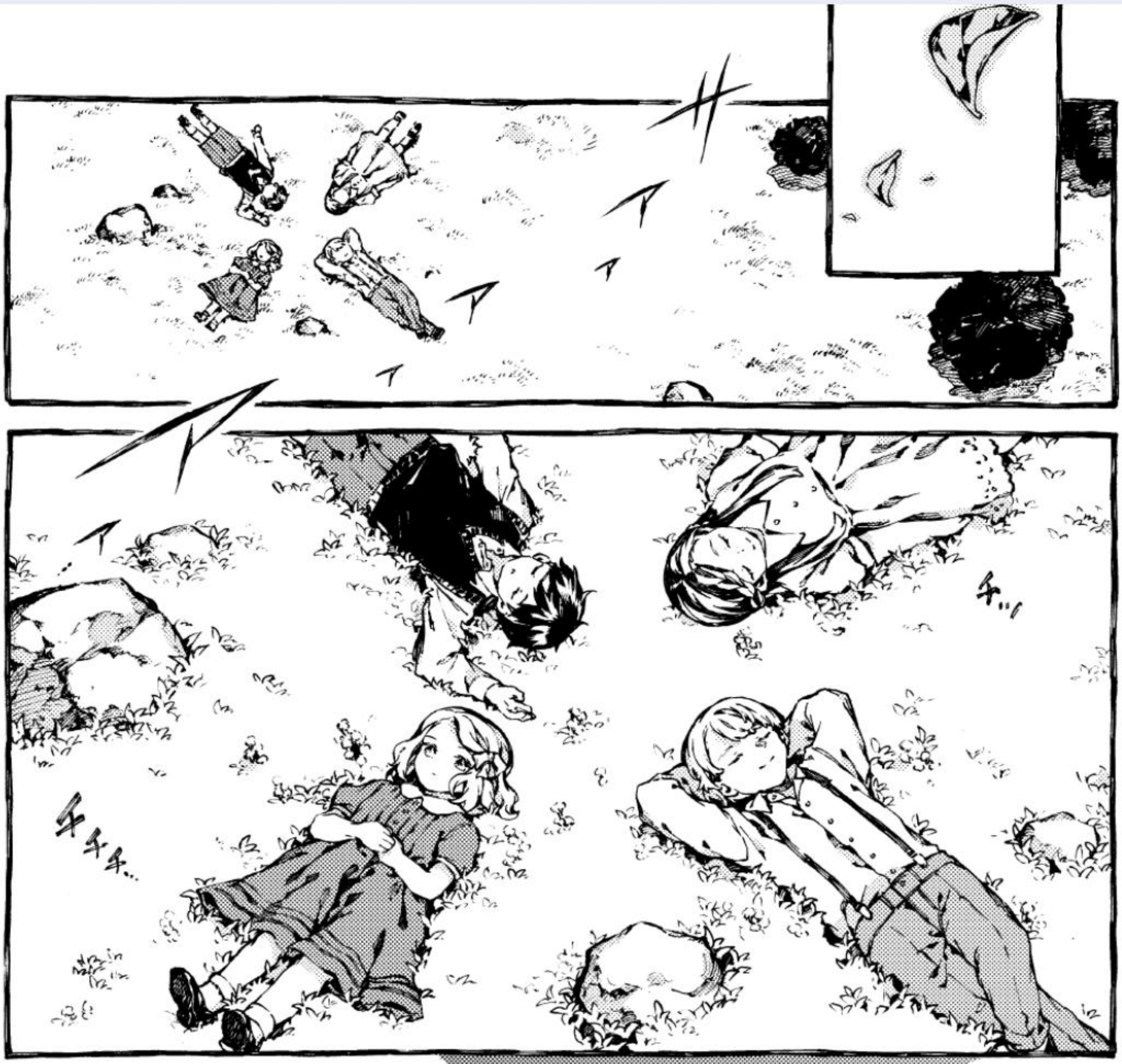
Yuuu!




ドドドドド!!






ずずず…
ずずず…
ずずず…



あーあ
また
雨かよー

しばらく
晴れて
いたのにね

ねぇ

外で
遊べないなら

せっかくだし
かくれんぼ
しない？

じゃあ
スーザンが
鬼ね

え

それじゃあ
行くよー

まあ
いいわよ

1

2

ア！！

3

ギッ

ギッ

……この中に
隠れるわけじゃ
ないわ

だって

そんなことを
すれば

また みんなに
あの話を
むしかえ
されるもの

……でも

もしかしたら
ほんとうに
ナルニアや
フォーンは
夢だったのかも
しれない……

…ちょっと
だけ

ギッ

ちょっとだけ
のぞいてみる
だけ……

ガチャ





つづく

第5話　エドマンドと衣装だんす（後編）





ギ…

スン…

樟脳玉（しょうのうだま）のにおい

ルーシーのやつ
スーザンが
つかまえに来たと
思ってるんだな

だから
たんすの
奥のほうで
じっとしてるんだ

ガチャン

キィ

入って
また
からかって
やろう

扉を開けて
光を……

扉

ここは……
ハーデス……？

扉が……

ルーシー！

ルー！

ガッ

ガッ

どこに
いるんだよ？

ガッ

……無い

ここにいるのは

わかってんだぞ

ゲホッ…

……まるで

外にいる
ような……

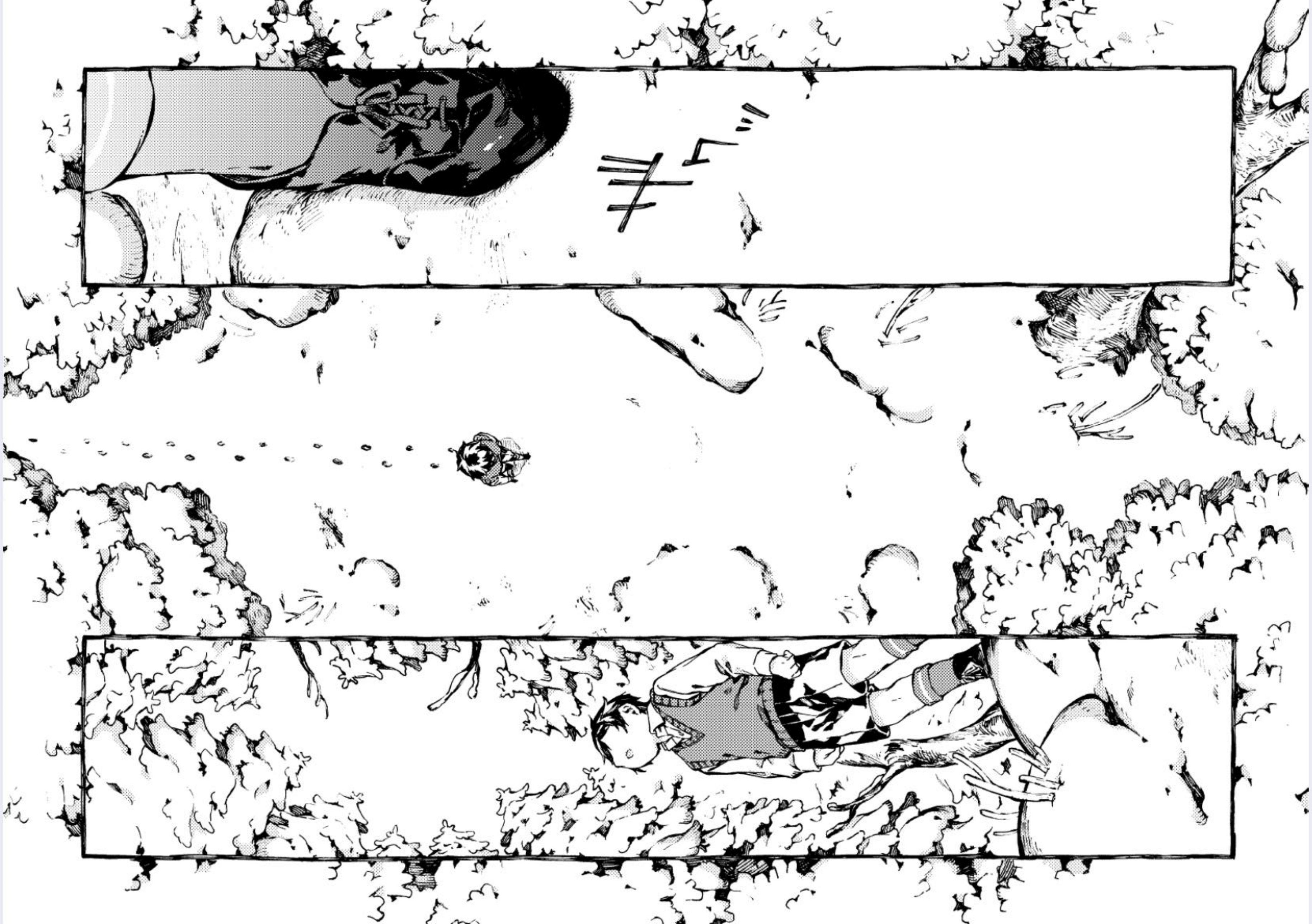
声の
響きかたが
おかしい…


……やれやれ
助かった


ガサッ
扉がひとりでに開いたんだな











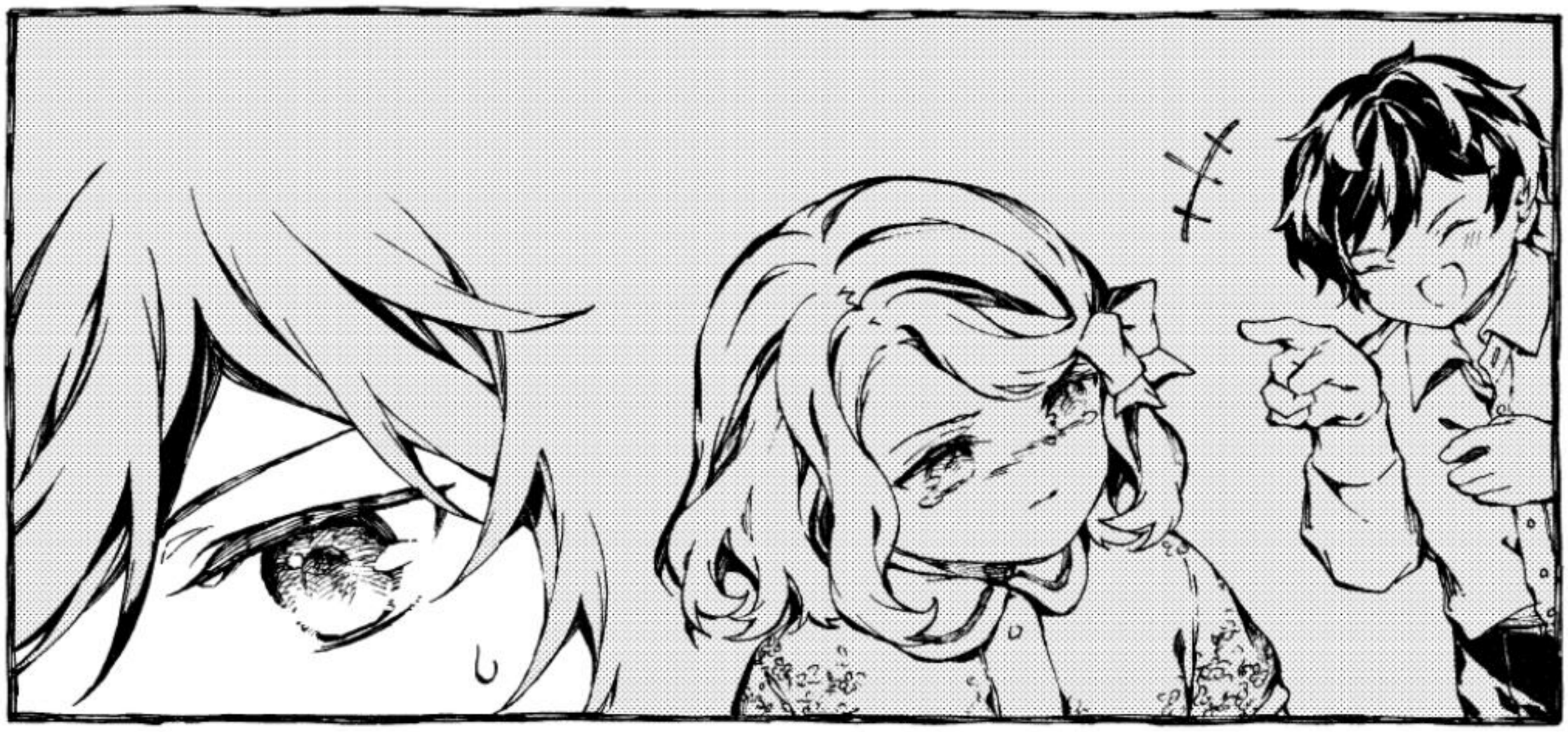


……そういえば



ルーシーを
探しに
きたんだっけ





ルーシー！

ルーシー！

ぼくも来たよ

エドマンドだよ！

ぼくが
さんざん
からかったから

ルーシーのやつ
怒ってるんだ

おーい
ルー！

うそだなんて
言って
ごめんよ

ほんとのこと
だったって
わかったよ

出てきて
くれよ

仲直りしよう

……

…だから女子は
嫌いなんだ

すねてどっかに
隠れちゃって

ごめんって言っても
許してくれないん
だから

キョロ…

……
この場所は
どうも
虫が好かない

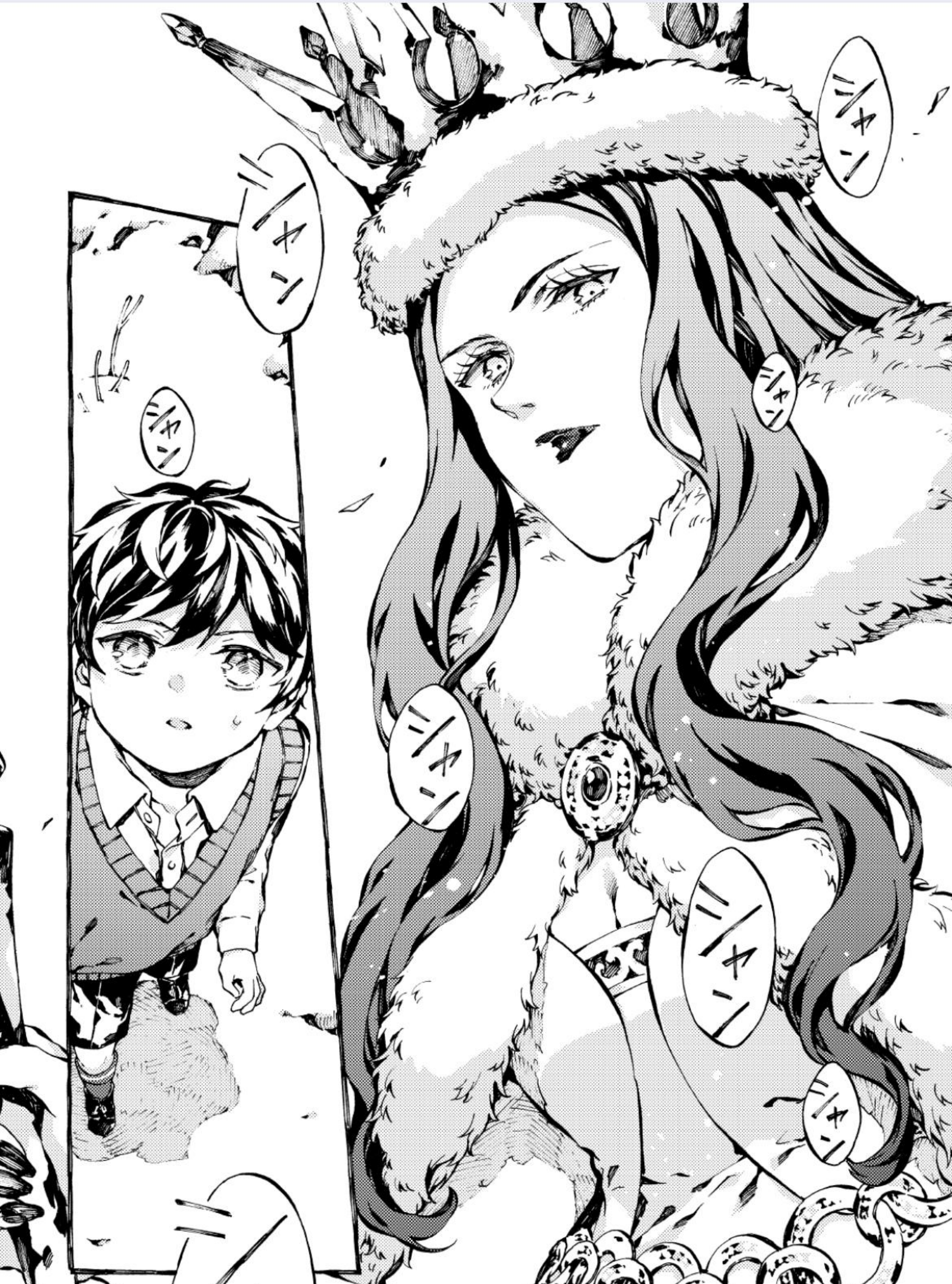
もう…
家に
帰ろう

ヒィ…

ミ/ヤ-ノ
ミ/ヤ-ノ
ミ/ヤ-ノ
ミ/ヤ-ノ
ミ/ヤ-ノ
ミ/ヤ-ノ
ミ/ヤ-ノ
ミ/ヤ-ノ
ミ/ヤ-ノ
ミ/ヤ-ノ
ミ/ヤ-ノ
ミ/ヤ-ノ
ミ/ヤ-ノ
ミ/ヤ-ノ
ミ/ヤ-ノ
ミ/ヤ-ノ
ミ/ヤ-ノ
ミ/ヤ-ノ
ミ/ヤ-ノ
ミ/ヤ-ノ
ミ/ヤ-ノ
ミ/ヤ-ノ






ハイ
ハイ
ハイ
ハイ
ハイ
ハイ
ハイ

ドア

止まれ！

ｷｬｰ

そちは
何者じゃ？

ぼく……

ぼくは……

……その

それが
女王に対する
口のきかたか

エドマンド
だけど

……嫌な
目つきだ

申しわけございません 陛下

知らなかったんです

ナルニアの女王を知らぬと？

は！

これからよく教えてやろう

よいか
もういちど
聞く

そちは
何者じゃ？

すみません
陛下

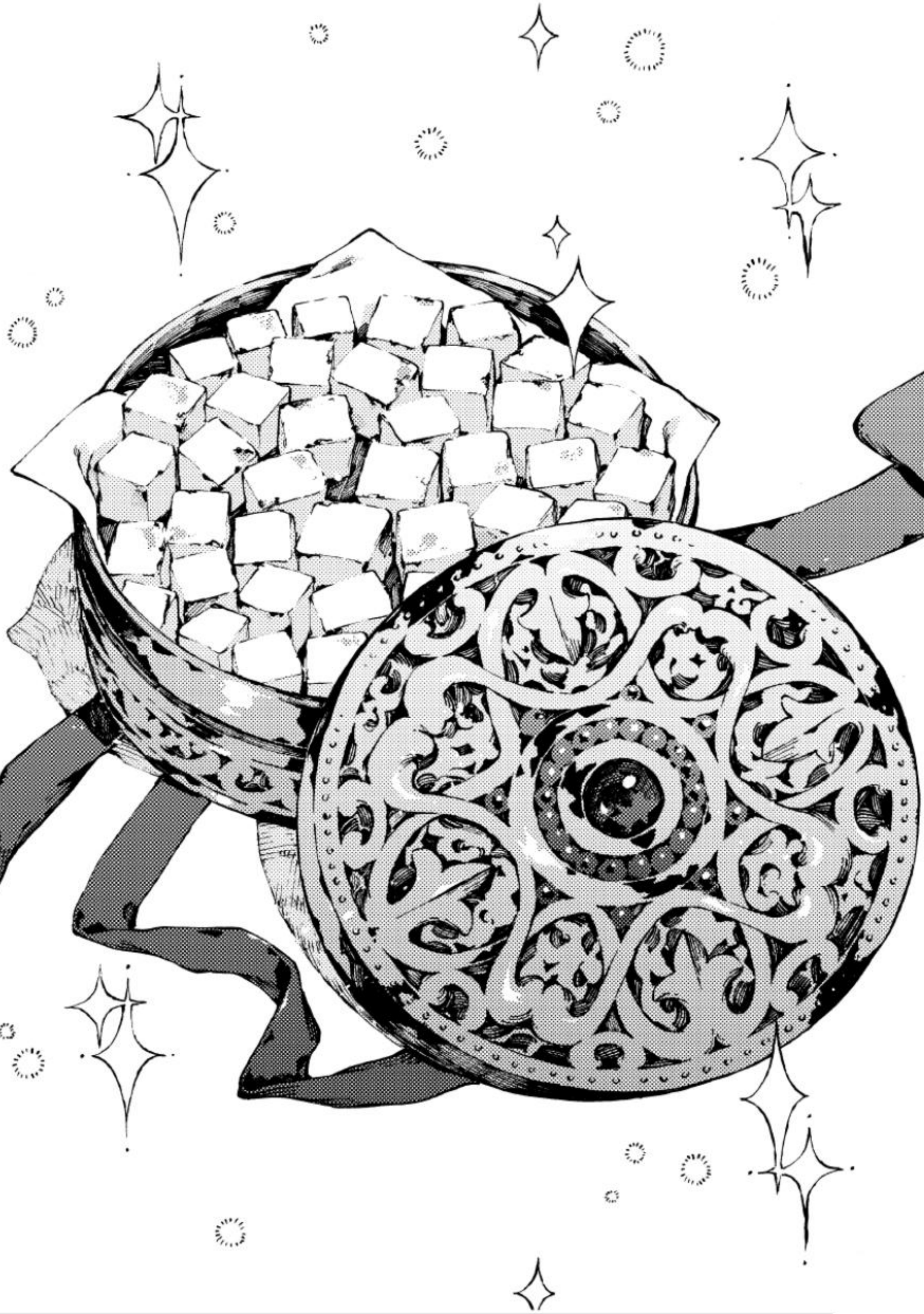
おっしゃる
意味が
わかりません

ぼくは
小学生で……

少し前まで
学校に
通ってたけど

いまは
夏休みで……

つづく



第6話　ターキッシュ・デライト（前編）

ええい

そちは
何者なのじゃ？

大きく
育ちすぎた
ドワーフが
あごひげを
切り落とされた
ものか？

いいえ
陛下
ぼくは
ひげなんか
生えたこと
ありません
まだ
子どもなので
子ども
とな！
という
ことは
そちは
アダムの
息子か？

…いずれにせよ

馬鹿者のようじゃな

答えて
みよ

何度も
言わせるで
ないわ
いらいら
する

そちは
人間か？

はい
陛下

そうです

いったいどのような次第でわらわの領地へはいってきたのか？

申し上げます陛下

衣装だんすを通って来たのです

衣装だんす？

どういうことじゃ？

ぼく……

…ぼく

扉を開けたんです

そしたらここに来てたんです

陛下

ほう！

扉か
人間界から
ここへ来る扉
とな！

そのような話を
聞いたことはある

これは大いなる
災いかもしれぬ

だが
この小童は
たった
一人きりじゃ

造作もなく
片付けられよう



おお
かわいそうに

ここへ来て
そりに乗れ
わらわの横に
すわるがよい

わらわのマントを
かけてやろうぞ

ずいぶん寒そうに
凍えておるでは
ないか！

少し話を
しようでは
ないか

……どこか
知らないところへ
連れていかれて

帰れ
なる
ない
か……？

でも……

ガタ

ガタ

ガタ



何か
あたたかい
飲み物でも
どうじゃ？

何か
飲みたいか？

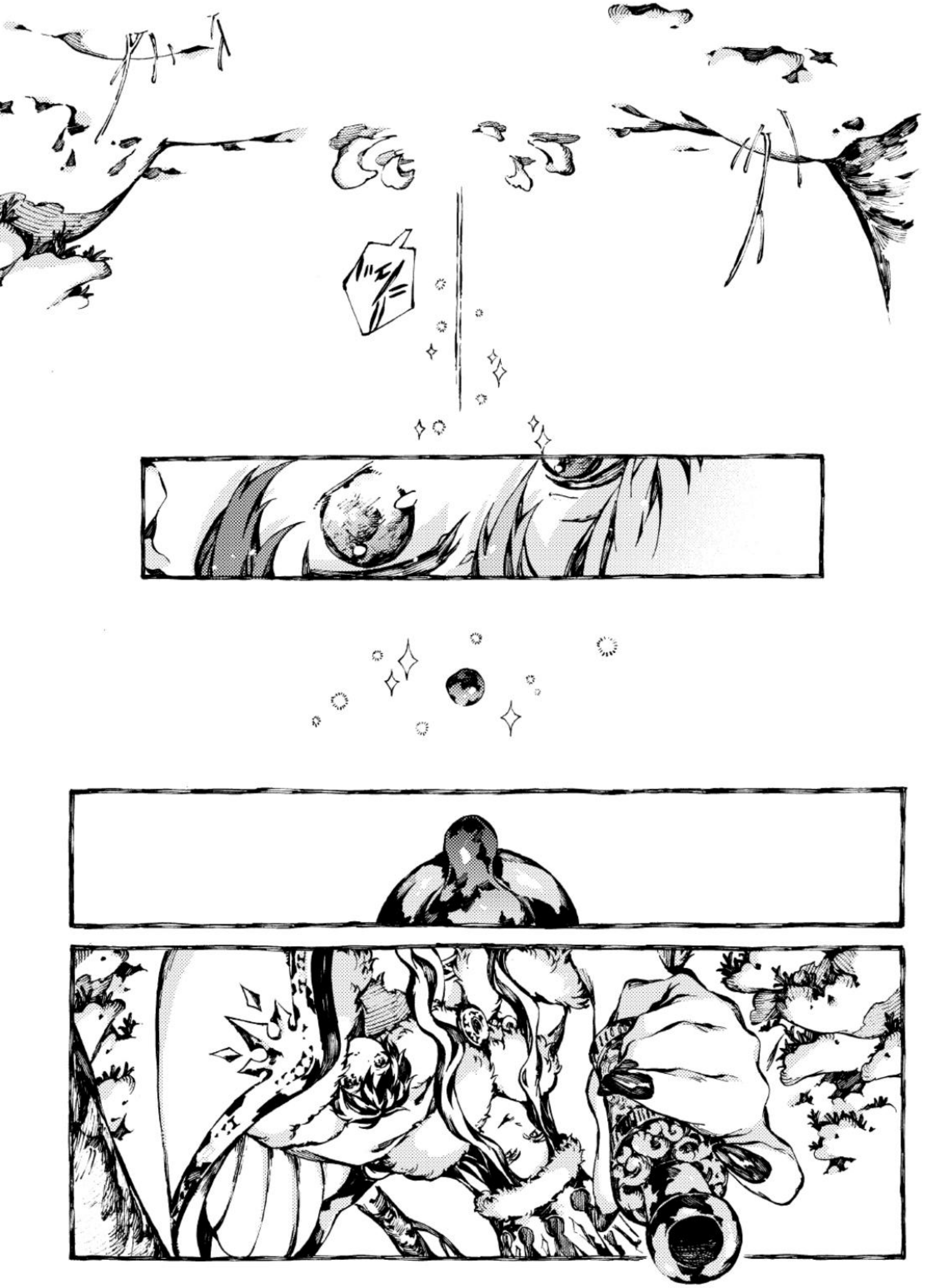
はい
陛下

ガチ ガチ

ガチ ガチ

お願いします

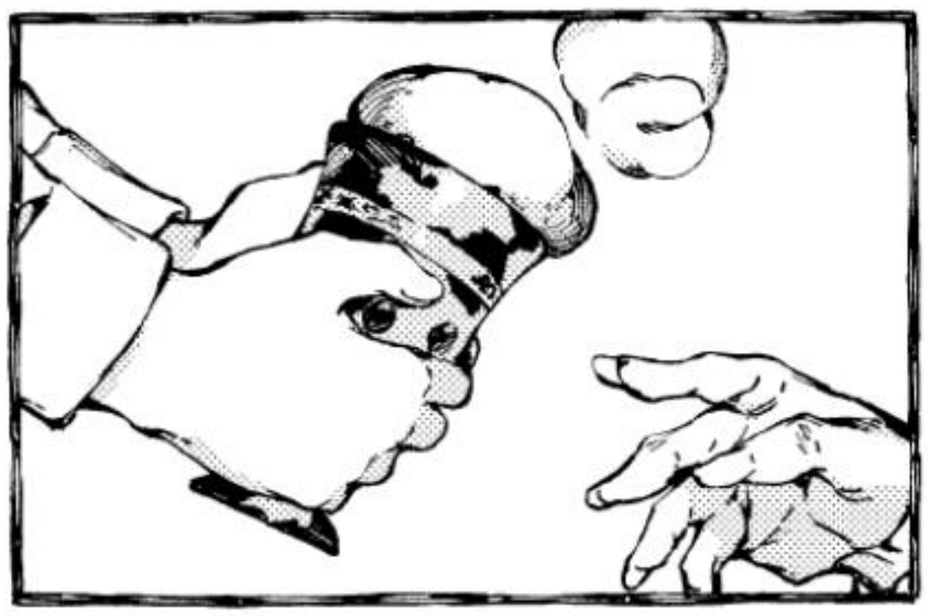
ゴクン








ハァ…







アダムの息子よ

ゴク

ゴク

飲み物ばかりで食べ物がなくてはつまらぬであろう

ボワ

ゴク

ゴク

おまえのいちばん好きな食べ物は

何じゃ？

ホト

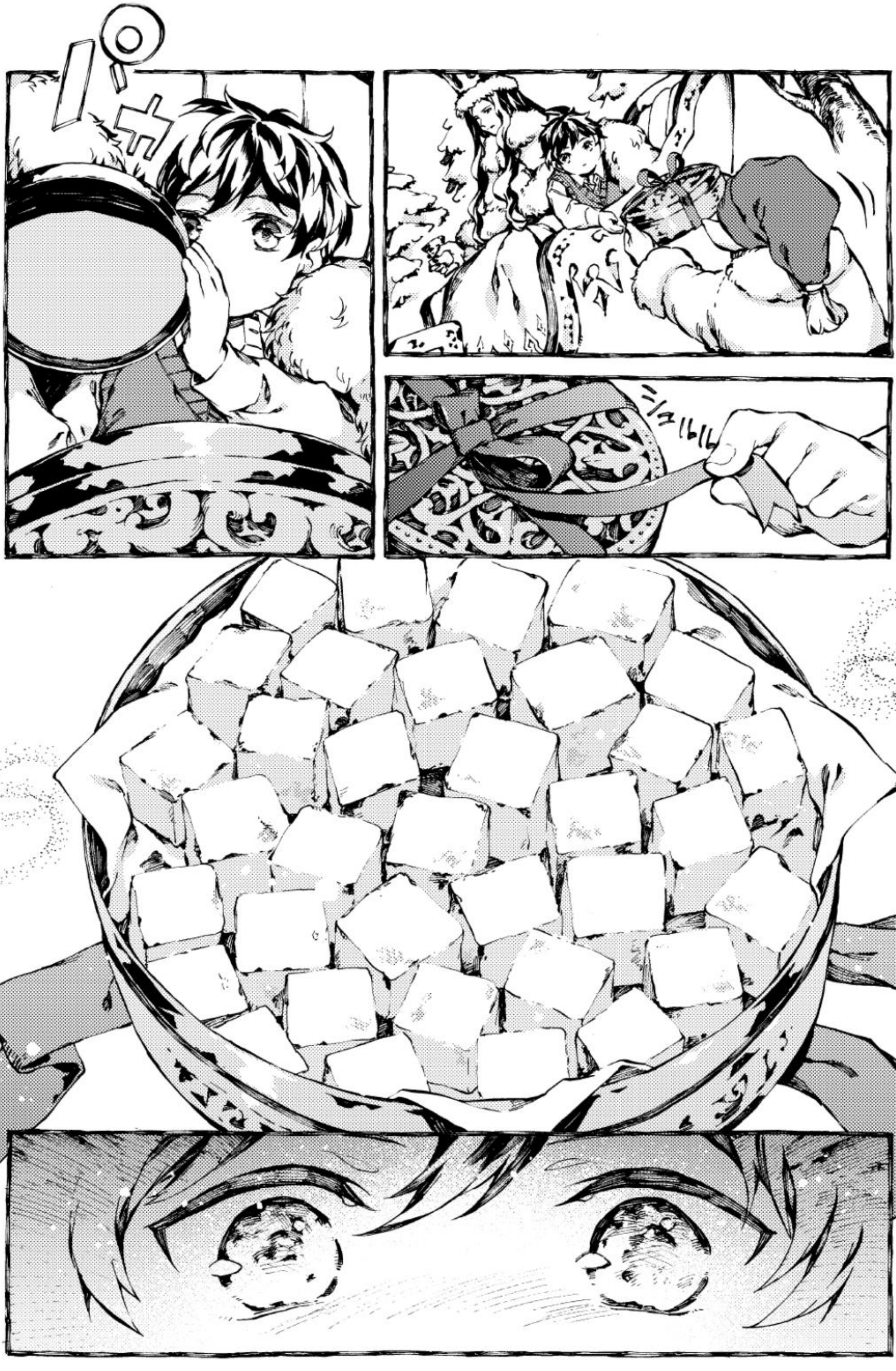
ターキッシュ・デライトです

陛下



ニィヨルルル…




ドキ
ドキ









アダムの息子よ
そちにきょうだいはいるのか？
はい陛下
兄と姉と妹がいます
そち以外にナルニアへ来た者は？
妹がすでにここへ来て
フォーンと出会ったと言っていました陛下
ほう……
ほほう！

ナルニアのことを
ほかに知る者は？

いいえ

知っているのは
ぼくたち
四人だけです

陛下

まちがいなく
そのほうの
きょうだいは
四人だけ
なのだな？

そうです

アダムの息子が
二人と
イヴの娘が
二人で

しかと相違
ないのだな？

さっき言った
とおりです


つづく

まちがいなく

そのほうの
きょうだいは
四人だけ
なのだな？

アダムの息子が
二人と

イヴの娘が
二人で

しかと相違
ないのだな？

そうです
さっき言った
とおりです

第7話　ターキッシュ・デライト（後編）

おかわりは
いかが？

アダムの
息子よ

わらわは
そちの兄や姉や妹に
ぜひとも
会ってみたい

わらわのところへ
みなを
連れてきては
くれぬか？

やってみます

そちが
ふたたびここへ
もどってきたら…

――もちろん
きょうだい全員を
連れて

という意味で
あるが――

いまはもうこれ以上やるわけにはゆかぬ

わらわの館へ行けば

話は別であるが

そのときは

またターキッシュ・デライトを食べさせてやろうぞ

いますぐ行くわけにはいかないのですか？

魔法は一度きりなのでな

わらわの
館は

それは
美しい
ところじゃ

そちも
かならずや
気に入るであろう

館には
ターキッシュ・
デライトで
埋めつくされた部屋が
いくつもある

しかも
わらわには
子がおらぬゆえ

りっぱな男の子を
育てて王子とし

わらわが亡きあとには
ナルニアの王にしたいと
考えておる

コワッ

王子になったら
金の冠をつけて
朝から晩まで
ターキッシュ・
デライトを
食べておればよい

そちは
わらわが
これまでに見た
少年の中で
いちばん
頭が良くて
りっぱじゃ

わらわは
いずれ
そちを
王子にしようと
思う

――そちが
きょうだい全員を
連れて わらわを
訪ねてきてくれた
折りにはな

いまじゃ
だめ
なんですか?

いや
いまそちを
館に連れていけば

わらわは
そちのきょうだいに
会えぬことになる

わらわは
ぜひとも

そちの
類いまれなる
きょうだいに
会いたいのじゃ

そちは
王子になり
いずれは
王となる身

それは
約束しよう

しかし
王には
廷臣や貴族が
必要じゃ

そちの兄は
公爵とし
女きょうだいたちは
公爵夫人としよう

きょうだい
なんか

みんな
何の取り柄も
ありませんよ

それに
どっちにしろ

またいつだって
三人を連れてくる
ことぐらい
できます

ああ
しかし

館の暮らしが
あまりに楽しいゆえ

いや
ならぬ

いつ
わらわの館に
着いたら　そちは
きょうだいの
ことなど
すっかり忘れて
しまうかもしれぬ

きょうだいを
迎えに行くのが
めんどうに
思われるやもしれぬ

そちはいったん
自分の国へもどり
また日を
あらためて
きょうだいを連れて
来るのじゃ

でも
ぼく
自分の国へ
帰る道も
わからないんです

容易(たやす)き
ことじゃ

よいな
きょうだいを
連れずに
来たのでは
意味がない

ズバー

あそこに
ランプが見えるで
あろう？

あれを越して
まっすぐ進めば
人間の世界に
出る

それから
こちらを
見よ

木々の上に
小さな丘が二つ
そびえておる
見えるか？

見える……
……と思います

わらわの館は
あの二つの丘の
あいだにある

こんど
来るときには
街灯を目印に来て

そこから
あの二つの丘をめざして
森を抜けてくるがよい

そして
忘れるで
ないぞ

——ほかの
きょうだいを
連れてくるのじゃ

そち一人のみで
来るようなことに
なれば
わらわはひどく
立腹せざるをえぬ

できるだけ
やってみます

ところで

ほかの
きょうだい
には
わらわの
ことは
黙って
おけば
よい

わらわとそちと
二人だけの秘密に
しておくほうが
楽しかろう？

きょうだいを
驚かせて
やるのじゃ

とにかく
ほかの三人を
あの二つの
丘のあいだへ
案内せよ

そちのように
頭のよい
子どもならば
口実など
いかようにでも
作れよう

そして
わが館に着いたら

『ここに誰が
住んでいるのか
見てみよう』

とでも
言えばよい

それが
いちばんよかろう

そちの妹は
フォーンに
会ったことがあると
言うたな

わらわについて
つまらぬ作り話を
吹きこまれておる
かもしれぬ

——ろくでもない
話を聞かされて

ここへ来るのを
いやがるかもしれぬ

フォーンどもは
何を言うか
わかったものでは
ないからの

ゴクッ

それから——

お願いします

お願いです

あと
一個だけで
いいんです

家に帰る
とちゅうで
食べたいので

あと一個だけ
ターキッシュ・
デライトを
いただけませんか？

いや

いや

そうはゆかぬ

次まで
待つのじゃ

ニャーン

ニャーン

またこんど

ニャーン

またこんどじゃ！

ニャーン

ニャーン

ニャーン

忘れるでないぞ

ニャーン

ニャーン

すぐにもどってこい


ハァ
ハァ
ハァ
……ん
……ちゃん

お兄ちゃん！

お兄ちゃんも
こっちの世界に
来たのね！

ねえ
ここって
すばらしいと
思わない？

それに――

ああ
わかったよ

おまえの
言うとおり
魔法の衣装だんす
だったよ

謝って
ほしいなら
謝ってやるよ

それにしても
どこへ
行ってたんだ？

あちこち
探したんだぞ

お兄ちゃんも
来るって
わかってたら
待ってて
あげたのに

わたし

フォーンの
タムナスさんの
ところで
ランチを
いただいてたの

タムナスさん
元気そう
だったし

わたしを
逃がしたことで
白い魔女から
罰を受けたりも
しなかったんだって

ニニ
たぶん
今回のことは
見つからなかったん
だろうって

タムナスさんは
言ってたわ

ゴゴゴ…

このぶんなら
だいじょうぶそうだ
って

白い魔女？
それ
何者なんだ？

とんでもない
女よ

女王になる
権利なんか
これっぽっちも
ないのに

自分のことを
ナルニアの女王って
言ってるんだって

…少なくとも
いい者たちは
みんな——

フォーンも
ドリュアスも
※ナイアスも
ドワーフも
動物たちも
みんな——

とにかくこの女が
大嫌いなんだって

※ギリシア神話の水の精で、泉や川の神の娘とされる

この女は
人を石に
変えることも
できるし

とにかく
ありとあらゆる
恐ろしいことを
するの

それに
魔法を使って
ナルニアをずっと
冬にしちゃったのよ

ずっとずっと
冬で

しかもクリスマスは
いつまで待っても
来ないの

それで
その女は
トナカイにひかせた
そりを乗りまわしていて

手には杖を
持っていて

頭に王冠を
かぶってるんだって



とにかく

あのターキッシュ・
デライトを
もういちど

食べたい……



――ああ

…白い魔女について

そんなにいろいろなこと誰から聞いたんだ？

タムナスさんよ

フォーンの言うことなんか信用できないよ

誰が そんなこと 言ったの？

常識だよ

…それにしてもこんなふうにして雪の中に立ってても しょうがないや 家に帰ろう

そうね 帰りましょ

誰にでも聞いてみりゃいい

ミィルネ

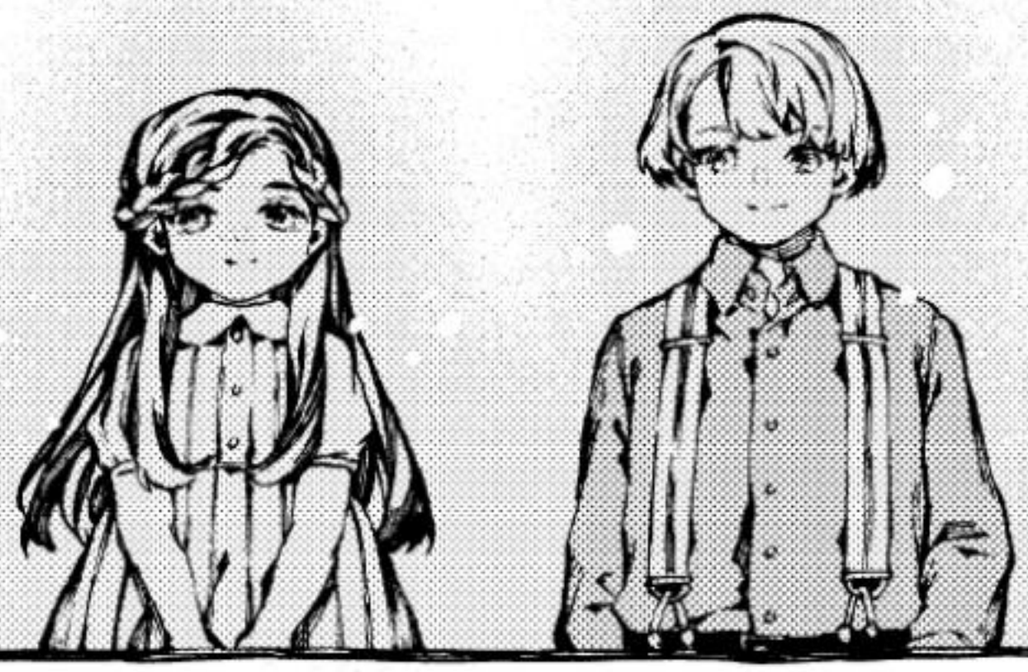
お兄ちゃんが来てくれてほんとうによかったわ！

わたしたち二人がここに来たのならほかの二人もナルニアの話を信じないわけにはいかないわよね

そしたらどんなに楽しいかしら！


……帰ったら
きょうだい
全員の前で
ルーシーが
正しかったことを
認めなくてはならなくなる……

ほかの二人は



きっとフォーンや
動物たちの側に
つくにちがいない

ぼくはもう
半分以上も
魔女の側に
ついてしまって
いるから

みんなが
ナルニアについて
話を始めたら
この秘密を
隠しておけるか……







あら

お兄ちゃん

顔色が
へんだけど
ぐあいが
悪いの？

だいじょうぶ

じゃ
行きましょ

みんなを
探さなきゃ

みんな
いっしょなら

話すことが
いっぱい
あるんだもの！

きっと
すばらしい
冒険になるわ！

つづく

第8話　扉のこちら側では（前編）



スーザン！

ピーター！

ぜんぶ
ほんとう
だったのよ

エドマンドも
見たの

衣装だんすの
中から
行ける国が
ほんとうに
あるの

エドマンドも
わたしも
行ってきたん
だから

ウゥ…

むこうで
森の中で
ばったり
出会ったのよ

みんなに
聞かせてあげて

さあ
エドマンド

いったい
どういう
ことなんだ

エド？

どういう
ことなの

エド？

ああ
それね

もちろん

ほんの
冗談だけどね

そんなもの
あるはず
ないだろ

――衣装だんすの中に
国があるっていう
ルーシーの話がぜんぶ
ほんとうだってことにして

ルーシーとぼくは
ごっこ遊びを
してたんだ

ほら
また

ああ
なんだから

あいつ
いったい
どうなってる
わけ？

困だからチビは
困るんだよな

いつだって——

おい！

にいいかげん
にしろ！

おまえ
ルーが
衣装だんすのことで
変な話をするように
なってからずっと

ルーに
ひどいことばかり
してるじゃないか

そのうえに

こんどは
ルーのごっこあそびに
つきあって

ますます妄想を
あおったのか

おまえ

わざと意地悪で
やったんだろう

けど
こんなの
なくただの
くだらない話じゃ
ないか

もちろん

ただの
くだらない話さ

スッ…

だからこそ
問題なんじゃ
ないか

こっちへ
疎開して
くるまで
ルーはどこも
おかしなところ
なんてなかった

でも
ここへ
来てからの
ルーは

頭がどうか
なったか

そうでなけりゃ
大うそつきに
なったとしか
思えない

どっちにしても

一方でそれを冷やかしたり責めたりしといて

もう一方であおったりするなんて

おまえいったいどういうつもりなんだ？

ぼくは――

……ぼくが

考えたのは――

どうせ
ろくなこと
考えて
なかったんだろう

意地悪
したかった
だけなんだ

おまえはいつも
自分より
小さい者に対して
ひどいことをする

学校でだって

前に
そういうところを
見たぞ

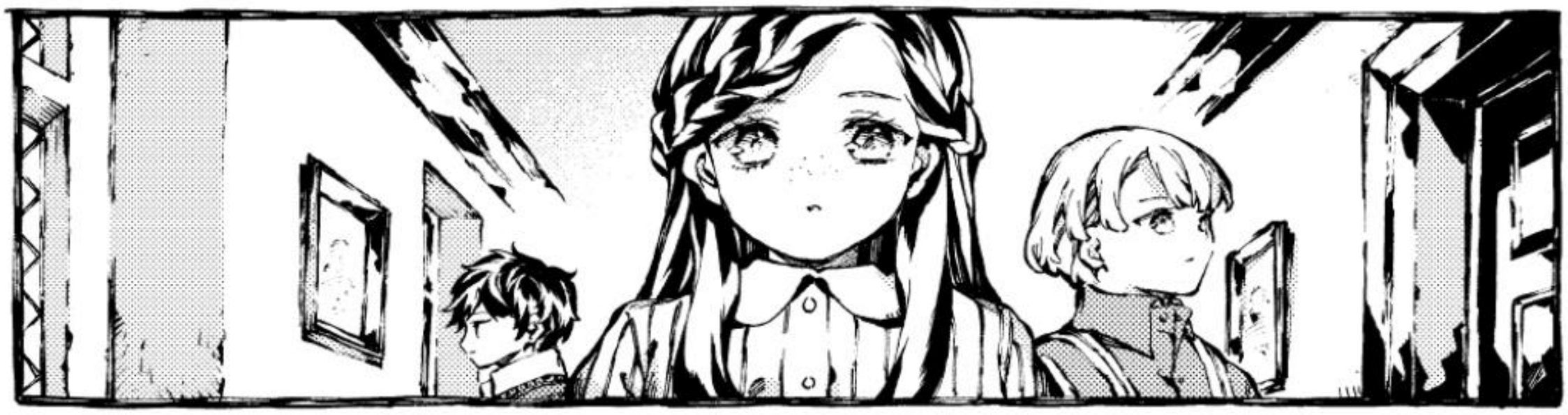
やめて

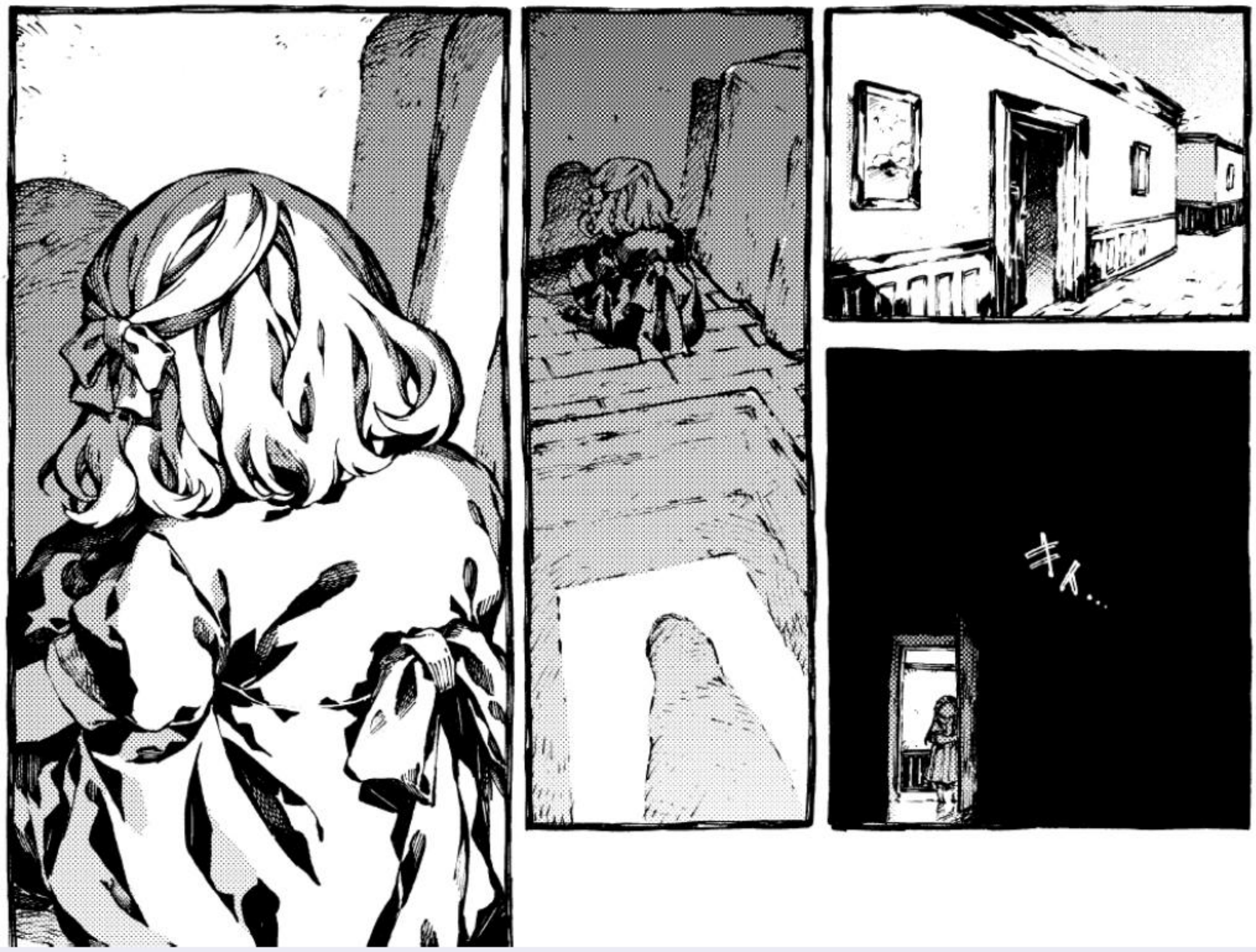
二人で
けんか
したって

何も解決
しないわよ

ルーシーを
探しに
いきましょう







……みんなが
どう思ったって
かまわない

何て
言おうと
わたし

かまわない
もん

教授に
言いつけたら
いいわ

お母さんにも
手紙を書いたら
いいでしょ

好きなように
すればいいわ

わたし
ほんとうに
むこうでフォーンに
出会ったんだもの

——あのまま
帰ってこなけりゃ
よかった

お兄ちゃんも

お姉ちゃんも

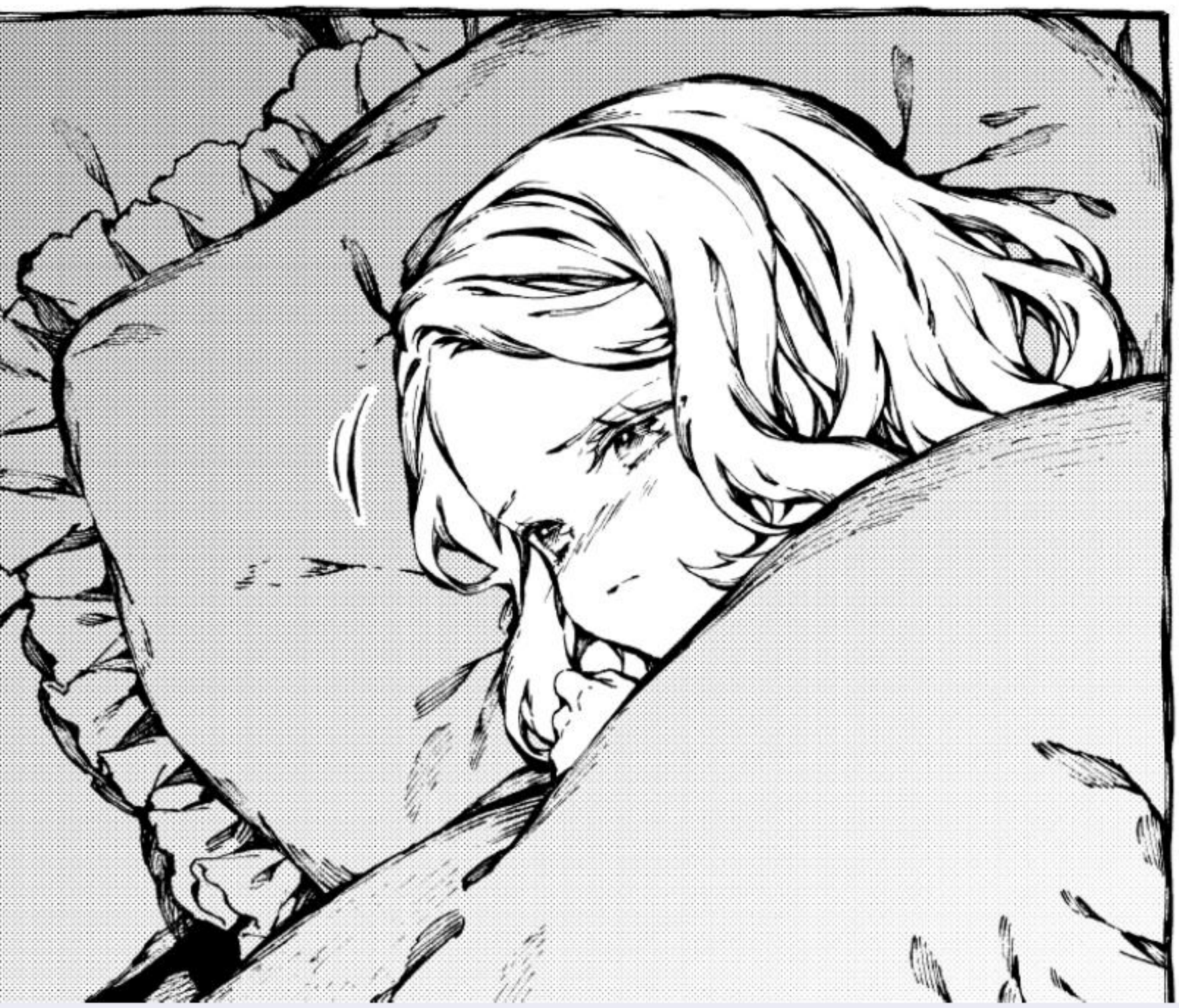
みんな最低よ

大嫌い！



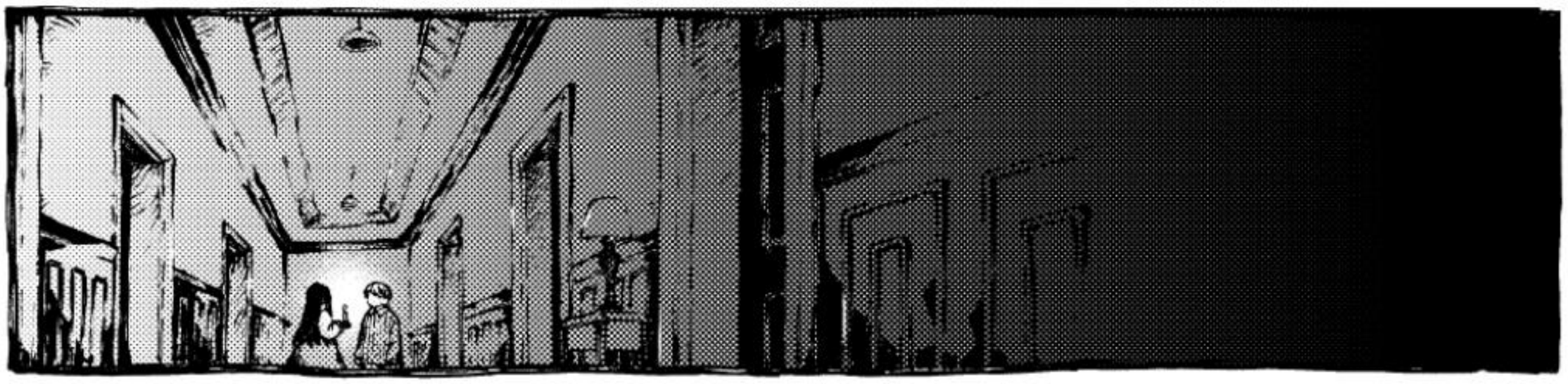


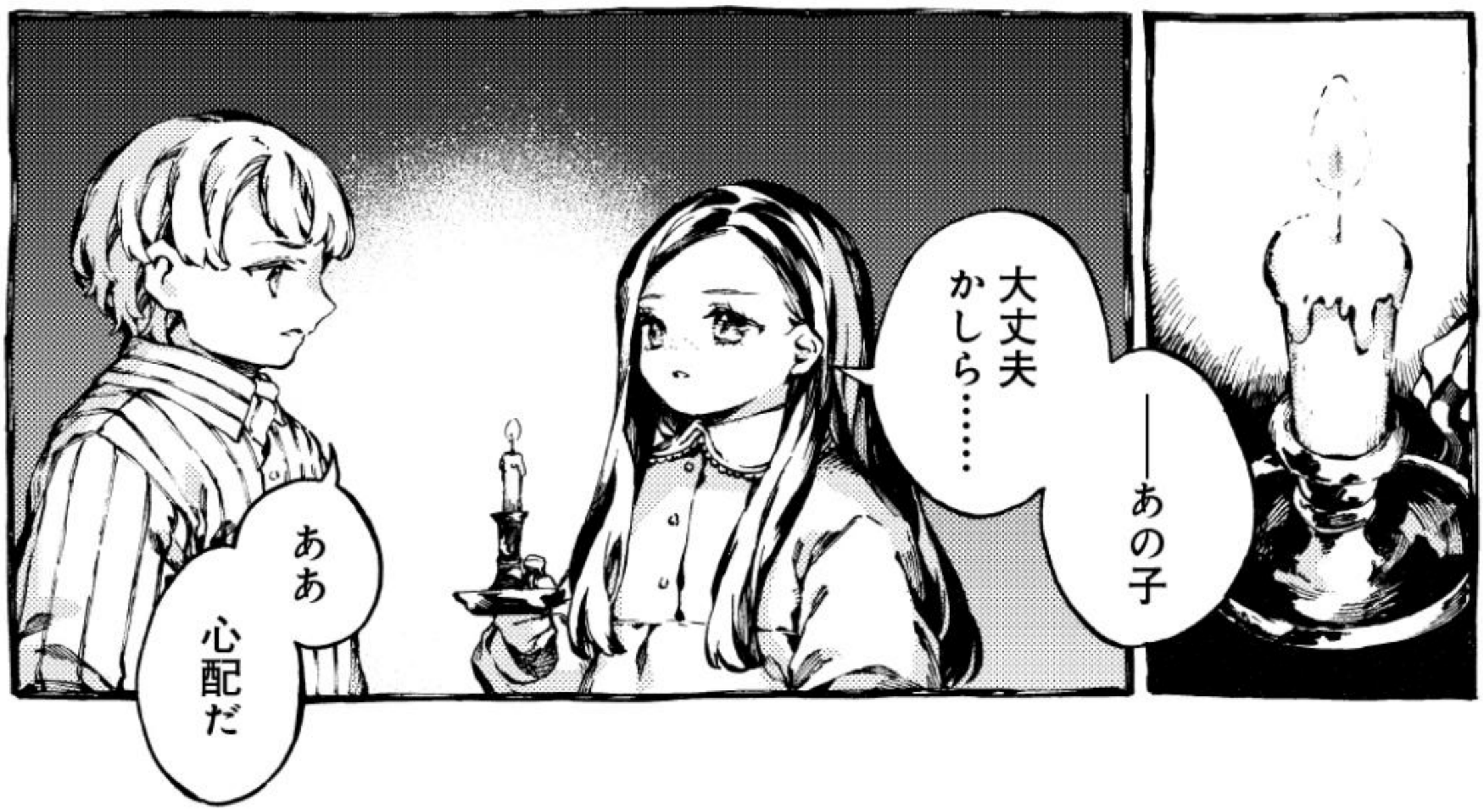











——あの子
か大丈夫かしら……
ああ心配だ

ここに
疎開してから

頭がどうか
なってしまったの
かもしれない

どうしたら
いいのかしら

うーん…

……

……

……このまま
だと

計画が
思いどおりに
進まないんじゃ
ないか……？

……

やっぱり教授に
すべてを打ちあけて
相談してみましょう

ああ

ほんとうにルーが
おかしいと思えば
教授が父さんに
手紙を書いて
くれると思う

もう

ぼくたちの
手には
おえないよ


カチャ
コンコン
おはいり

何でも
相談に乗るよ

…あの

実は――


……

妹さんの話がほんとうでないと

どうしてわかるんだね？

つづく

第9話　扉のこちら側では（後編）

妹さんの話がほんとうでないと

どうしてわかるんだね？

それは

だって…

よく
考えてごらん

そこは
よくよく慎重に
考える必要がある

たとえば――

…こんな
質問をしては
失礼かも
しれないが――

きみたちの
経験からして

弟さんと妹さんの
どちらかのほうが
より信頼できる

というような
ことは
あるかな？

つまり
どちらが
より正直か

という
ことだが？

そこが

ぼくたちと
しても
どうにも
すっきりしない
ところなんです

これまで
だったら
まちがいなく
ルーシーのほうが
正直だと
答えていたと
思うんです

きみは
どう
思うかね？

はい

ふつう
だったら
わたしも
ピーターと
同じように
答えると
思います

でも

今回の話は
ほんとうだとは
思えません

――森だとか

フォーン
だとか

そこまでは
わたしにも
わからないが

いいかね

これまで いつも
正直であると信じてきた
相手に対して
うそつきのレッテルを
貼るというのは

重大な
ことだよ

じつに
重大なことだ

わたしたち

うそより もっと
深刻なことを
心配しているんです

ルーシーが
どこかおかしいんじゃ
ないかと

正気を
失っておる
という
意味かね？

それなら
心配するには
およばない

顔を見て

二言三言
しゃべれば
ルーシーが
正気であることは
明らかだからね

でも

だったら——

論理学だよ！

最近の学校では
なぜ論理学を教えないのかな？

この場合

可能性は三つしかない

さもなくば

きみたちの妹が
うそを
ついているか

正気を失っておるか

真実を
語っているか だ

妹さんが
うそつきで
ないことは
きみたちが
知っている

となれば
さしあたり
ほかの根拠が
出てこない
かぎり

妹さんが
真実を語っていると
推論する以外にない

正気で
あることも
見ればわかる

でも
どうして
そんなことが
真実で
ありうるんで
しょうか？

なぜ
そんな質問を
するのかな？

だって
ひとつには
もし それが
ほんとうなら

誰がいつ
のぞいたって
衣装だんすの中に
その国が
あるはずなのに

そうじゃないって
ところが
わからないからです

ぼくたちが
衣装だんすを
のぞいたときには
何も
なかったんです

ルーシーだって
そのときは
そこに
国があるなんて
言いませんでした

それがこの件とどう関係あるのかね？

だって

もし何かが本物だとしたらいつもそこにあるはずだと思うからです

そうかな？

それに時間もぜんぜんたってなかったんです

ルーシーが
どこかへ行って
帰ってくるほどの時間が
たってなかったんです

たとえ
そういう場所が
あったとしても

ルーシーは

わたしたちが
部屋を出た直後に
部屋から走って
出てきました

一分もたって
いませんでした

それなのに

ルーシーは何時間も
むこうへ行っていたと
言い張るんです

この屋敷のどこかに
別の世界へつながる扉が
ほんとうにあるとして——

…警告して
おくがね

そっちの世界が
こちらとはちがう
独自の時間軸で
動いていたとしても

わたしは
驚かないね

それこそ

ルーシーの話の
信憑性を裏づける
ポイントだと思うよ

ここは
奇妙な屋敷で
わたしでさえ
大部分は
よくわからない
ままなのだよ

もし
ルーシーが別の世界へ
はいったのだとしたら

つまり
むこうにどれほど
長いあいだ
滞在したとしても

われわれの
世界における時間は
少しも経過していない
ということは
ありうるのだ

一方で
そうした概念を
ルーシーくらいの
年齢の女の子が
自分で思いつくとは
考えにくい

もし
ルーシーが別の世界へ
行っていたふりを
しようとしたならば

それなりの時間が
過ぎるまで隠れていて
それから出てきて
話をしたはずでは
ないだろうか

それでは
教授はほんとうに
別の世界があると
お考えなのですか？

あちこちに？

すぐそこの角を
曲がった先
みたいな
場所に？

ちかごろの学校では

ズッ

生徒にいったい何を教えておるのかな

キュッ キュッ

それはおおいにありうることだ

それじゃわたしたち

どうすればいいんでしょう？

お嬢さん

これまで
誰も提案
しなかったが

やってみる
価値のある方策が
ひとつある

何ですか？

おたがい

他人の詮索を控えることだよ

……ここ数日

お兄ちゃんの
おかげで
からかわれなく
なったし

衣装だんすの話にも
触れられなくなった

……きっと

冒険は
これっきりで
終わりなんだわ——


ん！？
さて
今日は
何をしようか
そういえば

見つからないようにしなきゃね

今日もこの屋敷に見学者が来るみたいよ

ぼくたちがここへやってきた翌朝なんて――

――いいですか

この屋敷の歴史はとても古く

旅行のガイドブックや歴史の本にも出てくるほど有名な建物です

屋敷に伝わるさまざまな話を求めてイギリスじゅうから見学の申しこみがあり

カーク教授はいつも見学の許可を出されます

わたしが見学者の団体を連れて屋敷の中を案内しているときは

じゃまをしないように願いますよ

それから――

くど

くど

…

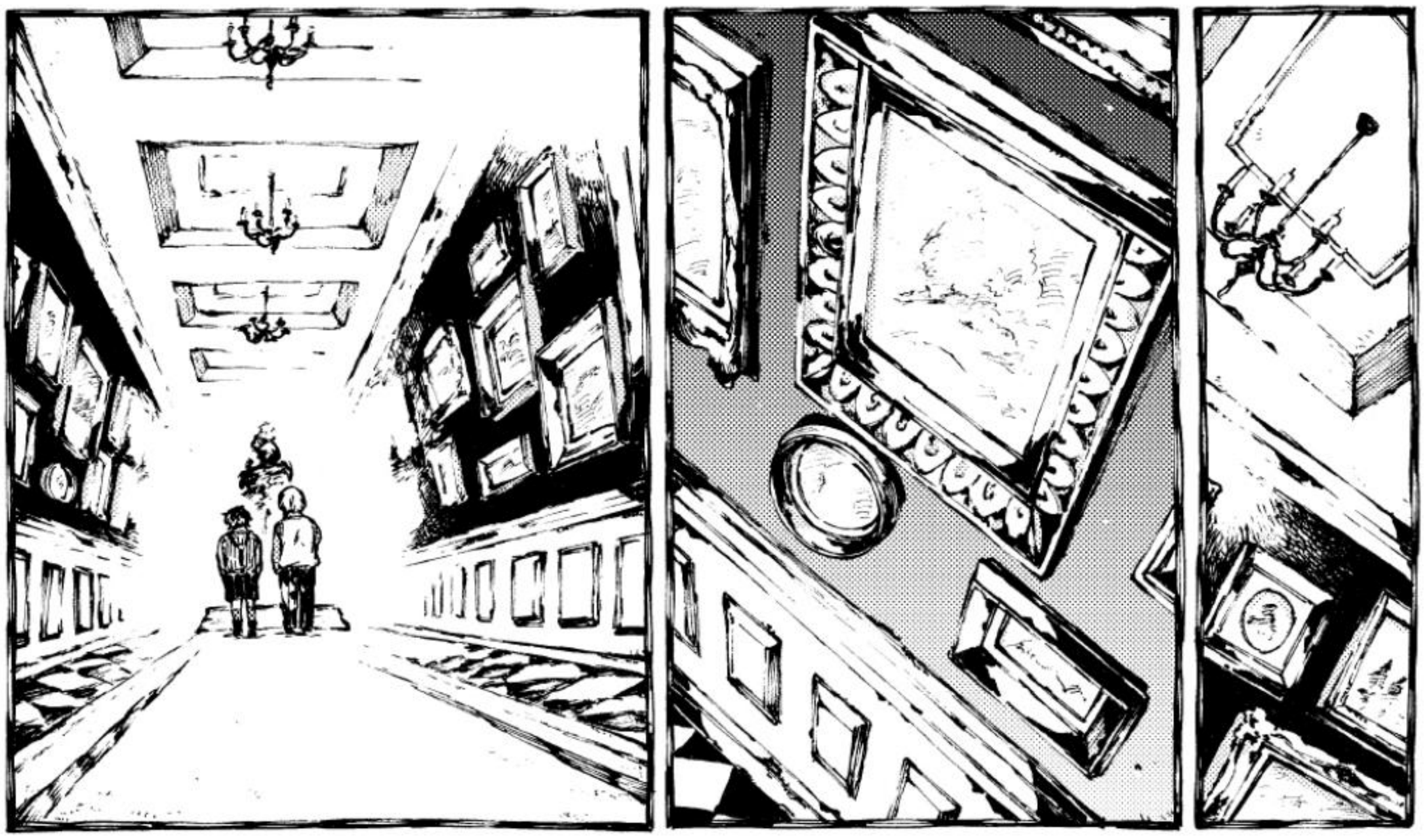
くど

それに

いきなりあれにはまいったよ


誰が朝から
よその大人たちに
くっついて
家の中をぞろぞろ
歩きたいなんて
思うもんか！
ててて
ててて





じっ

これって
分解できるの
かなぁ

たいへん！

マクレディの
御一行がやって
くるわよ！

急げ！

ナナナ

わっ！

正面の階段じゃなくて

裏手の階段から上がってきたんだわ！

あっ！

ガタ

ガタ

こんどは
こっちから!?

もう

ゴゴゴ

うっとうしい観光客ね！

こっちよ

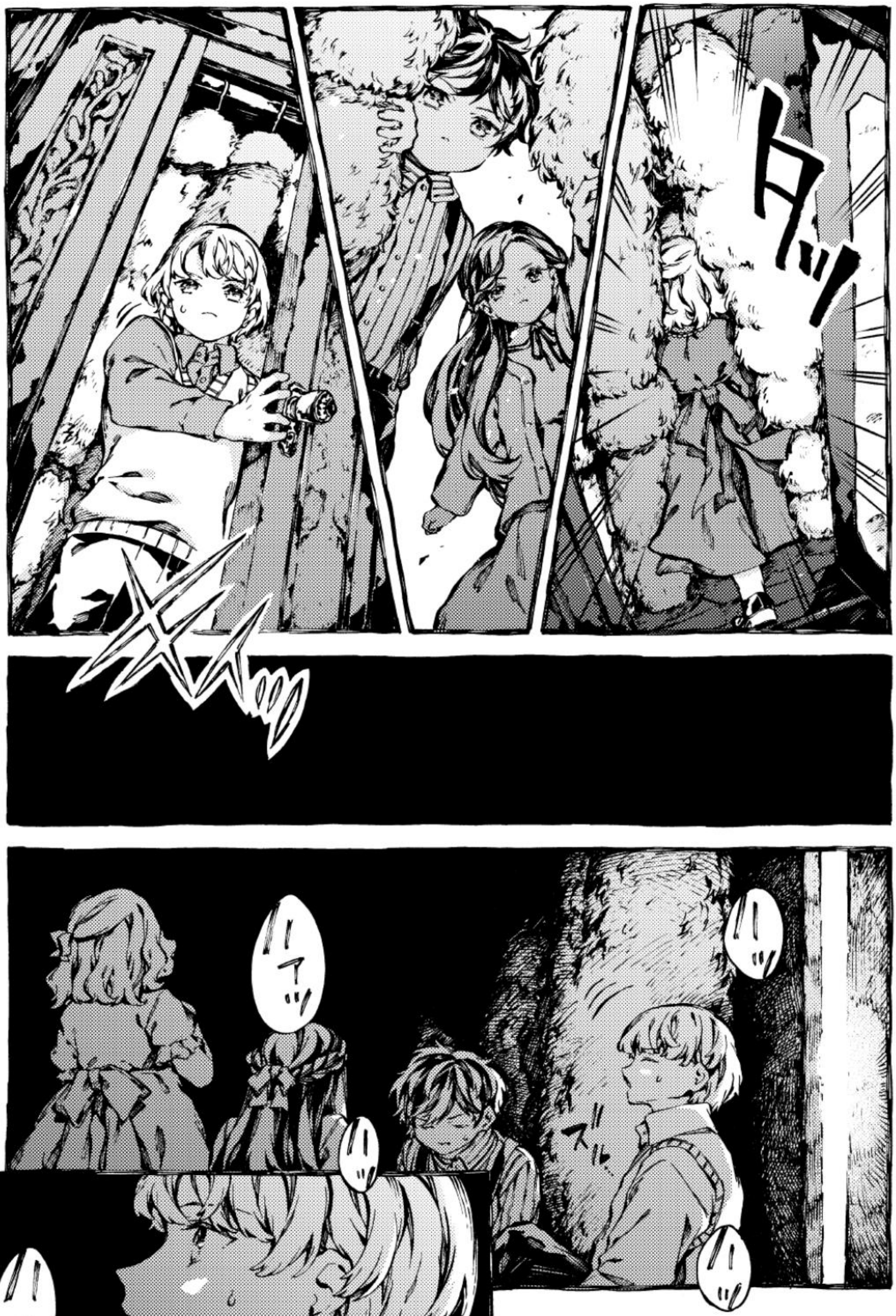
衣装だんすの部屋にはいって連中をやりすごすしかないわ

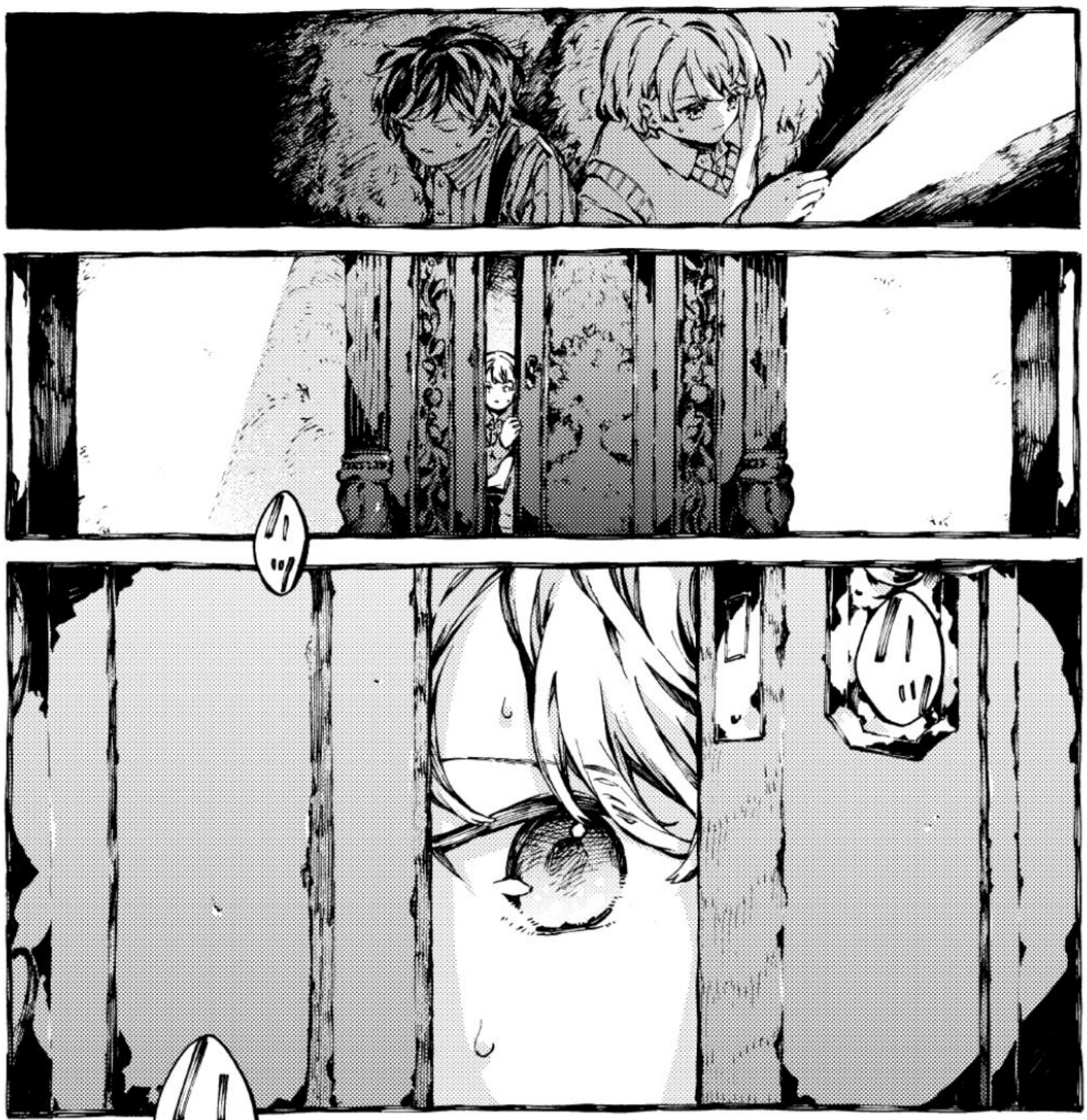
あそこなら誰もはいってこないから


バタンッ




早く！
ここしかない！


ズル



つづく



第10話　森の中へ（前編）

マクレディさん

さっさと見学の人たちを連れてどっか行っちゃってくれればいいのに

ここ

キュウ…

狭すぎるんだもの

それに
樟脳(しょうのう)の
ひでえにおい！

ここにかかってる
コートのポケットに
いっぱい
はいってるのよ

きっと

虫よけに

なんか背中が
チクチク
するんだけど

それに
寒くない？

ハー

そういえば
寒いな

それに……

ぼくが
すわってるとこ

なんか
濡れてるんだ

ここ
いったい
どうなってんだ？

なんだこれ

濡れてるぞ

どんどん
ひどく
濡れてくる

外に
出ようよ

もう
行っちゃった
だろ

うわっ！

どうした？




それに
見て！
むこうに
明かりが
見えるわ


わたし
木にもたれて
すわってたみたい


ほんとだ！
スーザンの
言うとおりだ


……見て



あそこも——

あっちも

木がいっぱい生えてる

この濡れてるのは

雪だったんだ

驚いたなあ

どうやらルーシーの言ってた森にはいっちゃったみたいだぞ





仲直りの握手してくれる？

…話を信じてあげなくてごめんね

もちろんよ

どうする？

……で
これから
どうするの？

もちろん

森を
探検するに
きまってるさ

えー!?

こんなに
寒いのに？

ね

だったらあそこにかかってるコート着ていかない？

えっ

でもぼくたちのコートじゃないから…

誰も文句なんか言わないわよ

べつに家から持ち出すわけじゃないんだもの

衣装だんすから持ち出すことにもならないでしょ？

……それ

考えてもみなかったよ

スー

もちろん

そういう理屈なら わかる

もとあった衣装だんすから外に出さないかぎり

誰もコートを持ち出したなんて言えないよね

しかも

この国は丸ごと衣装だんすの中にあるみたいだし




ごっこなんかに
しなくても
じゅうぶん
楽しいよ


北極探検隊
ごっこにすれば
いいわね

あのさ

もう少し左の方向へ
行ったほうが
いいんじゃないのかな

街灯のところへ
行くつもりなら――

ヒューッ
そうか

やっぱり
来たことが
あったんだな

ルーシーが
森でおまえに
出会ったって
言ったとき

——それなのに

おまえは
ルーシーがうそを
ついてるような
口をきいたんだ

なんて汚いやつだ――

……二人とも

この仕返しは
かならずして
やるからな

高慢ちきで
独りよがりの
いい子ぶりっ子め

……で
これから
どこへ行くの？

ルーに案内して
もらうのが
いいと思う

いちばん
適任だよ

どこへ
行こうか
ルー？

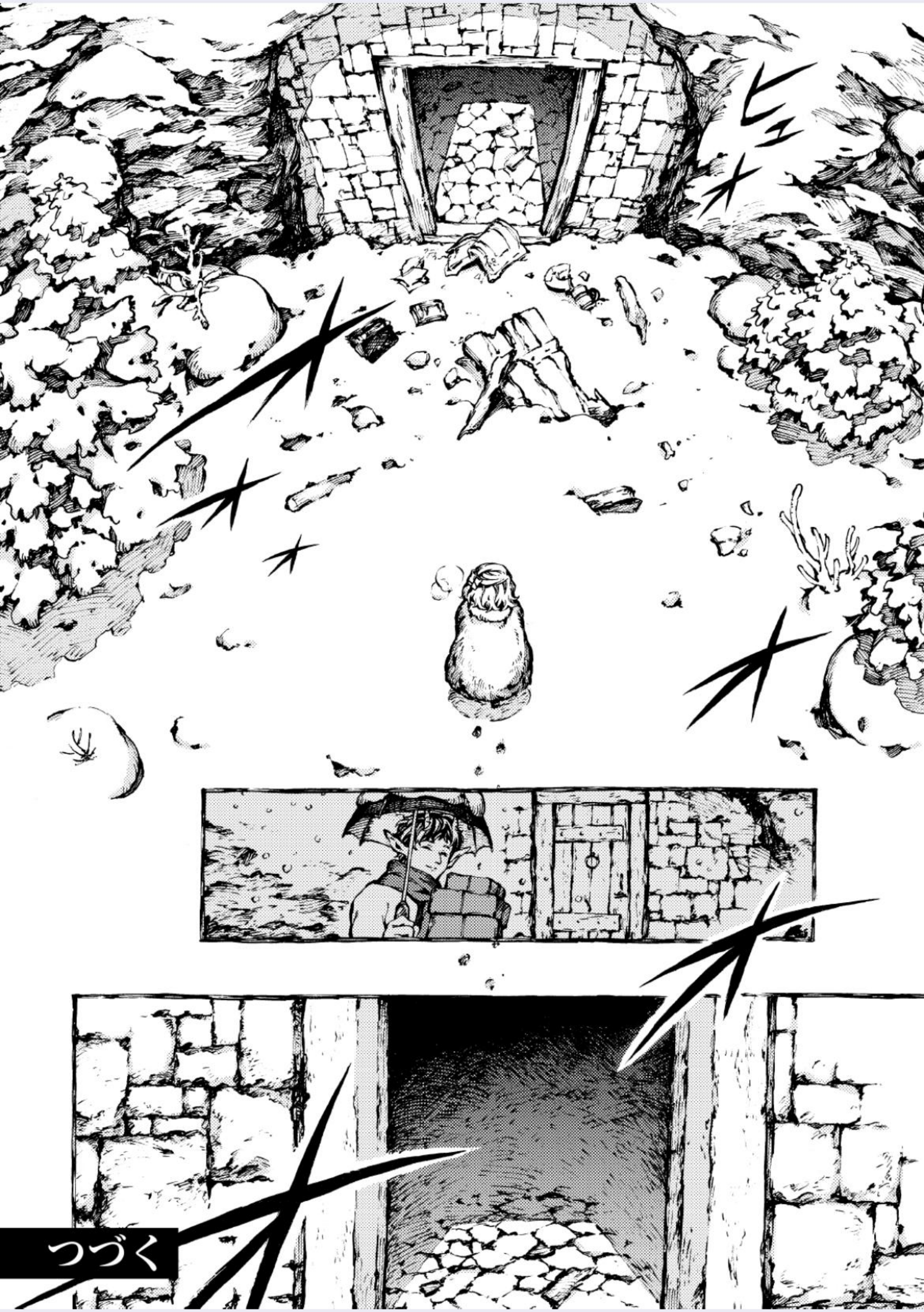
前に話した
親切な
ことよ

フォーンの

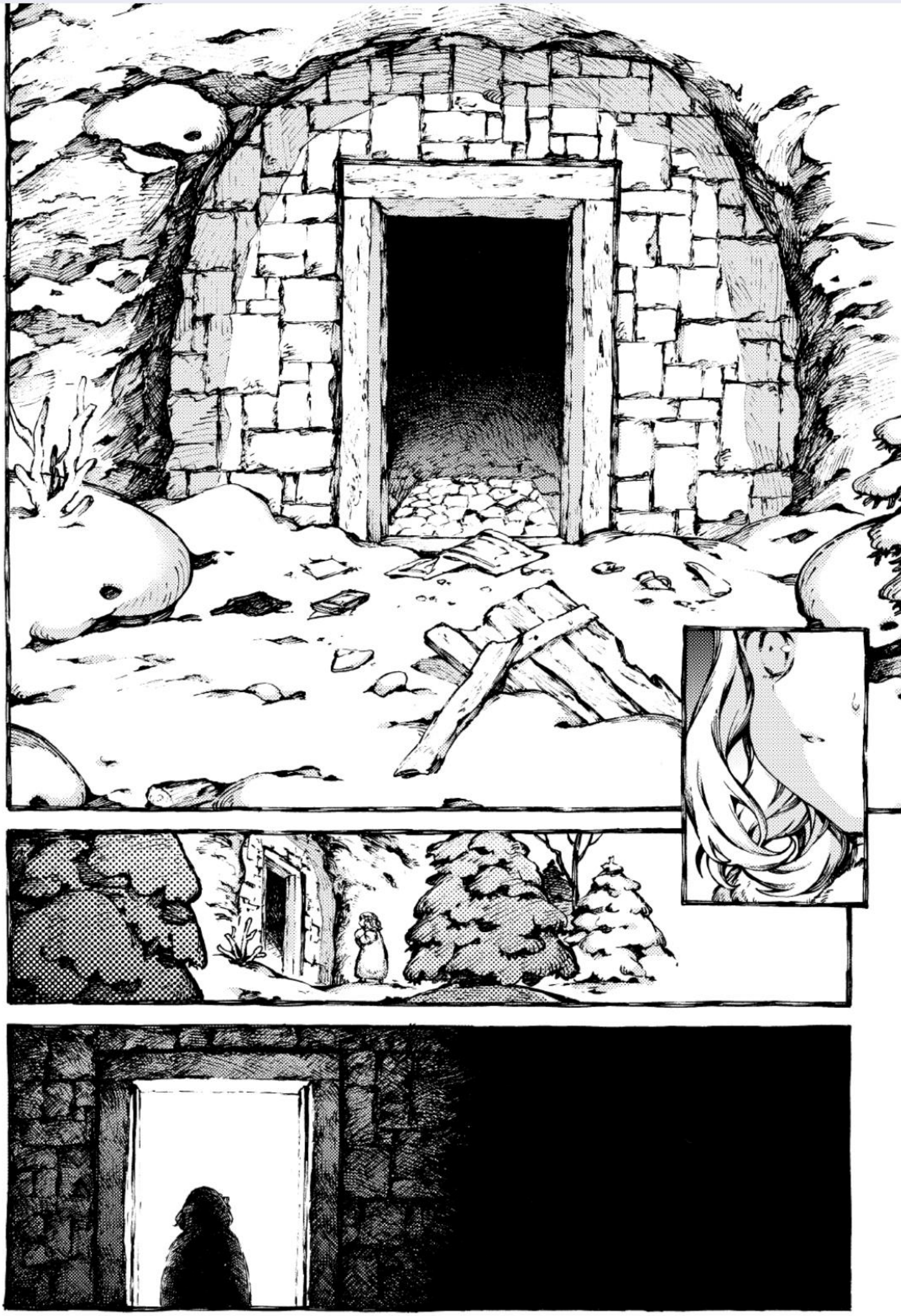
タムナスさんの
ところは
どうかしら？

賛成！

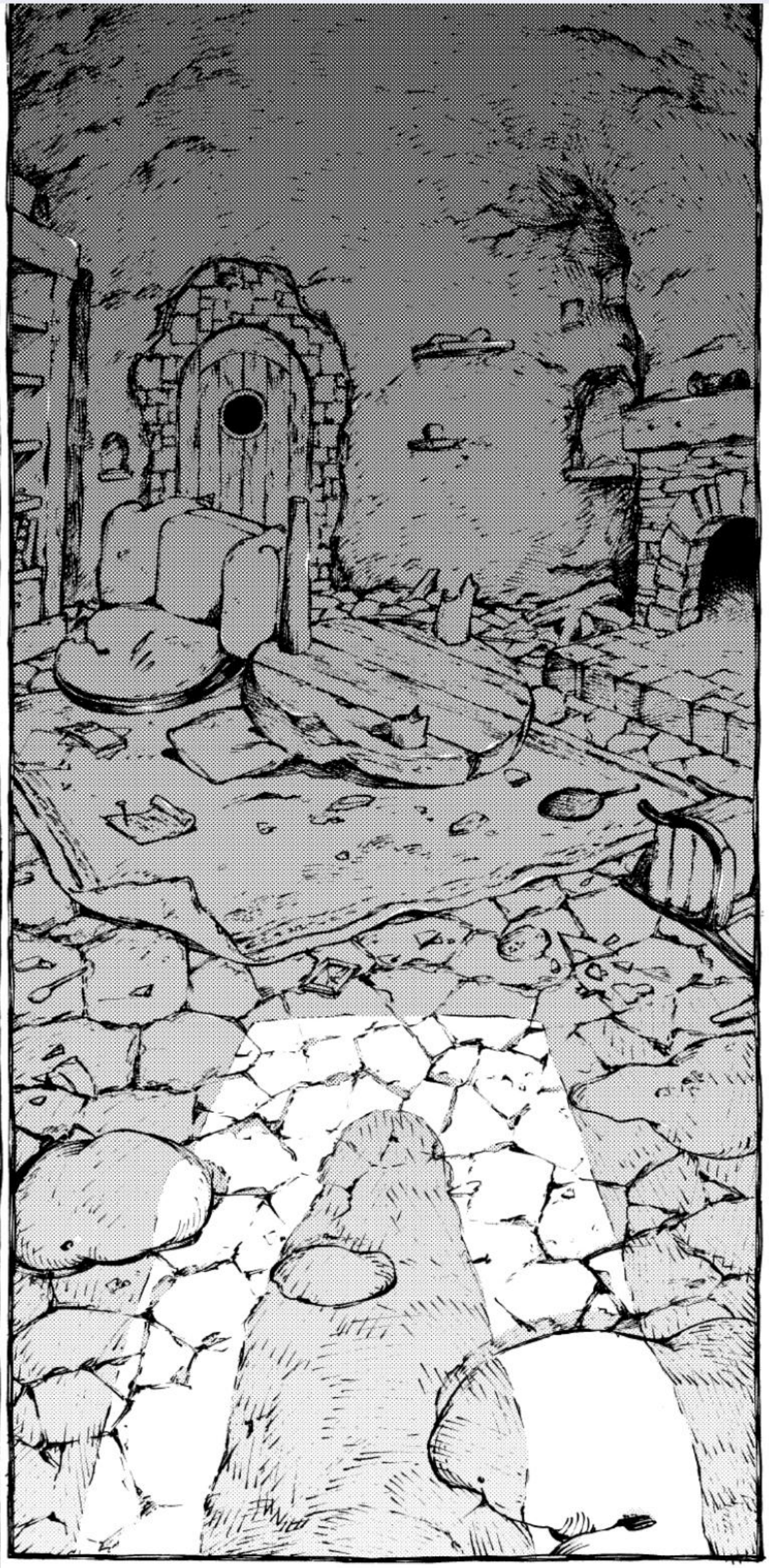
ルー？

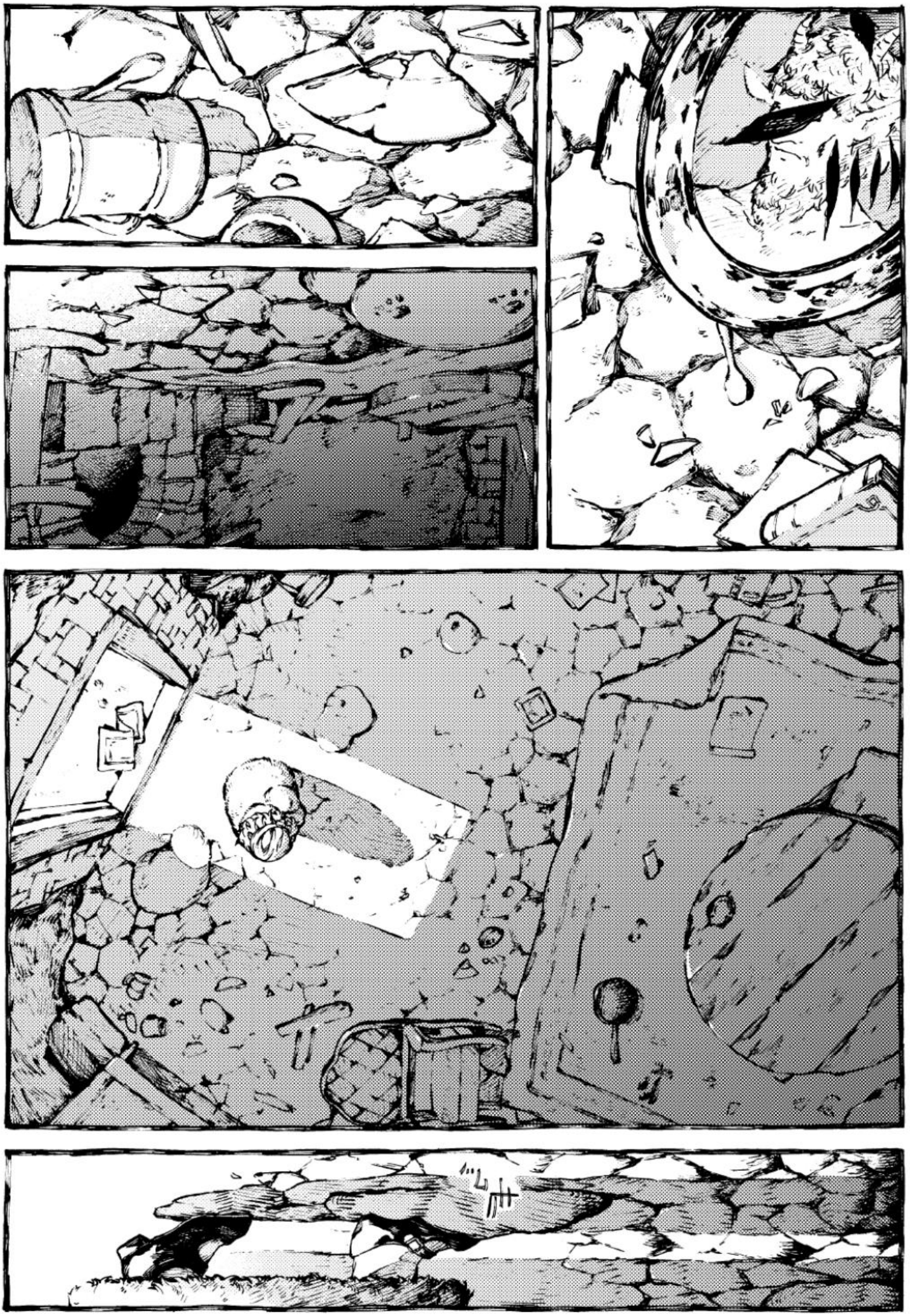

ヒュオ
つづく

第11話　森の中へ（後編）









ずいぶん派手に荒らしたもんだ

これじゃ来ても意味なかったな

何か
書いて
あるの？

うん
そう思う

これは
何だろう？

でも
この暗さじゃ
読めないな

外へ
出てみよう

えーと

なになに…
この住居の―

O

The former occupant of these premises, the Faun Tumnus, is under arrest and awaiting his trial on a charge of High Treason against her Imperial Majesty Jadis, Queen of Narnia, Chatelaine of Cair Paravel,

この住居の所有者であるところのフォーンのタムナスは、
逮捕され、裁判にかけられることとなった。
罪状は、ナルニアの女王にしてケア・パラヴェルの城主であり
離れ島諸島をはじめとする諸領の女帝であらせられる
ジェイディス女王陛下に対する大逆罪、
および右の陛下の敵をもてなし、
スパイをかくまい、〈人間〉と親交を結んだ罪である。

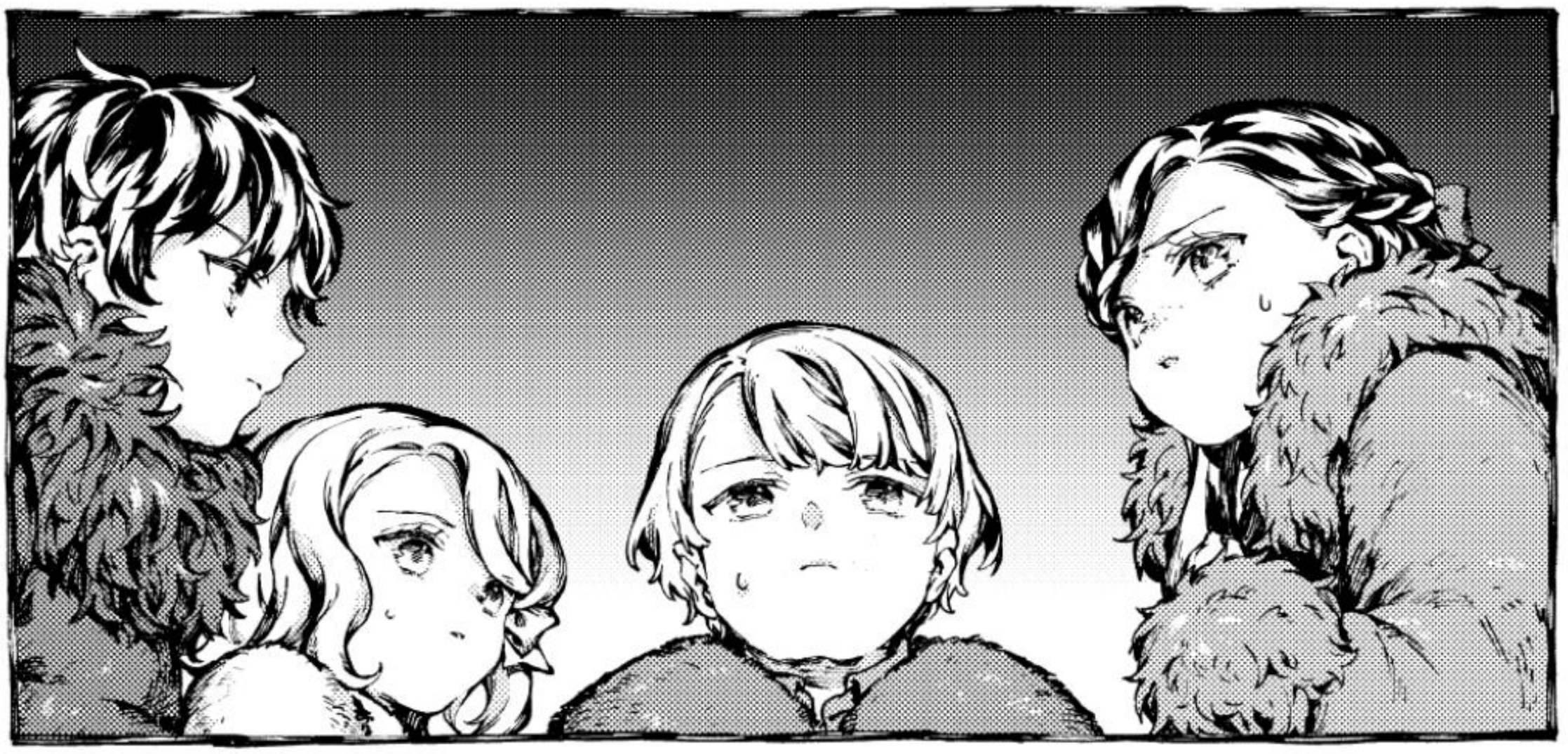
Signed MAUGRIM,
Captain of the Secret Police,

LONG LIVE THE QUEEN!

署名　秘密警察隊長　モーグリム

女王陛下万歳！






わたし
やっぱり
この場所は
好きに
なれないわ


ルー
女王っていうのは
何者なんだい？
何か
知ってる？


その女は
ほんとうは
女王なんかじゃ
ないの

恐ろしい
魔法使いで

白い魔女なの

みんな——

…森の人たちは
みんな——
その女のことが
大嫌いなの

その女が
この国に魔法を
かけたせいで

ここは
一年じゅう冬で

そのくせ
クリスマスは
ぜったい来ないの

あの……

これ以上 先へ
進むのはどうかと
思うんだけど

だって
なんだか
危なそうだし

楽しいことも
あまり
なさそうだし

…ねえ

もう家に
帰らない？

だめよ
そんなこと

それに
どんどん
寒くなって
くるし

食べる物も
持って
こなかったし…

見てよ

こんなことになってるのに帰っちゃうなんてできないわ

帰るわけにはいかないわ

かわいそうにフォーンがこんなことになったのは

わたしのせいなんだもの

タムナスさんはわたしを魔女からかくまってくれて

帰り道を教えてくれたの

女王の敵をもてなして〈人間〉と親交を結んだっていうのはそのことなのよ

タムナスさんを
助けに
いかなくちゃ！

そんなこと
できる
もんか！

食いもんさえ
持ってきて
ないのに

おまえは
黙ってろ！

ハッ。

スーザンは
どう思う？

ルーが
正しいと
思うわ

……

…言いたく
ないけど

ほんとうは
これより先には
一歩も
進みたくないし

こんなところに
来なけりゃ
よかったと
思うけど

その
何とかさんっていう
フォーンを
助けてあげなくちゃ
いけないと思うの

ぼくも
そう思う

でも

食べ物が
ないことは
心配だな

いったん
この国から
出ちゃったら

また
もどってこられる
保証がないからね

できる
ことなら

家にもどって
食料庫から
何か
取ってきたい
ところだけど

このまま先へ
進むしかないと
思う

そうね

フォーンが
どこに閉じこめ
られてるのかさえ
わかれば
なあ！

見て！

コマドリがいるわ

真っ赤な胸のコマドリ

ここへ来て初めて見た小鳥だわ

ねナルニアの小鳥たちって言葉が話せるのかしら？

わたしたちに何か言いたそうに見えるんだけど

お願い
コマドリさん

フォーンの
タムナスさんが
どこへ
連れていかれたか
教えてもらえない
かしら？

ガバッ

ガバッ

ガバッ

？



ストッ!!

ねえ
このコマドリ

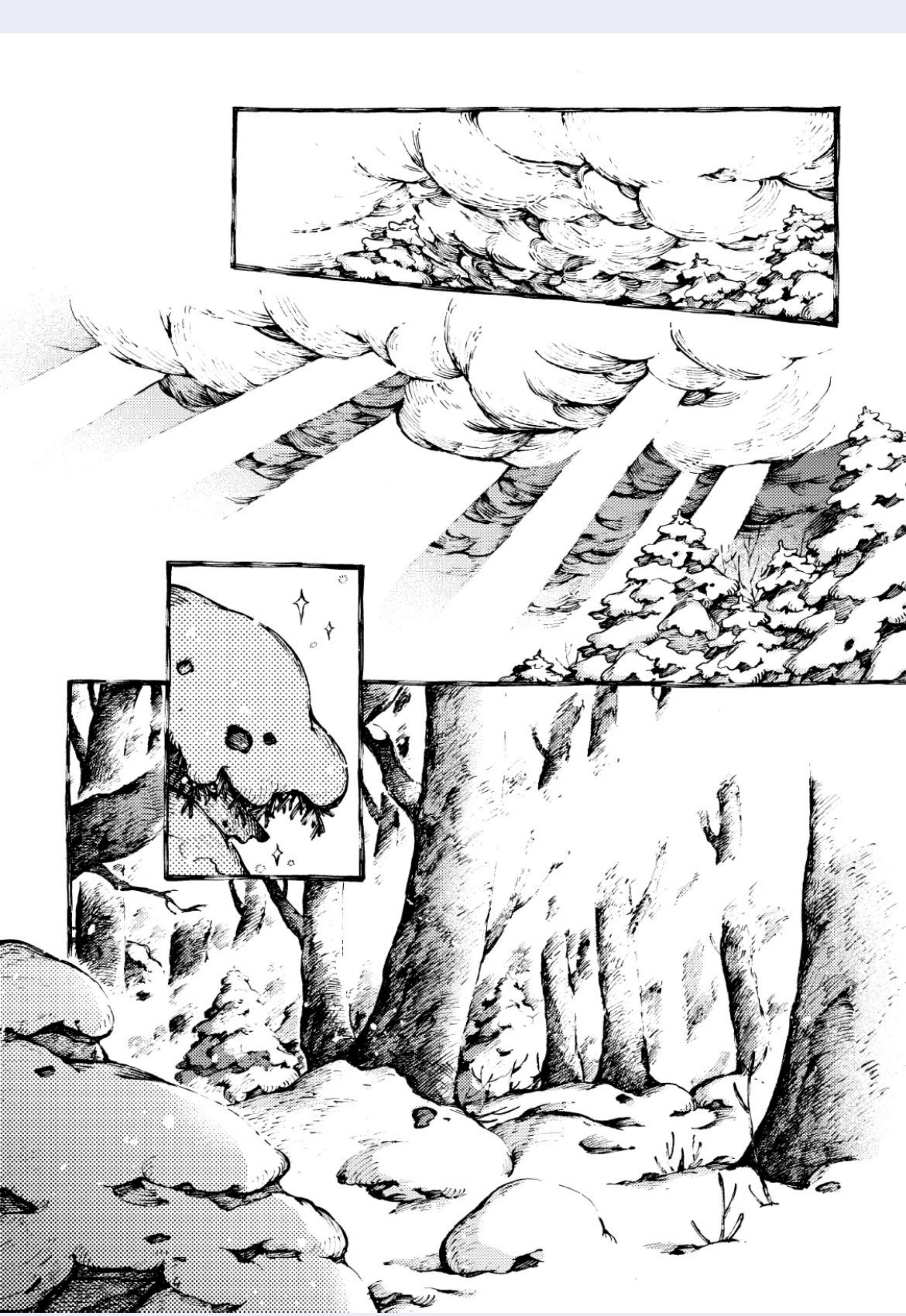
ついておいでって
言ってると
思うんだけど

わたしも
そんな気が
するわ

どう思う
ピーター？

悪くない
考えだと思うな





……そうやって
お高くとまるのを
やめて

ぼくと
口をきく気が
あるんなら

何だよ？

耳寄りなこと
教えてやっても
いいけどな

しっ！
大きな声
出すなよ

女の子たちを
怖がらせたって
しょうがないだろ

あのさ
あんた

いま自分たちが
何やってんのか
わかってんの？

どういう
こと？

正体も何も
わかんないやつの
案内に
ついていってる

ってこと

あの小鳥がどっちの側の者なのか

どうやってわかるんだ？

ぼくたちを罠にはめようとしてるかもしれないじゃないか

そりゃまたひねくれた考え方だな

だってコマドリだぞ？

それを
言うなら

そもそも
正しい側ってのは
どっちなのさ？

ぼくが読んだ
いろんな物語に
出てきたコマドリは

みんな
いい小鳥だったよ

フォーンが正しい側で
女王（たしかに魔女
だとは聞いたけど）が
悪い側だって

どうして
わかるわけ？

コマドリが
悪い側に
つくなんて

考えられない
けどな

どっちのこともろくに知らないのに

フォーンはルーシーを助けてくれたから

それはフォーンがそう言ってるだけだろ

ほんとうかどうか

わかったもんじゃないよ

それにもうひとつ問題がある

昼めしにも
ありつけそうに
ないしさ

…あ！

考えてなかった

しかも

―帰り道

わかってんの？

つづく



第12話　ビーバー夫妻のもてなし（前編）

帰り道

……あ！

わかってんの？

考えてなかった

あっ！

しかも昼めしにもありつけそうにないしさ

コマドリが！

あーあ

コマドリが
飛んでっ
ちゃった！

どうすりゃいいんだ？

だから言っただろ

しっ！見て！

何？

何か動いてるものがあるの

木のあいだ

むこうの左のほう

ほら
また
ガサッ
こんどは
ぼくも見た

まだ
そこにいるぞ

あの大きな
木のかげに
ひっこんだだけだ

何なの？

ギュ…

何に
しても
ぼくたちを
避けてる

姿を
見られた
ないらし
たく
い

帰りま
しょうよ

……あっ

帰り道が
わからない…

……

……どんな
ものなの？

動物らしいん
だけど――

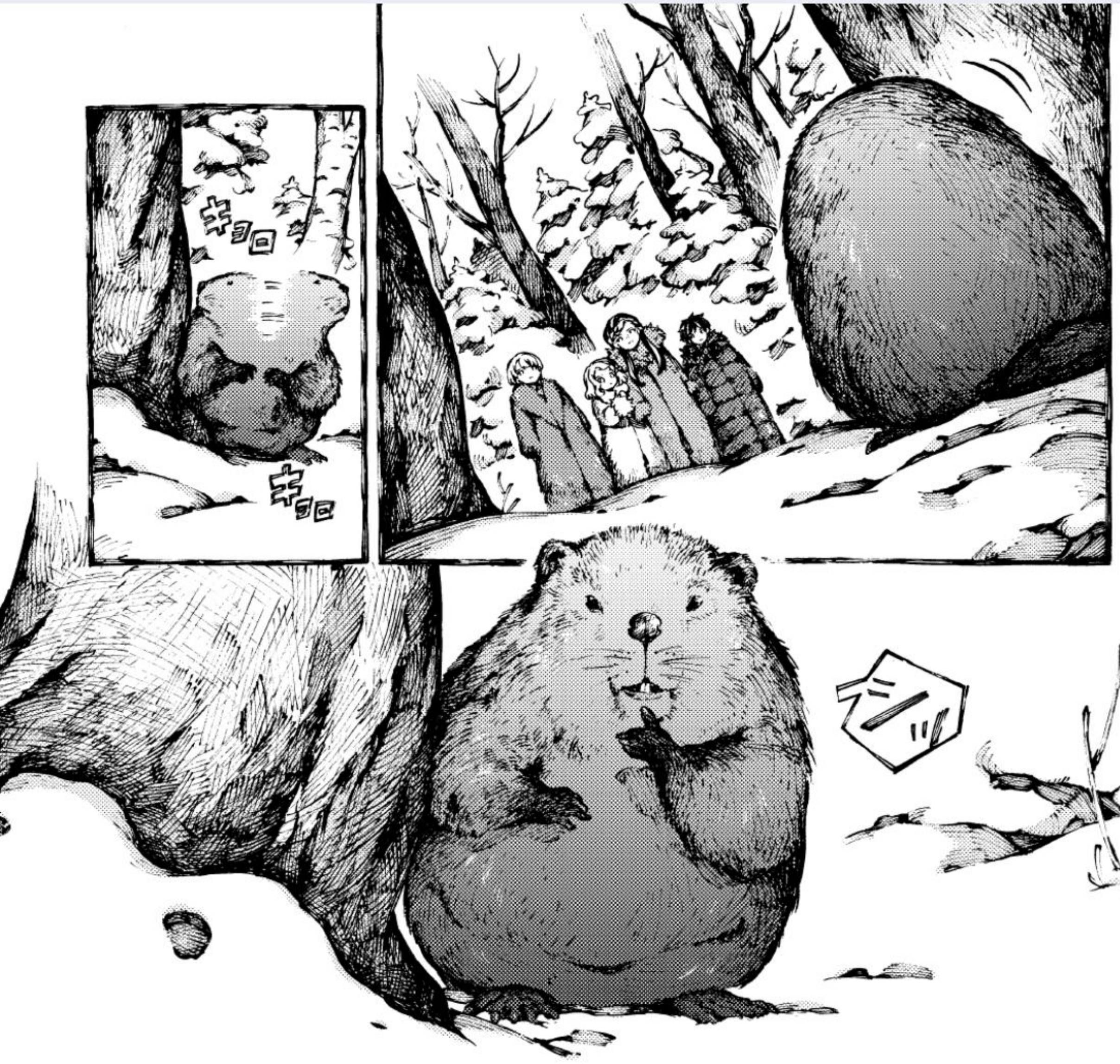
見て！
見て！

はやく！

そこにいる！






ドシン
ドシン
ドシン




ドシン


ドシン
ドシン


わかったぞ

ビーバーだ
しっぽが
見えた
おいでって
言ってるわ
それと
声をたてるな
って
うん
わかってる
問題は
行くべきか
どうか
ってことだ
ルーは
どう思う？

わたし

あれは
いいビーバーだと
思うけど

ふうん

どうして
わかるんだ？

ここは
賭けてみるしか
ないんじゃない？

だって

こんなとこに
立ってたって
しょうがないし

お昼ごはんも
食べたいし

ドドドドド

ドドドドド

ドドドドド

よし

行ってみよう

みんな
おたがいに
離れないように

ぼくたち
四人でかかれば
ビーバー
一匹ぐらい
なんとかなるよ

あのビーバーが
敵だったとしても



もっと奥へ

もっと奥へ
来てください

そう
こっちです

開けた場所は
危険です！

あなたがたは
アダムの息子さんと
イヴの娘さんたち
ですか？

たしかに
そうだけど？

しーっ！

そんな
大きな声を
出さないで
ください

ここだって
安全では
ないんですから

どうして？

何を
怖がって
いるの？

ここには
ぼくたち以外に
誰もいないのに

木が
あります

木は
いつも
聞いています

ほとんどの木は
わたしたちの
味方ですが

なかには
わたしたちを
裏切って
通報する木も
ないわけでは
ありません

誰に
通報するか
おわかり
ですよね

味方とか
敵とかいう
話なら

あんたが
味方だって
どうして
言えるんだ？

失礼なことを
言うつもりじゃ
ないんですけどね
ビーバーさん

でも
ほら
ぼくたち

こっちの
世界のことは
わからないので

ええ
たしかに

ええ
たしかに

ここに証拠が
あります

ハッ…

あっ！

それ
わたしの
ハンカチよ

わたしが
タムナスさんに
あげたハンカチ！

そのとおり
です

かわいそうに

タムナスは
自分の逮捕が
近いと察して

つかまる前に
これをわたしに
託していったのです

もし
自分の身に
何か起こったら

この場所で
あなたがたを
見つけるように
……と

そして
あなたがたを
連れて——

？

ドヨ
ドヨ


アスランが
動きだしている
という話です

すでに到着しておられるでしょう

——おそらく

トクン…



——それで
タムナスさんは
どうなったの？

どこにいるの？

レーっ！

ここでは
お話し
できません

ゆっくりと
話ができて

お昼ごはんも
食べられる場所へ
ご案内します

昼ごはん…











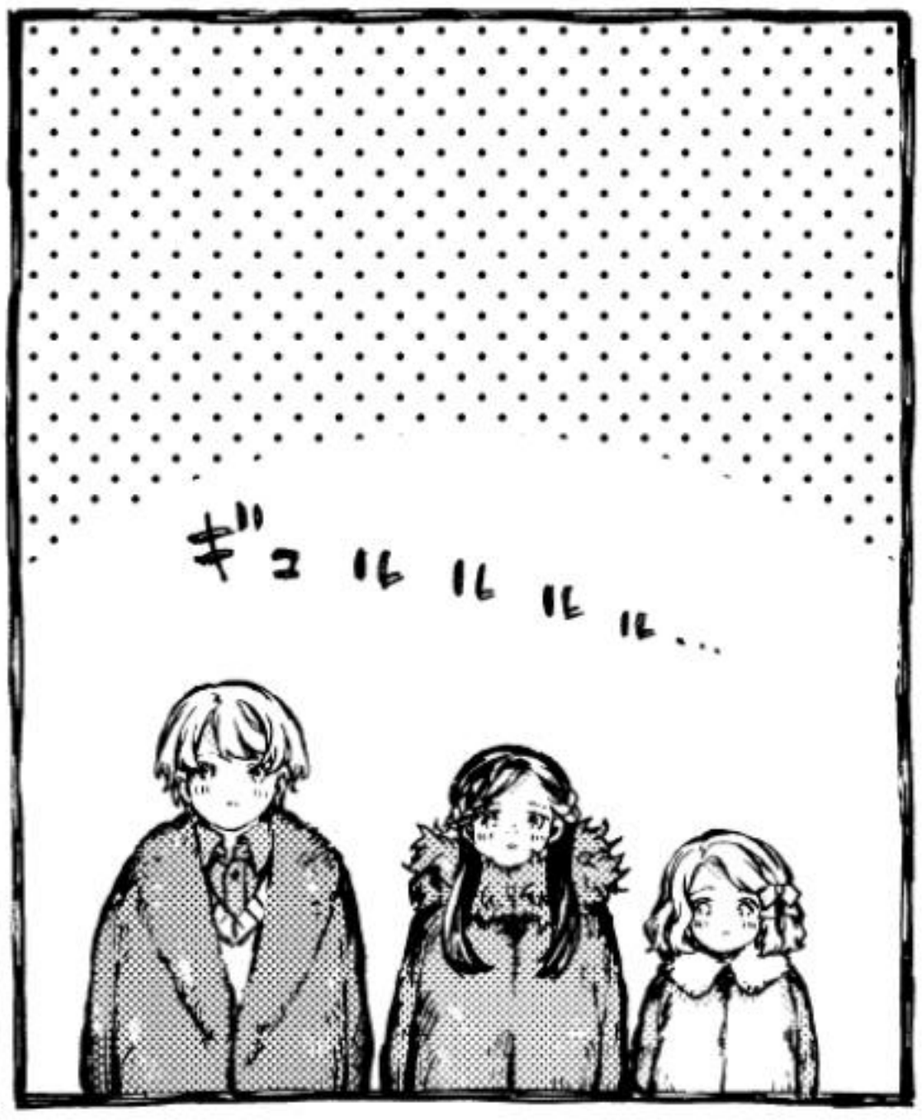


つづく

第13話　ビーバー夫妻のもてなし（後編）


たいしたことはありません！
たいしたことはありません！
まだ完成もしていないんです！
なんてすてきなダムなんでしょう！




ギュルルルル…




――木々の上に
小さな丘が二つ
そびえておるのが
見えるか？

わらわの館は
あの二つの丘の
あいだにある

…あそこに
行けば
ターキッシュ・
デライトを
食べられる

王様にも
なれる

ざまあみろ

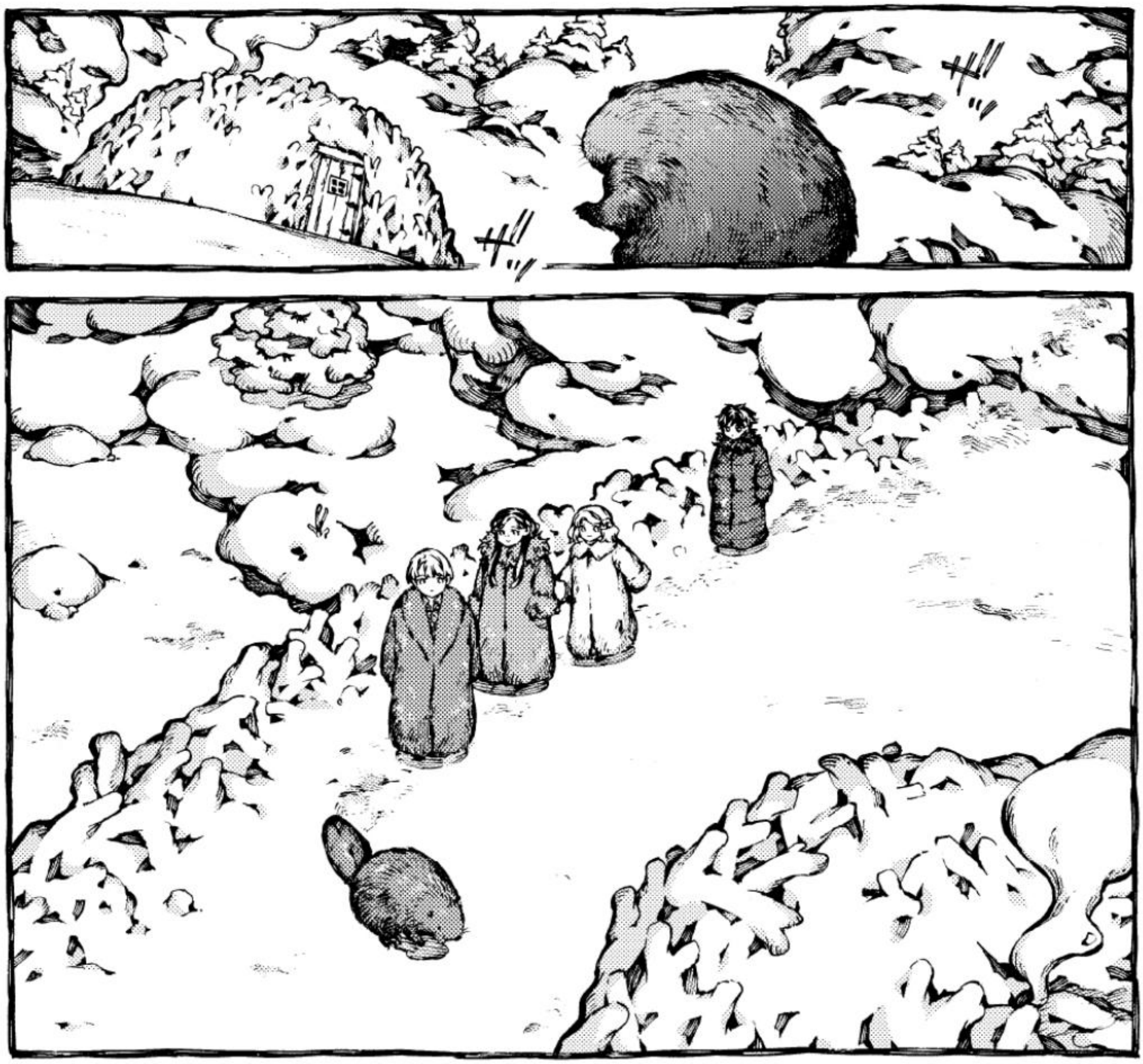
……
ピーターめ

着き
ましたよ

ミセス・ビーバーも
お待ちかねの
ようです

こちらへ
どうぞ

滑らないように
足もとに気をつけて
くださいよ




ただいま



見つけたよ

ほら

アダムの息子さんと
イヴの娘さんたちだ

カタ

カタ

カタ

カタ

カタ

カタ

カタ

カタ

カタ

カタ

とうとう
いらしたの
ですね！

とうとう！

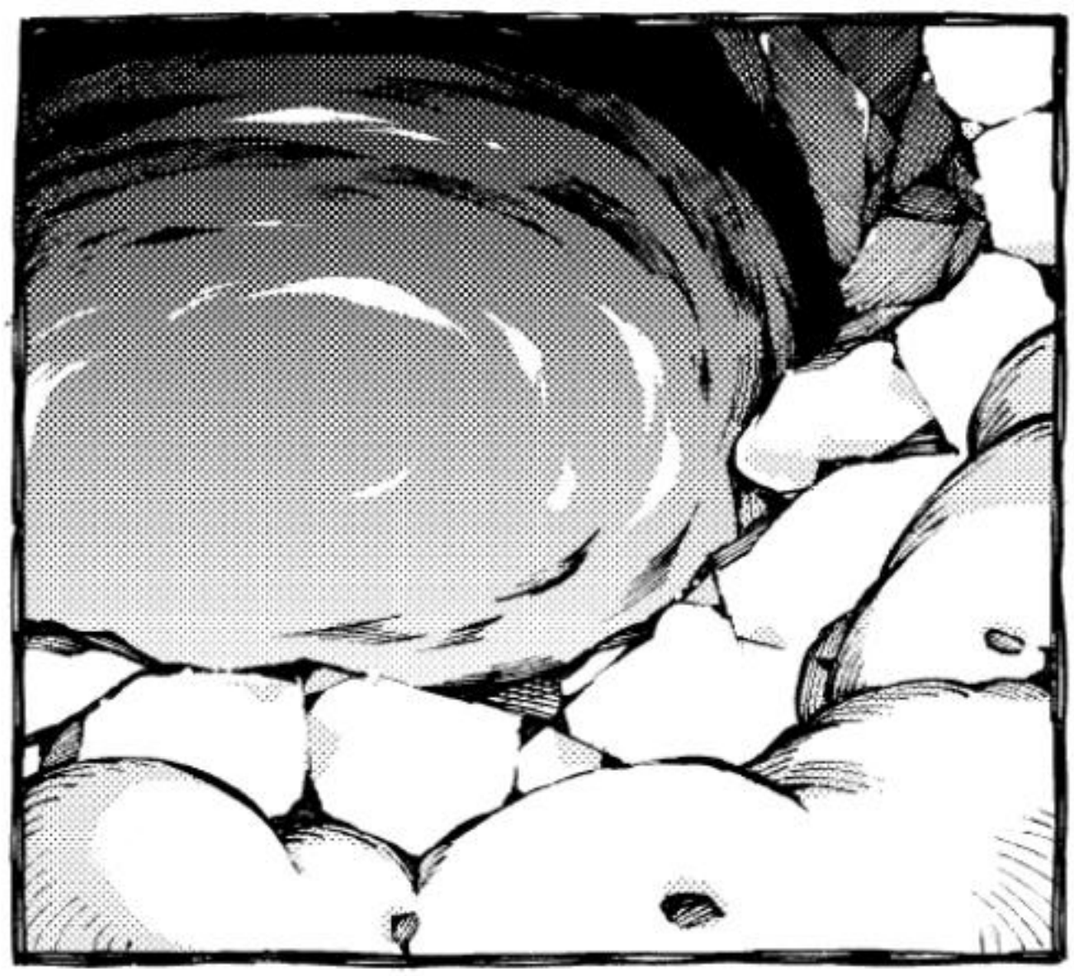
生きて この日を
見られるとは！

ジャガイモは
ゆであがって
いるし

お湯もわいて
いますよ

ああ
わかった

あなた
おさかなを
獲ってきて
くださいな









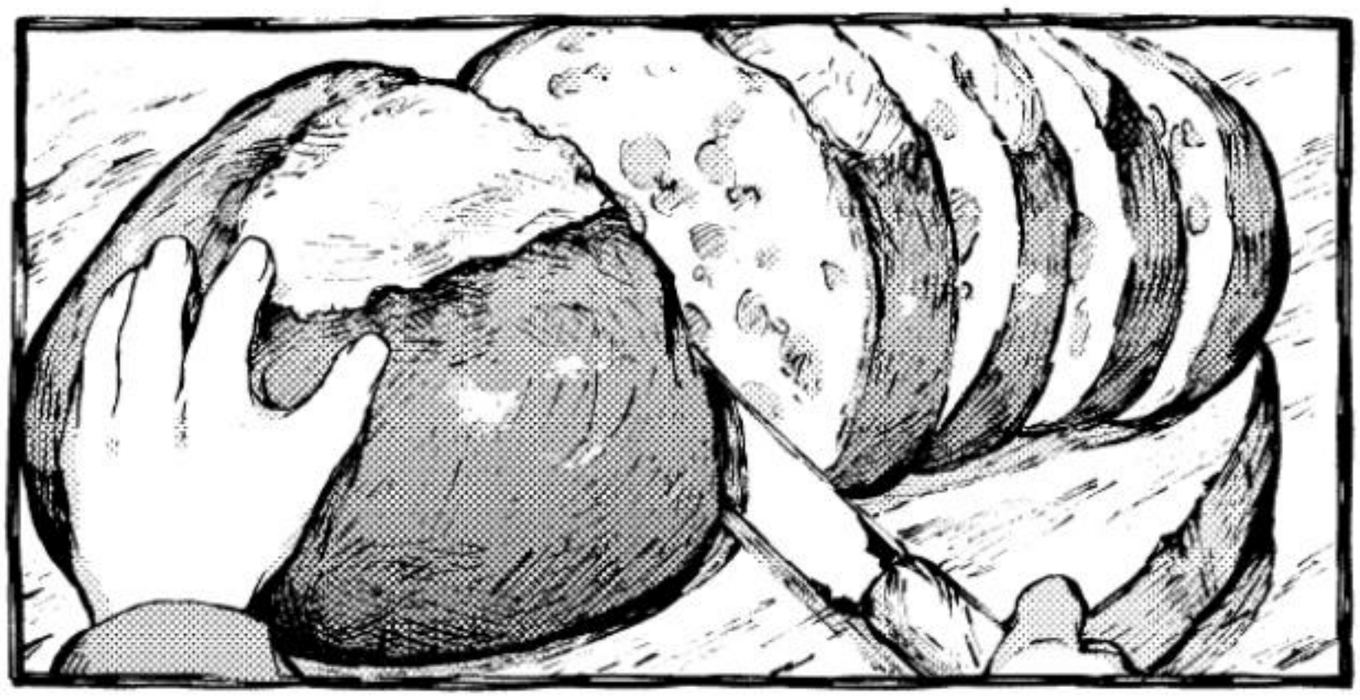





ドドドド
おおっ
ビチ
ビチ
ビチ
ドドドドドド
ビチビチビチビチ

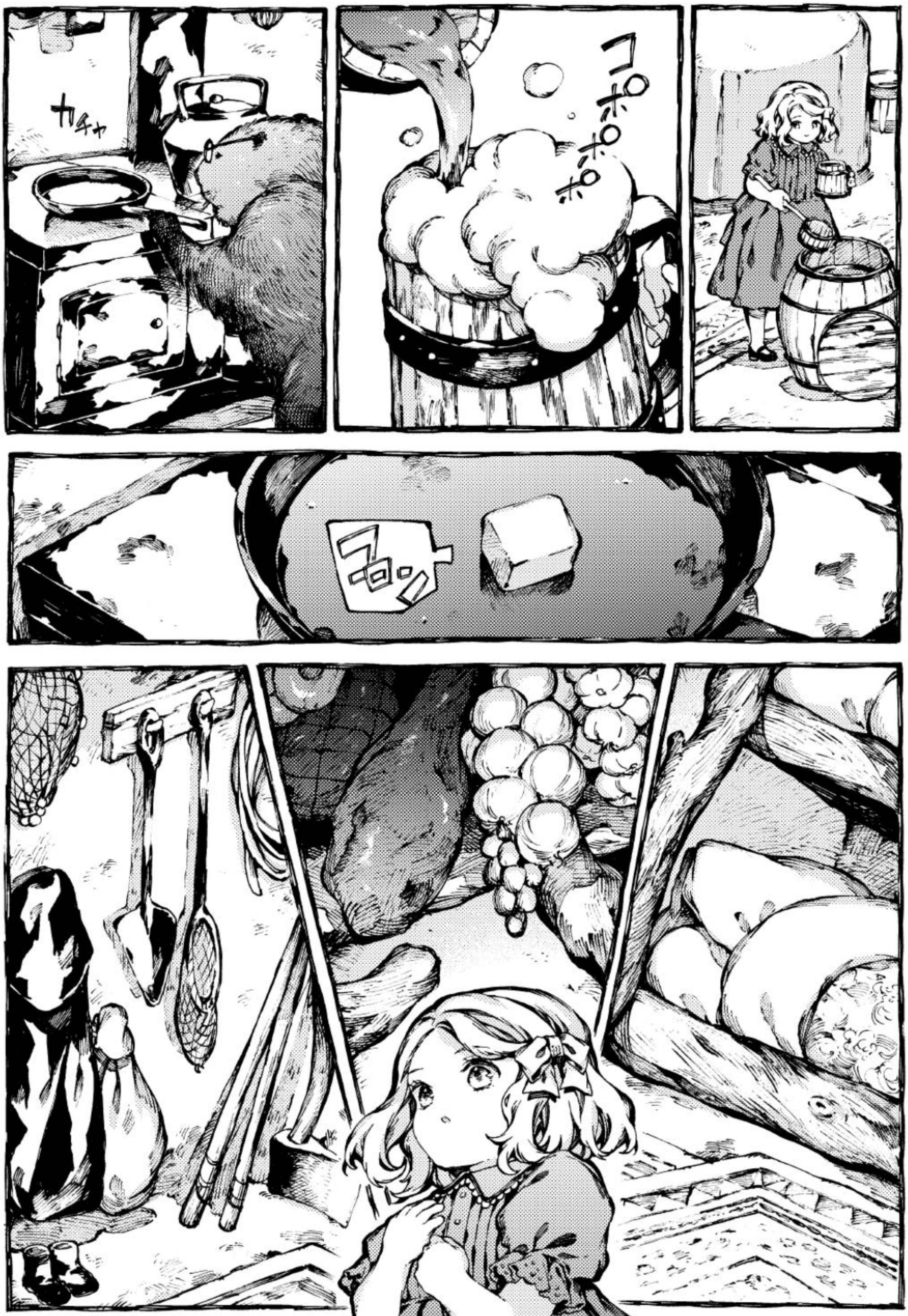



カタカタ
カタカタ
トポポポ…









タムナスさんの
洞穴とはずいぶん
ちがうけれど

ビーバー夫妻の
小さな家も
とてもすてきだわ

ニヒ

ニヒ

ニヒ

ニヒ

ニヒ

ジュルル…

ジュワワワワ

そろそろいいかな

ジュワ

ジュワ

ゴゴゴ

ゴゴゴ


カチャ
カチャ
カチャ
カチャ






カチャ
カチャ




ドロ〜




ゲ"ヒ"
ゲ"ヒ"



……

カチャ

カチャ

カチャ

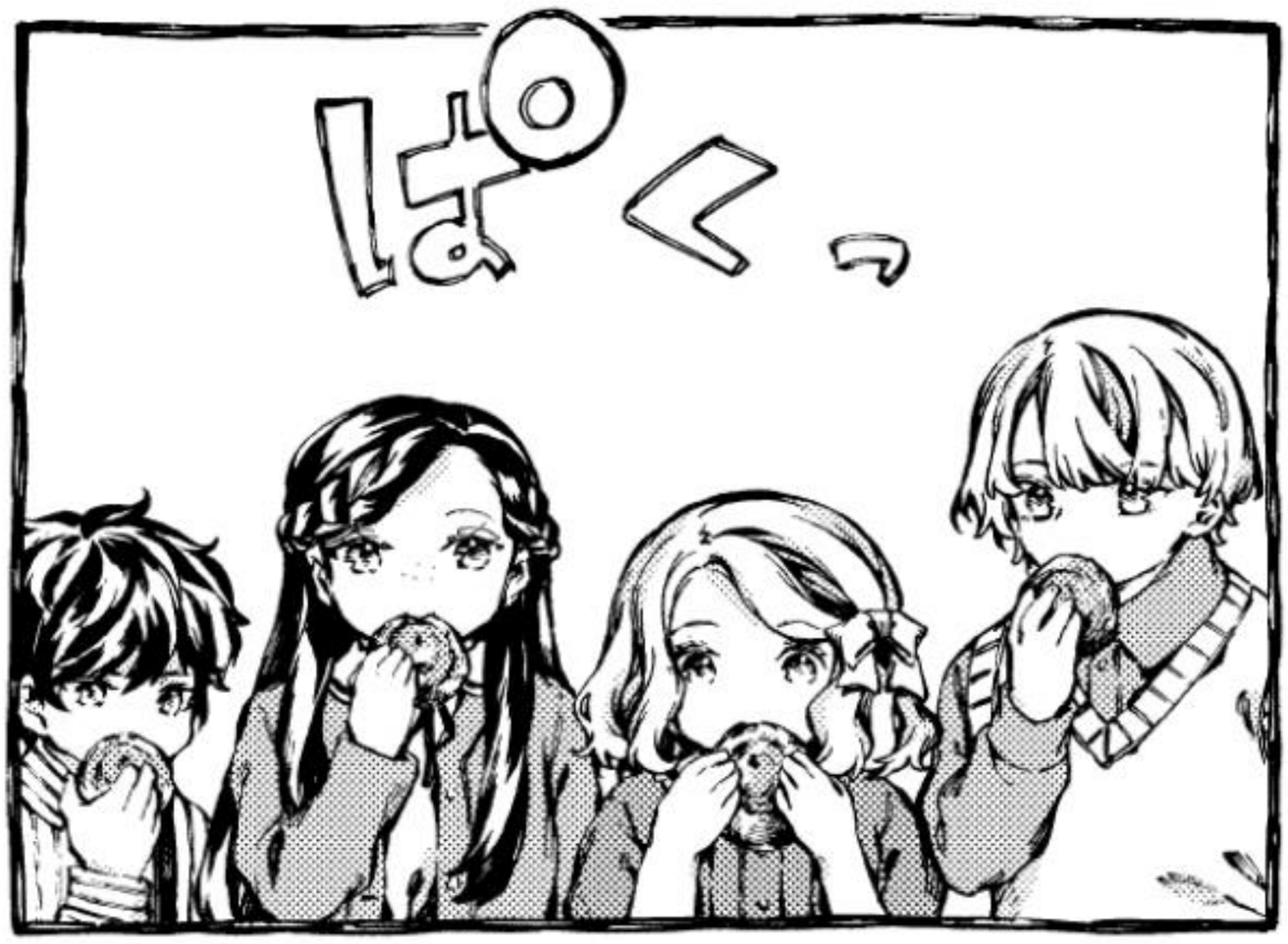
さあさあ

マーマレードを
とびっきり
たくさん塗った

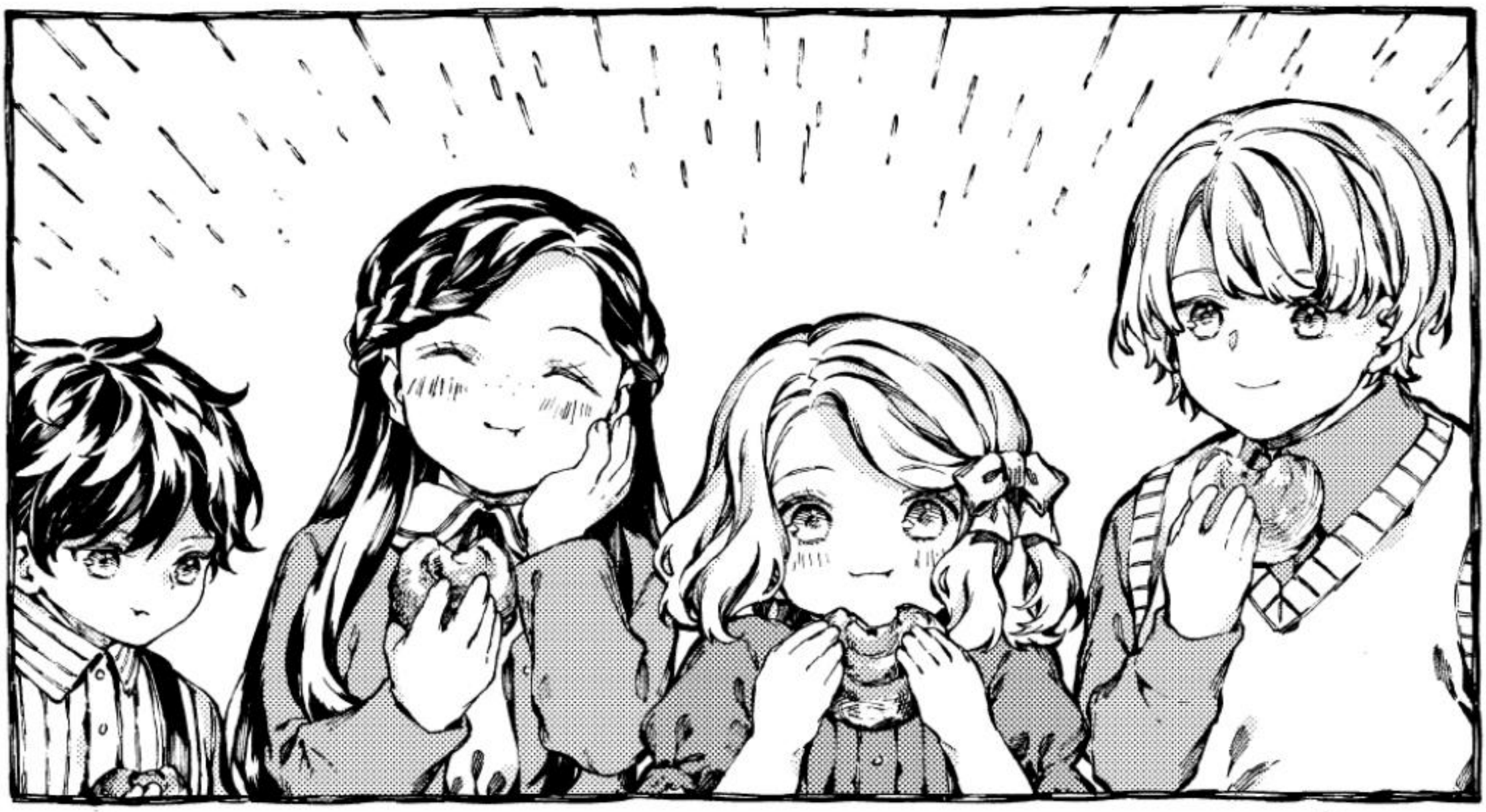
マーマレード・
ロールが
焼きあがりましたよ

カチャ

ワーッ!?


はぐはぐ










ぱくっ

ホッ

さて
それでは

今
パイプを
つけるので

ちょっと待って
くださいよ

ジュッ

ホッ

フー…

さて
それでは本題に
はいると
しましょうか

また雪が
降りだした
ようだ

ますます
好都合です

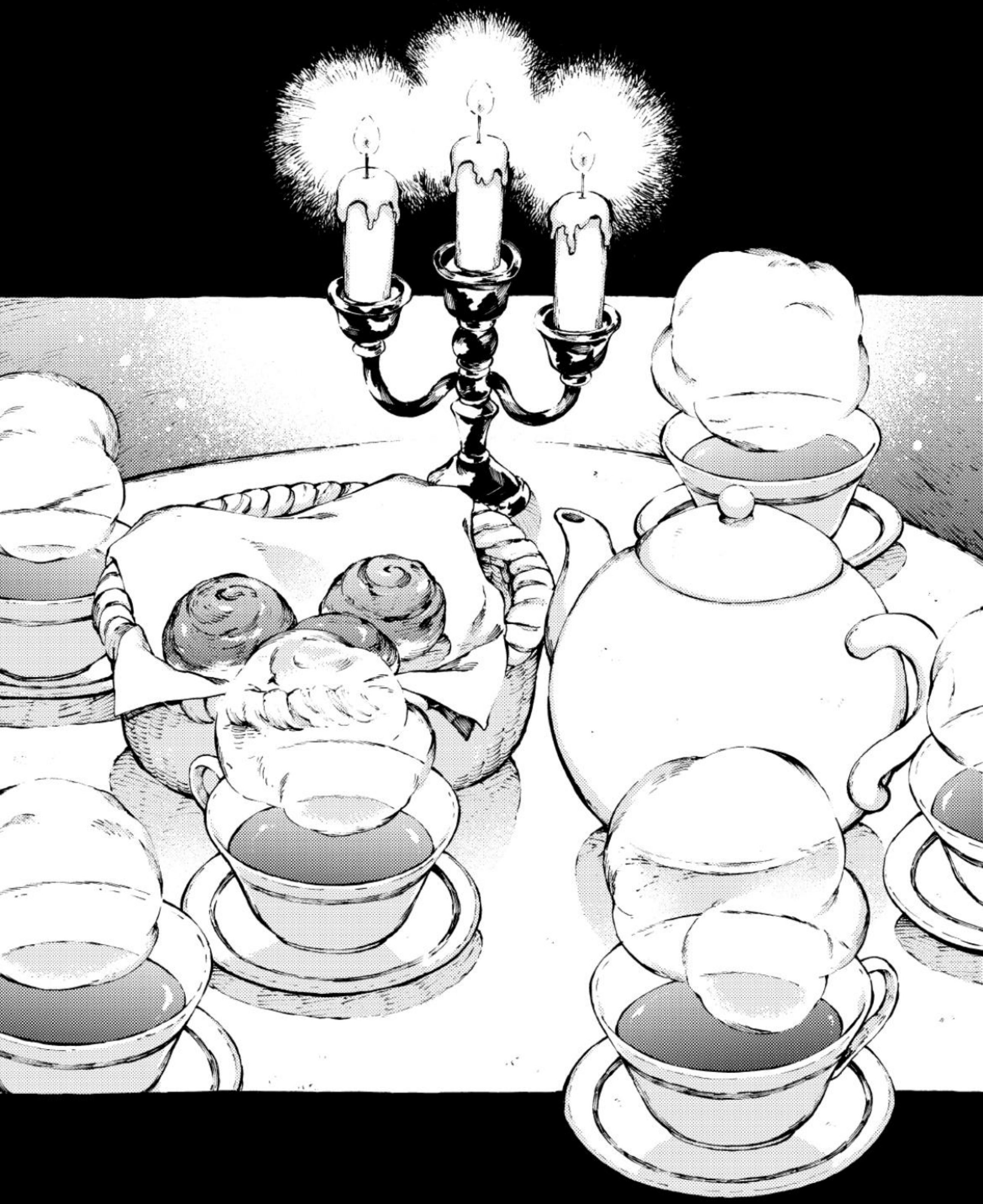
雪になれば
訪ねてくる者も
いないだろうし

追手が
来たとしても

足跡が
見つけられなく
なるだろうから

つづく

第14話　昼食のあとで起こったこと(前編)



パチ

パチ

それで

タムナスさんは
どうなったん
ですか？

Zzz

聞かせて
ください

フル

フル

ひどいことに
なりました

きわめて
まずい……

きわめて
まずい
なりました
ことに

警察に連れて
いかれたことは
まちがいありません

それを見ていた
小鳥から
聞いたんです

それで
どこへ連れて
いかれたんですか？

最後に目撃
されたときは

北へ
向かっていた
という話です

そ
意
それが何を
意味するかは
言わなくても
わかるでしょう

いいえ

わたしたちは
わかりません

残念ながら

例の館に
連れていかれたと
いうことだと
思います

ビーバーさん
むこうは
タムナスさんに
何をする
つもりなの？

……正確には
どうとも
言えませんが

あの館に
連れていかれて
もどってきた者は
ほとんどおりません

それは――

石像です

あの館は
石像だらけだという
話です

中庭も

上の広間も

階段も

みんな
石に——

ガルル…

――石にされてしまうのです

でもビーバーさん

わたしたち何かできないんですか？

わたしたち

こんな恐ろしいこと…

タムナスさんを助けるために何かしなくちゃ

……それに

お嬢さん

ぜんぶわたしのせいなんだもの

タムナスさんを
助けたいという
お気もちは
よく
わかります

キュッ!

キュッ!

でも
あの館に
押し入って

生きて帰ってくる
ということは
不可能なのです

何か計略は
ないのかな

たとえば
何かの扮装を
するとか

魔女が館から
出ていくまで
見張ってるとか——

物売りか
何かのふりを
するとか

何か……

…くそっ

ギュ…

何か方法が
あるはずだ

そのフォーンは
身の危険を
おかして
妹を救って
くれたんです

ビーバーさん

それなのに
こんなふうに――

こんな
ふうに――

……こんな目に
遭わせておく
わけには
いかないんです

アダムの
息子さん

それは
だめです

誰あろう

あなたが
助けにいくと
いうのは

だめです

でも
いまはもう
アスランが
動きはじめて
いますから——

そうだ！

アスランの
ことを
教えて
ください！

アスランって何者なんですか？

アスラン？

知らないんですか？

アスランは王です

この森の創造主です

でも
めったに
おいでには
ならないんですよ

わたしが
生まれて以来
いちども

わたしの
父の時代にも
いちども

しかし
アスランが
もどって
来られたという
知らせが
届きました

いま
このとき
ナルニアに
おられます

アスランが
白い魔女を
やっつけてくれる
でしょう

タムナスさんを
救うのは
あなたがた
ではなく
アスラン
なのです

魔女は
アスランも石に
しちゃうんじゃ
ないの？

なんてことを
言うんですか
アダムの
息子さん

ありえない
ことです！

アスランを
石にする？

魔女なんか

アスラン
出たら
腰を
ようにして
アスランの顔を
見るのがやっと
でしょうよ

それでも
上出来な
くらいです

いえ

ありえません

この地方に伝わる
古い詩にあるように

アスランが
すべてを正して
くれるはずです

アスランの
お姿を
一目見れば
わかりますよ

わたしたち
アスランに
会えるんですか？

もちろん
ですとも
イヴの娘さん

そのために
あなたがたをここへ
お連れしたのですから

アスラン来たれば　悪が滅び
アスラン吼(ほ)ゆれば　悲しみ癒える
牙の一閃(いっせん)　冬を葬り
たてがみふるえば　春めぐりくる

わたしは
あなたがたを
アスランに会う場所へ
ご案内することに
なっているのです

その……

――アスランって

人間
なんですか？

アスランが
人間ですと！

とんでもない

アスランは
森の王であり
大海のかなたに
あらせられる
大帝のご子息で
あられます

百獣の王が
何か
知らないん
ですか？

アスランは
ライオンです

ライオンの中の
ライオン

偉大なる
ライオンです

え！

わたし
人間だと
思ってた

ライオンに
会うなんて

わたし
不安だわ

それが
当然です
お嬢さん

それで
いいのですよ

アスラン
って……
――危険じゃ
ないんですか？

アスランの
前に出て
ひざが
がくがく
震えない者が
いたら

それは
よほどの勇者か
それでなければ
ただの馬鹿ですよ

それじゃ
アスランは
危険なの？

危険？

いま家内が言ったことを聞いてなかったんですか？

危険でないなどと誰が言いました？

もちろんアスランは危険です

でも善き方です

さっきも言ったように

王なのですからね

ぼくはアスランに会いたいな

そのときになったら

びびるかもしれないけど

バン！

それでこそアダムの息子さんです！

そのようになるでしょう

できればあす

〈石舞台（いしぶたい）〉で

知らせによればあなたはまちがいなくアスランに会うことになっています

それはどこなの？

わたしが
ご案内します

川を
下った先

ここからは
かなりの距離が
あります

わたしが
お連れしますよ！

でも
そのあいだ
タムナスさんは
どうなるの？

タムナスさんを
助けるいちばん
手っ取り早い
方法は

アスランに
会うことです

アスランと
合流すれば
打つ手も
あるでしょう

それは

あなたがたが
必要ではない
という意味では
ありません

なぜなら

こういう
古い詩も
あるからです

アダムの肉とアダムの骨が
ケア・パラヴェルの王座に就くとき
悪しき時代は終わりを告げる

つまり
アスランが
来て
あなたがたも
来たからには
決着が近いに
ちがいありません

以前にもこの地に
アスランが
来たという話は
聞いたことが
あります

――ずっと
むかしの話で
誰も
正確な
ことは
知りません

でも
あなたがたの
種族が
ここへ来たのは
初めてです

だって

ビーバーさん

ぼく

そこのところが
わからないんです

な人魔
人間じゃ
ないんですか？
女は

人間だと
思わせたがって
いるようです
けどね

自分は人間だから
女王になれるのだと
主張していますが

あれは
イヴの娘
なんかじゃ
ありません

あいつは
あなたがたの
父祖アダムの

最初の妻であった
リリスの血を
引いています

リリスは
ジン※です

それが
一方の血

もう一方は
巨人です

あの魔女の
からだには
人間の血は
一滴たりとも
流れていないのです

※イスラム神話の悪霊

それだから

あの女は
骨の髄まで
悪魔なんですよね

あなた

そのとおりだよおまえ

人間には
善と悪の両面が
あるものですが

ここにおいでの
みなさんを
侮辱するつもりは
ありません

人間のように見えて
じつは人間でない者には
善などありません

ドワーフの
中には
善き者も
いますけどね

ああ
言われてみれば
そうだね

だが
それは
ほんの一握りで

しかも
いちばん人間に
似ていない種族だ

とにかく

大すじは
わたしの
申しあげたことを
心に留めて
おかれるが
よろしいと
思います

何にしろ
人間に
なろうとして
人間になれずに
いる者や

かつて人間
だったけれど
もはや人間で
なくなった者や

人間である
はずなのに
人間でない者に
接するときは

よく用心して
武器から手を
放さないことです

魔女がいつも
ナルニアへ
はいってくる人間を
見張っている理由も

要はそこの
ところです

魔女は
これまで
ずっと
あなたがたの
ことを
警戒して
いました
あなたがたが
四人だと知ったら
魔女は
なおいっそう
危害を加えようと
するでしょう
もう一つの予言が
あるからです
あ何い四
人だと
いうことと
何の関係が
あるのですか？

ケア・パラヴェルには……

この川を下っていって海に出るところに建っているお城で

世が世ならそれがこの国の都となるべきお城なのです——

——ケア・パラヴェルというのはお城のことです

…とにかく
ケア・パラヴェルには
王座が四つあって

アダムの息子二人と
イヴの娘二人が
その王座に就いたとき

白い魔女の支配が
終わるとともに
白い魔女の命も尽きる

という言い伝えが
太古のむかしから
ナルニアにはあるのです

だから
ここへ来る道々

あんなに
警戒して
きたのです

もし
白い魔女が
あなたがた
四人のことを
知ったら

あなたがたの
命など

風前の灯
ですよ！

ﾆﾉﾆﾉ…

……ねえ

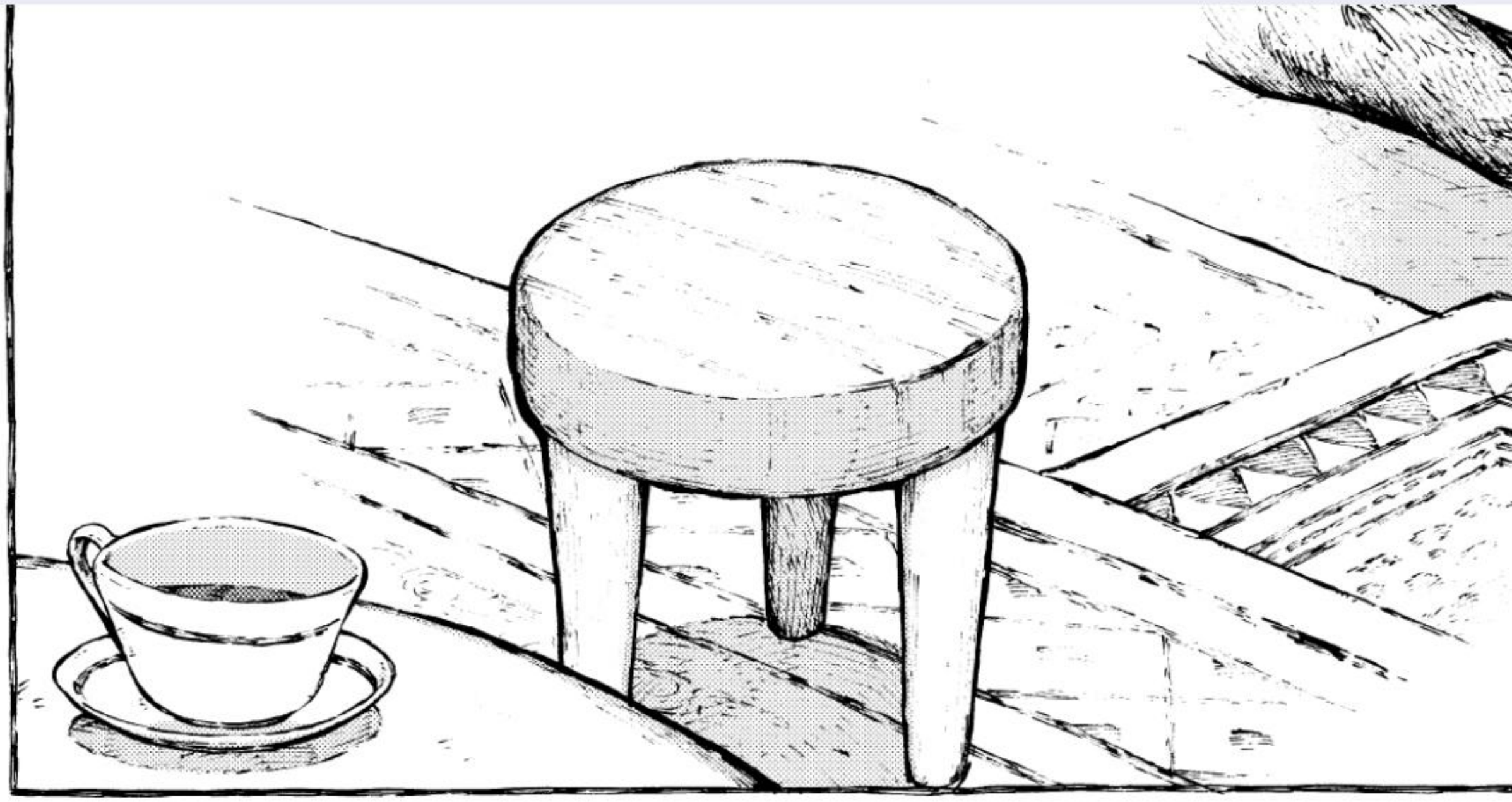
エドマンドは
どこへ行ったの？

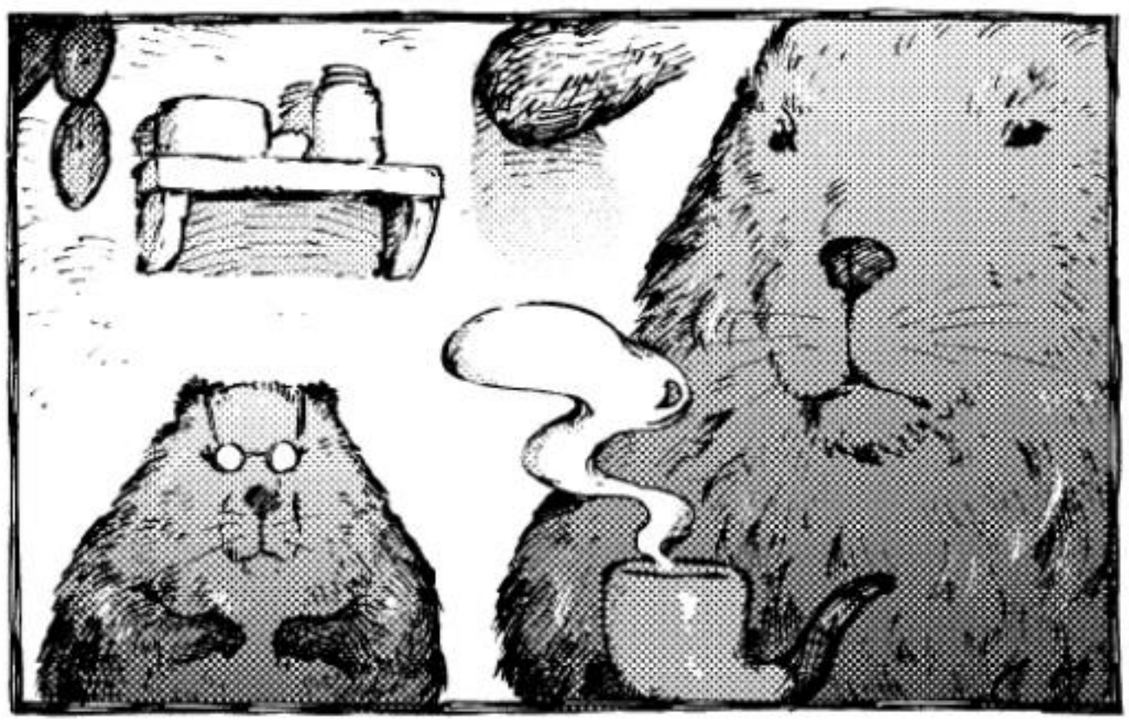
つづく

……ねえ

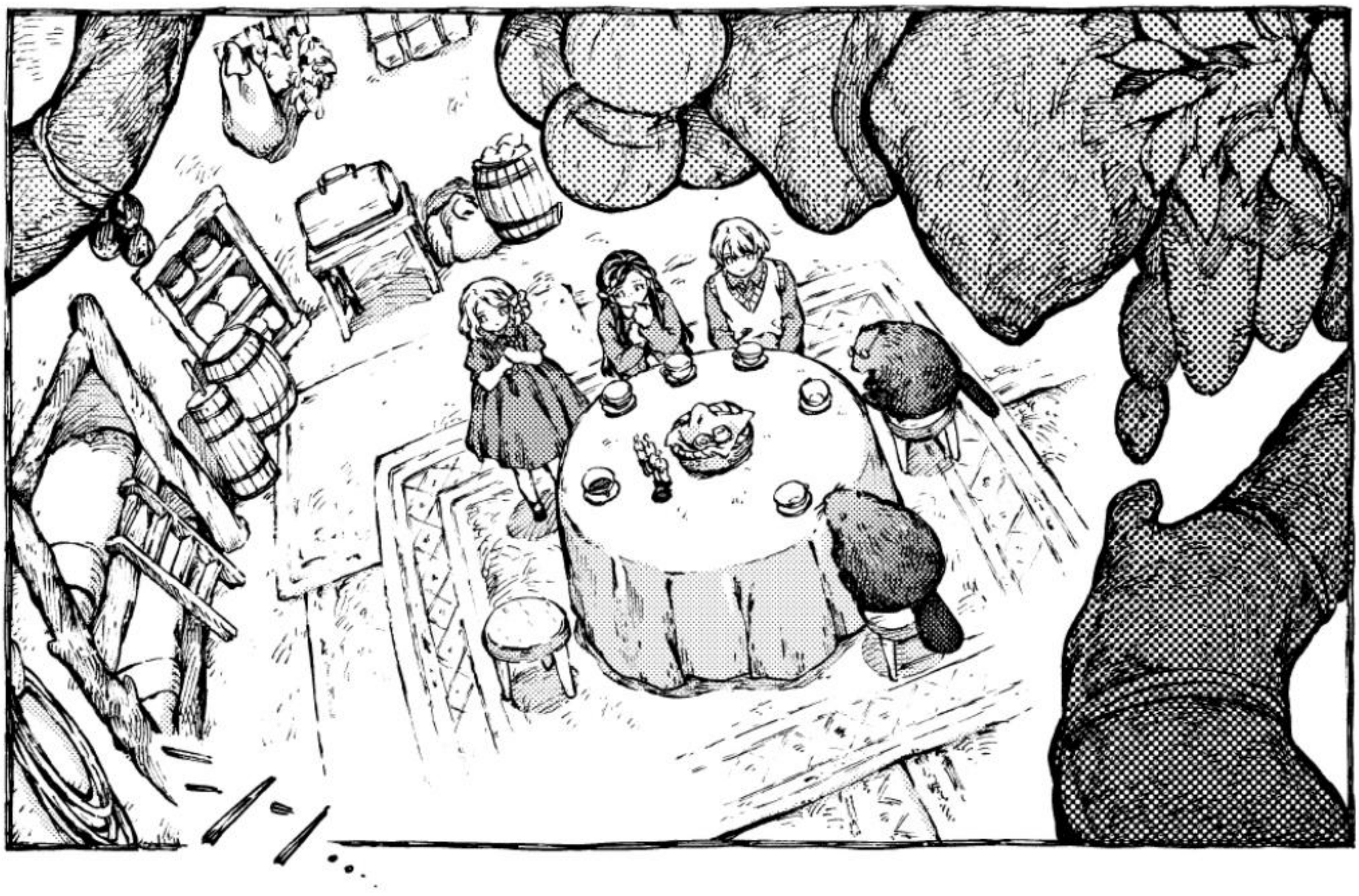
エドマンドは
どこへ
行ったの？

第15話　昼食のあとで起こったこと(後編)









最後に
エドマンドを
見たのは

だい
いつ
だった？

いつから
いなくなったん
だろう？

外に
出ていったの
かしら？

エドマンド！

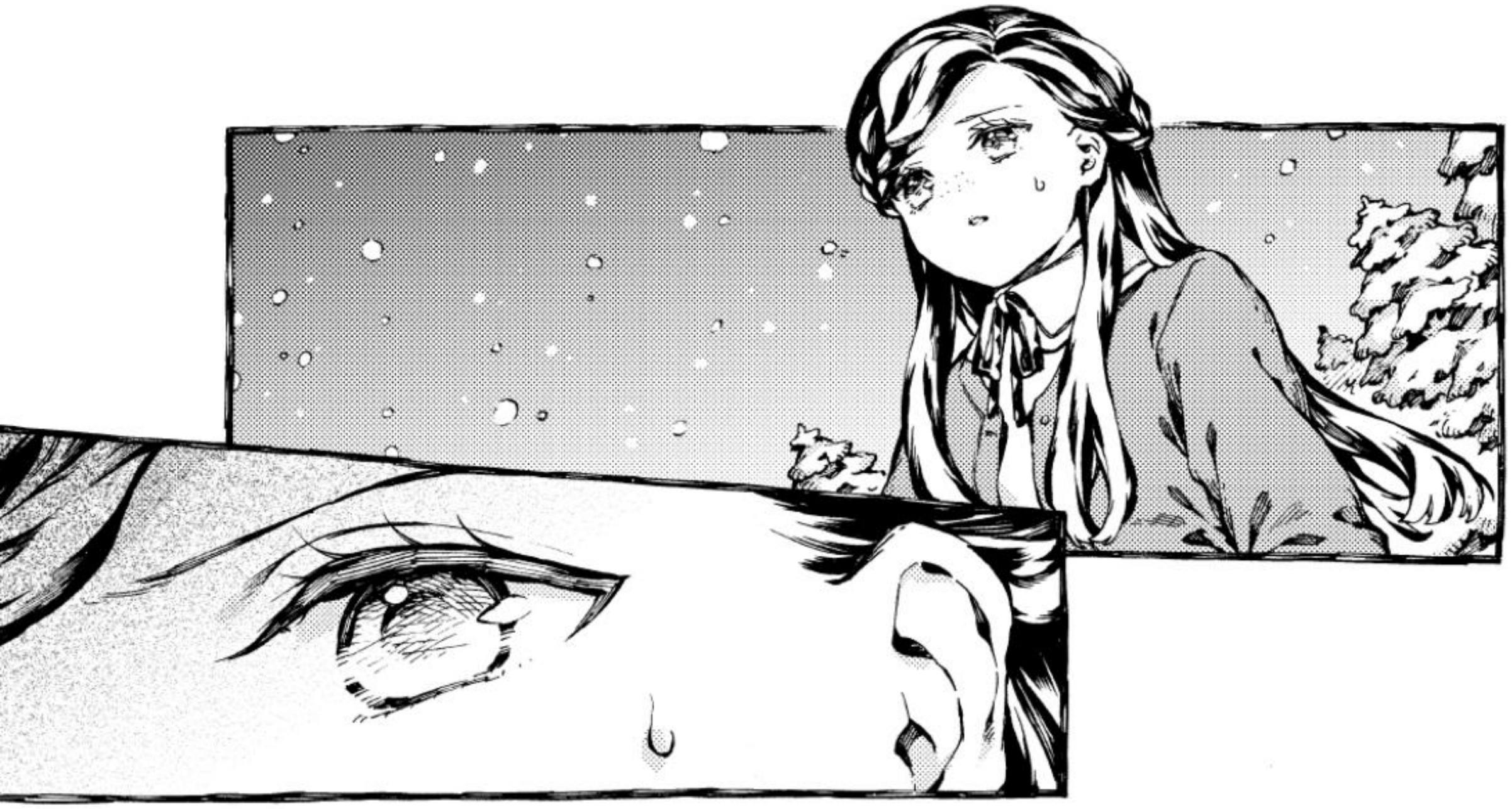
エドマンド！

エドマンド！

エドマンド！

ハァ…ハァ…

エドマンド！




なんて
ことなの！
ハッ
ハッ
ハッ
ハッキッ


ビーバー
さん
ぼくたち
いったい
どうしたら
いいんでしょう？


こんなところ
来なければ
よかった

どうするかって？

どうするって
いますぐ
出発するしか
ありません

ギュッ

一瞬たりとも
むだにには
できません！

だったら
四組の捜索隊に
分かれて
探したほうが
いいんじゃ
ないかな

それぞれ
ちがう方角を
探すんだ

すぐにここへ
もどってきて——

捜索隊ですと
アダムの
息子さん？

エドマンドを
みつけたら

何のために？

何のためって

探してもむだです

もちろんエドマンドを探すんですよ！

どういう意味？

まだそれほど遠くへは行っていないはずよ

とにかく見つけないと

むだとはどういう意味なのですか？

探しても
むだだと
言うのは

もう行き先が
わかっているからですよ！

わからないんですか？

あの女のところへ行ったのですよ

白い魔女のところへ

あの子はわたしたちを裏切ったのです

うそでしょ！
ありえない！

そうでしょうか？

そんなこと
するはずがないわ

……でも
道がわかる
だろうか？

あの子は
前にナルニアへ
来たことが
ありますか？

ひとりで
ナルニアに
来たことが
ありますか？

……ええ
あると
思います

そのとき
何をしたとか
誰と
会ったとか

そんな話を
しましたか？

いいえ
何も

では
よく聞いて
ください

エドマンドは
すでに
白い魔女に会って

そして

魔女が
どこに住んでいるか
聞いていたのです

魔女の側に
ついたのです

これまでは
遠慮して
黙っていましたが
あなたがたの
きょうだいでも
あるし

『あ この子は
裏切るぞ』と
わかりました

わたしは
あの子を見た
瞬間に

魔女と会って
魔女の食べ物を
口にした者であると
顔に書いて
ありましたからね

ナルニアに
長く
住んでいると
そういうことが
わかるように
なるんです

目を見れば
わかるん
ですよ

…それでも

……それでも

行かなくちゃ
探しに

だって
ぼくたちの
きょうだい
なんだから

あんな
性格の悪い
やつだけど

それに
まだほんの
子どもだし

白い魔女の館へ
行くというの
ですか？

わからないの？

あの子を
救うためにも

あなたがた
自身の命を
失わないためにも

白い魔女に
近づかないように
するのが
唯一のチャンス
なのですよ？

どういう意味
ですか？

どういう意味って

魔女がもくろんでいるのは
あなたがた四人全員を
つかまえることだからです

魔女はケア・パラヴェルの四つの王座のことが頭から離れないんですよ

あなたがた四人を館に閉じこめてしまおうというのが魔女の狙いです

それこそあっという間もなしに魔女の館にあなたがた四人の新しい石像ができて

それでおしまいですよ

けれど自分の手もとにエドマンド一人しかいないかぎり

魔女はエドマンドを生かしておくでしょう

・・・おとりとして使うためにね

エドマンドを
使って

あなたたち三人を
おびきよせようと
いうわけですよ

誰も
わたしたちを
助けてくれる人は
いないの？

…ああ

それが
できるのは
アスラン
だけです

わたしたちは
アスランに
会いにいかなくては
なりません

それしか
チャンスは
ないのです

ねえ
みなさん

エドマンドが
いつ
いなくなったかを
はっきりさせて
おくことが
大切だと
思うんですよ

あの子が魔女に
どれだけ
こちらの手の内を
伝えられるかは

話をどこまで
聞いていたかに
よりますからね

たとえば
ですよ

わたしたちが
アスランの話を
はじめたとき

あの子は
まだここに
いたかしら？

もし
いなければ

形勢は
こちらにかなり
有利になります

魔女はアスランが
ナルニアに
来ていることを
知りえないわけだし

わたしたちが
アスランに
会いに行こうと
していることも
知りえないから
わけだから

となれば
その点に
関するかぎり

魔女は
警戒してこない
でしょうからね

アスランの
話を
してたとき

エドマンドは
いなかったような
気がする――

ううん
いたわよ

おぼえてない？

魔女がアスランを
石にしちゃうん
じゃないかって
聞いたのは

エドマンド
だったわ

ああ
そうだった！

エドマンドの
言いそうな
ことだ！

ますます
まずいことに
なってきたぞ

次は
アスランと
落ちあう場所が
〈石舞台〉だという
話をしたとき

エドマンドが
まだ
いたかどうか…

ですが？

……もし

エドマンドが
まだその場に
いたとすれば

魔女は〈石舞台〉の方向へそりを走らせて

われわれと〈石舞台〉のあいだに割ってはいり

下流へ向かうわれわれをつかまえようとするでしょう

われわれはアスランから切り離されてしまうことになります

でも白い魔女が最初にねらうのは

そっちではないと思いますよ

わたしの勘が
正しければね

エドマンドから
わたしたちが
この家にいることを
聞き出したとたん

魔女は
今夜のうちに
わたしたちを
つかまえに
来るでしょう

もし
エドマンドが
ここを離れたのが
三〇分前だと
するならば

あと
二〇分もすれば
ここに
やってくるはず

おまえの
言うとおりだ

ぐずぐずしている
暇はないぞ

ここから
逃げなくては

つづく



第16話　魔女の館(前編)

一方

時は
さかのぼり――

カチャ

カチャ

カチャ

カチャ

カチャ

カチャ

カチャ…

カチャ

カチャ

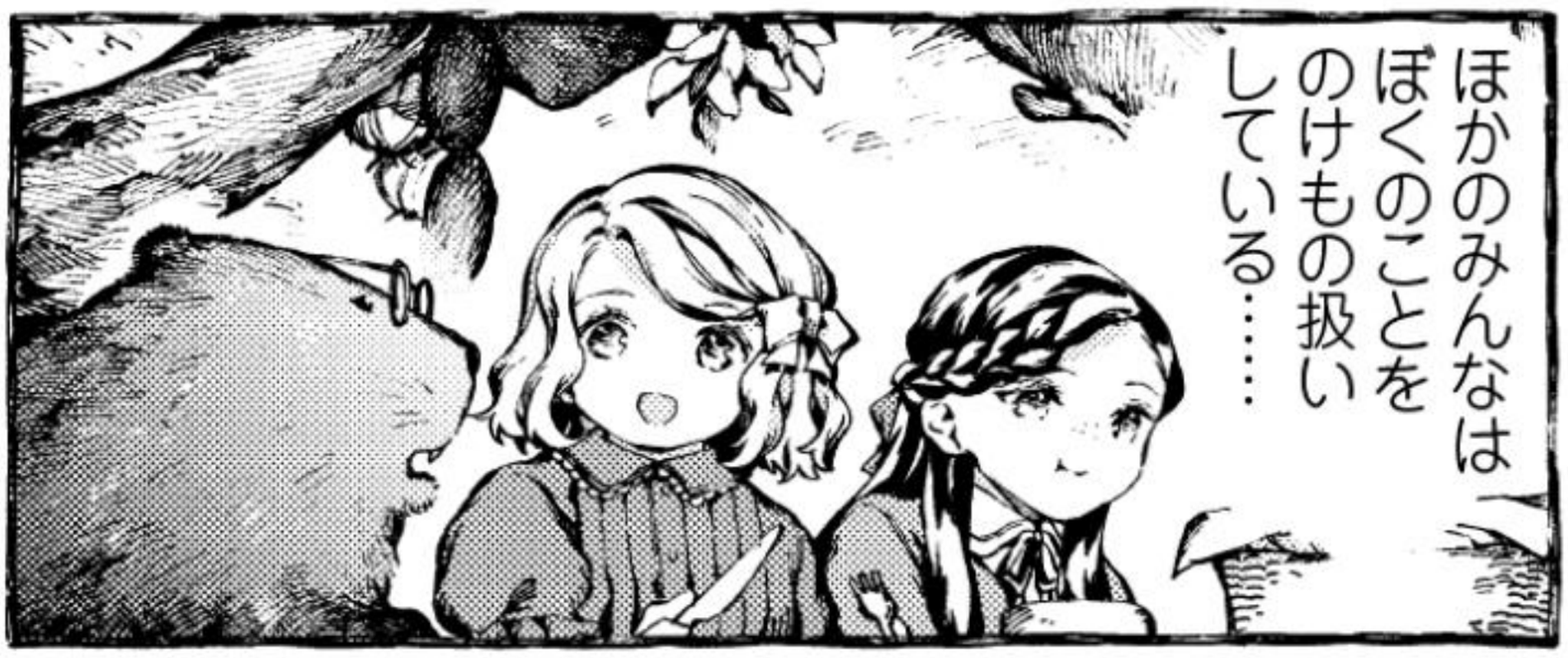
カチャ…

モグ…

――ああ

あのターキッシュ・
デライトが
食べたい……


それで——
ワ、ワ！
…つまらない


ほかのみんなは
ぼくのことを
のけもの扱い
している……




ぼくは冷淡に
あしらわれて
いるんだ——

——知らせに
よれば

あなたは
まちがいなく
アスランに
会うことに
なっています

できれば
あす

〈石舞台〉で

それは
どこなの？

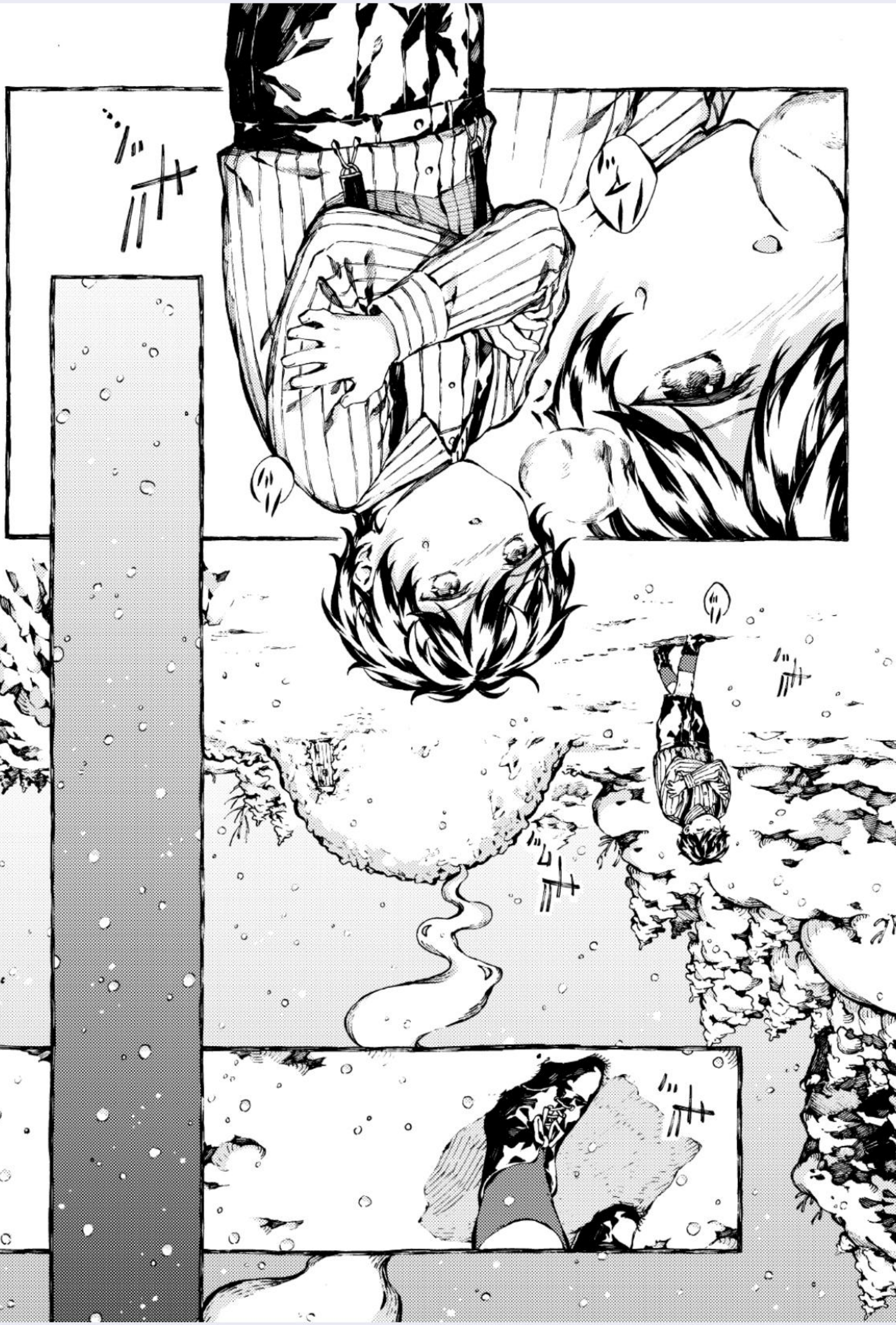
わたしが
ご案内します

——なぜなら
こういう
古い詩もある
からです

アダムの肉と
アダムの骨が——

ドクン…

ドクン…



——ビーバーの家にコートを忘れてきてしまった……

いまとなっては取りにもどるなんてできない……

……しかも

日が暮れかけている……

……でも

こうなった以上

なんとかできるだけやってみるしかない

ハァ…

ターキッシュ・
デライトが
食べたい……

王子に
なりたい……

なんて汚い
やつだ――

……ユリシス

ピーター…

これは
ぼくのことを
「汚らわしい」
呼ばわりした
仕返しだったんだ

魔女たちでさえ
ぼくには
こうはしなかった
三人には
ぼくは
悪魔に
見えないように……

だって
魔女の悪口を
言う連中は
みんな魔女の
敵なんだから

そんなやつらの
話なんか
半分うそに
ちがいない

あの人は
ずっと
親切だった

とにかく
魔女はぼくには
すごく親切だった

あの人は
きっと
正当な女王に
ちがいない

……どっちに
したって

例の
恐ろしい
アスランよりは
ましに
ちがいない！



……もう
何もかも
あきらめて

ビーバーの
家に
もどり

すべてを白状して
みんなと
仲直りしようか…

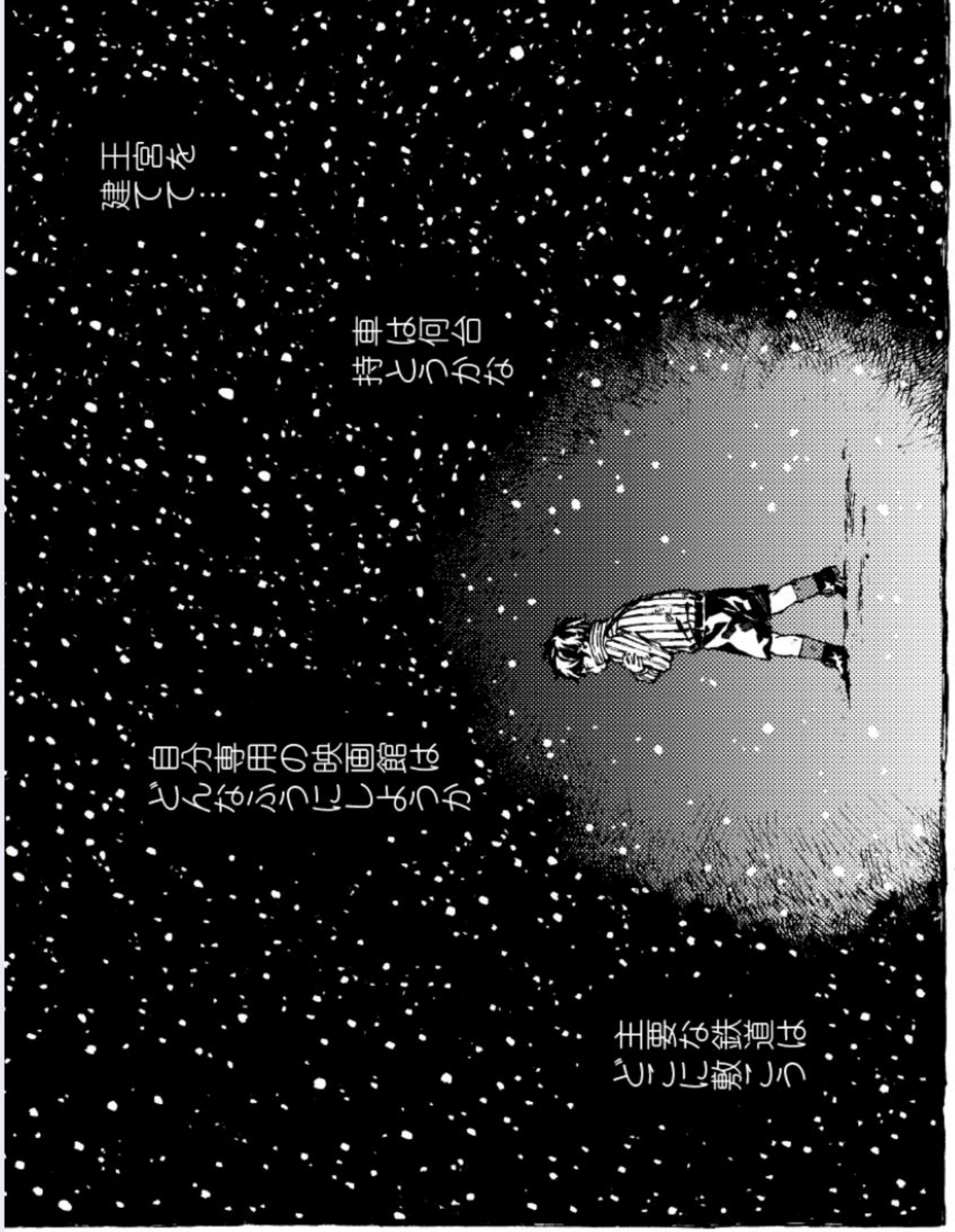
……ぼくが
ナルニアの王に
なったら

最初に

もっと
ちゃんとした
道路を作るぞ

それで…

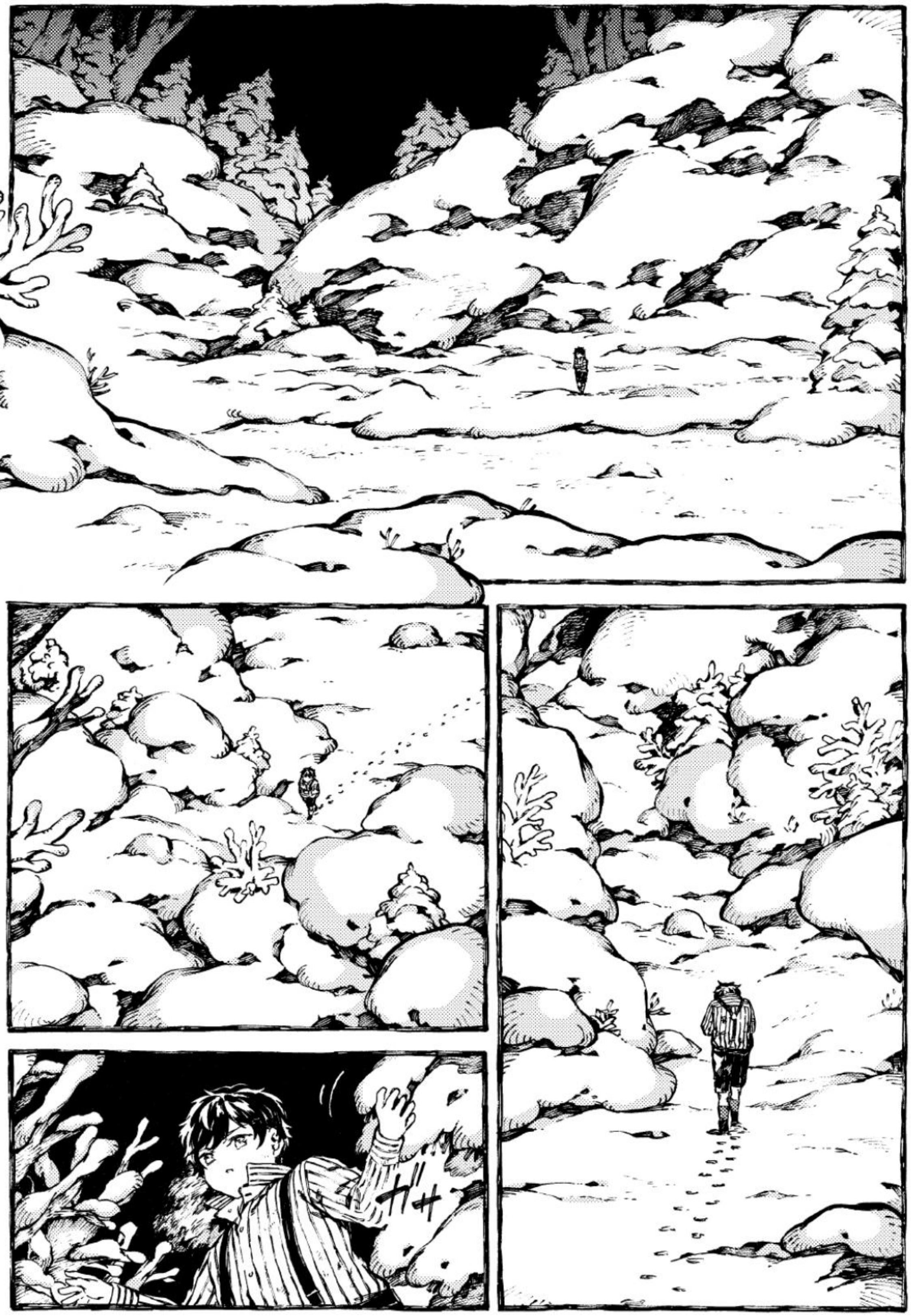
ピーターを
たつけあがらせない
あにはー
そして
だいぶ……
ダビーバーの
作禁止する法律も
なくちゃ
。。。











…冷たっ！

ブルッ

……くそっ

ピーターが

憎い……！

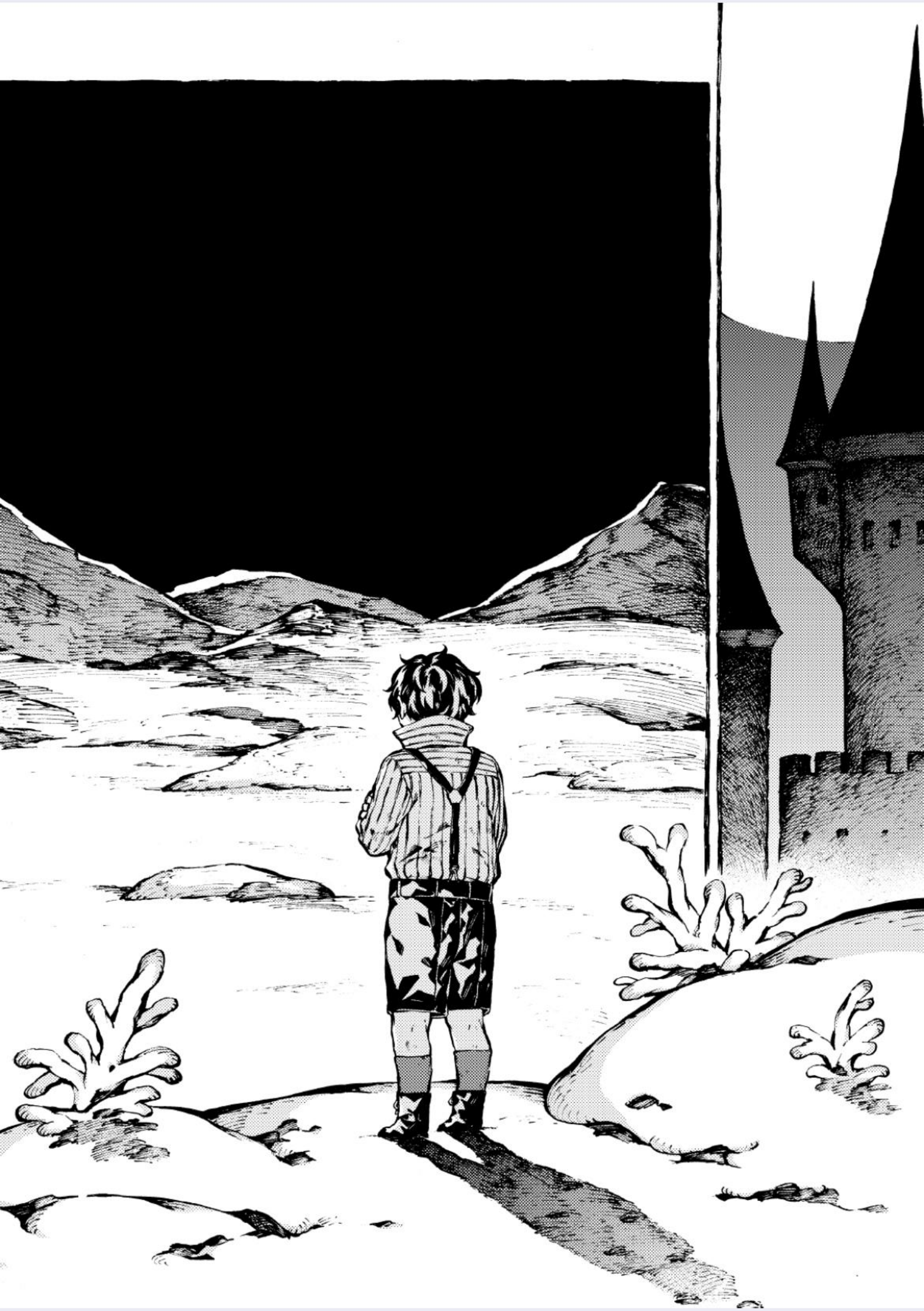
こんなことに

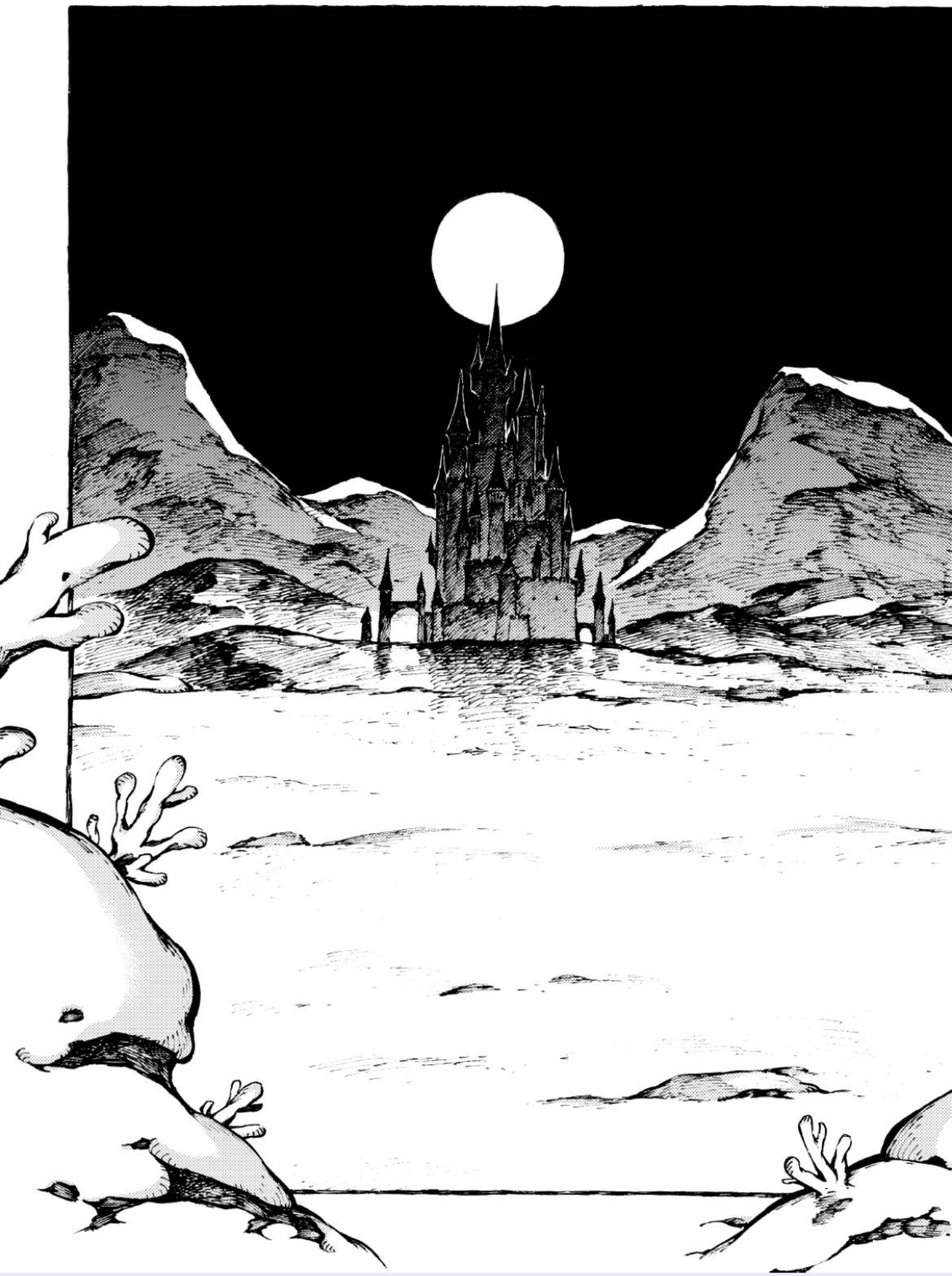
なったのは

すべて

ピーターが

悪いせいだ……！

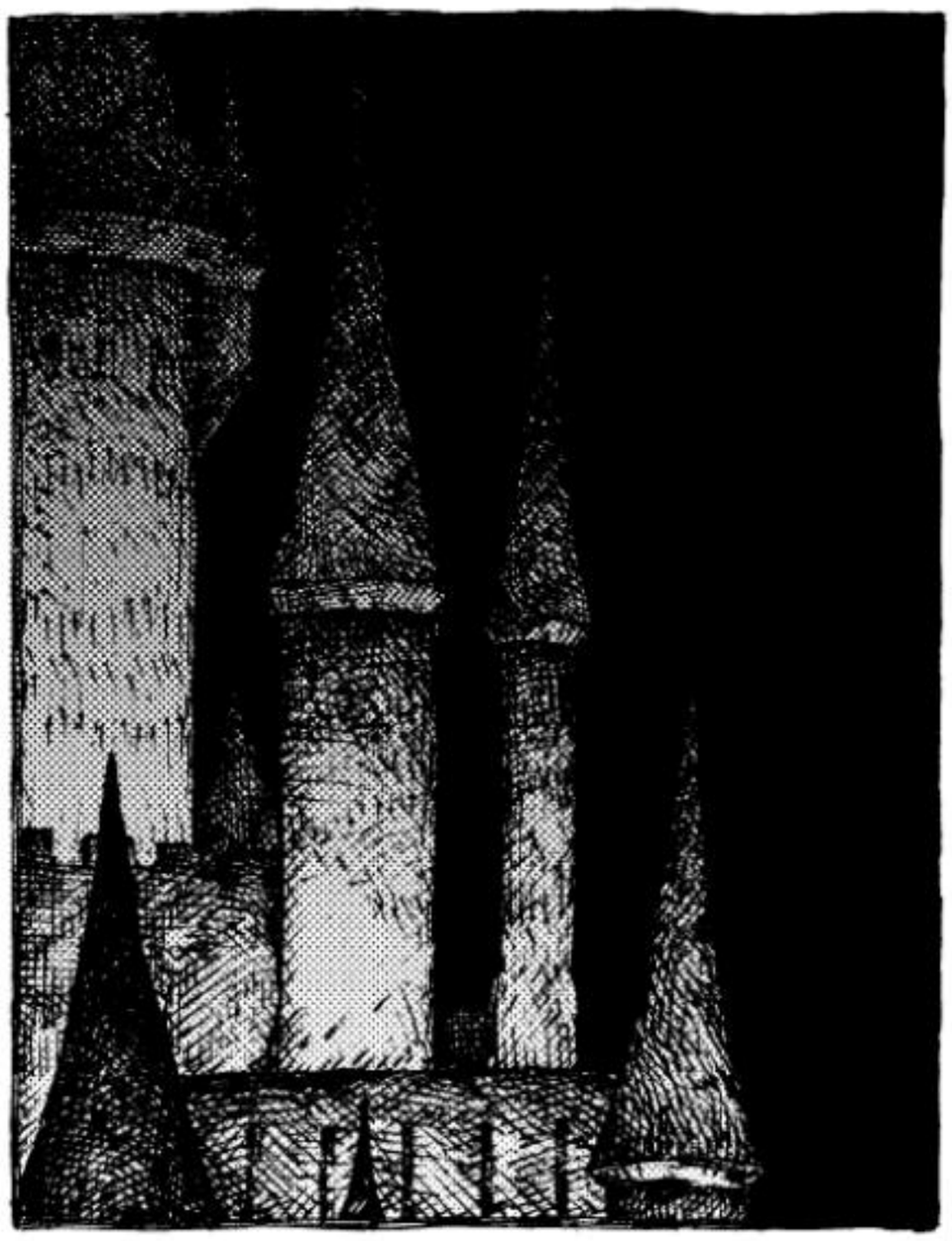




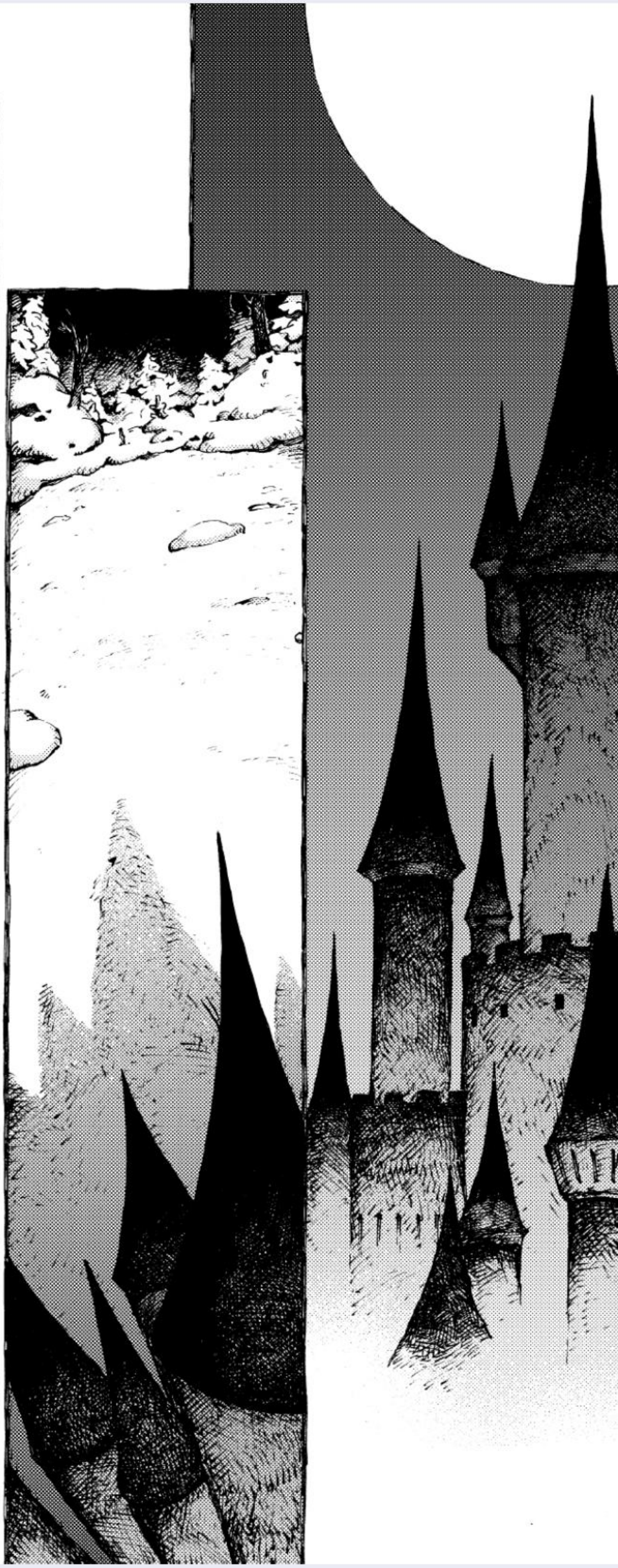
つづく

第17話　魔女の館（後編）

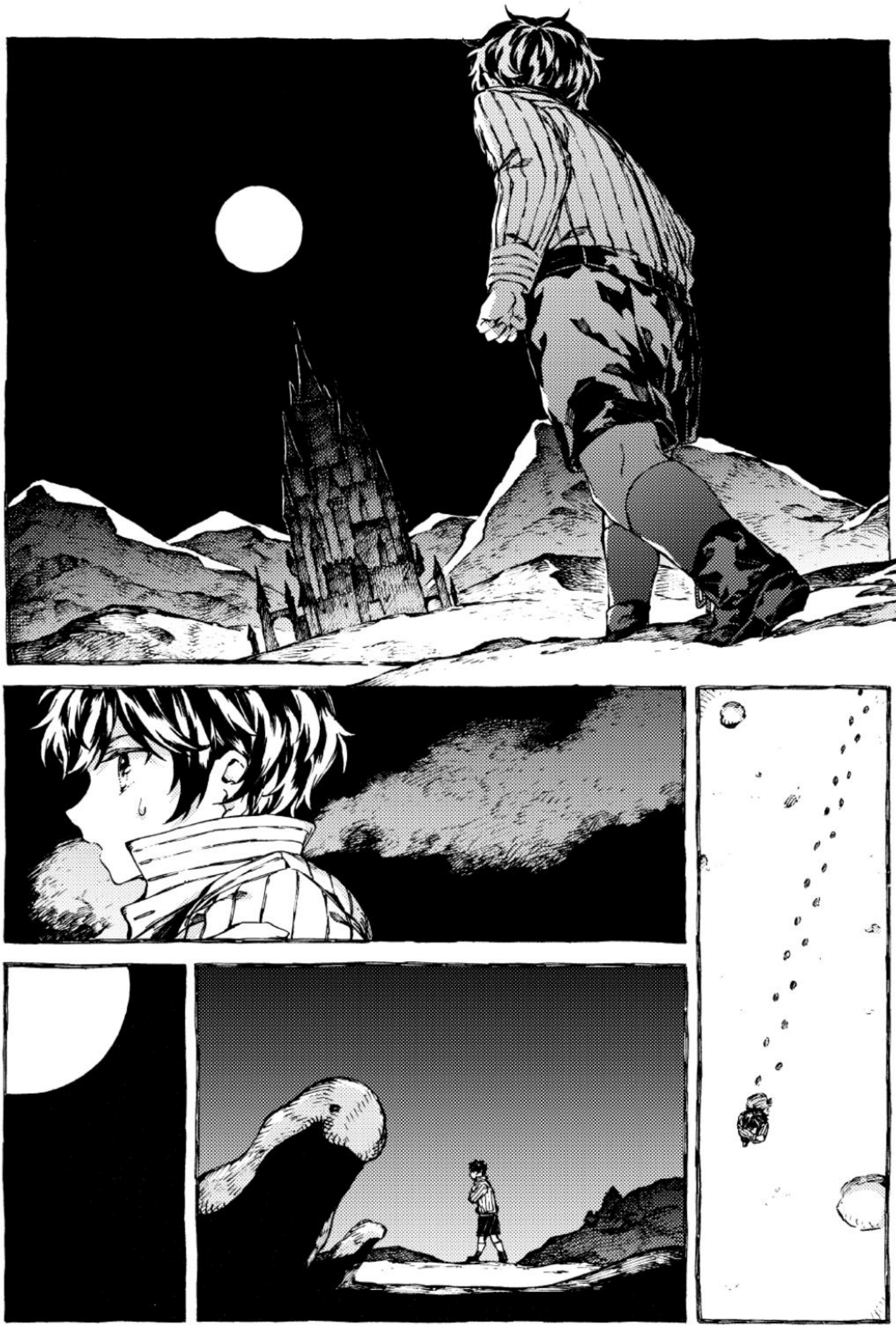






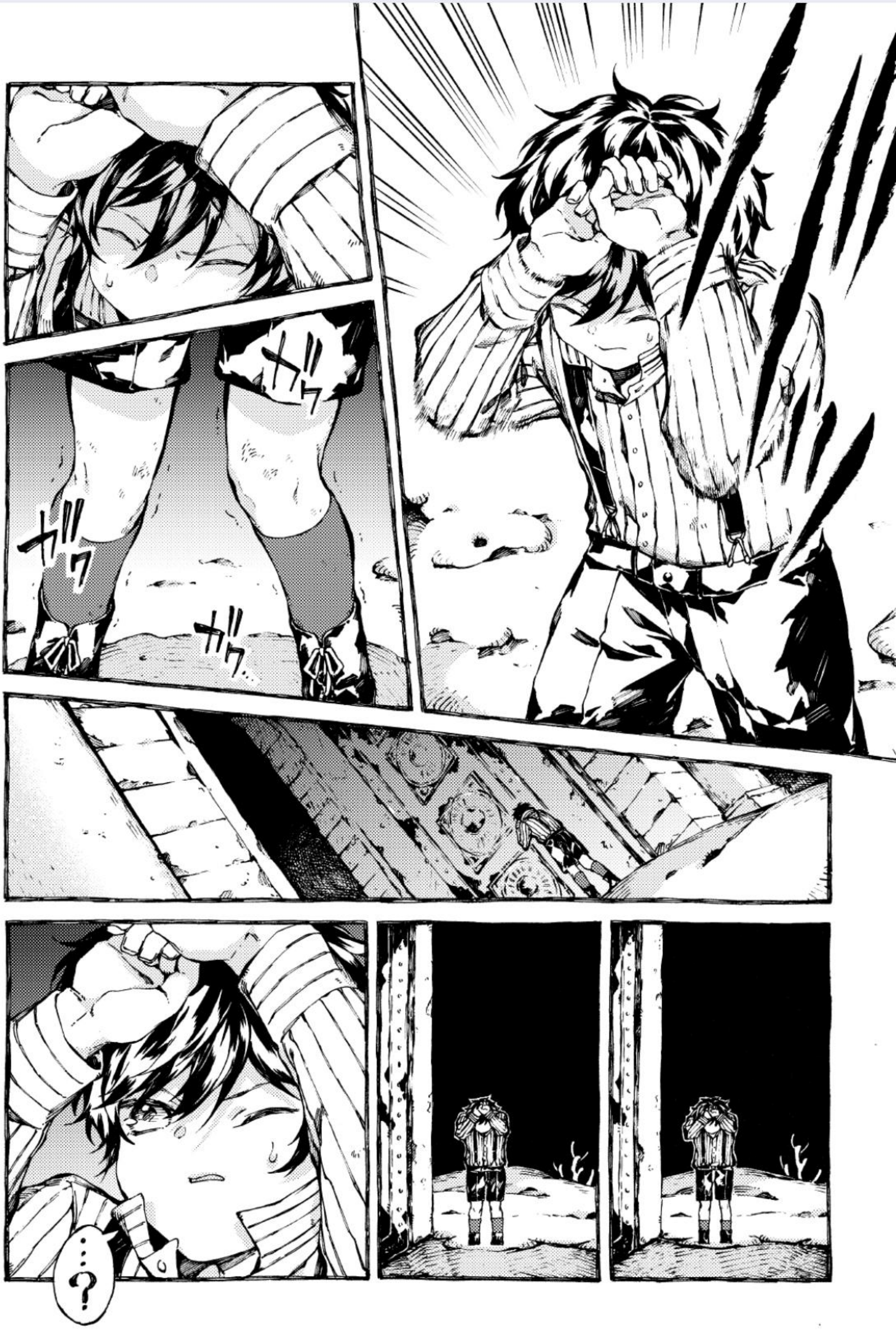











カリ
カリ
カリ
カリ
…？

……ライオンは

なぜ
いつまでも
動かずに
いるのだろう？

…ぼくのほうを
ぜんぜん
見ていない……？

でも

こっちを
向いたら
どうしよう？

ドワーフに
とびかかろうと
しているのか

…そうだ！

ライオンが
ドワーフに
とびかかった
瞬間が

逃げる
チャンスだ！

——みんな
石にされて
しまうのです

…たぶん

これは
ただの石の
ライオンなのだ

生きている
動物ならば
雪を
かぶったままで
いるはずがない

ライオンの
背中と頭に雪が
積もっている——

……なんだ
こんなの石像に
きまってるじゃ
ないか！



たぶん

これがみんなの話してた
偉大なるライオンの
アスランってやつに
ちがいない

魔女がもう
アスランを
つかまえて
石に
しちゃったんだ

偉そうなこと
言って
このざまか

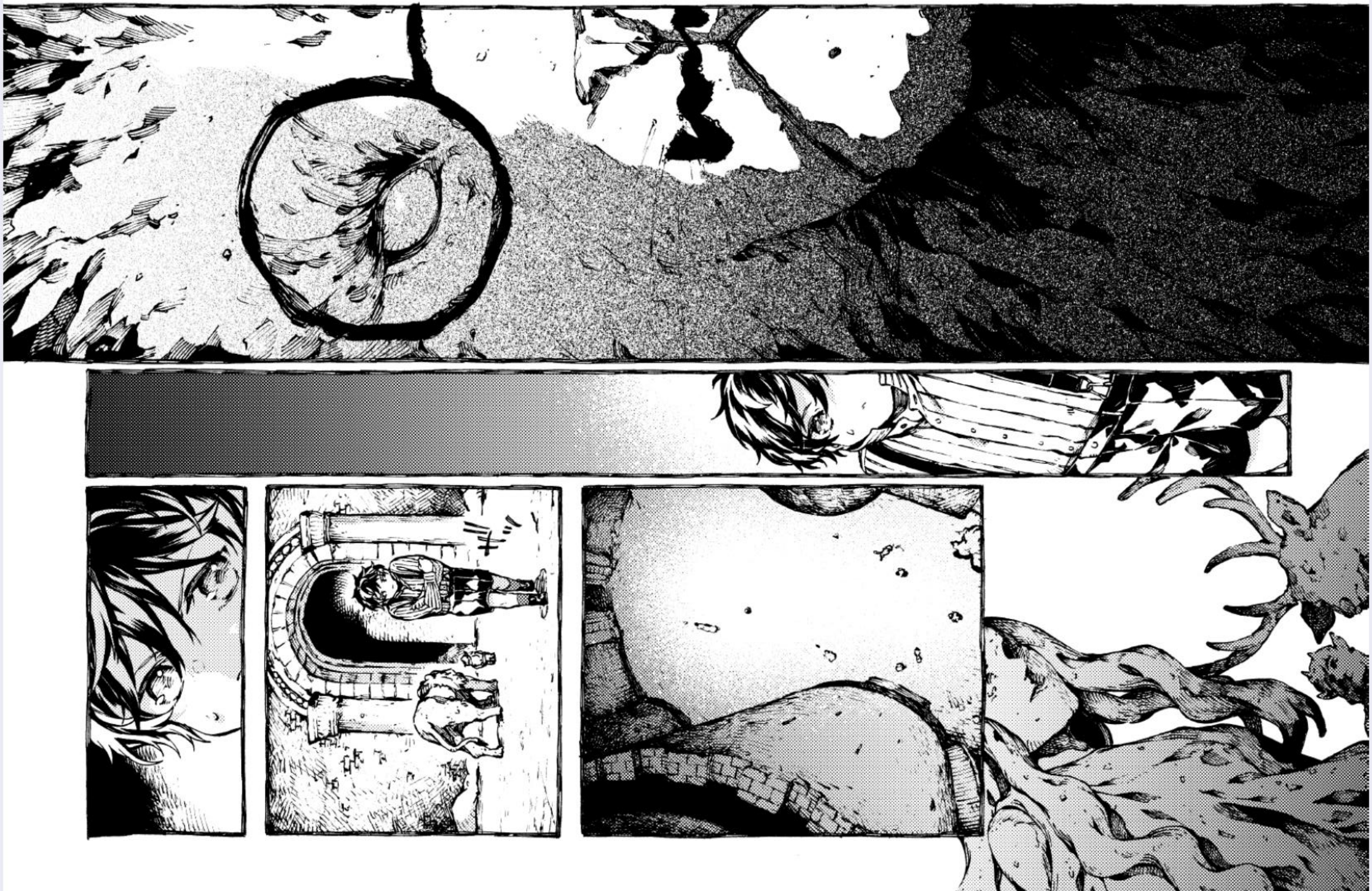
へん！

アスラン
なんて
誰が
怖がるものか！

ゴゴゴ…

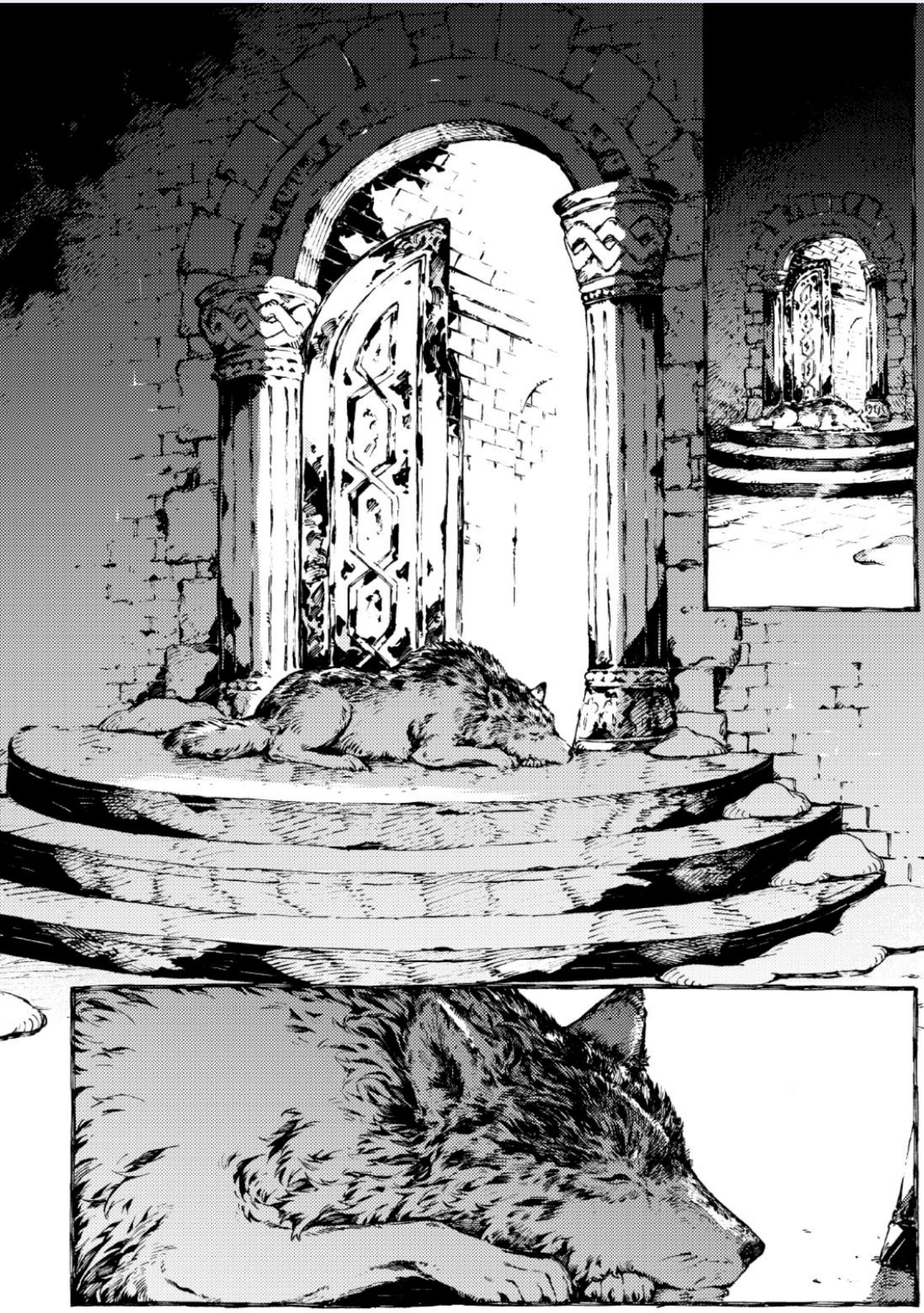

ガリ
ガリ
Help!


やーい
アスランの
馬鹿！
石にされて
うれしいか？
王様が聞いて
あきれるぜ！

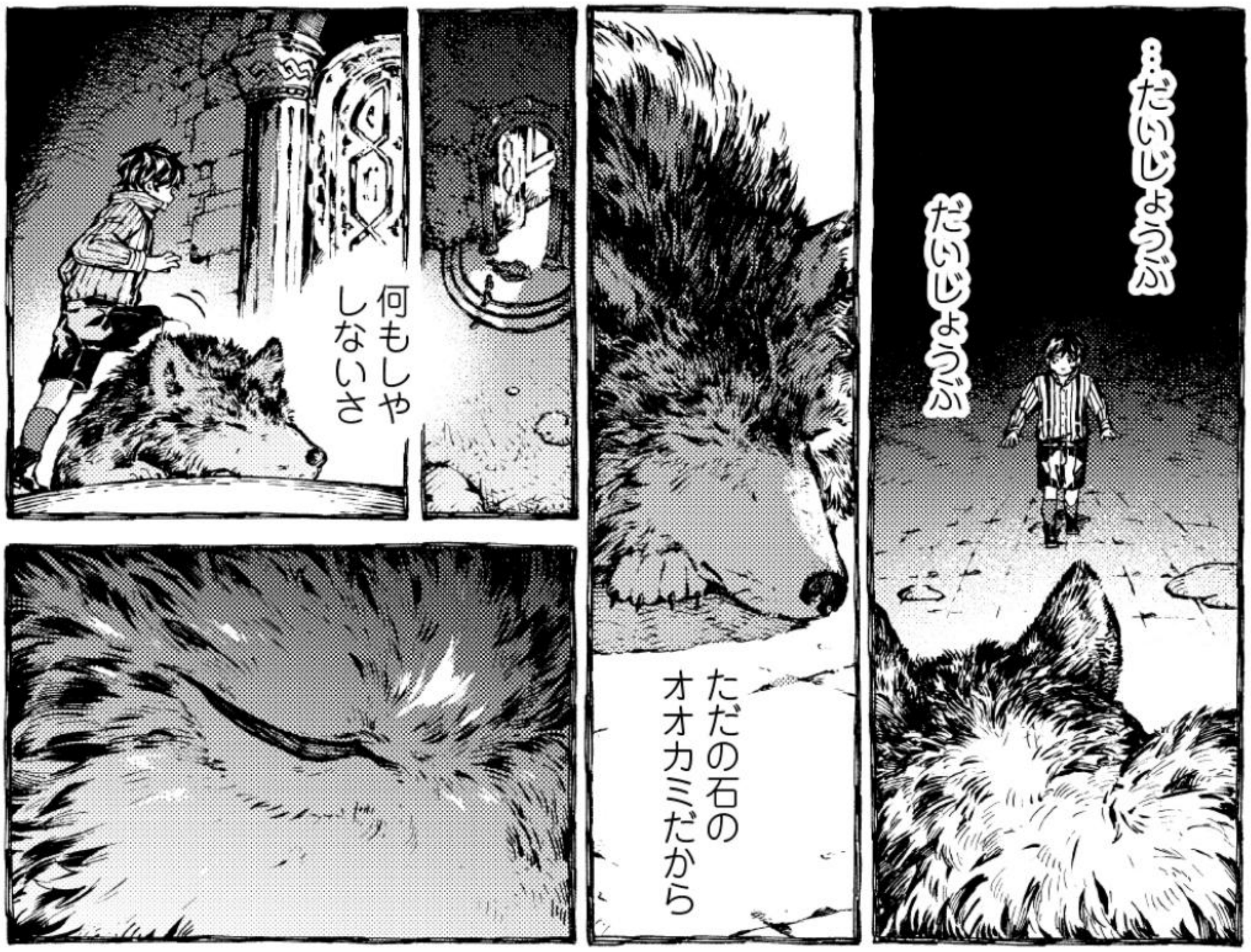











……だいじょうぶ
だいじょうぶ
だいじょうぶ
何もしやしないさ
ただの石のオオカミだから


何者だ？
何者だ？
グルルル…
何者だ？
動くな
名を名乗れ
すみません
ぼ ぼくは
エ エドマンドと
申します

この前
じょ 女王陛下が
森で出会った
アダムの息子です

ぼくの
きょうだいが
いまナルニアに
いるので
そのことを
知らせに来ました

すぐ近くに
いるんです
ビーバーの
家に

女王陛下が
――

…その
きょうだいたちに
会いたいと
おしゃったので

女王陛下に
取り次いで
くる

そのあいだ

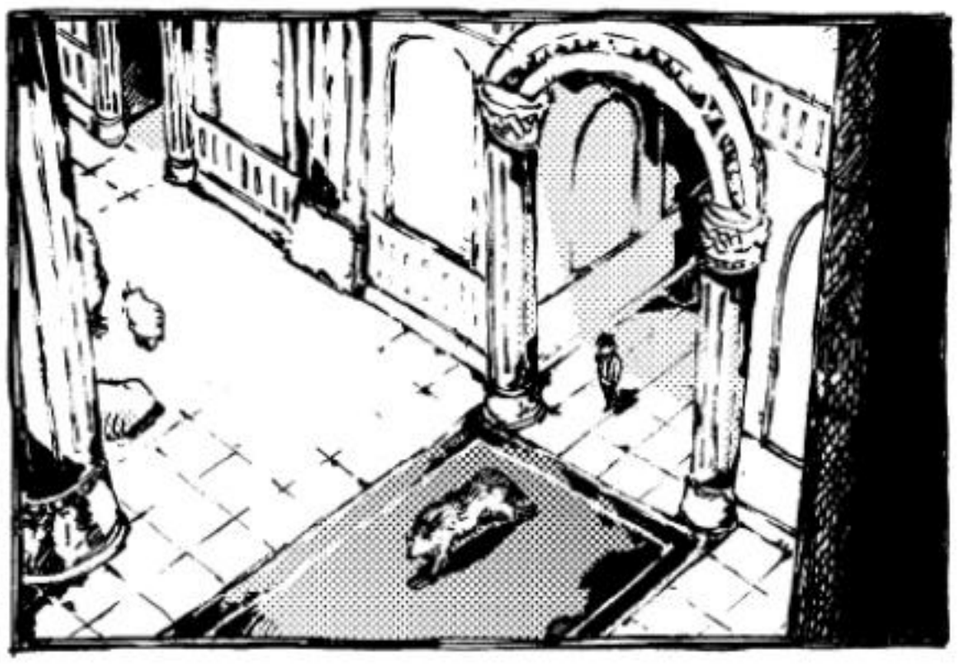
ここに
じっと
立ってろ

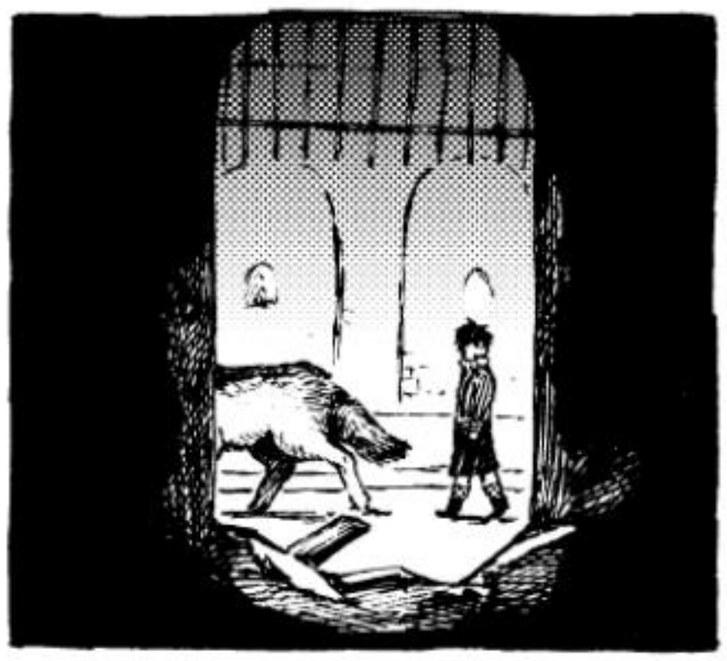
命が
惜しいなら

はいれ！
はいれ！
女王の
お気に入りとは
運のいい
やつめ
いや——
運がいいか
どうかは
わからんが



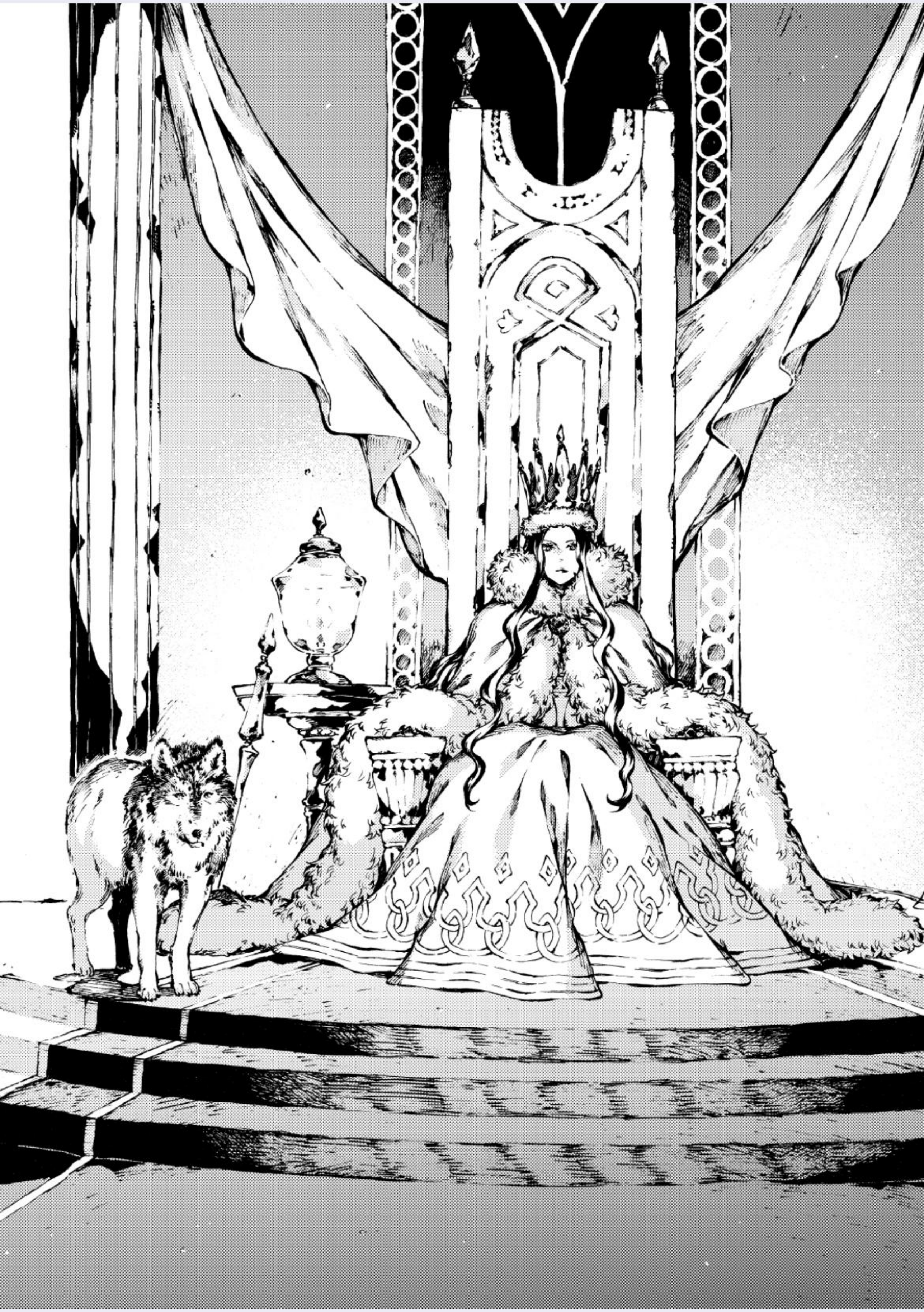








…これが
ルーシーの友だちの
フォーンなのだろうか



参上
いたしました
陛下

なぜ一人で来たのじゃ？

きょうだいを連れてこいと言っただろう

すみません陛下

できるだけのことはしたのですが…

すぐ近くまでは連れてきました

きょうだいたちは川をちょっとさかのぼったところのダムの上にある小さな家にいます

ビーバー夫妻の
ところです

おまえが
持ってきた
知らせとは

それだけか

いいえ
陛下

実は——

何！

アスランだと？

アスラン！

それは
まことか？

いつわり
申したと
あらば――

ぼ ぼくは
ただ
聞いたことを
お伝えした
だけです……
お願いです
パン
パン
そりを
用意せよ

よいか

ハーネスは
鈴のついて
いないものを
使うのだぞ

つづく



第18話　冬の呪い、とけはじめる（前編）

ぐずぐずしている暇はないぞ

ゴゴゴ

ゴゴゴ…

ちょっとそこに
吊るしてある
ハムを取って
くださいな

あなた

それから
お茶を一箱に

お砂糖に
マッチも

あと
誰か

そこのすみに
置いてある
陶器のケースから
パンを二、三個
持ってきて
くれないかしら

ビーバーさん
何してるん
ですか!?

みんなの荷物を
作ってるんですよ
お嬢さん

でも

時間がないんです！

食べ物も持たずに旅に出ようとおっしゃるんじゃないでしょうね？

魔女がいつ来るかわからないんですよ!?

みんな何をあわててるのよ

そのとおりだよ

よく考えて
ごらんなさいな
あなた

ギュッ

魔女が
来るまでに
少なくとも
まだ一五分は
あるでしょう？

ギュ

でも
できるだけ
早く出発して
相手を引き離して
おいたほうが
いいんじゃないかな

魔女より先に
〈石舞台〉に
着くためには

そう
ですよ

そこが
だいじ
なんです

この家を
見にきて

わたしたちが
出発したあとだと
知ったら

魔女は全速力で
追ってくるんじゃ
ありませんか？

それは
そうでしょう

だけど
どっちに
したって

わたしたちが
魔女より先に
〈石舞台〉に着く
のは 無理ですよ

むこうは
そり

こっちは歩き
なんですからね

それじゃ
――

……もう
あきらめるしか
ないんですか？

さあ

さあ

そんなに
あわてないで

お嬢さん

そこの
ひきだしから
洗ってある
ハンカチを
六枚ばかり出して
くださいな

もちろん

あきらめることは
ありませんよ

魔女より先に
着くのは
無理だとしても

魔女に
見つからない
ようにして

むこうが考えても
みないような道を
通っていけば

たぶん〈石舞台〉に
着くことは
できるでしょう
からね

たしかに
おまえの
言うとおりだ

それにしても
もう
出かけないと

ドサッ

さ

まったく
もう

あなたまで
あわてないで
くださいな

これでよし
と

荷物が
五個
できたわ

はい
いちばん小さい荷物は
いちばん小さい人へ

あなたの
ですよ

ねえ
お願いだから
急いでください

はい
はい

もうすぐ
ですよ

ミシンは重すぎて
運べないかしらね？

ああ
たしかに
重すぎる

重すぎて話にならんよ

逃げてる最中にミシンを使おうなんて言うんじゃないだろうね？

魔女のやつがわたしのだいじなミシンをいじくりまわすかと思うとがまんできないんですよ

それに壊したり盗んだりするだろうし

お願い

お願い

お願いですから急いでください！

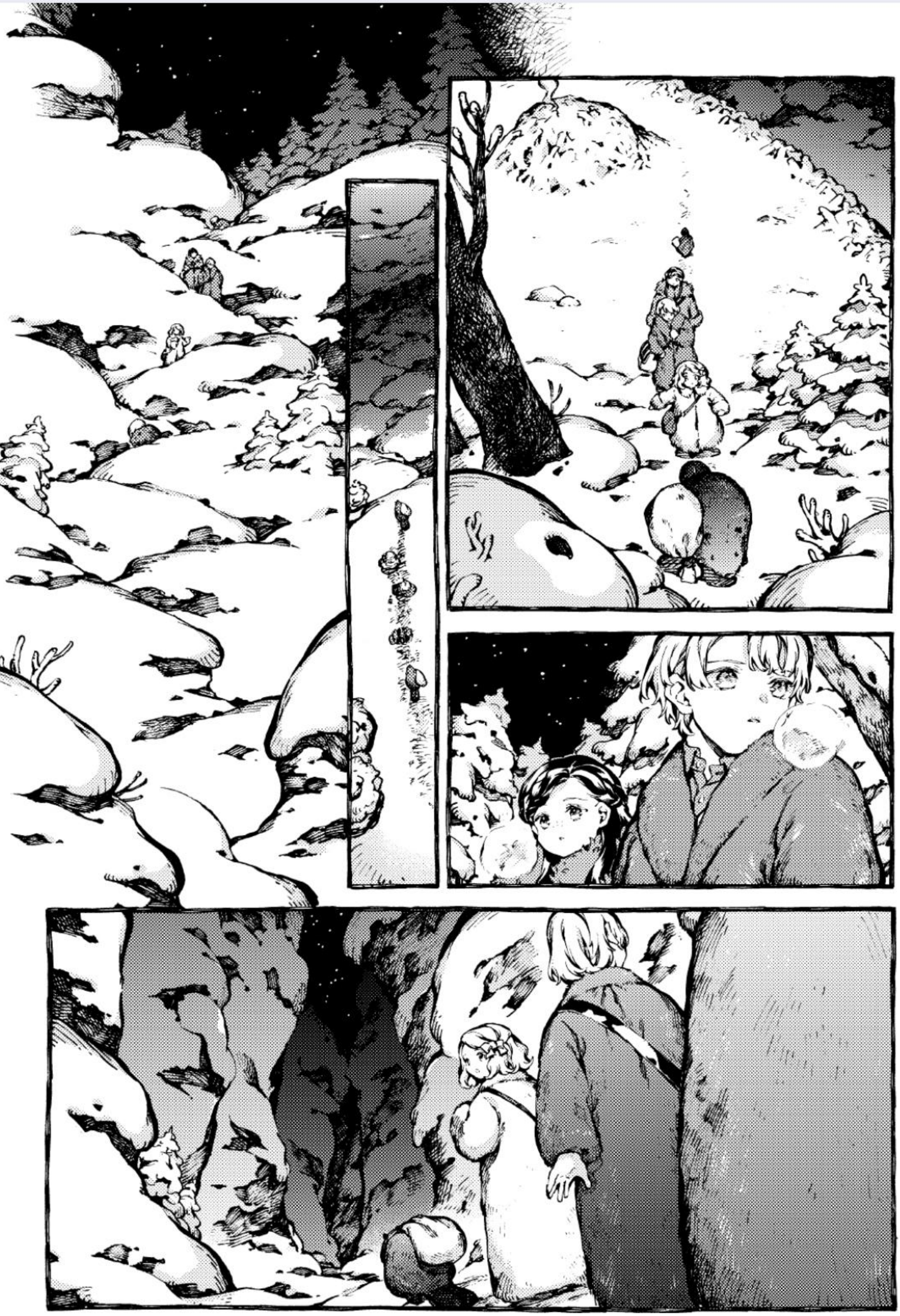
ガチャ

魔女を少しでも
手間取らせることが
できるだろうからね

ガチャ

ガチャ

ガチャ

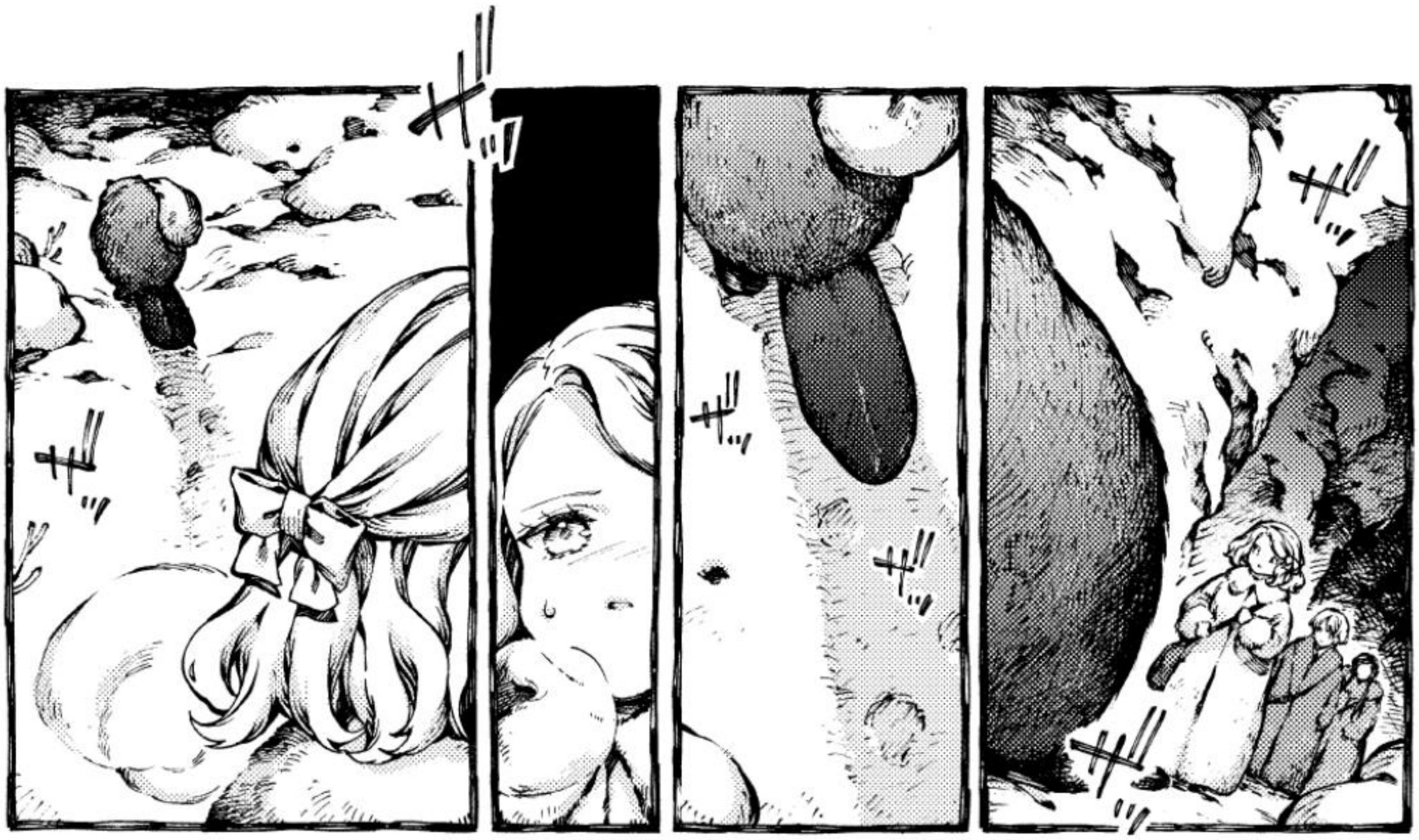


魔女は
断崖の上を
行くしか
ないでしょう

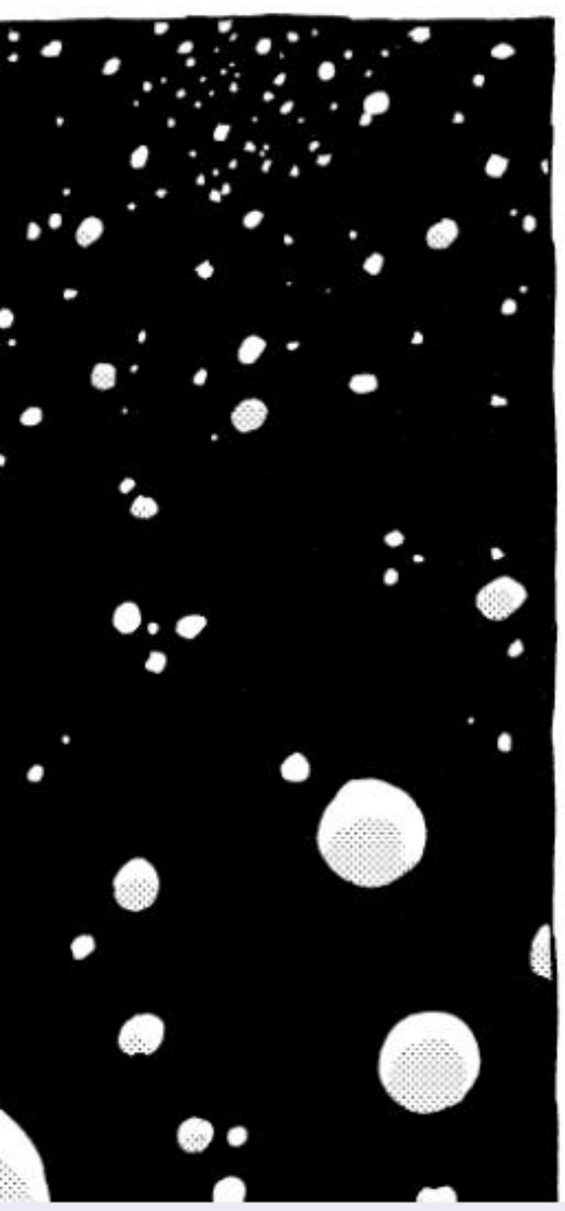
そりでは
谷底まで下りて
こられませんからね

できるだけ
谷底を
進んでいくほうが
いいんです

みんなについていける かしら……















ここはいったい何なんですか？

ビーバー一族がむかしから難局に際して利用してきた隠れ場所です

だいじな秘密の場所です

たいした場所では
ありませんが

とにかく
何時間か
眠らないと

みなさんがたが
出発前にあんなに
やいのやいのの
言わなかったら

枕を持って
きたのに

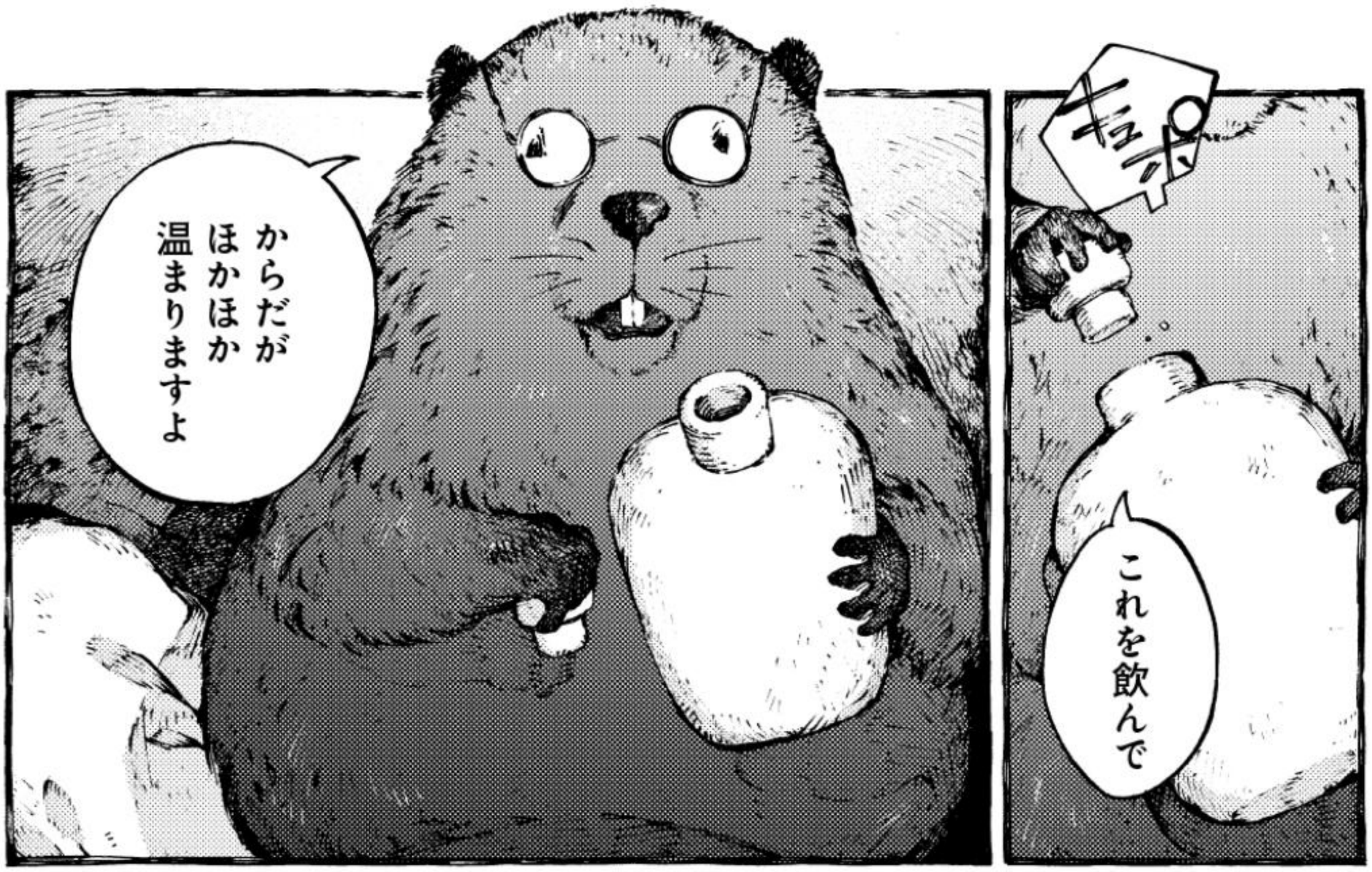
キョロ…

タムナスさんの
洞穴みたいに
すてきな
場所じゃなくて
残念だわ

ガサ

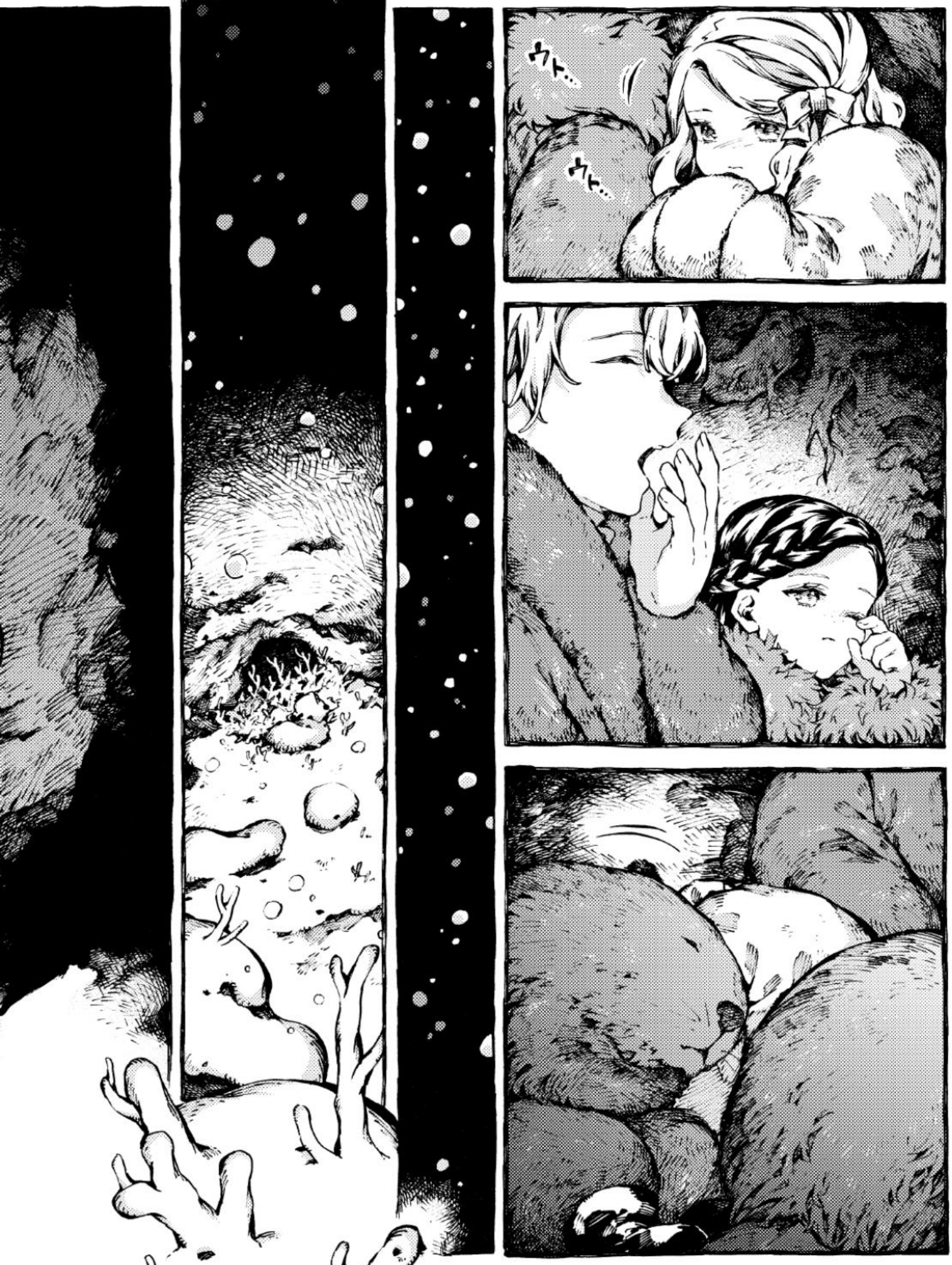
ゴソ…

さあ
みなさん


からだが
ほかほか
温まりますよ
これを飲んで




ケホ
ケホ


ウト…
ウト…



……

…嘆き…

いいだろうにお風呂に入れたら熱

……なんでお風呂に入れなきゃいけないの

洞窟の入口から
冷たい日の光が
さしこんでいる……

頬のあたりに
長いひげが
当たって
なんだか
くすぐったい……



ミ／メ／ン

ミ／メ／ン

ミ／メ／ン

ミ／メ／ン

魔女のそりの鈴の音……！

ミ／メ／ン

つづく

魔女のそりの
鈴の音……！

第19話　冬の呪い、とけはじめる（後編）

なんて馬鹿な
ことを…！

大丈夫
ですよ

姿を見られずに
堤防の上まで
よじのぼって
いけますから

びっしりと
しげった低木や
イバラの根方を
縫っていけば

魔女のそりが
どっちの方向へ
行ったのかを
何としても
知っておかねば…！



たいへん！

……！

姿を見られちゃったんだわ

4

魔女につかまっちゃったんだ！

だいじょうぶだ

出ておいで ミセス・ビーバー

出ておいで アダムの息子さんと娘さんたち

だいじょうぶだ！

あいつじゃ ないだった！

おいで！

興奮するとこういう話し方になるのよ

こっちへ来て見てごらん！

魔女に一矢を報いてやったぞ！

魔女め力が衰えはじめているらしい

それ

どういう意味なんですか

ビーバーさん？

わたし言いませんでしたかね

魔女のやつが一年じゅう冬なのにクリスマスが来ないようにしちまったってことを？

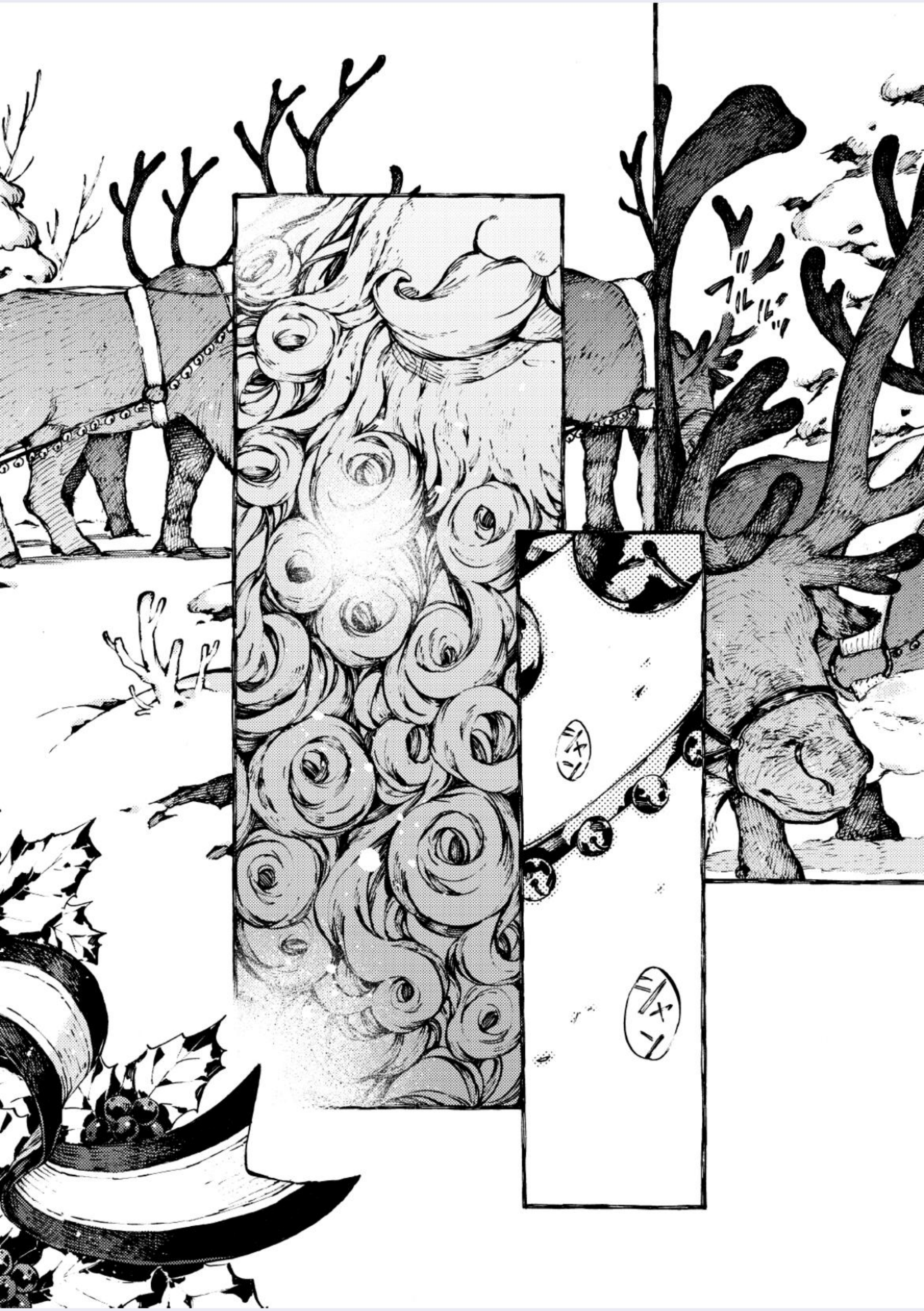
言いませんでしたかね？

ところがどうですか

こっちへ来て

見てごらんなさい！

ｘ＝１


ドキン

ようやく
来られたよ

長いあいだ
魔女に邪魔されて
この国に
はいれなかったが

ようやく
はいることが
できた

魔女の魔法は
弱りはじめている

アスランが
動きはじめている

19

それでは

みなさんに
プレゼントを
あげよう

ミセス・
ビーバー
あなたには
新しくて上等な
ミシンを

通り
がけに
おたくに
届けておくよ

19コ

おそれ
ながら

家には鍵が
かかっております

鍵や
かんぬきなど

わたしには
何の意味も
ないよ

それから
ミスター・
ビーバー

あなたには

家に帰ったときダムが完成して

修繕も終わって

水漏れ箇所がすべてふさがって

新しい水門がついているようにしておこう

アダムの息子ピーターよ

はい

きみへのプレゼントはこれだ

おもちゃでは
ない。

武器だ

ぞんぶんに
役立てなさい

これを使う
機会は

おそらく
近いうちに
やってくるだろう

イヴの娘
スーザンよ

矢は
さしせまった
ときだけ
使うように

これは
きみへの
プレゼントだ

なぜなら
あなたは戦いに
加わるものでは
ないからだ

この矢は
めったに
的を
はずさない

それから
この角笛を
口にあてて吹けば

あなたが
どこにいようとも
助けがやって
くるだろう

イヴの娘
ルーシーよ

このびんには
太陽の山に育つ
炎の花から作られた
薬酒がはいっている

それから

短剣は
さしせまったときに
身を守るために
使いなさい

あなた自身
または
あなたの友人が
傷ついたとき

これを数滴
飲ませれば

傷が
癒えるだろう

なぜなら
あなたもまた
戦いに
加わるものでは
ないからだ

なぜ
ですか？

わたし——

……よく
わからない
けど——
わたし

臆病者では
ありません

そういう
問題では
ないのだよ

女性を
巻きこんだ
戦いは
見苦しい
ものになる

さて

それでは——

さしあたり
みなさんに
これを
さしあげよう！

メリー
クリスマス！

まことの王に万歳！

ハイ！

ハイ！

ハイ！

ハイ！

ハイ！

さあ
さあ！

そんなとこに
突っ立って
おしゃべり
してると
お茶が冷めて
しまいますよ

まったく
男の人は……

さ
手を貸して
くださいな

このトレーを
下へ運んで
朝ごはんに
しましょう

ああ
よかった

パン切り
ナイフを
持ってきて

出発だ

さあ

つづく

第20話　アスラン、近づく（前編）



そりを
用意せよ

よいか

ハーネスは
鈴のついて
いないものを
使うのだぞ



女王陛下
お願いです
ゴクッ

ターキッシュ・
デライトを
いただけませんか？

この前

陛下が
おっしゃった
ように——

黙れ

馬鹿者！

いや

ボ…

途中で
このガキが
気絶しても
めんどうじゃな

……


この人間めに
食べ物と飲み物を
くれてやれ

王子様にターキッシュ・デライトをお持ちしました

ひっひっひっ！

下げてくれ！

ひからびた
パンなんか

食べたくな——

す…
すみませんつ……

ハムッ

ハムハム

ハムッ

モグ…

モグ…

モグ…

そのうちに

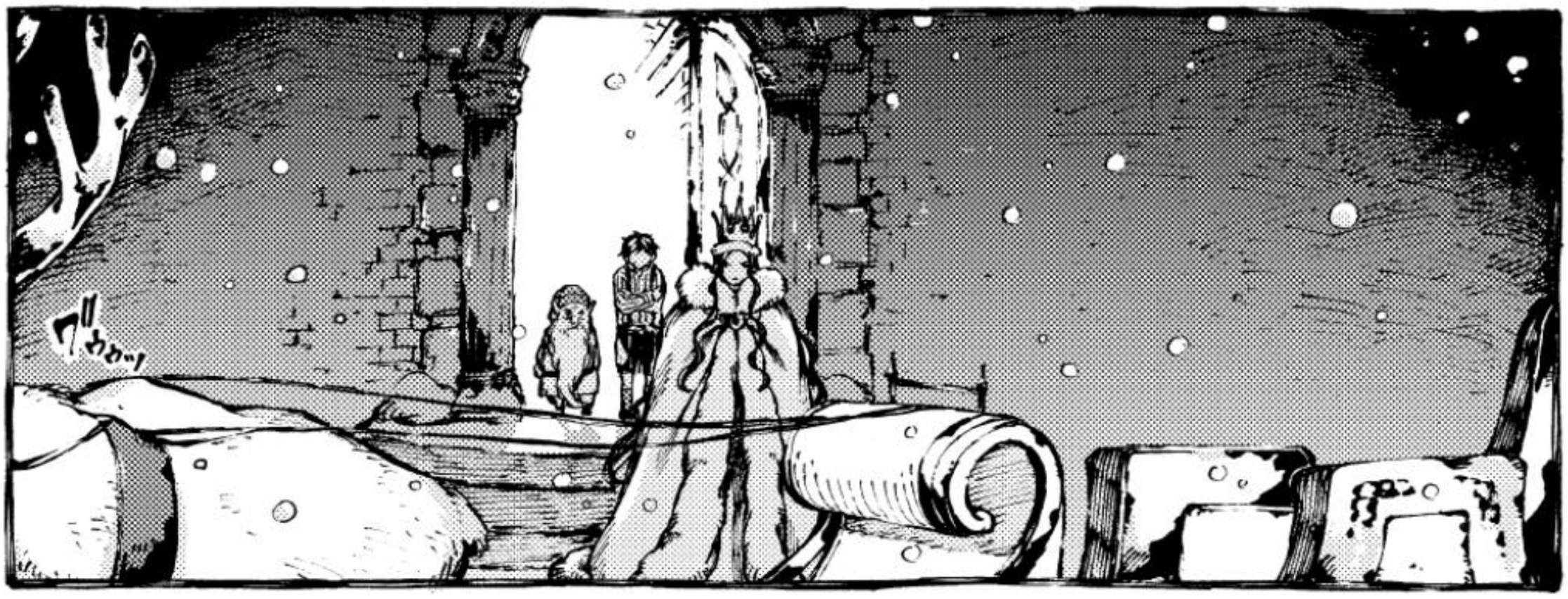
そんなパンでもないよりましと思うようになるであろう

そりの準備ができました

女王様

ついてこい










モーグリム！

ウ

手下のうち
いちばん足の速い
オオカミを連れて

ビーバーの
家を
急襲せよ

見つけた
ものは

かたっぱしから
殺せ

すでに
もぬけの殻
だったら

全速力で
〈石舞台〉へ
向かえ

わらわは
ここから何キロも
西へさかのぼって

そりで
川を渡れる場所を
探さねばならぬが

ただし
姿を
見られるで
ないぞ

そこで隠れて

わらわの
到着を待て

おまえたちなら
人間どもが
〈石舞台〉に着く前に
追いつけるかも
しれぬ

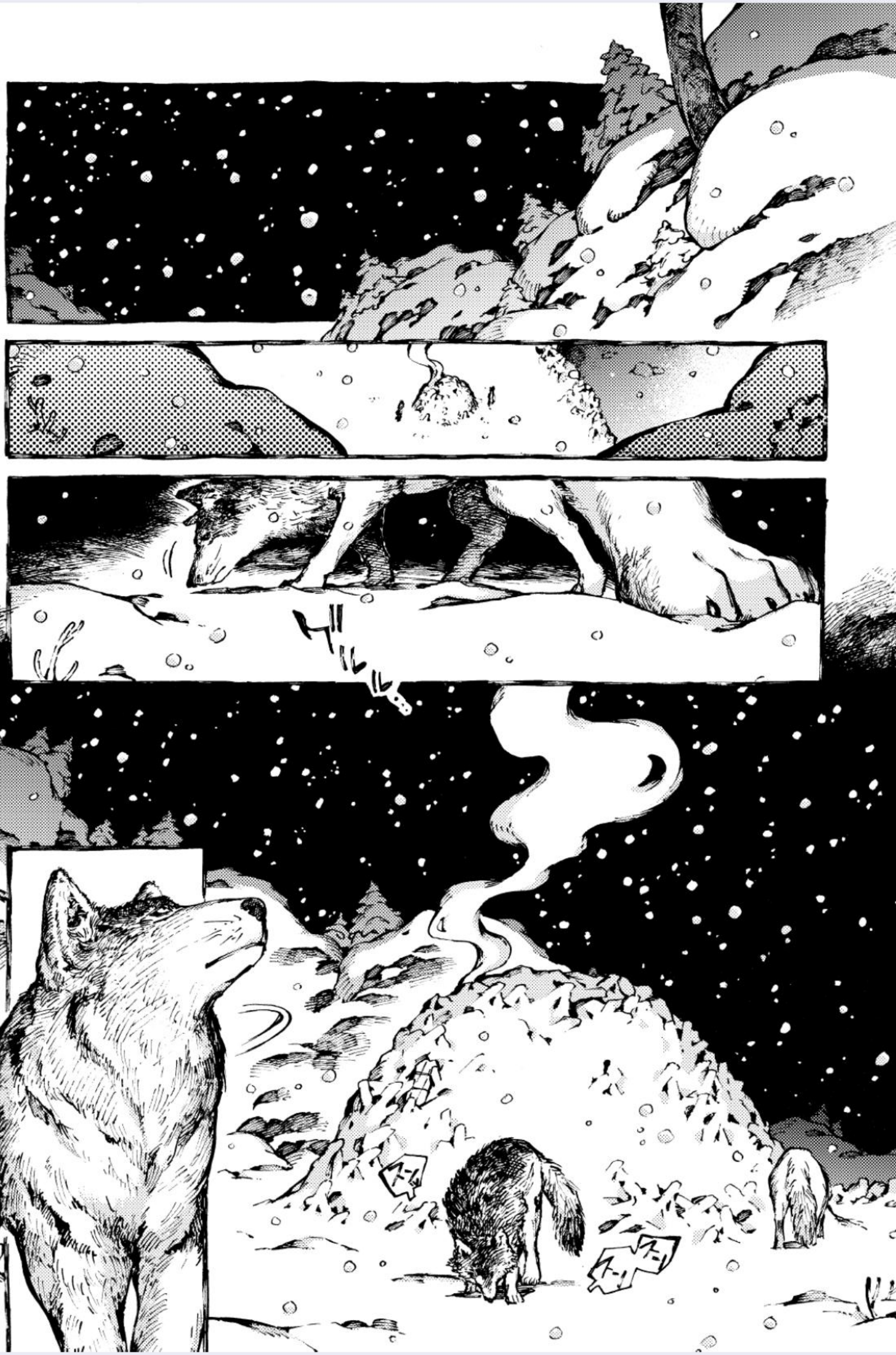
やつらを
見つけたら
どうすれば
よいか

わかって
おるな！

かしこまり
ました

女王様！

ヴォ



…既に
もぬけの殻だ

雪のせいで
奴らの臭跡も足跡も
消えてしまった

——と
なれば……



なんて
みじめな
気分なんだ！

もはや女王が自分を王にしてくれるとは思えない……

女王は親切な善人で女王の側こそが正義なのだと信じこもうとして

これまで自分に言い聞かせてきたことの何もかもが

なんて愚かだったんだろう！

いまとなっては
きょうだいに
会えるなら—

……あのピーターでさえ—

……どんな犠牲をはらってもいい…！







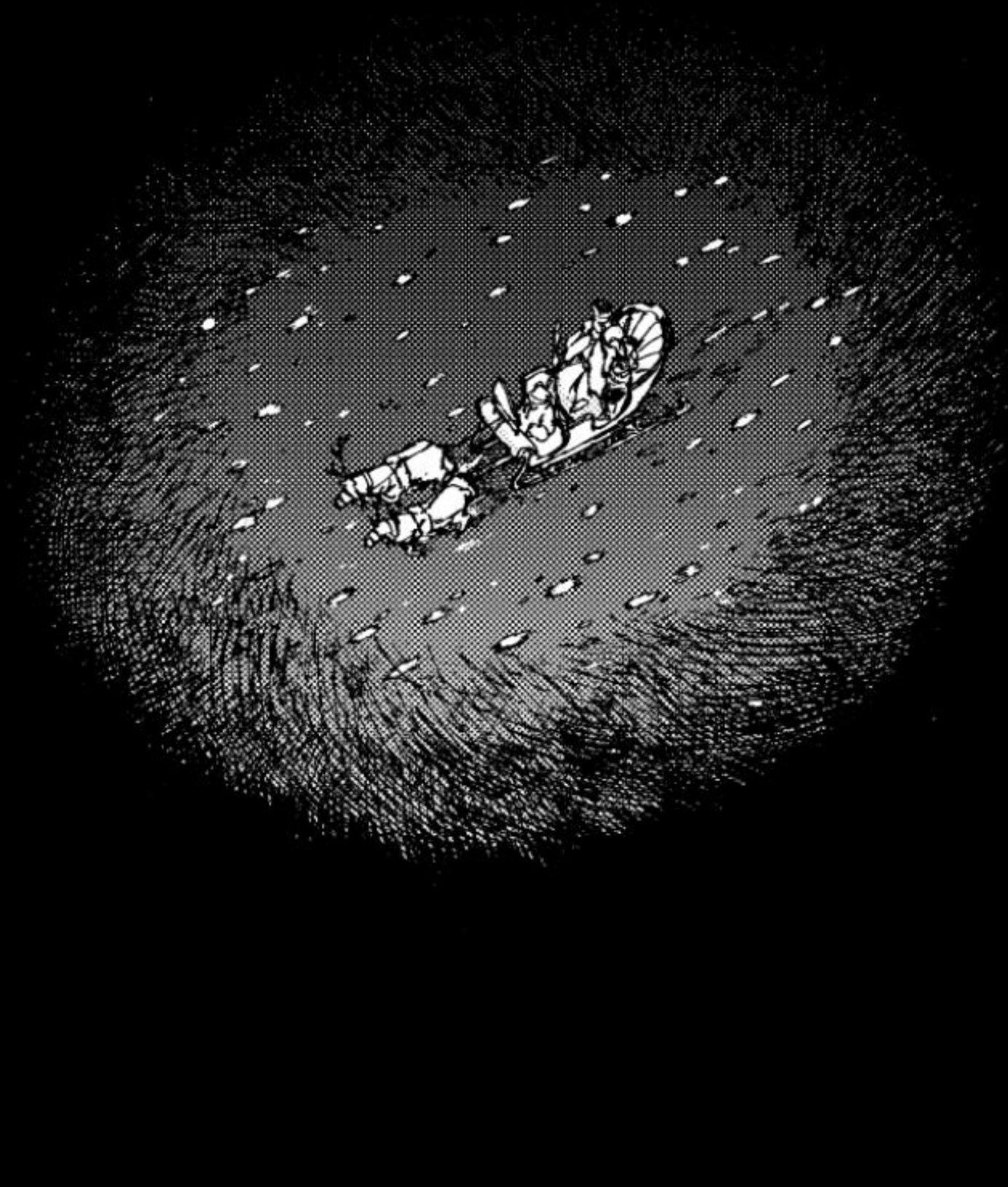




……何時間
走ったのだろう


これはすべて悪夢で……
そのうちきっと
目がさめるんだ……

何もかもが夢なんだ……



つづく

第21話　アスラン、近づく（後編）



あれは何じゃ？

止まれ！

どうか女王が朝ごはんのことを言ってくれますように…



…ここからじゃよく見えないけど

とてもおいしそうなにおいだ

えー

それでは…



いったい何の真似じゃ？

答えよ虫けらどもめ！

それともドワーフに鞭で打たれぬと舌が動かぬのか？

この
大盤振る舞いは
何じゃ!?

この
贅沢は!?

この
自堕落は!?

どこから
こんなものを
手に入れた?

おそれ
ながら
陛下

もらったので
ございます

お許しを
いただけますれば

女王陛下の
ご健康を祈念して
乾杯を——

誰に
もらったのじゃ?

サ

サ

サンタクロースです

何じゃと？

そんな
はずはない！

サンタクロースが
来るはずがない！

よくも
そのような——

…まあ
よい

そうすれば
許してやらぬ
ないぞ

うそを
ついたと
白状せよ

来たんだもん！

来たんだもん！

来たんだもん！

来たんだもん！

やめて！

やめてください！

お願いですから！



おまえは
これでも
食らえ

スパイや
裏切り者に対して
情けを乞う者は

こうして
くれる

おぼえて
おくがよい

そりを
出せ！



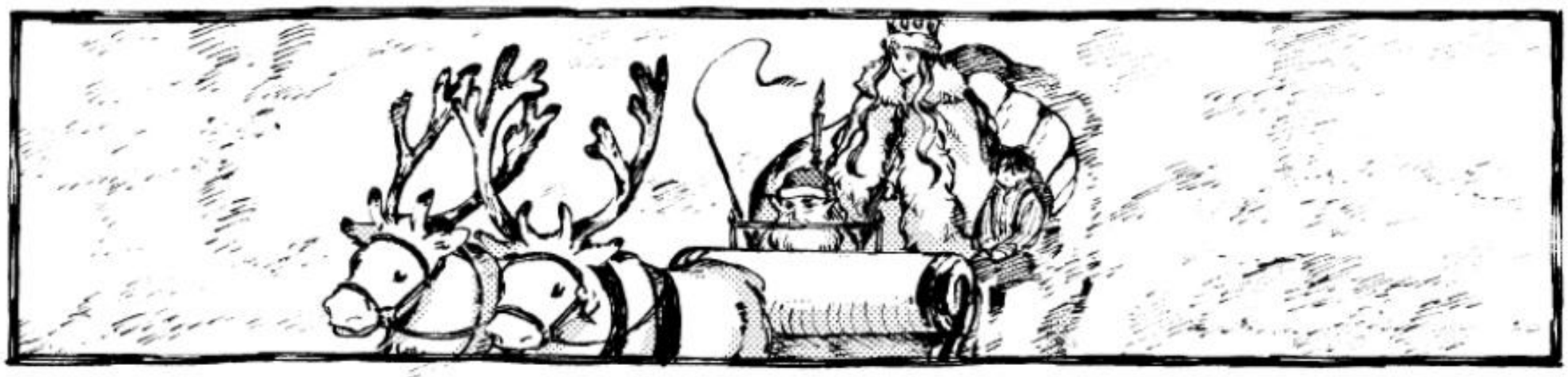





ピチャッ
雪の水分が昨夜より多い…？


あまり寒くもない？


それに





ズ…

そりがあまり滑らなくなってきている

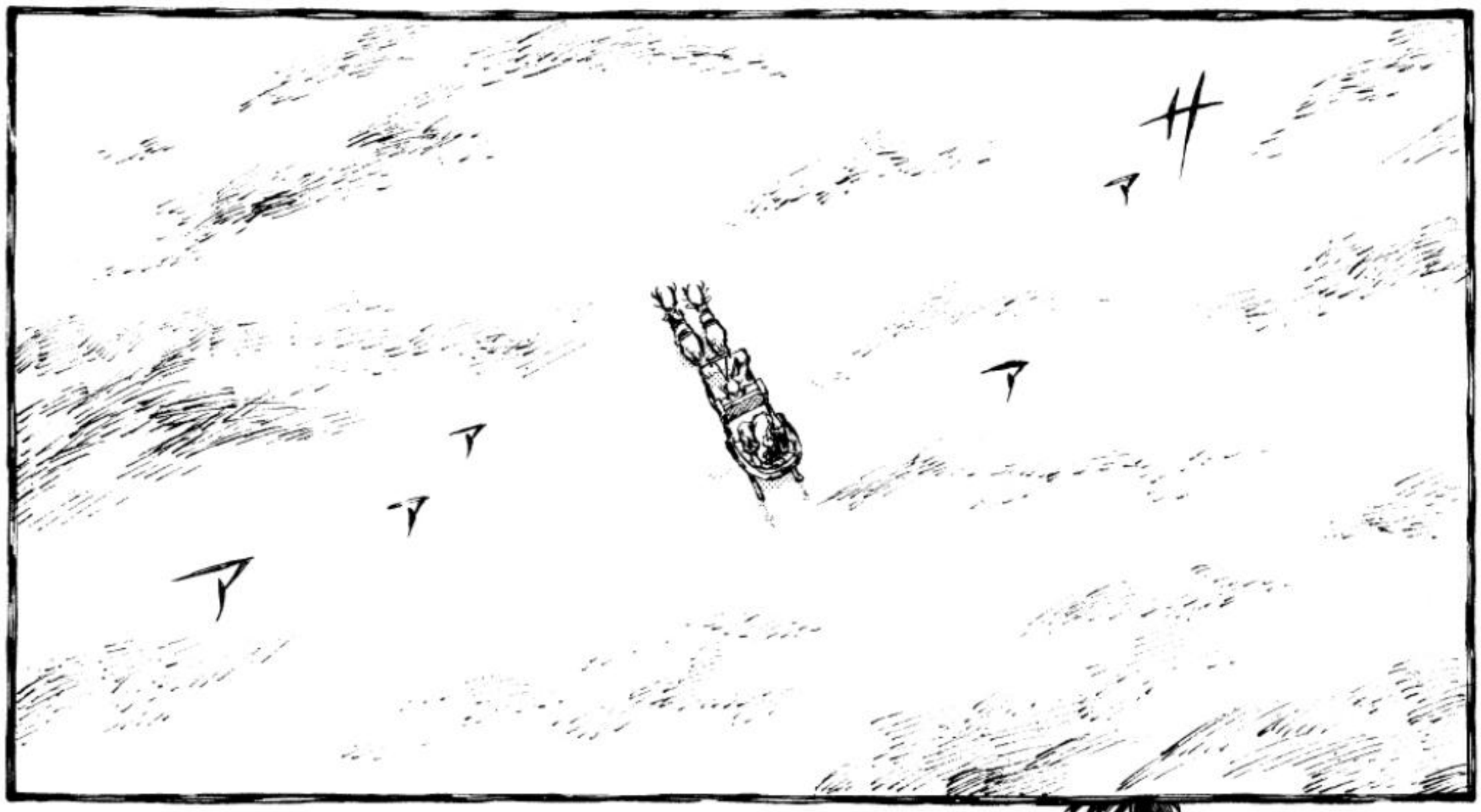
ズ…

トナカイたちが疲れてきているのか…？

ズ…

ズ…

ズ…




奇妙に
心地よい音だ…
やさしい
衣ずれのよう
でもあり
かわいい
おしゃべりのよう
でもあり…
…いや
それほど
耳慣れない音では
ないぞ…
前に
聞いたことが
ある音だ…
どこで聞いた
音だったか
思い出せたら
いいのに！
ピチョン


流れる
水の音だ！

氷に閉ざされた
冬が
終わったんだ…！

ぼんやり
すわって
おるでないわ
馬鹿者！

下りて手伝え

ボロ

ボロ

ボロ

ドキッ

ドキッ

バキャッ

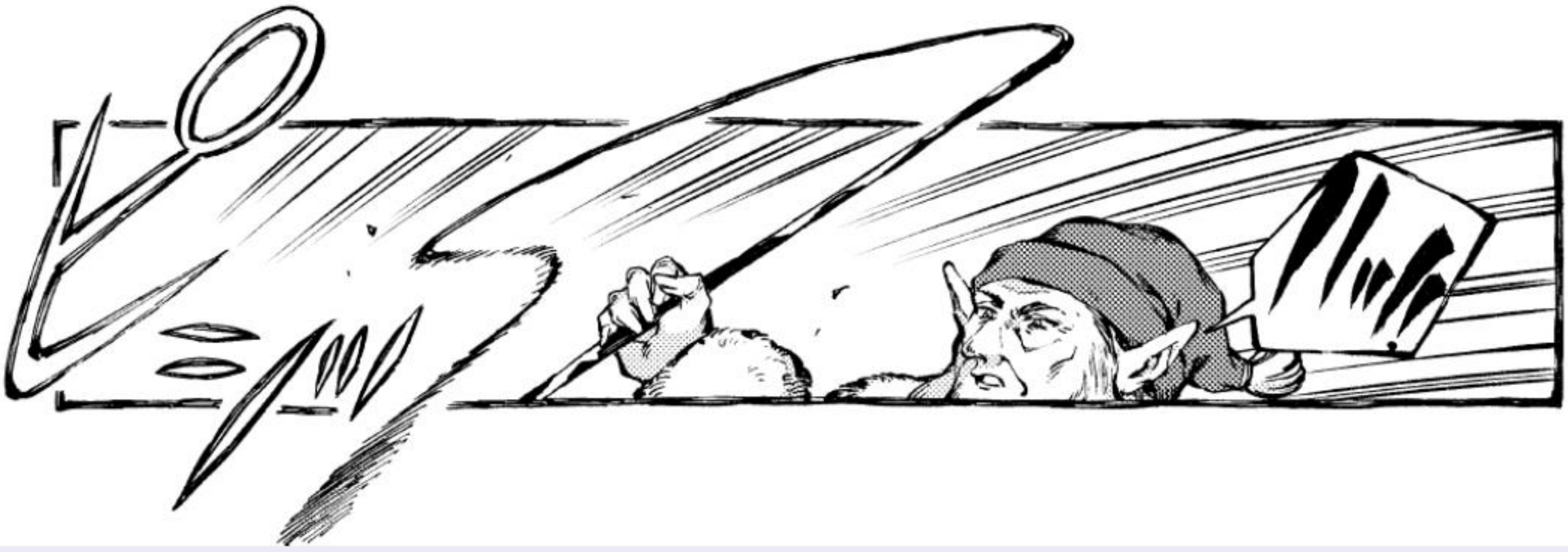












ウォ…

ミノーン…

陛下

…だめです

これだけ雪がとけてきては そりは使えません

それでは歩くしかなかろう

歩いたのでは
連中には
ぜったいに
追いつけません

むこうのほうが
はるか先に
出発して
おりますから

おまえは
わらわの
指南役か
それとも
奴隷なのか？

言われたとおりに
すればよいのじゃ

その人間めの
両手を後ろに
回して縛って

縄の端を
おまえが持て

鞭も
忘れるな

それから
トナカイの
ハーネスを
切ってやれ

トナカイたちは
自分で館へ
もどっていくだろう



トリイッ!

しっかり歩け!

わ?!

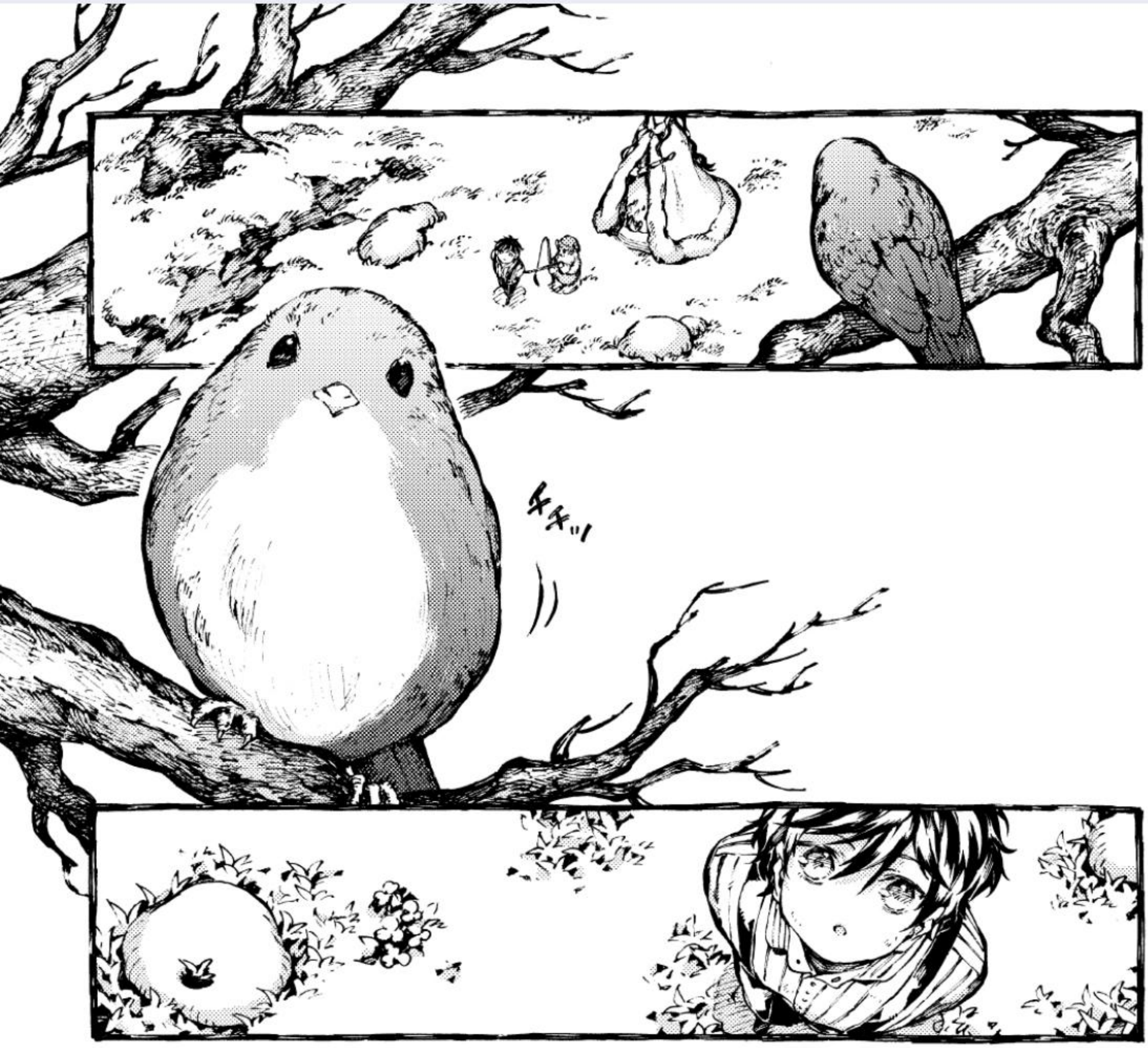
もっとはやく!

もっとはやく!



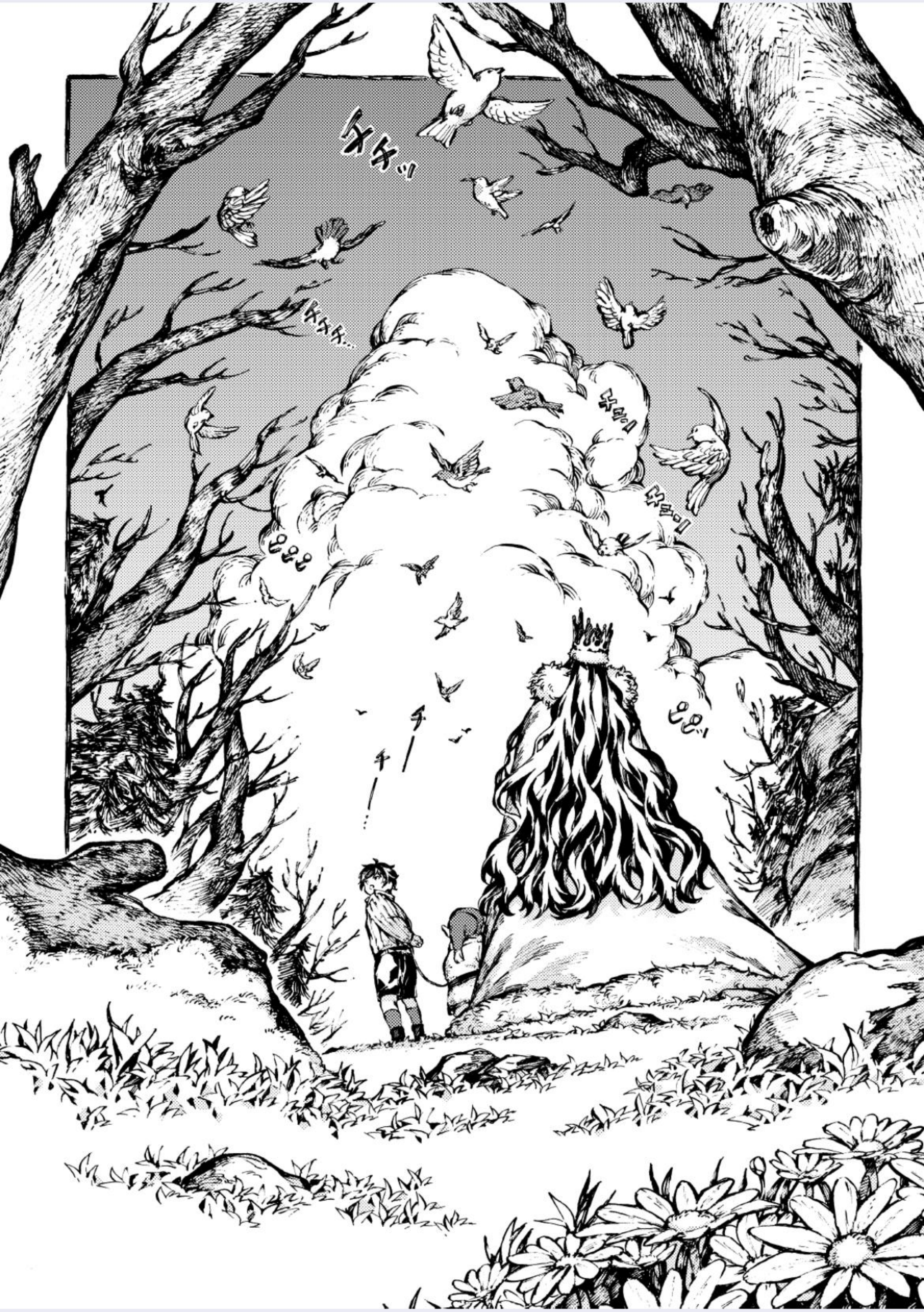
よそ見をするな！




ドドド
))




ドドド
ドドド


ふふっ
ふふふ…
ヒョロロロ
ヒョロロ
ヒョロロ
チ
チ
！
…

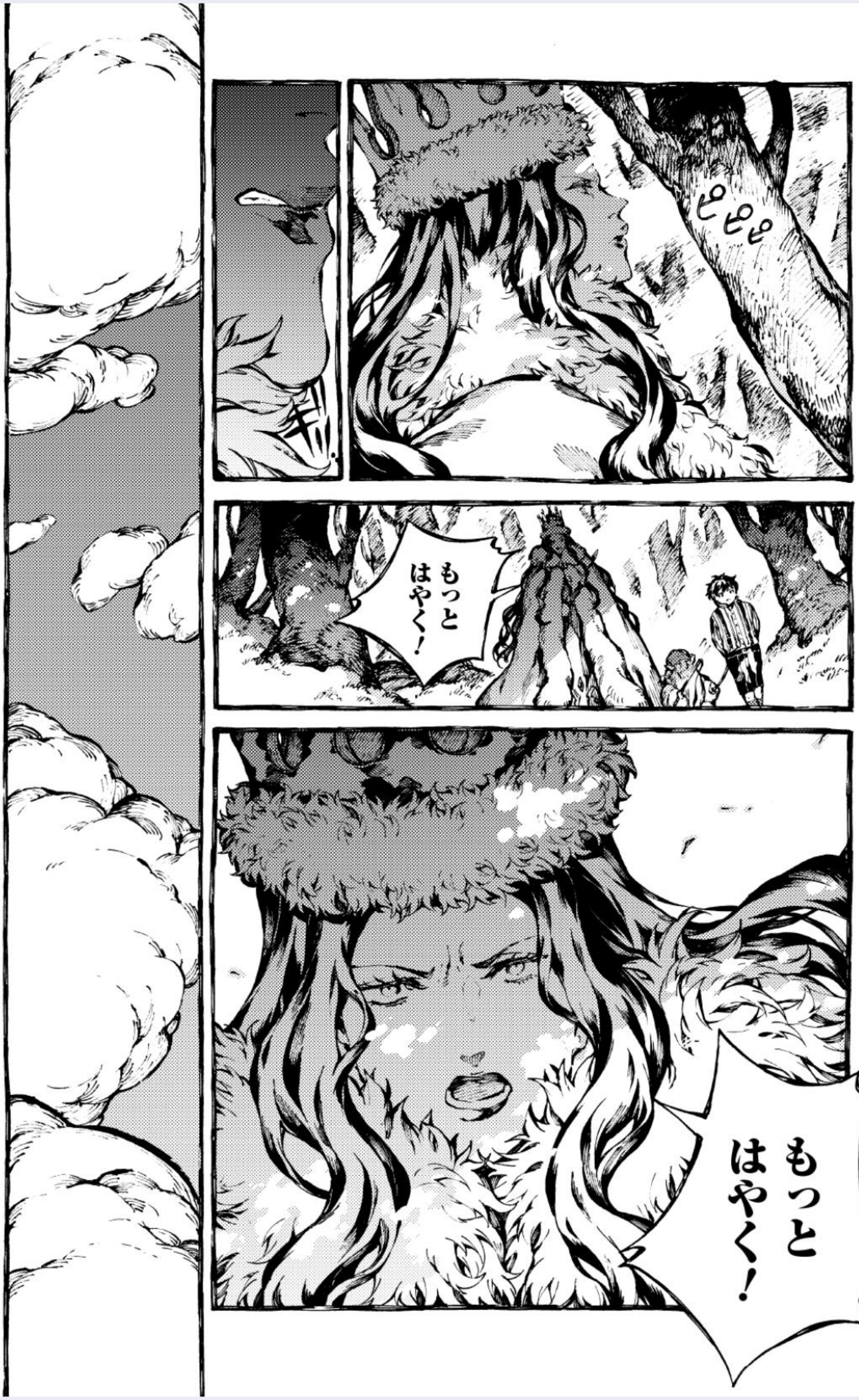
ピー ピー

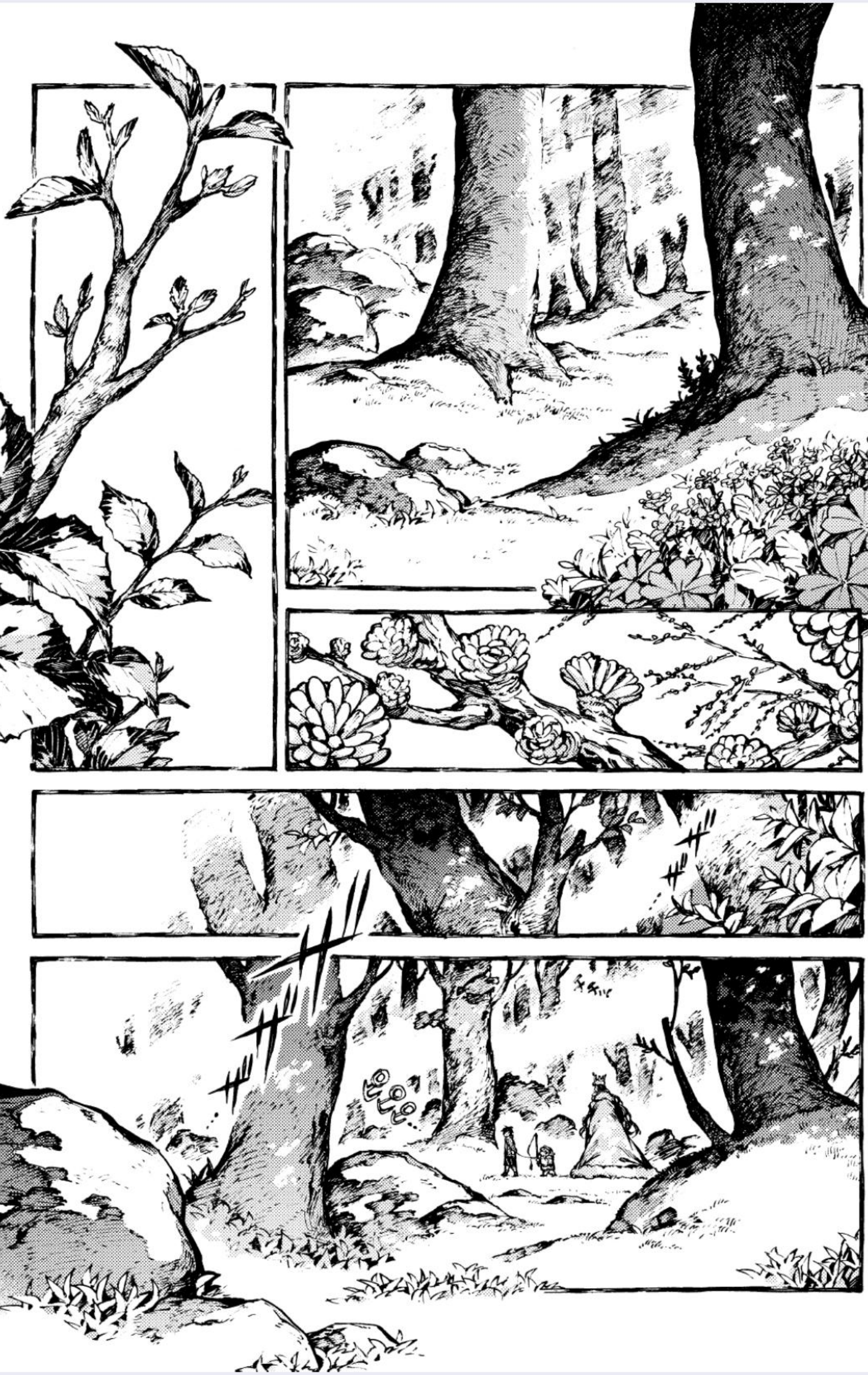
ピピピ

ピヤヤ…

ピヤヤ…

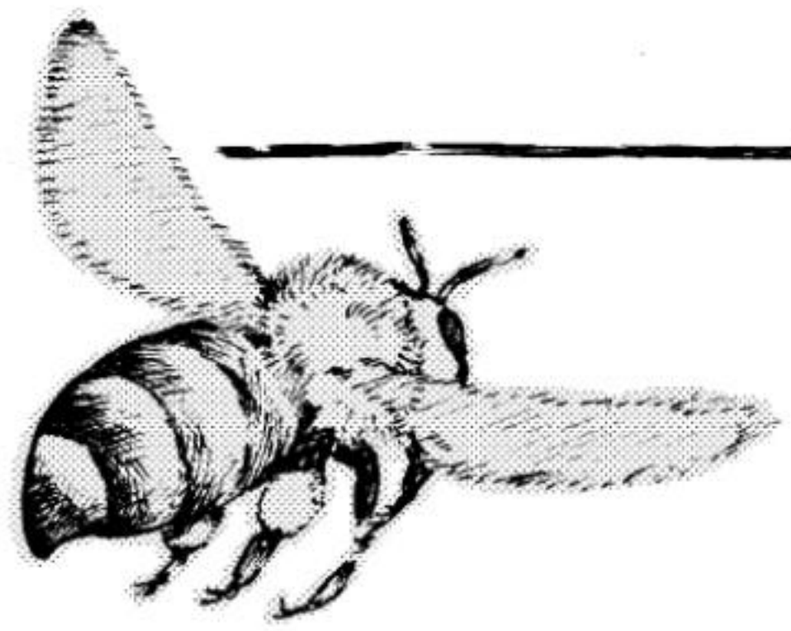
ピヤヤ…


もっと
はやく！
もっと
はやく！




ﾁﾁ…
ﾁﾁ
ﾁﾁ
!





ブーン…

これは
雪どけでは
ございません

これは
まちがいなく
春でございます

どういたしま
しょうか？

女王陛下の冬は
打ち破られた
ようでございま
すよ！

これは
アスランの
しわざです

おまえたちの
どちらかでも

その名を
もう一度
口にしてみよ

即座に
息の根を
止めてやる

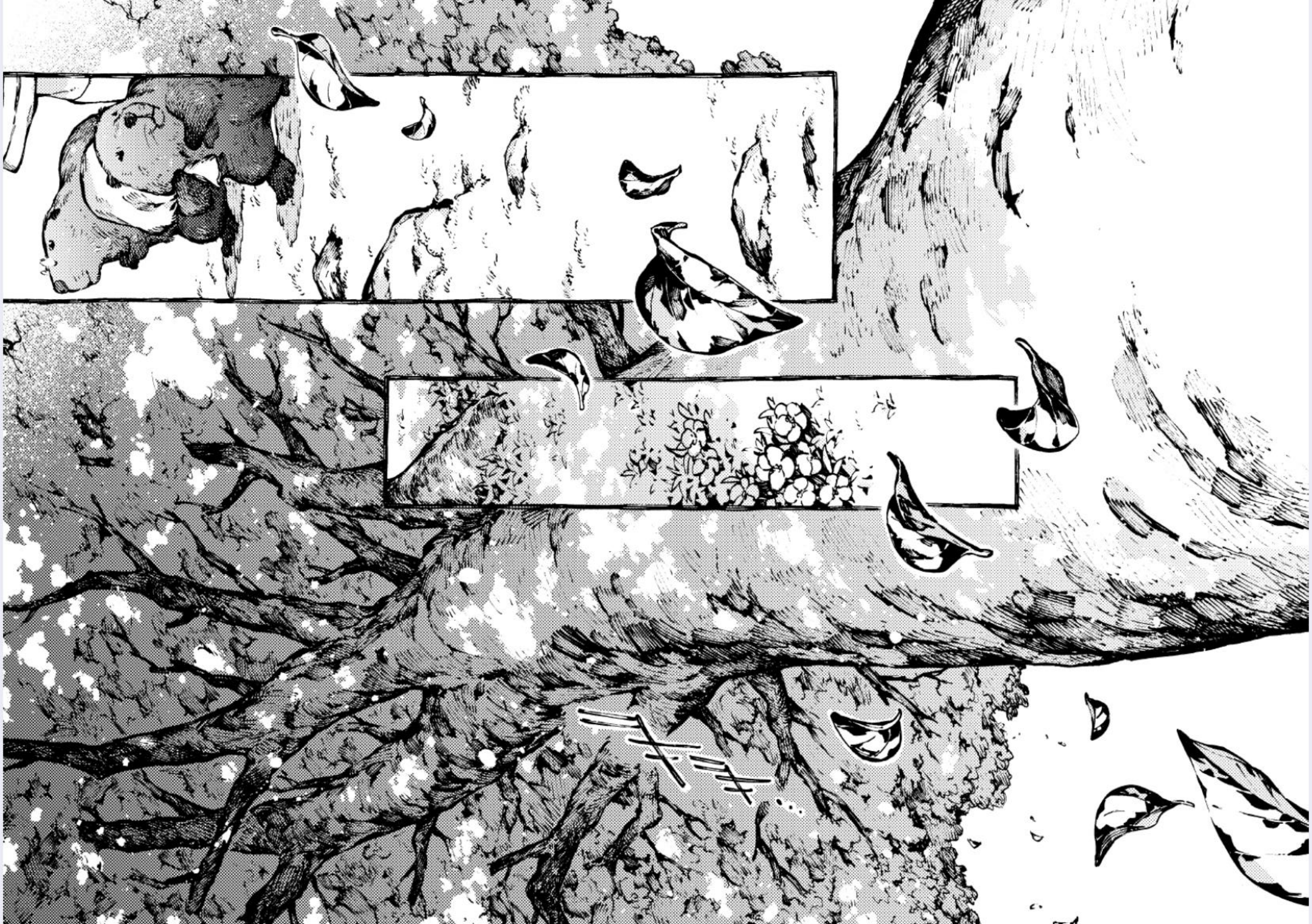
つづく

第22話　ピーターの緒戦（前編）







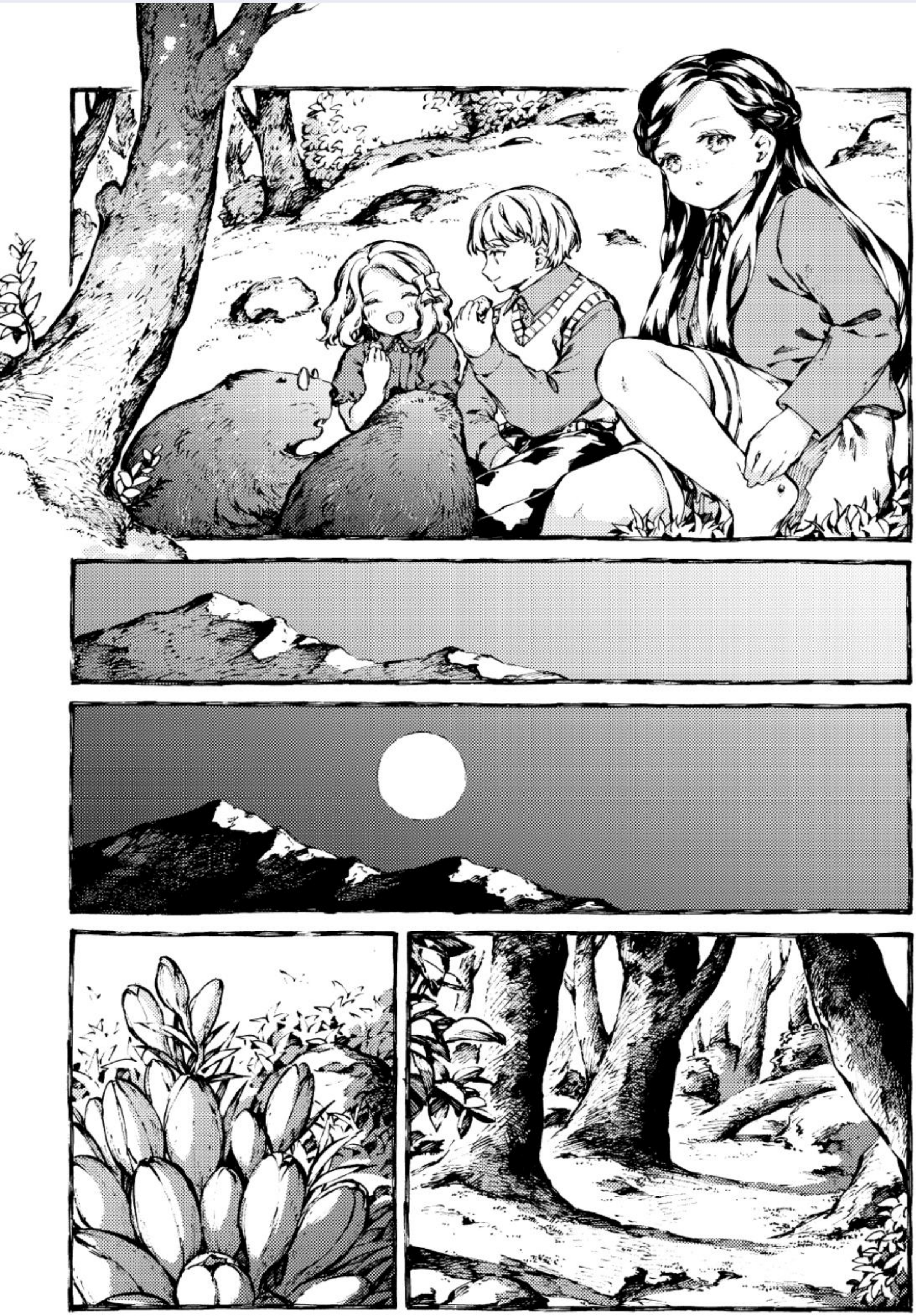






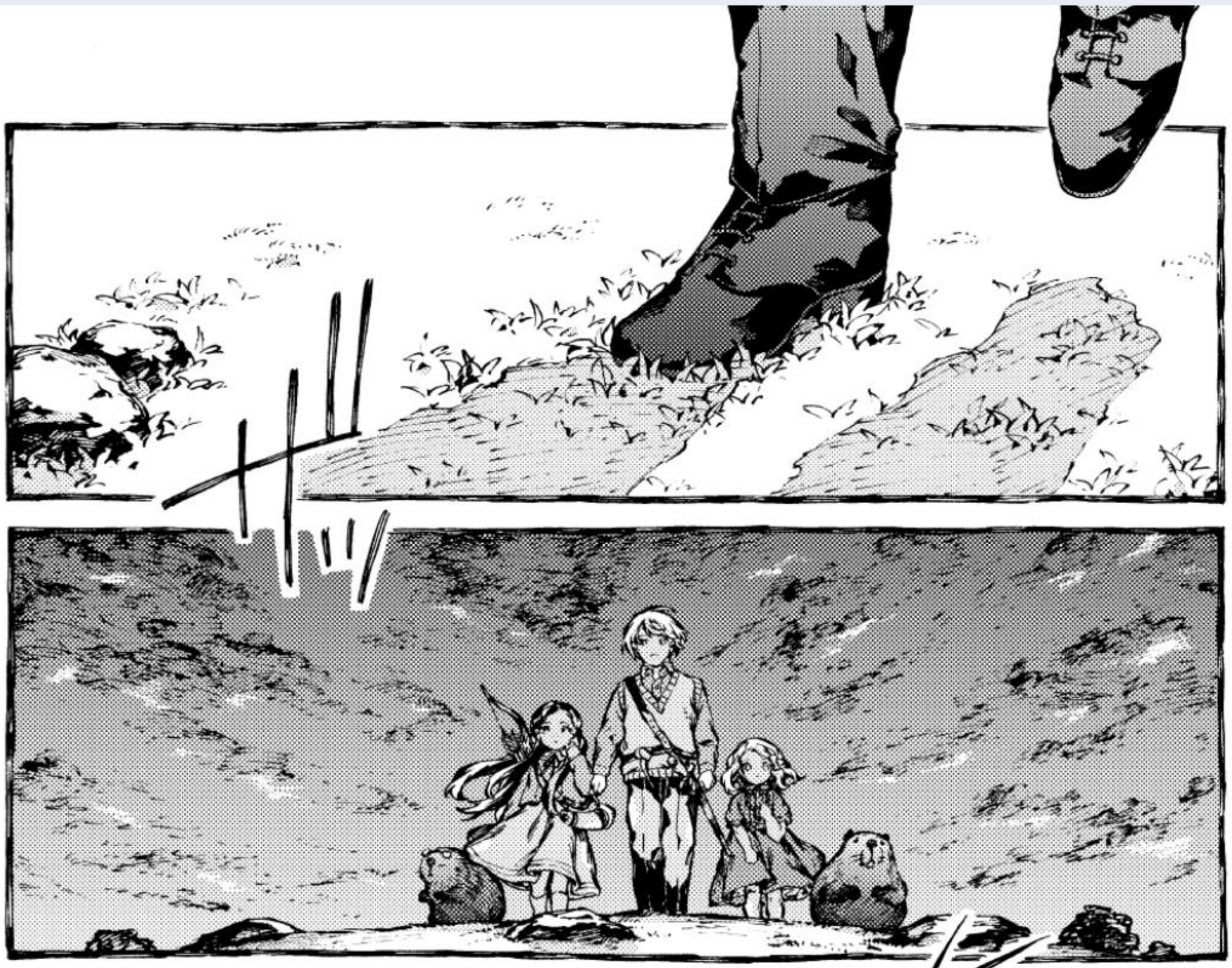
ずずず…
ずずず…
この状況では
魔女はもはや
そりを
使えないだろう
急がず
たっぷり
休憩を
取りながら
進もう

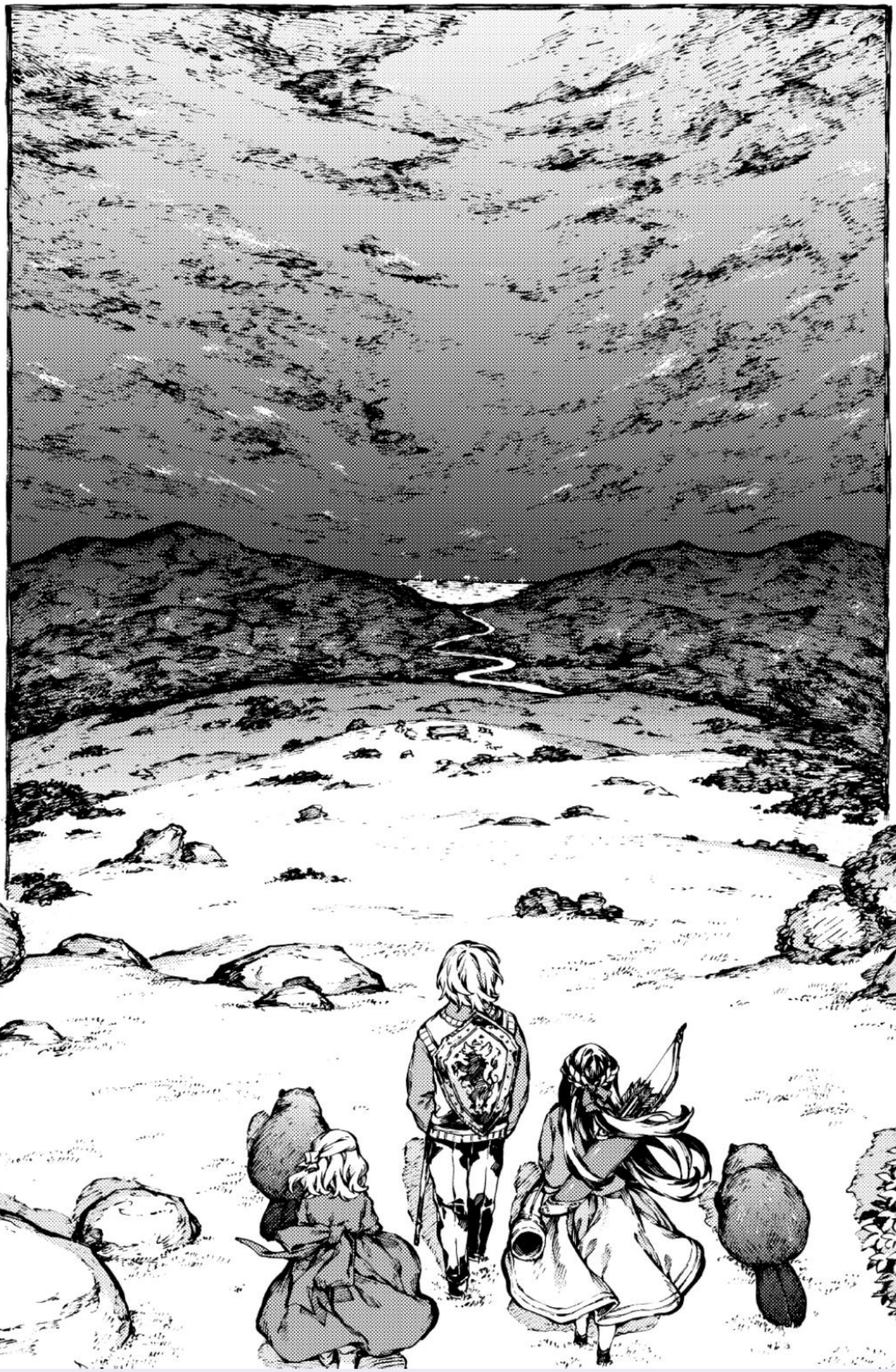




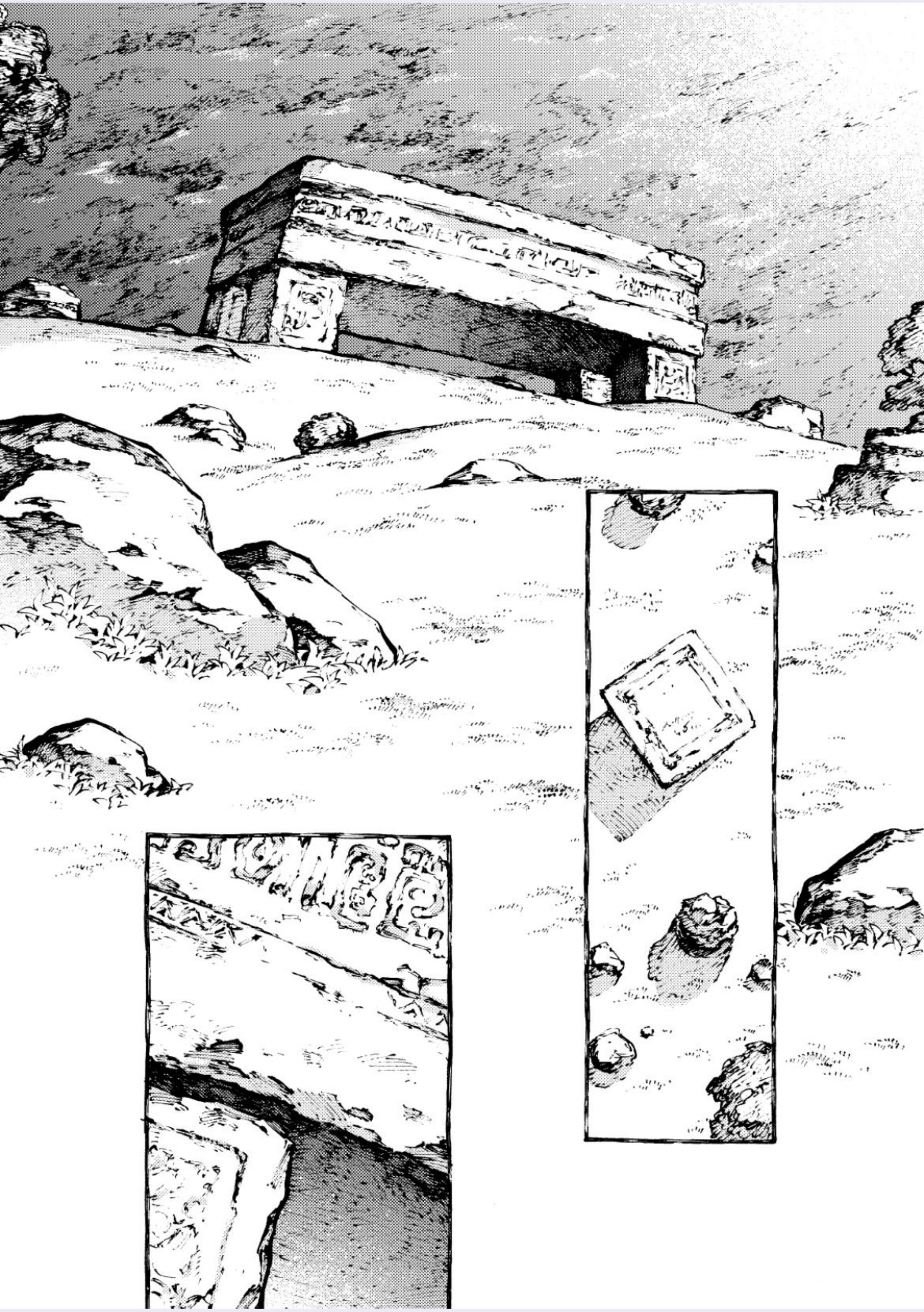
あと少し
ですよ

もう一度たっぷり
休憩をはさまないと
登りきれないんじゃ…

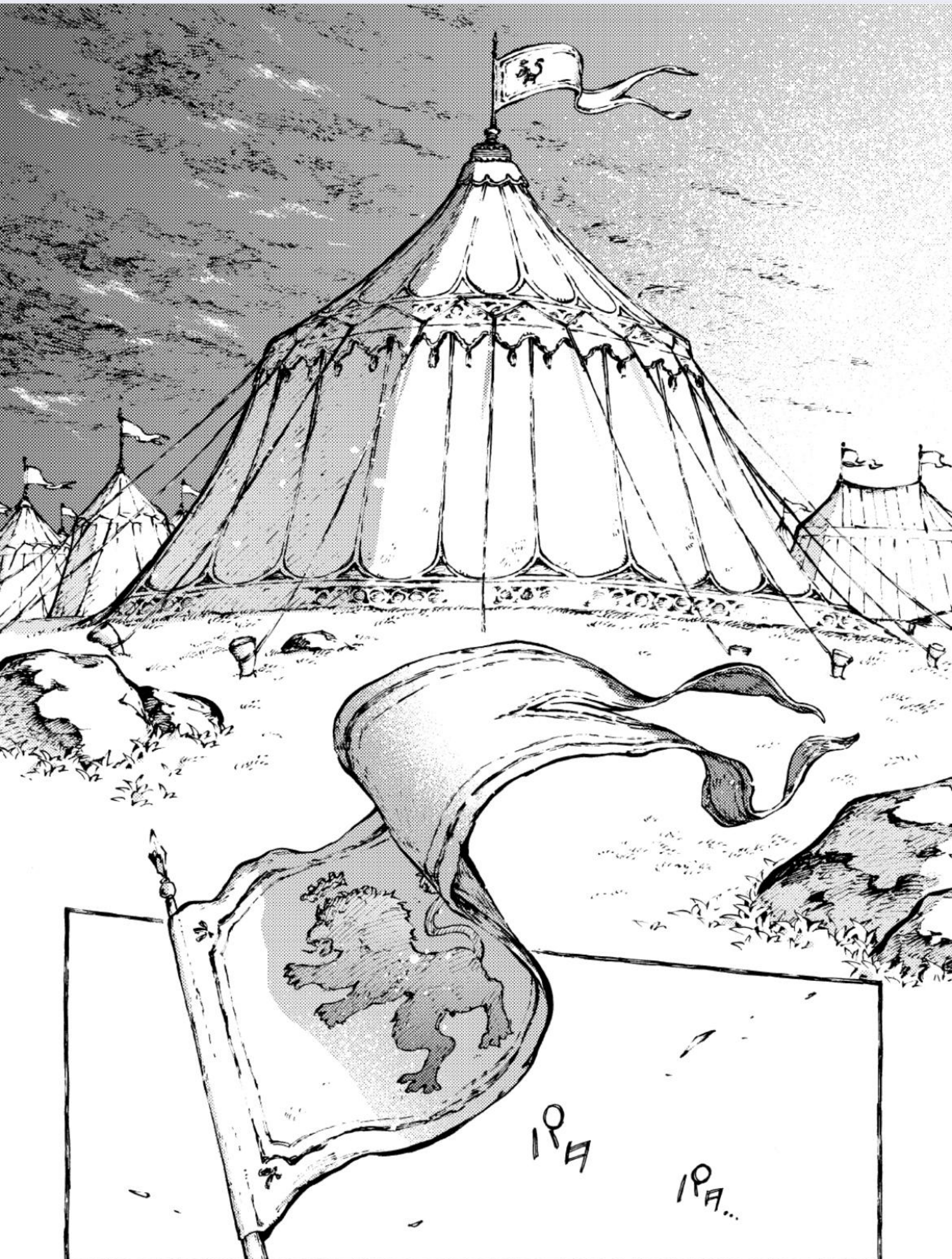


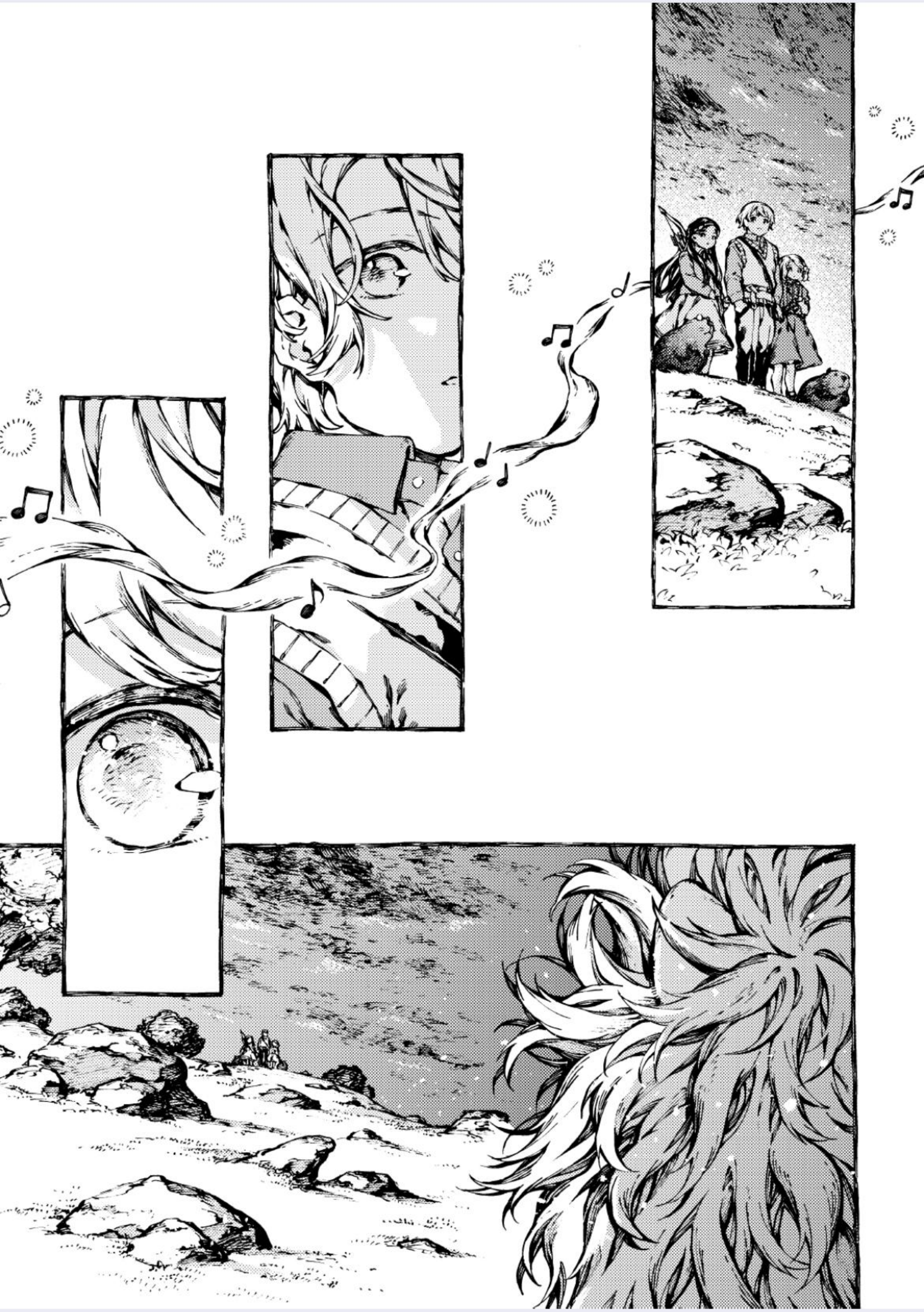



海だ！
見て！




ぴゃ
ぴゃ..


19日
19日...









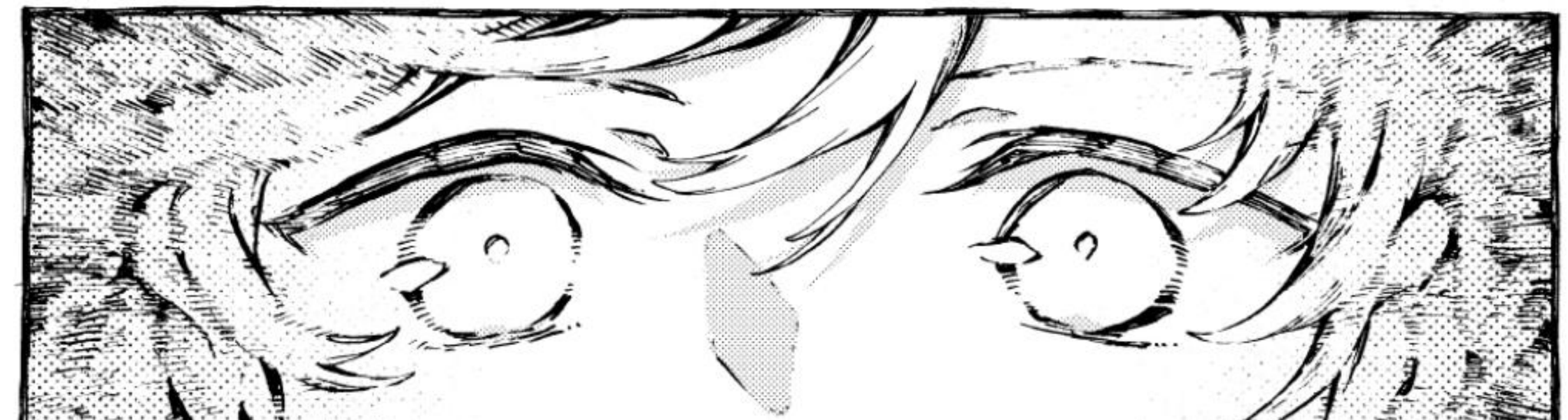




つづく

第23話　ピーターの緒戦（後編）





金色の
たてがみ…

大きく気高く
厳めしく

圧倒的な
力を持つ目…

一瞬しか
見ることが
できなかった…

ヒッ!!

前へ
お出なさい

いや
そちらから
お先にどうぞ

いいえ
アダムの
息子が
動物より
先です

スーザン

先にどうぞ?
レディ・
ファースト
で

いやよ
あんたが
いちばん
年上でしょ

ここは自分が
やるしかない…

ついてきて

みんな
近くにいてよ

参上
いたしました

アスラン

よく来た
ピーターラビット

よく来た
スーザン
ルーシー

よく来た
イヴの
娘たちよ

よく来た
ビーバー
夫妻

よく来た
アダムの
息子よ

なんて深く
豊かな
響きなの！

四人目は
どこに
いるのか？

おお
アスラン

その少年は
ここにいる三人を
裏切って
白い魔女の側に
つきました

アスラン

それは
ぼくにも責任が
あるんです

ぼくが
エドマンドに
きつく
当たったせいで

エドマンドが
まちがった方向へ
行ったんだと
思います

お願い
です
アスラン

エドマンドを
助けるために

何か
できないで
しょうか？

あらゆる
手を打とう

しかし

あなたがたが
思うより
難しいかもしれない

恐ろしい呪だわ

もしかが出てきたら

とりあえず

宴のしたくをしよう

女性の
みなさん

こちらの
イヴの娘たちを
テントに案内して

お世話を
するように

来なさい
アダムの
息子よ

ズシ…

あなたが
王となるべき
城の遠景を
見せよう



あれが
四つの王座を持つ
ケア・パラヴェルだ

見るがよい

その王座の
ひとつに

あなたは
王として就く
ことになる

いま
あの城を
見せて
いるのは

あなたが
最初に
生まれた
子であり

ほかの王たちを
統べる上級王と
なるからである



あなたの
妹の
角笛だ

ゴロゴロ…

ドドド



ピーター！

それとも
シェパード？

…なんだ？
クマ？

…いや
犬より
はるかに大きい

あれは……

カ!!
カ!!
カ!!
カ!!…

オオカミだ！

どうして
もっと上に
のぼらないの
だろう

せめてもっと
ちゃんと木に
しがみつけば
いいのに――

……いや

……腕に自信なんてないし

恐怖で吐きそうだ……

な気絶寸前なんだ！

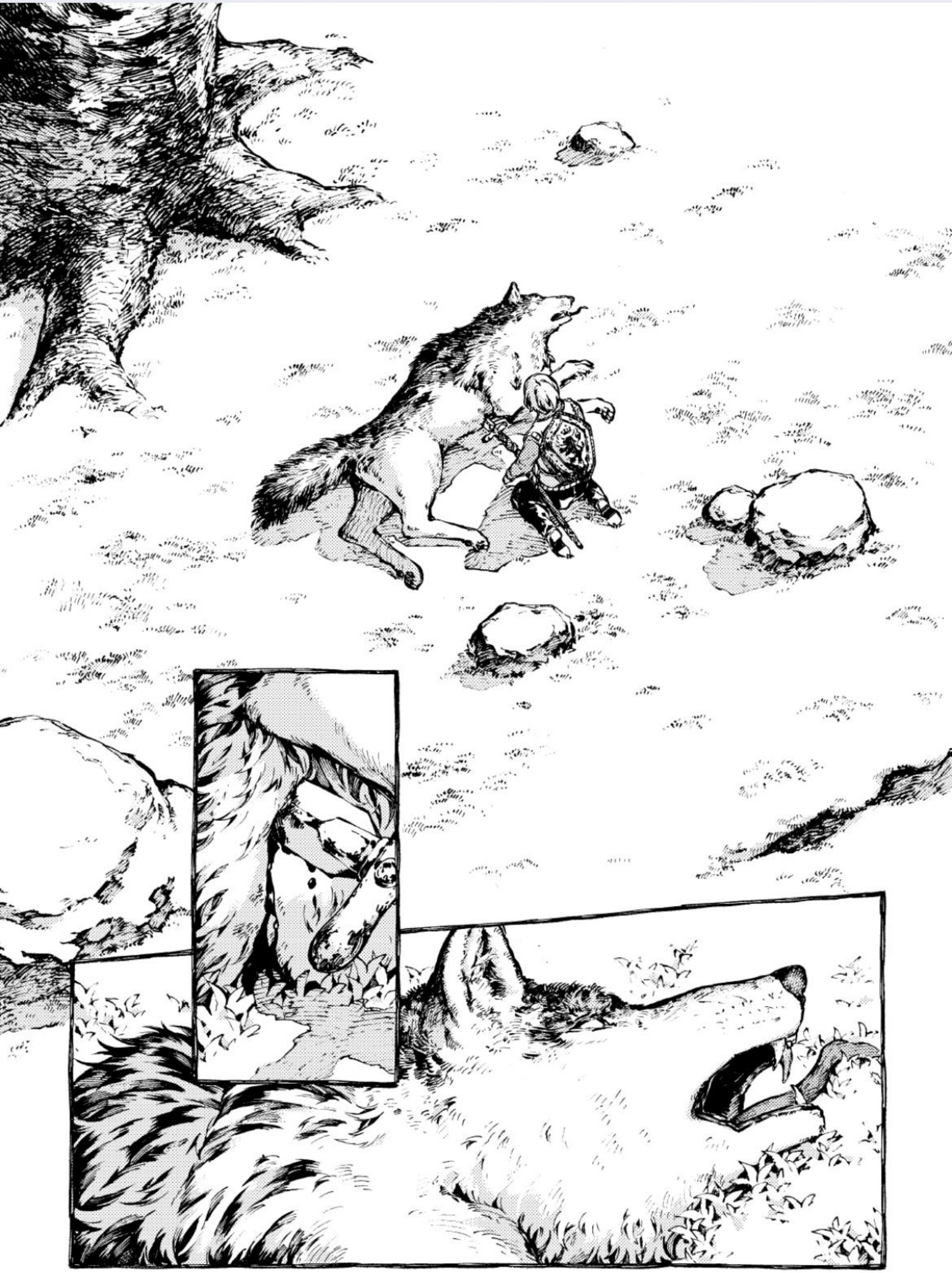
!!

……それでもいい

行くしかない……！


外した！
ガブ
いまだ…!!


ヒュ





ピーター！



急げ！
はやく！

ケンタウロスよ！

ワシよ！

もう一匹オオカミがいるやぶの中だ

そこだ
みんなの
後ろだ

いま
逃げていった
ばかりだ

あとを
追え

オオカミは
女主人のもとへ
行くにちがいない

魔女を見つけて
四番目の
アダムの息子を
救出する
チャンスだ



剣を拭うのを
忘れているぞ

ゴゴゴ

ゴゴゴ

ギュ

剣を
よこしなさい

そして
ひざまずき
なさい

立つがよい
騎士ピーター

オオカミを
たいらげし者よ

何があろうとも

剣を拭うことを

忘れてはならぬ

つづく



第24話　いにしえの魔法（前編）





…このまま
寝かせて
おいて
もらえるなら

先が
どうなろうと
かまわない……

——いいえ

もう
手遅れです
女王様

むこうは
いまごろ
〈石舞台〉に
着いている
はずです

おそらく
オオカミどもが
われらの居場所を
嗅ぎあてて
知らせを
もたらすであろう

だとしたら
良い知らせでは
ありませんで
しょうな

ケア・パラヴェルには
王座が四つある

そのうち
三つだけに
王が就いたら

どうなる？

それでは予言が
成就せぬであろう

そのことに
何のちがいが
ありましょう？

そう長くは
居すわるまい

あやつが
すでにここに
いる以上……

いなくなったあとで

ケア・パラヴェルの三人を始末すればよいこと

それでも

こいつを

…！

生かして
おくほうが
得策かも
しれません

取り引きの
材料として

ふん
やつらに
取り返されるのが
関の山じゃ

ニヤ…

でしたらば

やるべきことを
さっさとやって
しまったほうが
よろしいかと

できることなら
〈石舞台〉で
やりたかった
ものじゃ

〈石舞台〉
こそ
ふさわしい
場所

これまで
いつもあの場所で
やったものであった

〈石舞台〉が
ふたたび
ふさわしい目的に
使えるように
なるのは
長い先のこと
でしょう

そうじゃの

よし

それでは
始めよう

見ました！

連中は全員
〈石舞台〉に
集まっております

ドッ

あやつめも

モーグリム隊長が
殺されました

オレは
やぶの中に
隠れていて

ぜんぶ
見ました

アダムの
息子の一人が
隊長を
殺したんです

逃げて
ください！
逃げて
ください！

いや
逃げる
必要はない

すぐに
行け

わが軍勢を全員
この場所へ
呼び集めるのじゃ

一刻の猶予も
ならぬ

巨人を呼べ

人狼と

わが配下にある
木の精霊どもを
呼べ

※1
食屍鬼を

怨霊を

人食い鬼を

※2
ミノタウロスを
呼べ

※1：墓をあばいて死体を食う悪霊。
※2：ギリシア神話に登場する牛頭人身の怪物。

悪鬼(あっき)を

鬼婆(おにばば)を

物(もの)の怪(け)を

毒キノコの精(せい)を
呼び集めよ

戦うのだ

恐れるな

わらわには
魔法の杖が
あるではないか

連中など
攻めてくる前に
片っ端から
石に変えて
くれるわ

すぐに行け

わらわは
ここで済まさねば
ならぬことがある

ポン

ムダ

さて！

台が
ないから——

…どうするか

木の幹に
はりつけるのが
よかろう



…ん…

…なんて
おそろしく
白い腕
なんだ……！

いけにえの
準備をせよ

ドクン!!

ドクン

ドクン

ドクン

…なんだ?

この音……

聞き慣れない

この音は……

ドクン

ナイフを
研ぐ音だ





ドッ!!

横に
寝かせて

ワインを
飲ませろ

チャー

さ
これを飲んで

ドラゴン

しし
しっかり
して

もう
だいじょうぶ
だからな

誰か
魔女を
つかまえたか？

おまえが
つかまえたんじゃ
ないのか？

いや
握ってた
ナイフを
たたきおとした
あと
姿を
見ていない

おれは
ドワーフを
つかまえようと
してたから

なに
魔女が
逃げたって？

あれもこれも
いっぺんには
無理だよ

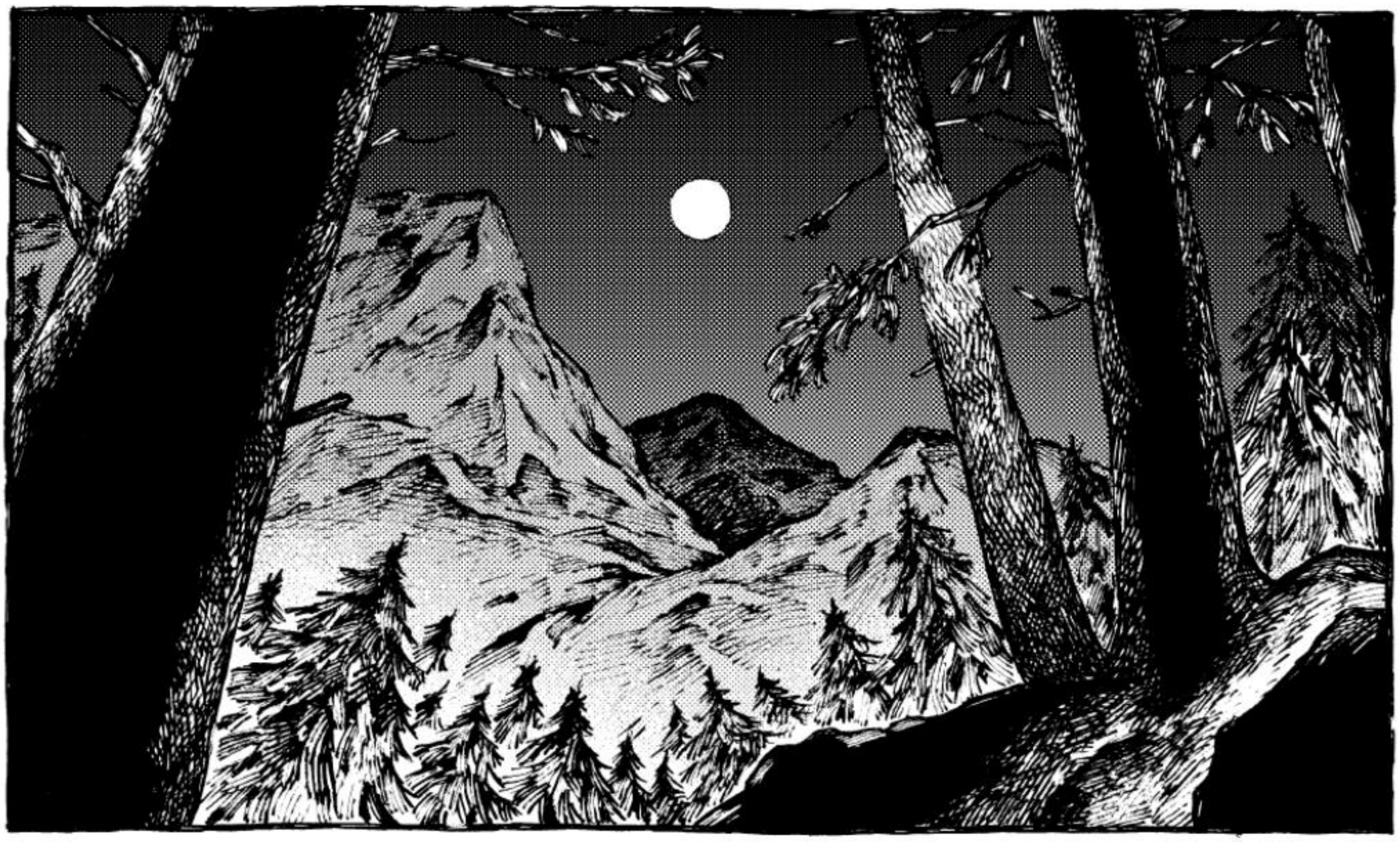
――ありゃ
何だ？

あ
悪い

ただの
古い切り株
だった！















つづく

第25話　いにしえの魔法（後編）

ナナ…

ナナナ…

ス

ス

ス

ヒュ

ヒュ

ヒュ

ハナビ

みなさん

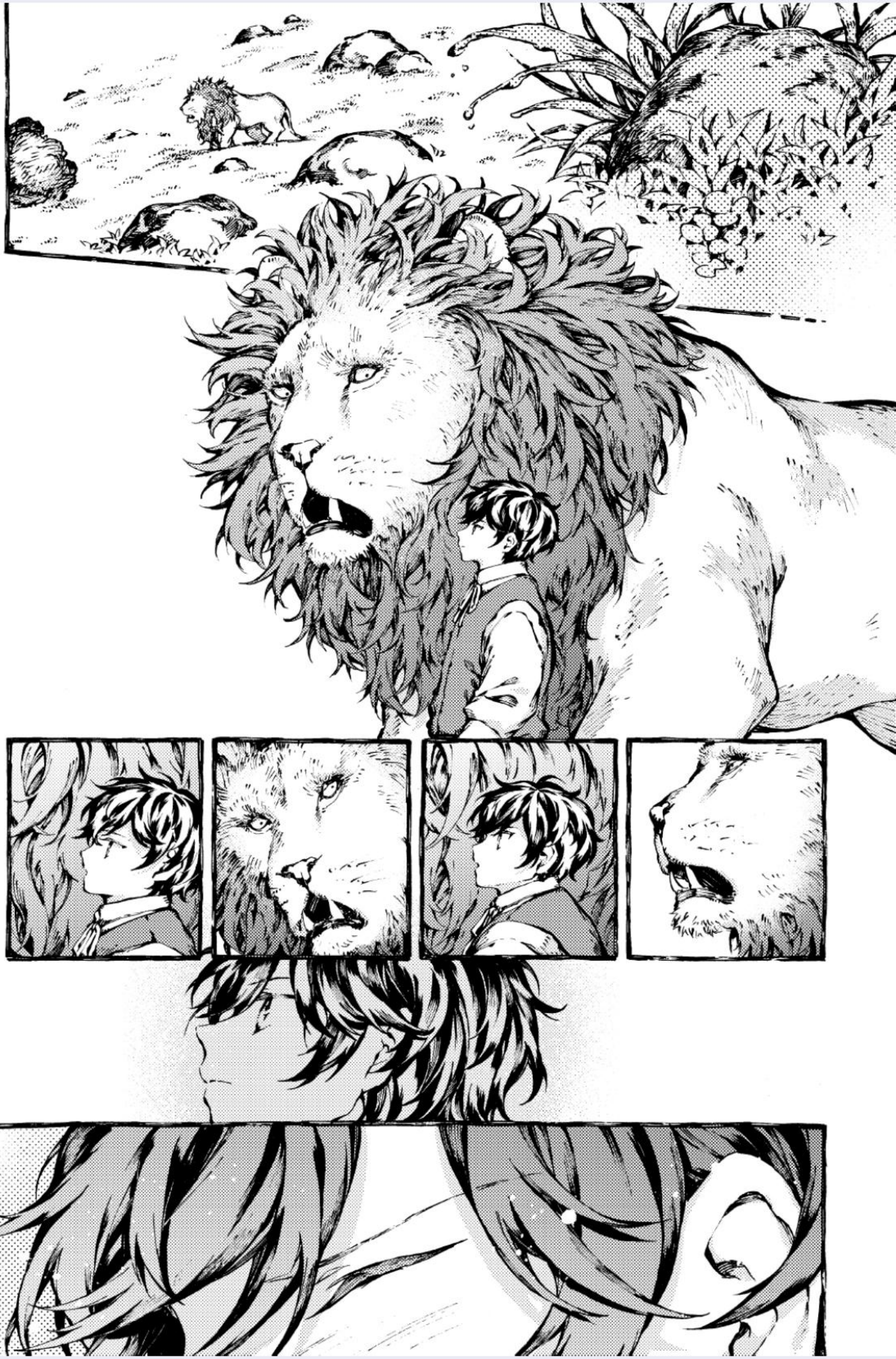
ガッ

エドマンドが…！









あなたがたの
きょうだいだ

過ぎたことを
話す必要はない

ごめんね

いいんだよ

ごめんね

いいのよ

ごめん

いいよ

トン

アスラン

敵より使者がまいりまして

謁見を求めております

通しなさい

使者の口上は何か

地の息子よ？

ナルニアの女王にして離れ島諸島の女帝であらせられるジェイディス陛下は

陛下とアスラン閣下の双方にとっておおいに有益なる案件について二者で会談するため安全通行権をお望みでおられます

ナルニアの
女王だとさ！

よくも
まあ
ぬけぬけと——

黙り
なさい

ビーバー

すべての
称号は
遠からずして

しかるべき
持ち主に
もどることに
なろう

それまでは
とがめだてる
益もない

息地の
息子よ

主人に
伝えるがよい

あのオークの
大木のもとに
魔法の杖を
置いてくるので
あれば

彼らが
ドワーフに
同行して

約束が正しく
守られるかどうか
確かめるそうだ

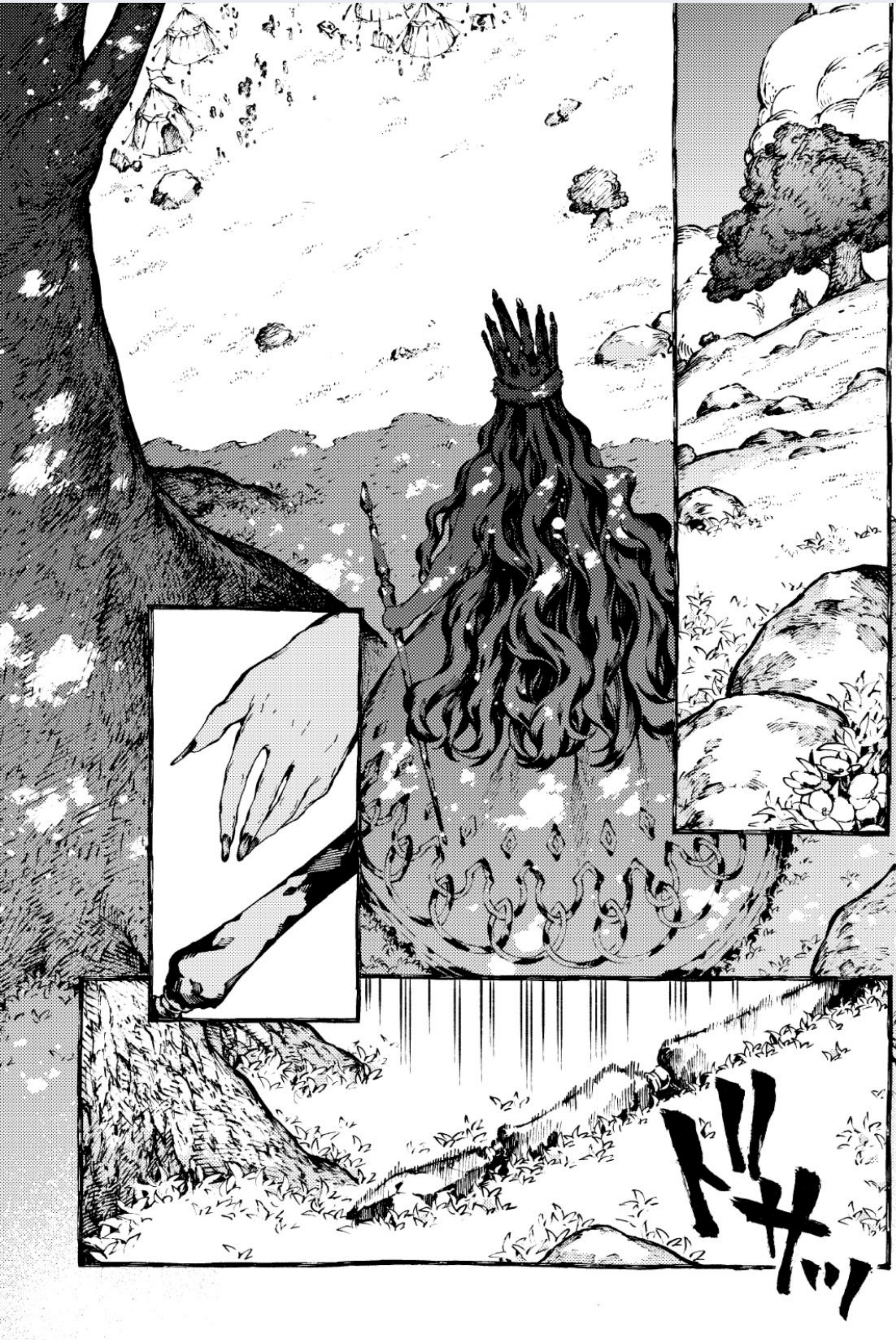
安全な通行を
保証しよう

でも
もし魔女が
あのヒョウたちを
石に変えちゃったら
どうするの？

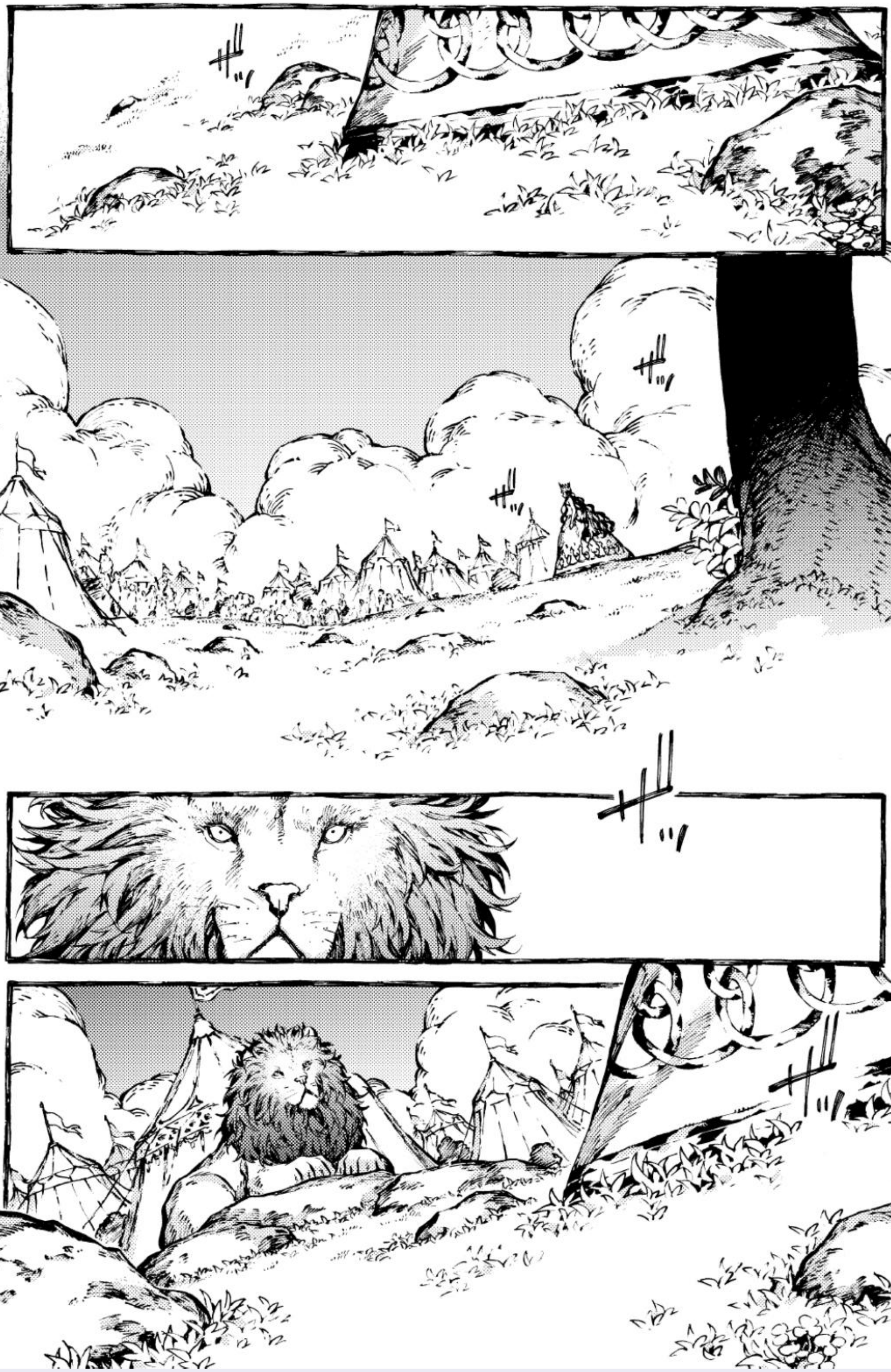
だいじょうぶ
だよ

もし
だいじょうぶで
なかったら
アスランが
行かせるはず
ないもの










ウウウ…
ワ〃〃〃…

…あの女

平気な顔を
しているけれど

アスランの目を
まっすぐ
見ていないわ

そこに
裏切り者が
おるではないか

アスラン

そうかな

この者は
あなたに対して
罪を働いた
わけではない

〈いにしえの
魔法〉を
忘れたのか？

どうかな

忘れて
しまったかも
しれない

その
〈いにしえの
魔法〉とやらに
ついて

教えて
もらおうか

ピクッ

教えるだと？

すぐそこにある
〈石舞台〉に
刻んである文言を
説明せよと
言うのか？

〈秘密の丘〉の
火打ち石に
槍よりも深く
刻まれた文言を
説明せよと
言うのか？

大海原のかなたの
大帝が持つ※王笏に
刻まれておる文言を
説明せよと
言うのか？

※王権の象徴として王が手に持つ杖のこと。

ナルニアの
誕生に際して
大帝が配した
魔法のことわりは
承知して
おろう

裏切り者は
ことごとく
わらわの手に落ち

わらわの
正当なるえじきと
なるのであり

すべての
裏切り者に対して
わらわが
その命を奪う権利を
握っておるのじゃ

ほう

それで
あんたは自分が
女王だなんて
思いこんでるんだな

――大帝の
死刑執行人を
請け負ってるから

なるほど

黙りなさい
ビーバー

したがって
そこにおる人間は
わらわのものじゃ

そいつの命は
わらわの手に
落ちたのじゃ

そいつの
血は

わらわの
ものじゃ

つっ

そんなら
取りに
来るがいい

おまえの主人が
力ずくでわらわの
正当なる権利を
奪い取れるなどと

本気で考えて
おるのか？

愚か者め

おまえの主人は
〈いにしえの魔法〉を
知らぬほどの
愚か者ではない

わらわが
法の定めによって
血のいけにえを
手にせぬかぎり

そのとおりだ

ナルニア全土が
くつがえり

火と水のうちに
滅亡するであろう
ことぐらい

承知の
はずじゃ

それは
否定しない

おお
アスラン！

そんな
――
…うそ
でしょう？

その
〈いにしえの
魔法〉に
ついて

何か打つ手は
ないのですか？

〈いにしえの
魔法〉を
打ち砕く方法は
ないのですか？

大帝の魔法を打ち砕く

……と？

……息が
詰まりそうに
苦しい…

ギュ…

何か
言うべきなの
だろうか……

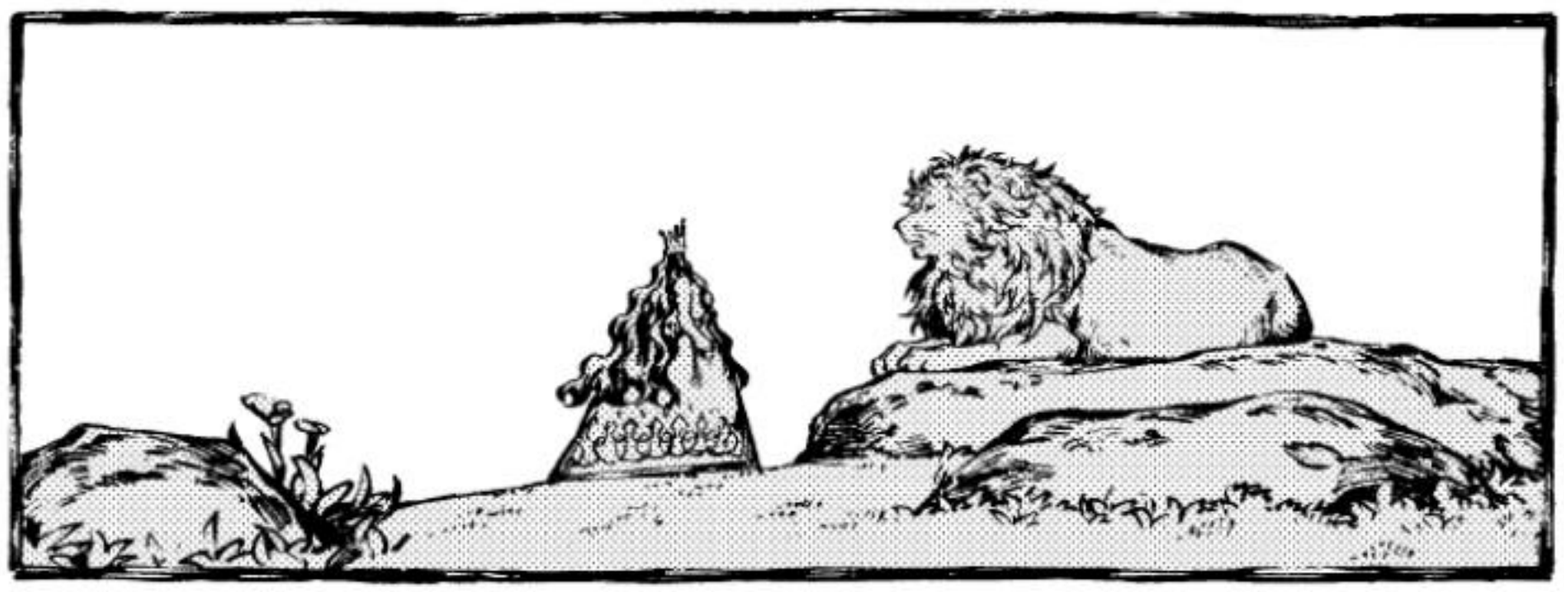
……いや

自分には
なりゆきを
見守ることしか
できないのだ

そして
言われたように
動くしか
ないのだ

みんな
下がって
くれ

この者と
二人きりで
話をしたい



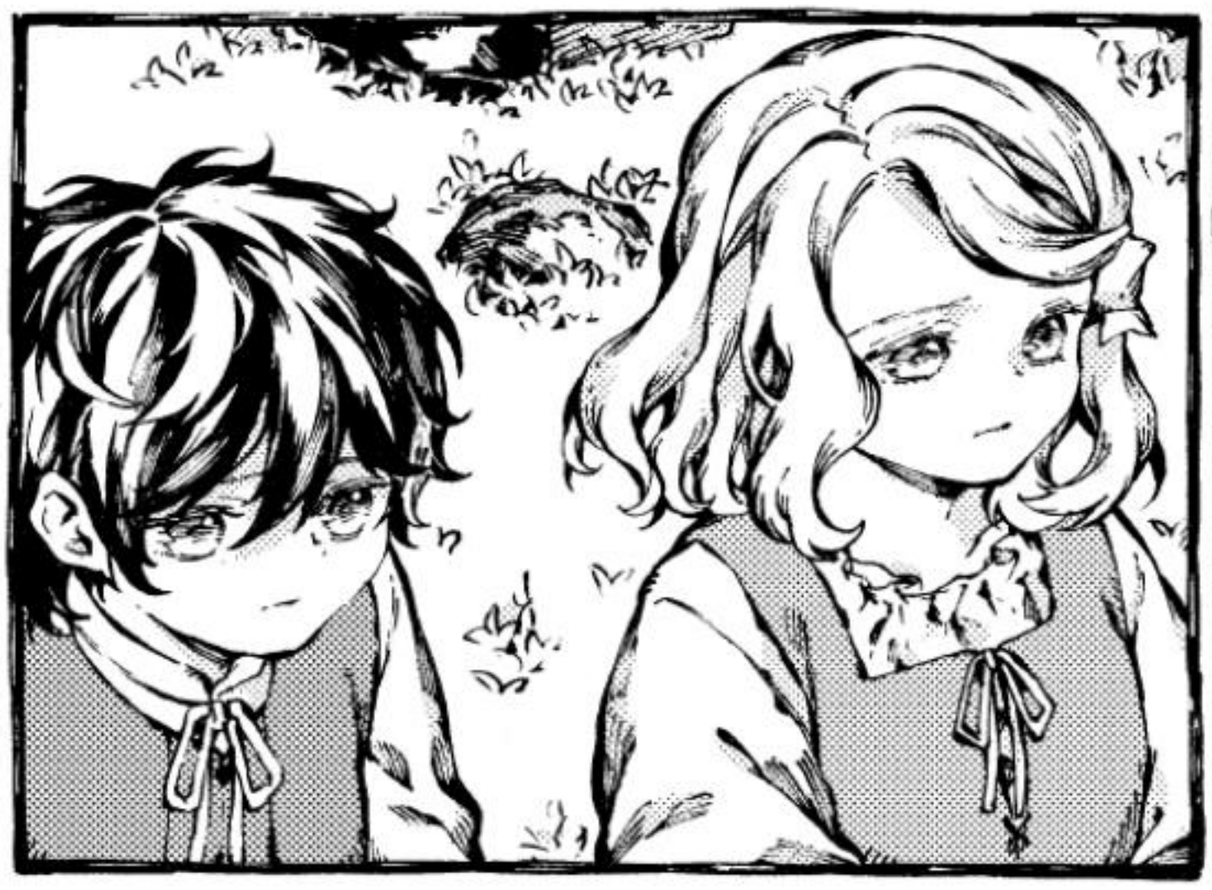








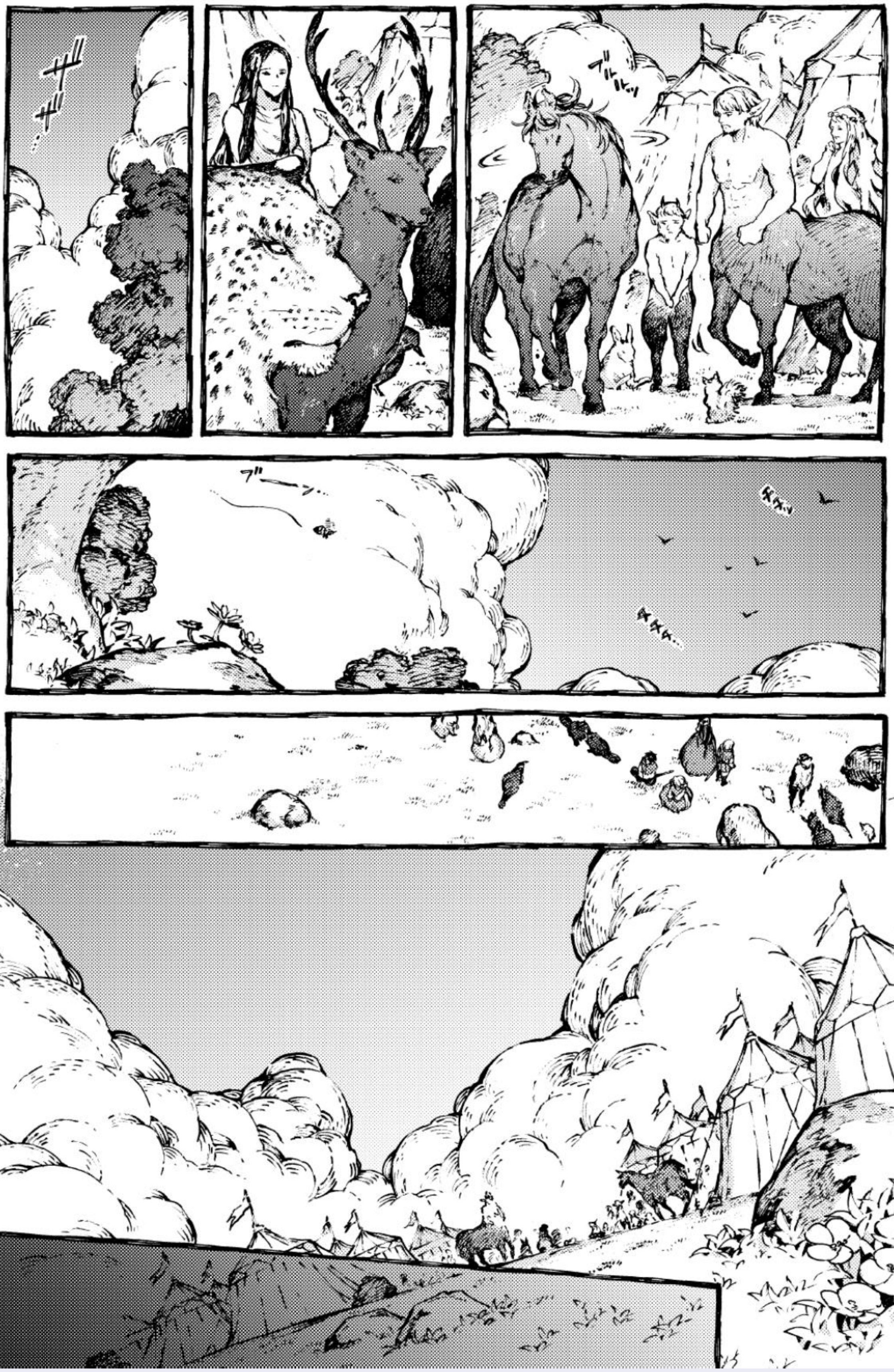




メリー!!

ああ

エドマンド!



みんな

もどってきて
よろしい

話が
ついた

この者は

エドマンドの血を
要求する権利を
放棄した



この約束が
まちがいなく
守られるという
保証はあるのか？




はっ
かん…
ぐぅ…
つづく

第26話　魔女の勝利（前編）

ただちにこの場所から移動せねばならない

この場所は
ほかの目的に
使われることに
なった

今夜は
ベルーナの
渡り場で
野営する

アスランと魔女のあいだでどのように話がまとまったのかじら……

聞いてみたいけれど

でも……



——この地での
用件が
終わりしだい

魔女の軍勢は
おそらく
館にもどり

そこに
立てこもる
だろう

魔女たちが
館に帰り着く前に
行く手を
阻むことが
できるかどうか

どちらとも
言いかねるが——

二通りの
作戦がある

一つは
森で
魔女の軍勢と
戦う展開

もう一つは
魔女の館を
攻める展開だ

ケンタウロスの配置は――

魔女が――

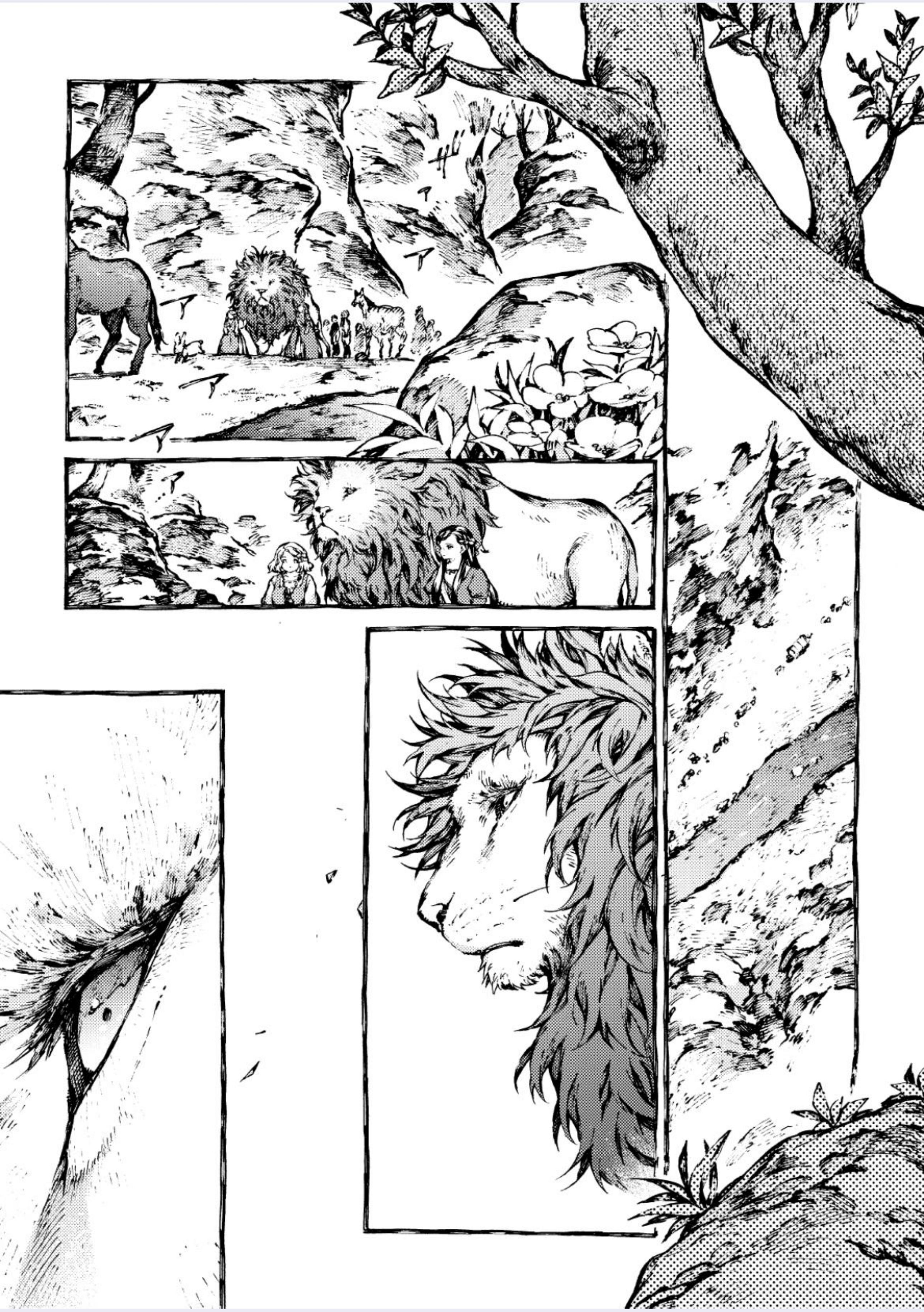
※斥候（せっこう）を放って見張っておくことが大切だ

※敵の状況などを探る兵士

…でも戦いのあいだ

アスランもその場にいらっしゃるのでしょう？

それを
約束することは
できない



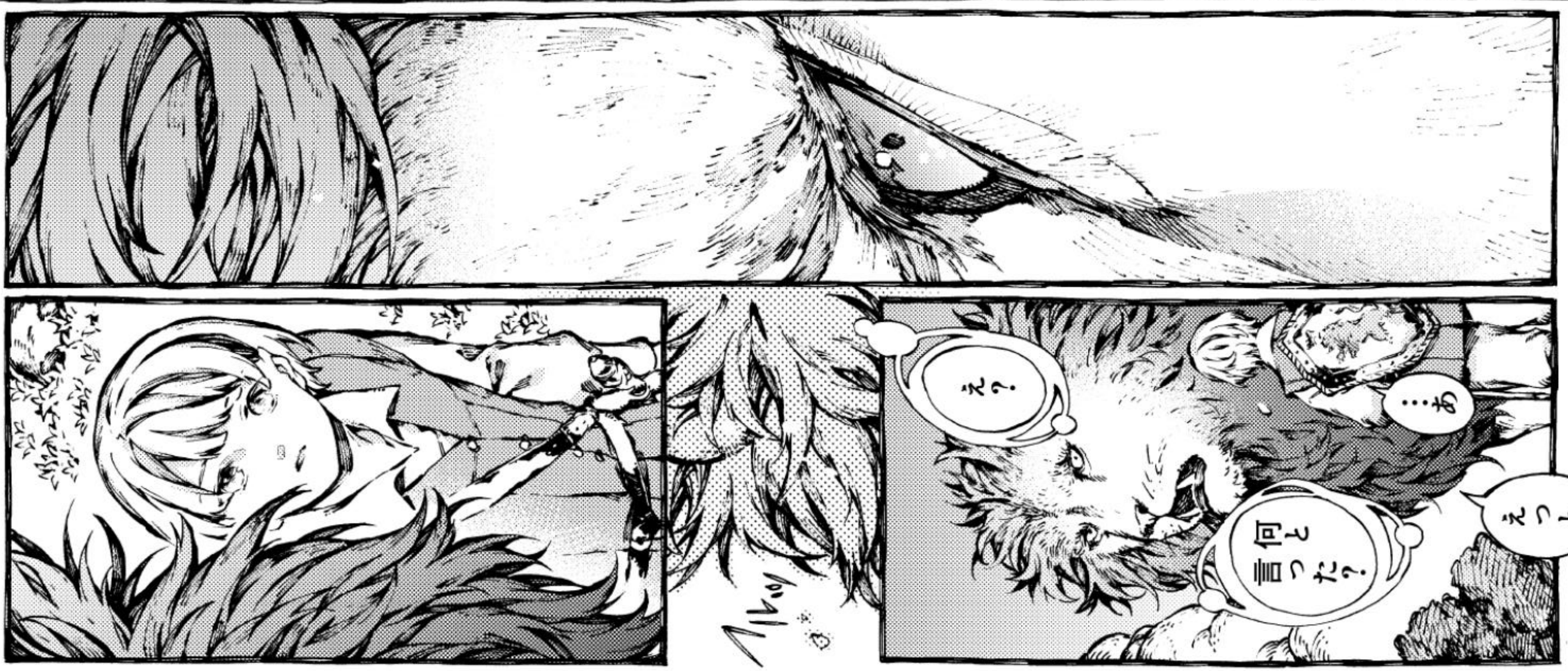
全軍

停止せよ

川のむこう側で
野営するほうが
よいのでは
ありませんか？

魔女が
夜襲してきた
場合などに
そなえて？




ん…
何この匂い？
えっ

魔女が
夜襲してきた
場合などに
そなえて

川のむこう側で
野営するほうが
よいのでは
ありませんか？

いや

今夜のうちに
襲ってくることは
ないだろう

とはいえ
よく
考えた

戦う者は
そのように頭を
働かせなければ
ならぬ

しかし

その点については
さほど気にする
必要はない


カーン
カーン
カーン
カーン
カン
カン
カ

アスランが
戦いの場に
いてくれないかも
しれないなんて……


ﾋｭｰ…
自分ひとりを
頼りに
戦わなければ
ならないのか…？

カチャ

カチャ

……まるで

始まったばかりの
良き時代が
すでに終わりに
近づいているかの
ようだわ


ヒツジが
一匹…
ヒツジが
二匹……
ヒツジが
三匹……
モゾ…

7

コロン

眠れないの？

うん

お姉ちゃんは眠ったのかと思ってた

ねえ

スーザン！

何？

——何か

悪いことが迫っているような……

そうなの？

わたし

すごくいやな予感がするの

じつは

わたしも同じような気がしてたの

アスランのこと
なんだけど

何かすごく
恐ろしいことが
アスランに
起きようとして
いるか

でなければ

何かすごく
恐ろしいことを
アスランが
しようとして
いるか

きょうの
午後

アスランは
ずっと
変だったわよね

…ねえ

ルーシー

戦いのあいだ
アスランが
いっしょに
いられないかも
しれないって

どういう
意味だと
思う？

今夜のうちに
こっそりどこかへ
消えちゃう
なんてこと

…ないわよね？

いま
どこに
いるのかしら

このテントの中？

じゃないと
思う

ねえ
スーザン

外に出て
探して
みようよ

どこかにいるかもしれないわ

そうね

探しにいったほうが……

ここで眠れないまま横になってるくらいなら

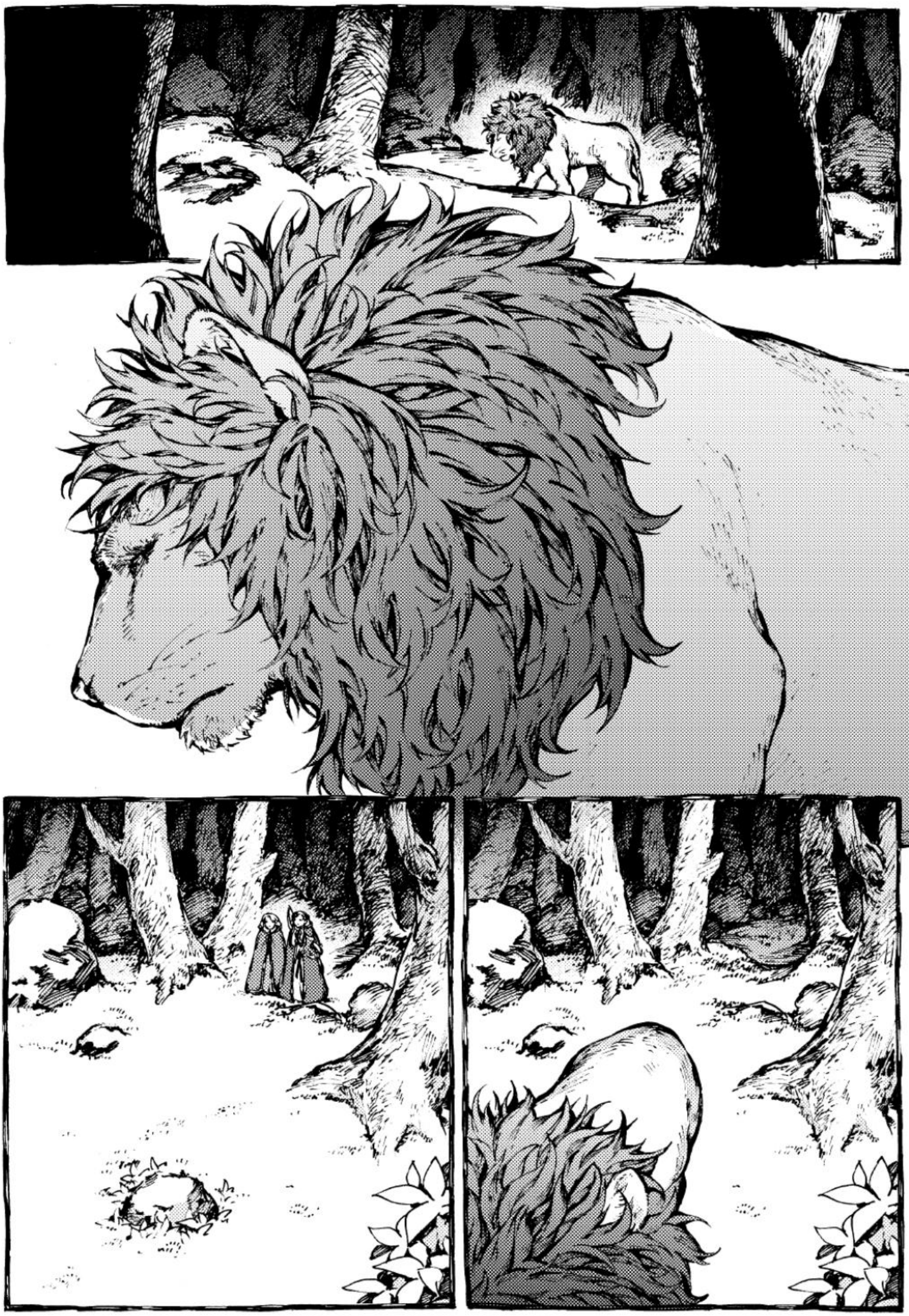
ズズズ


ヒュン
ヒュン
ヒュン
見て
あそこ！

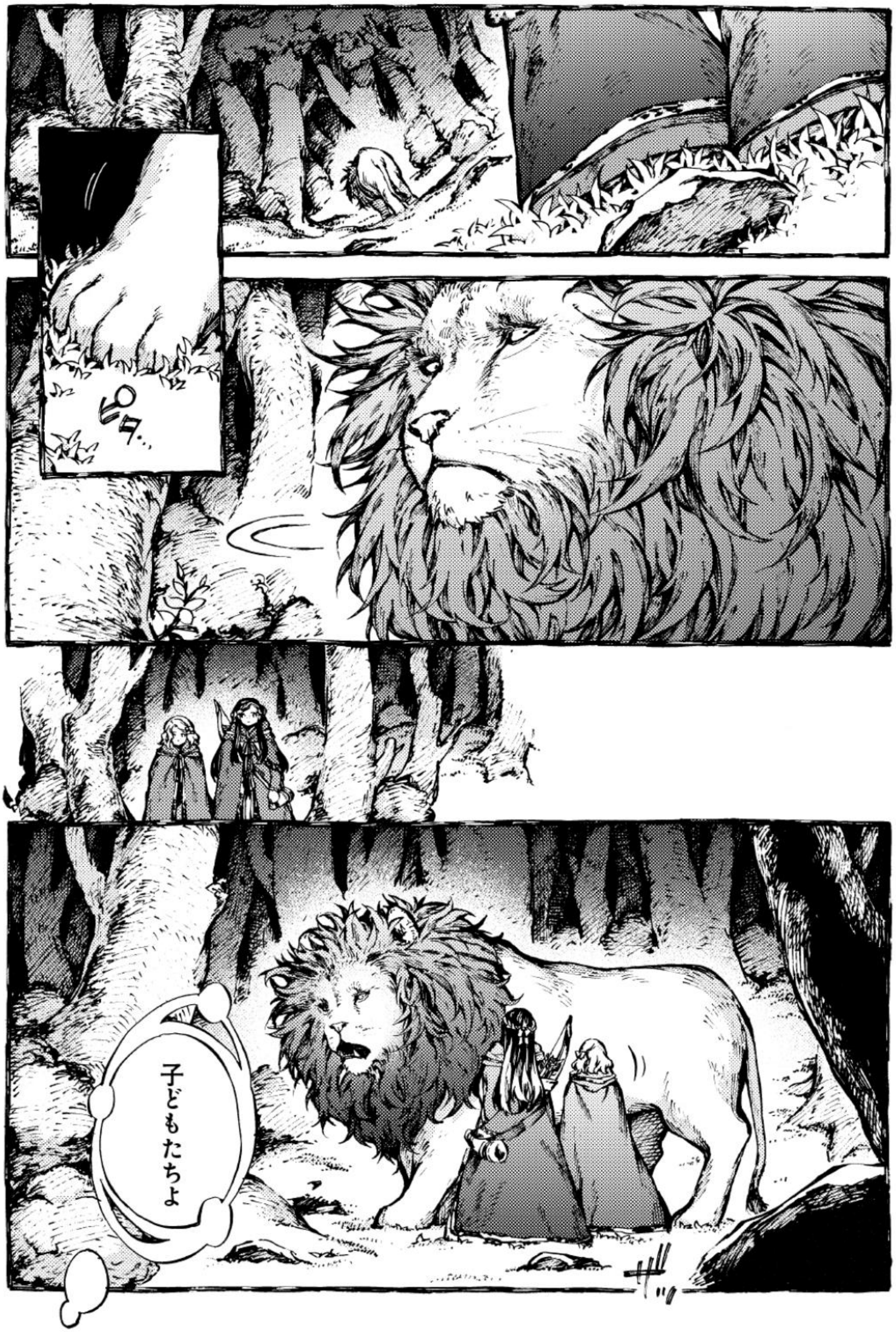


つづく

第27話　魔女の勝利（後編）






ピク
子どもたちよ

おお
子どもたちよ

なぜ
わたしのあとを
ついてくるのか？

眠れなかった
のです

お願いです
わたしたちも
いっしょに
行っては
いけませんか？

アスランが
行かれる
ところへ？

そうだな

今夜は
連れがいて
くれたほうが
うれしい

よろしい
ついて
来なさい

ただし
わたしが
ここでと
言ったときには
あなたがたは
そこにとどまり
そこから先は
わたし一人で
行かせてくれると
約束しなければ
ならない

ありがとう

ありがとう
ございます
約束します

アスラン！

ガウッ…

アスラン！

どうしたのですか？

おっしゃってください

ぐあいが悪いのですかアスラン？

いやそうではない

わたしは悲しく心細いのだ

あなたがたの手をわたしのたてがみに添えてくれないだろうか

あなたがたがそばにいると感じられるように

そのようにして
歩いていこう

おお

子どもたちよ

子どもたちよ

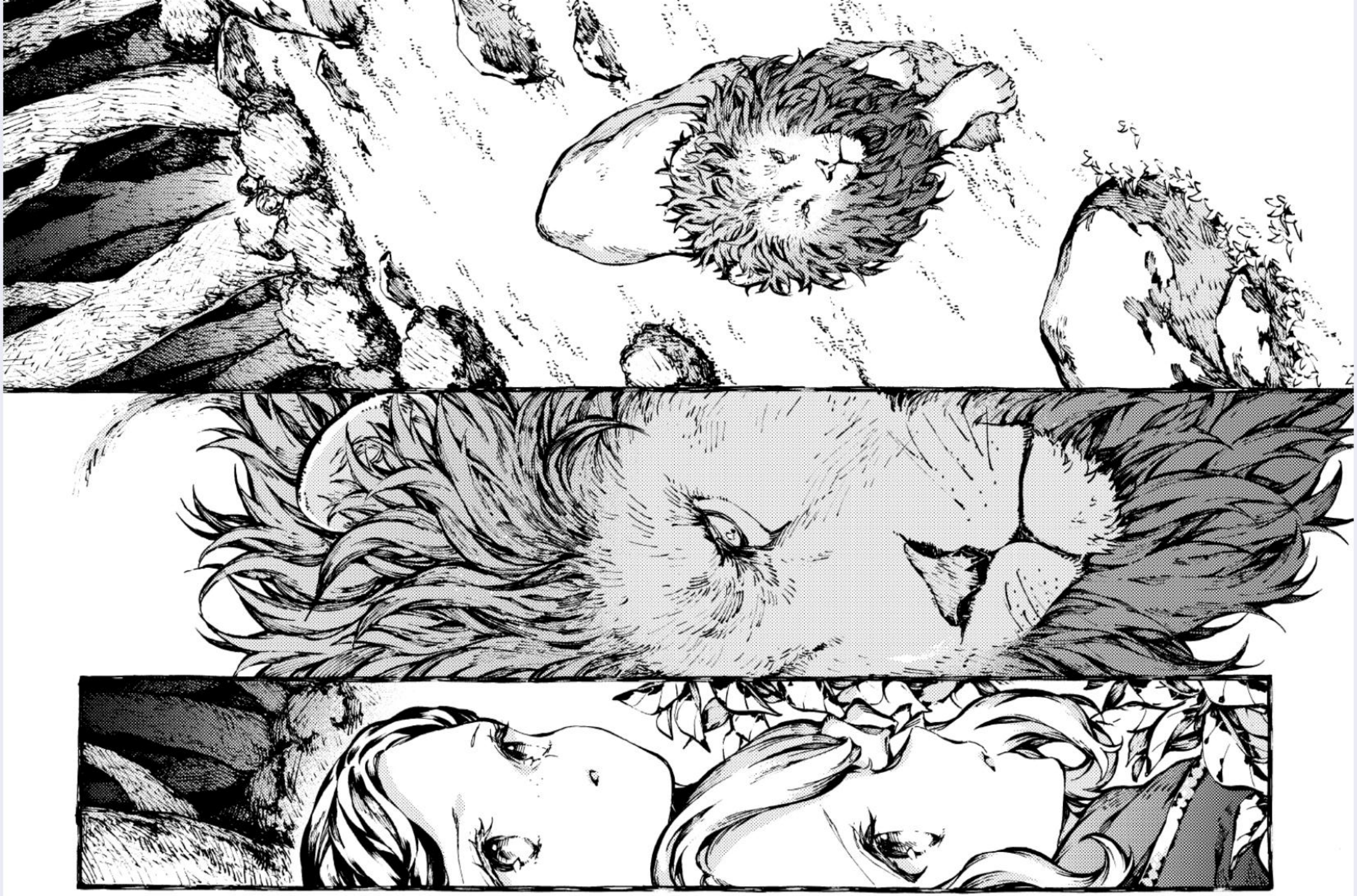

あなたがたは
ここで止まらなくては
ならぬ
そして
何が
起ころうとも
姿を
見せては
ならない

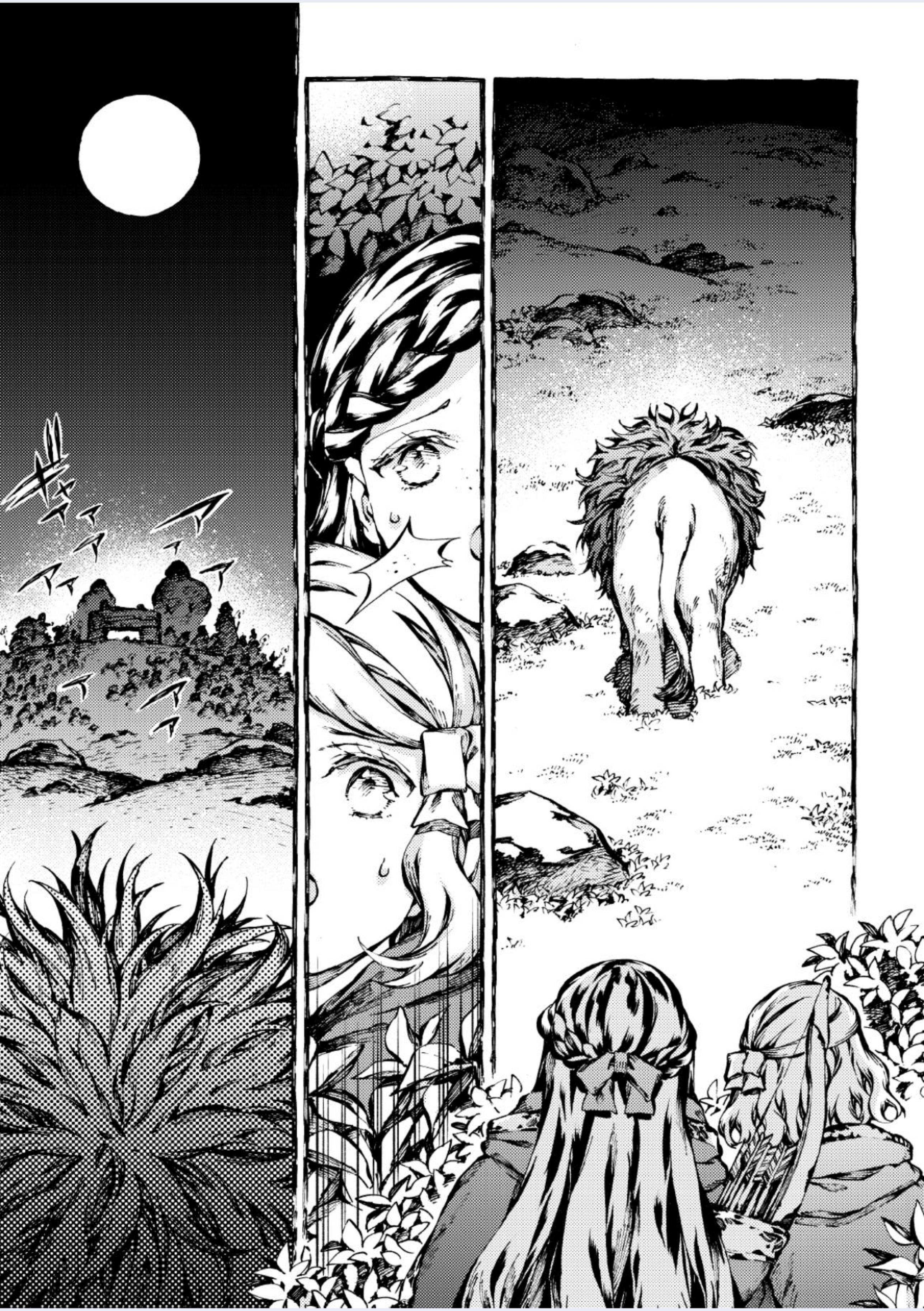

さらばだ
いざ







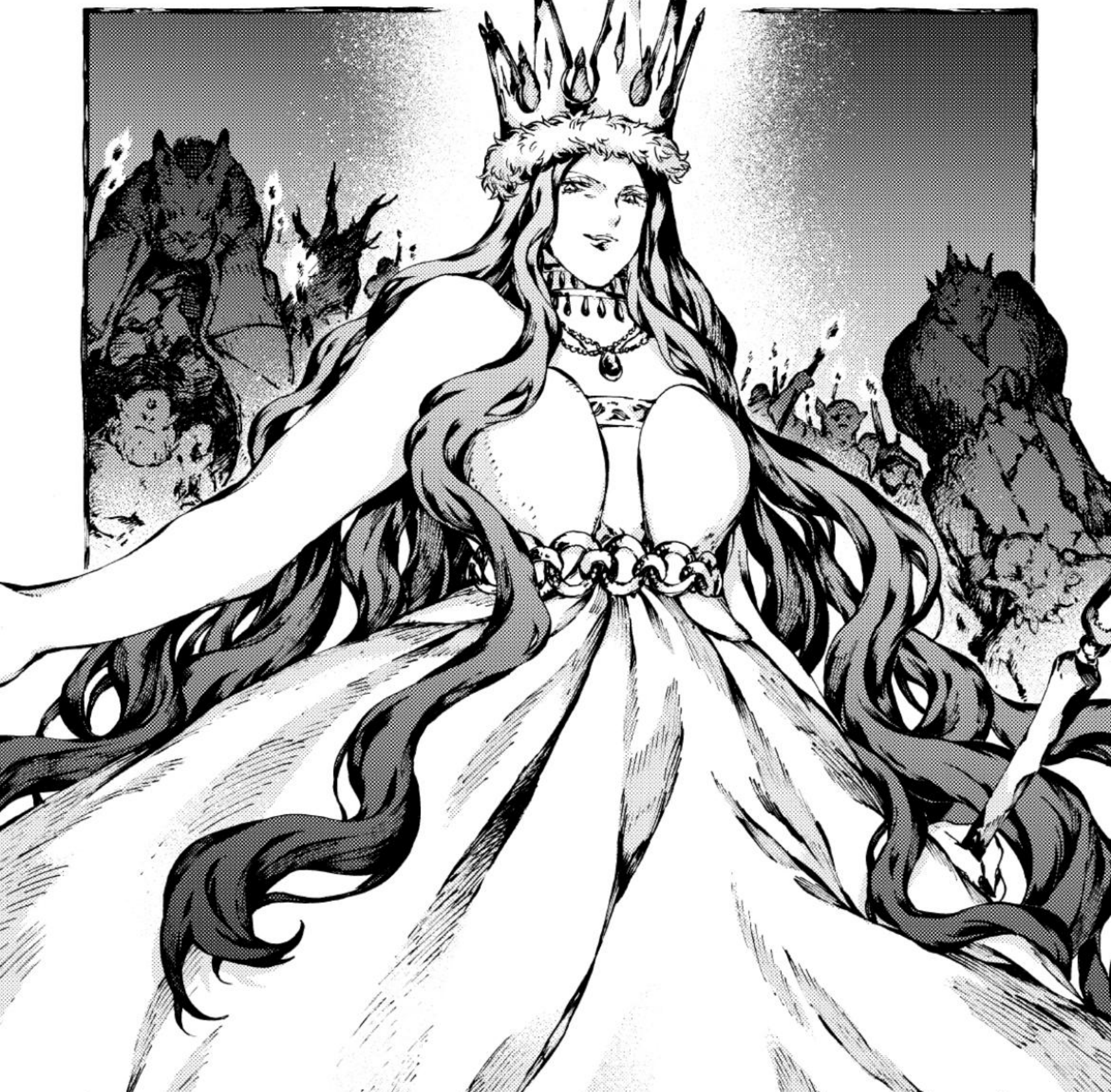






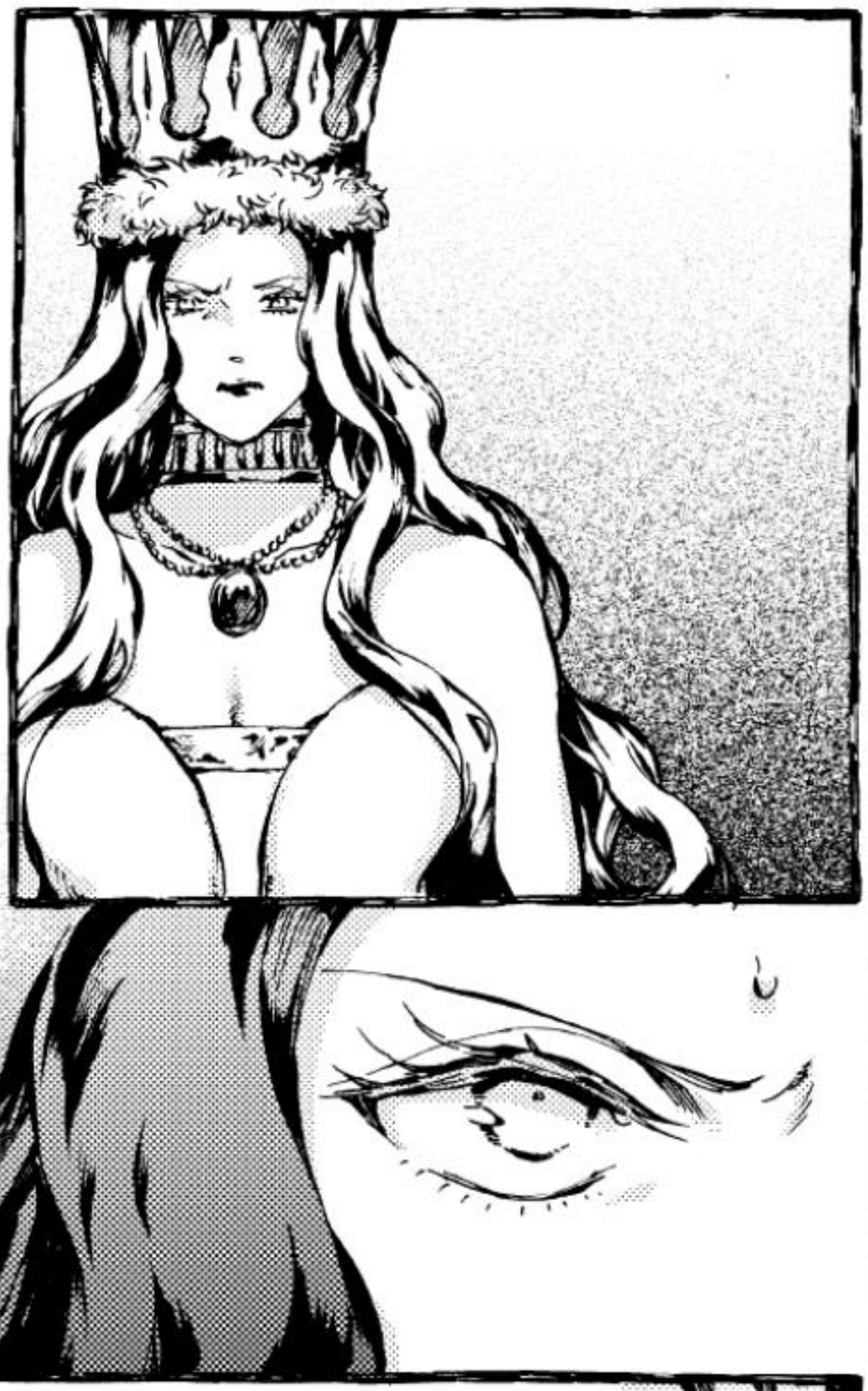







ガバッ


ヤ





縛りあげよ

愚か者め！

愚か者がやってきおったぞ！

スッ

ドン!!

縄をかけろと
申して
おるのじゃ！


ドン
ドン
ドン
ゴゴゴ…
ドン
ドン





ズル

ズル

待て！

先に毛を
刈ってしまえ

ズロロ

ズル



けだものだわ！

あいつらは けだものよ！

口輪をかけよ！

ガキィ





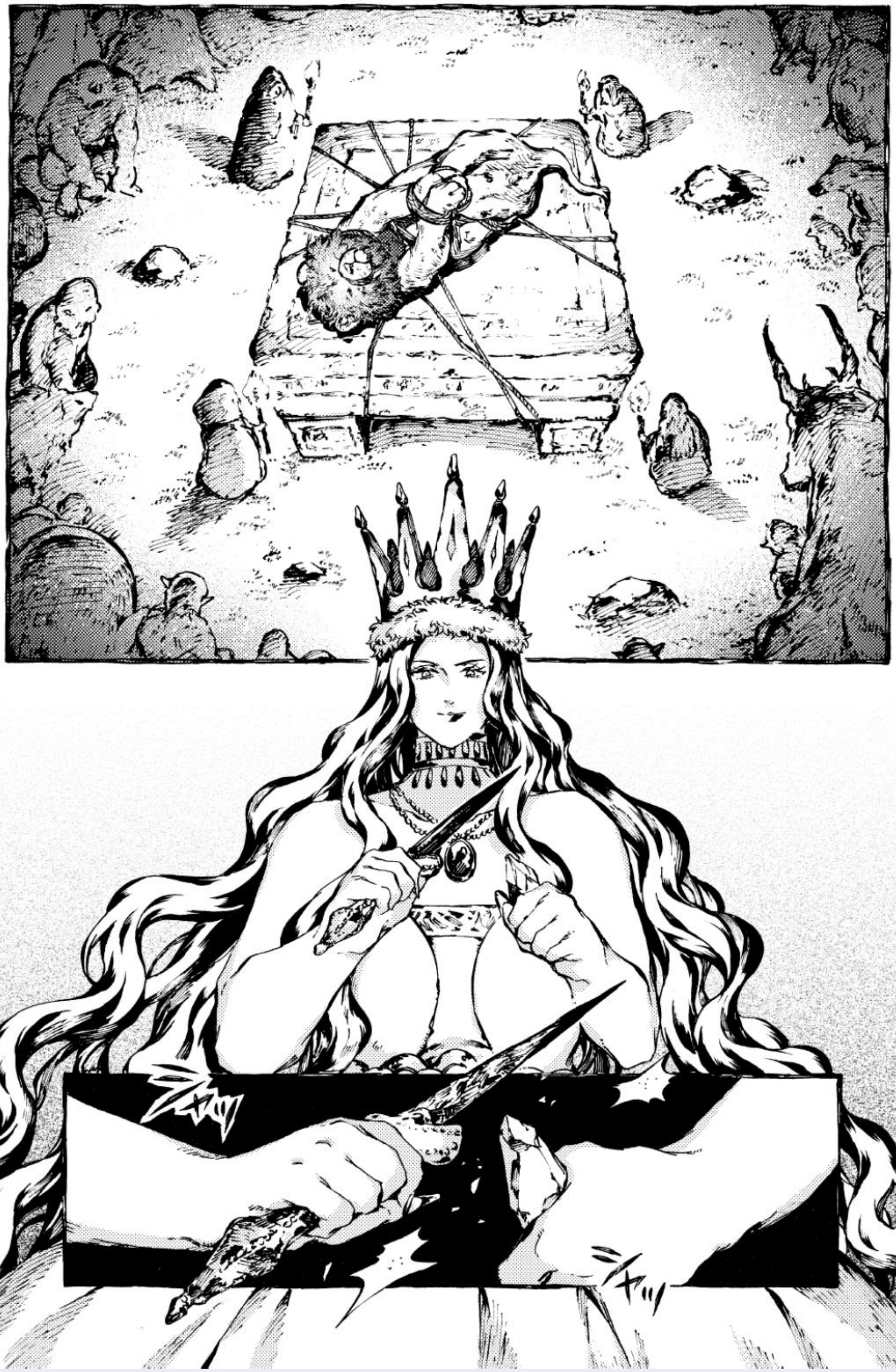
弱虫！

意気地なし！

あんなに
したあとでも

まだ
アスランが
怖いの？


ドキ
ドキ
ドキ
ドキ
ドキ…



さあ
どうだ

どちらが
勝った？

ﾄﾝ

愚か者め

こんなことで
あの裏切り者の
小童を救えると
思ったのか？

これから
われらの
あいだの
申し合わせに
従って

あの小童の
かわりに
おまえを殺し

それによって
〈いにしえの魔法〉が
成就する

だが
おまえが
死んだあと

わらわが
あの小童を
殺すことを
誰がさまたげ
られよう？

おまえ
亡きあと

誰があの小童を
わらわの手から
救い出せると
いうのだ？

聞け

ナルニアは
永久に
わが手に落ちた

お前は
自らの命を
失い

しかも
あの小童の命も
救えなんだ

それを
思い知れ

そして

絶望のうちに
死ぬがよい


つづく

第28話　いにしえよりも古い魔法（前編）



いぎっ！

みなの者

続わらわに続け！

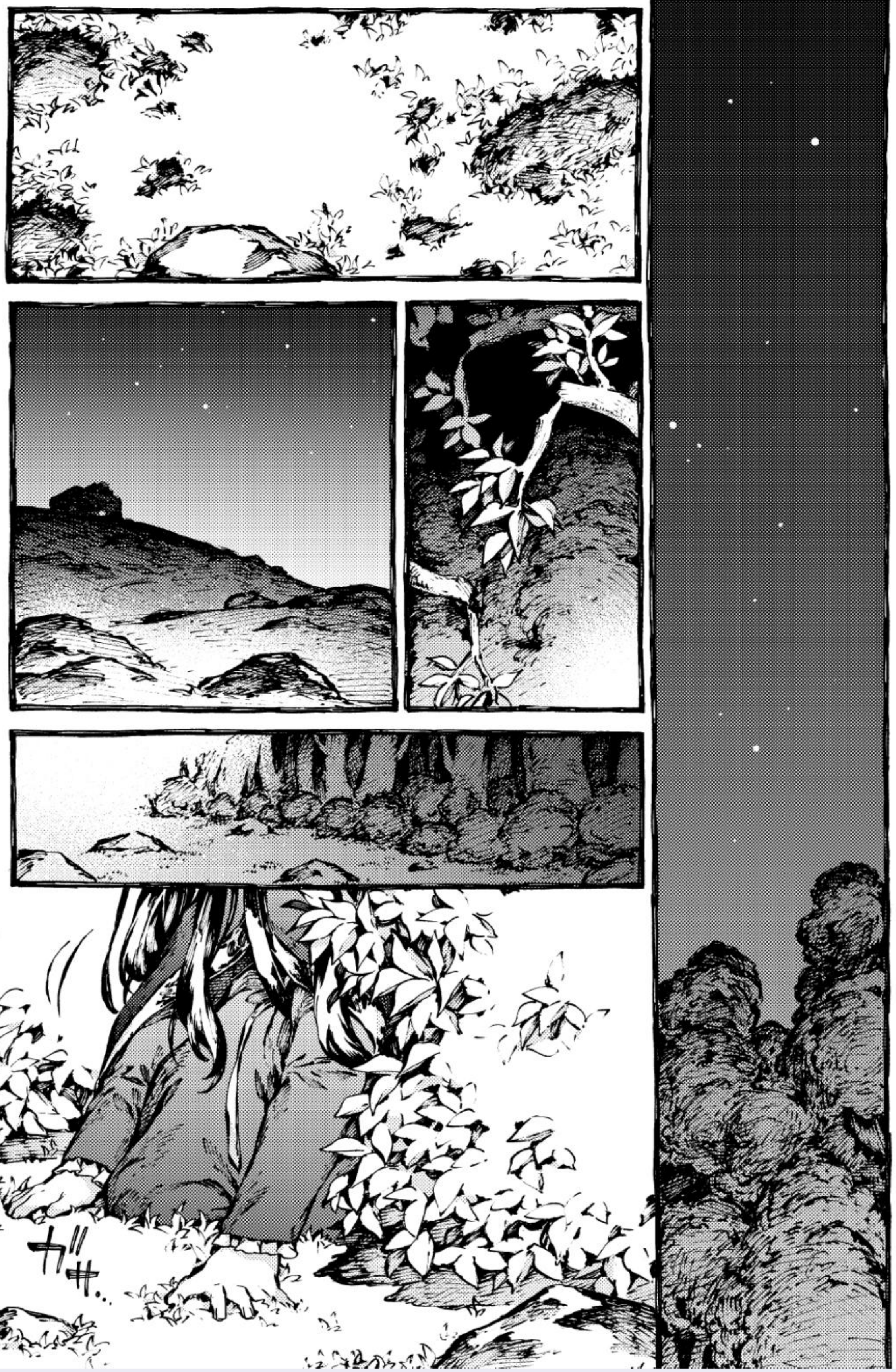
残りの戦に片をつけるぞ！

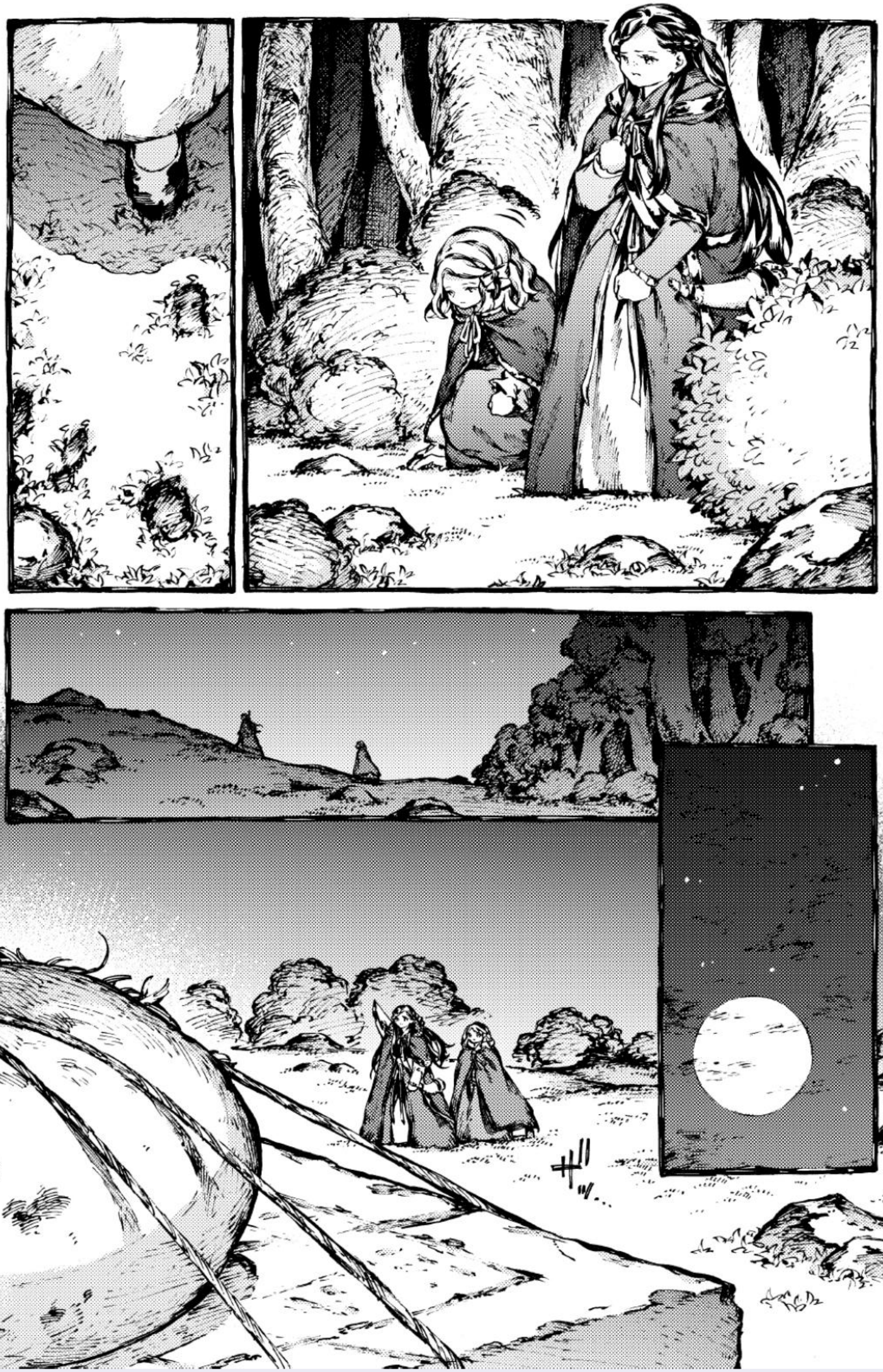
この大馬鹿者のネコが死んだからには

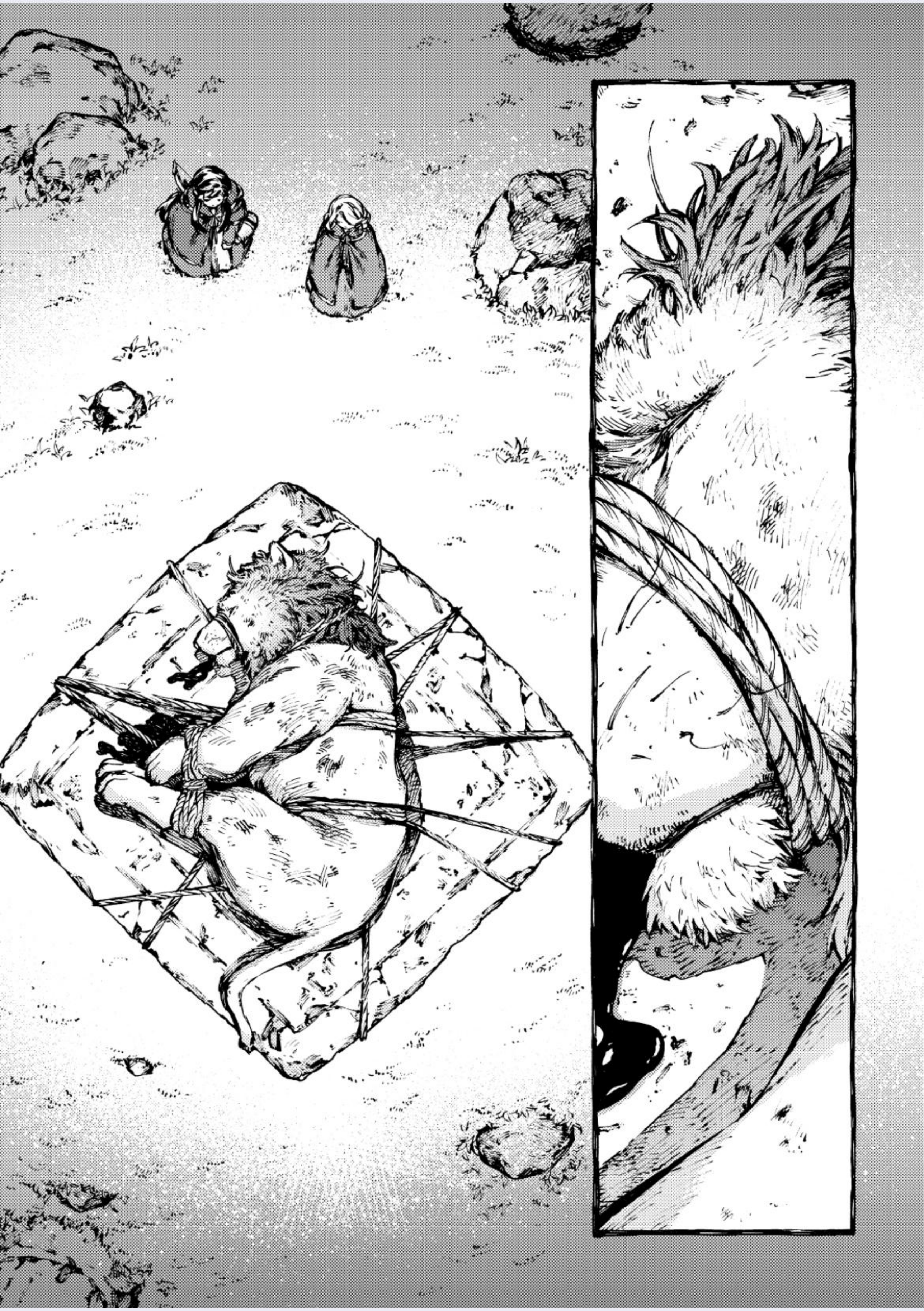
人間どもや
裏切り者どもを
ひ、ねりつぶすのも
造作なかろう！

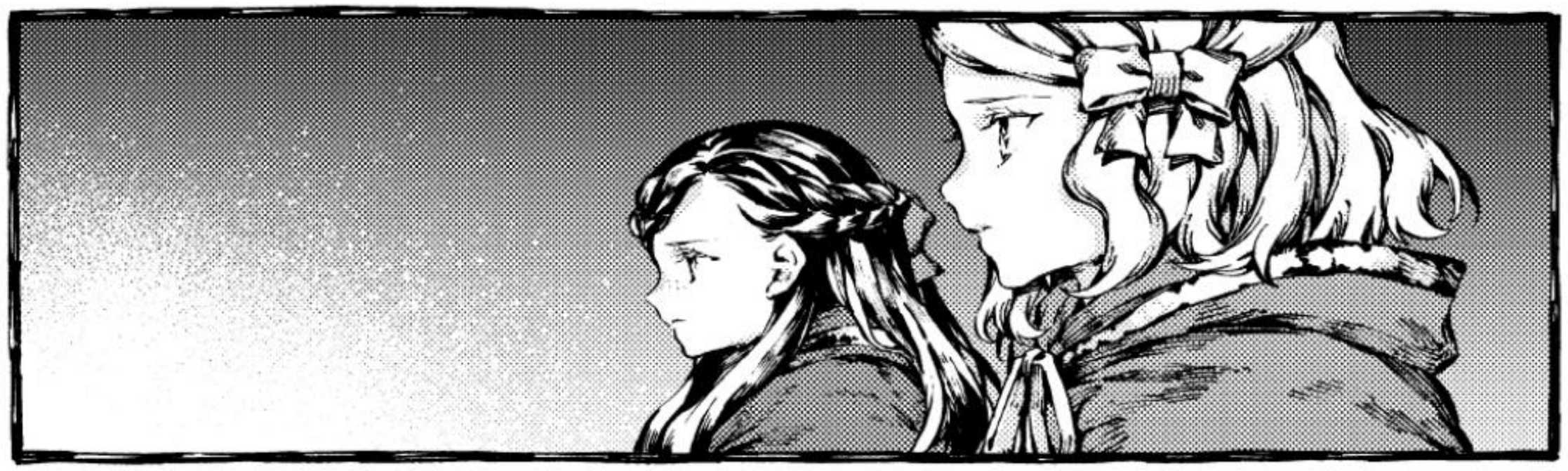
ドドド

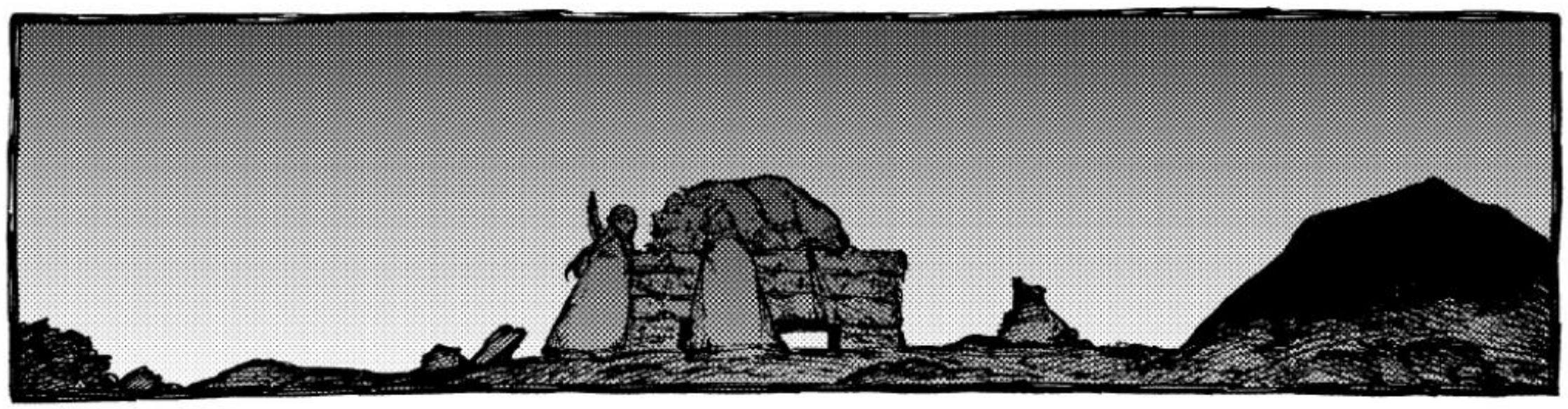
















こんな口輪をはめられて

かわいそうに

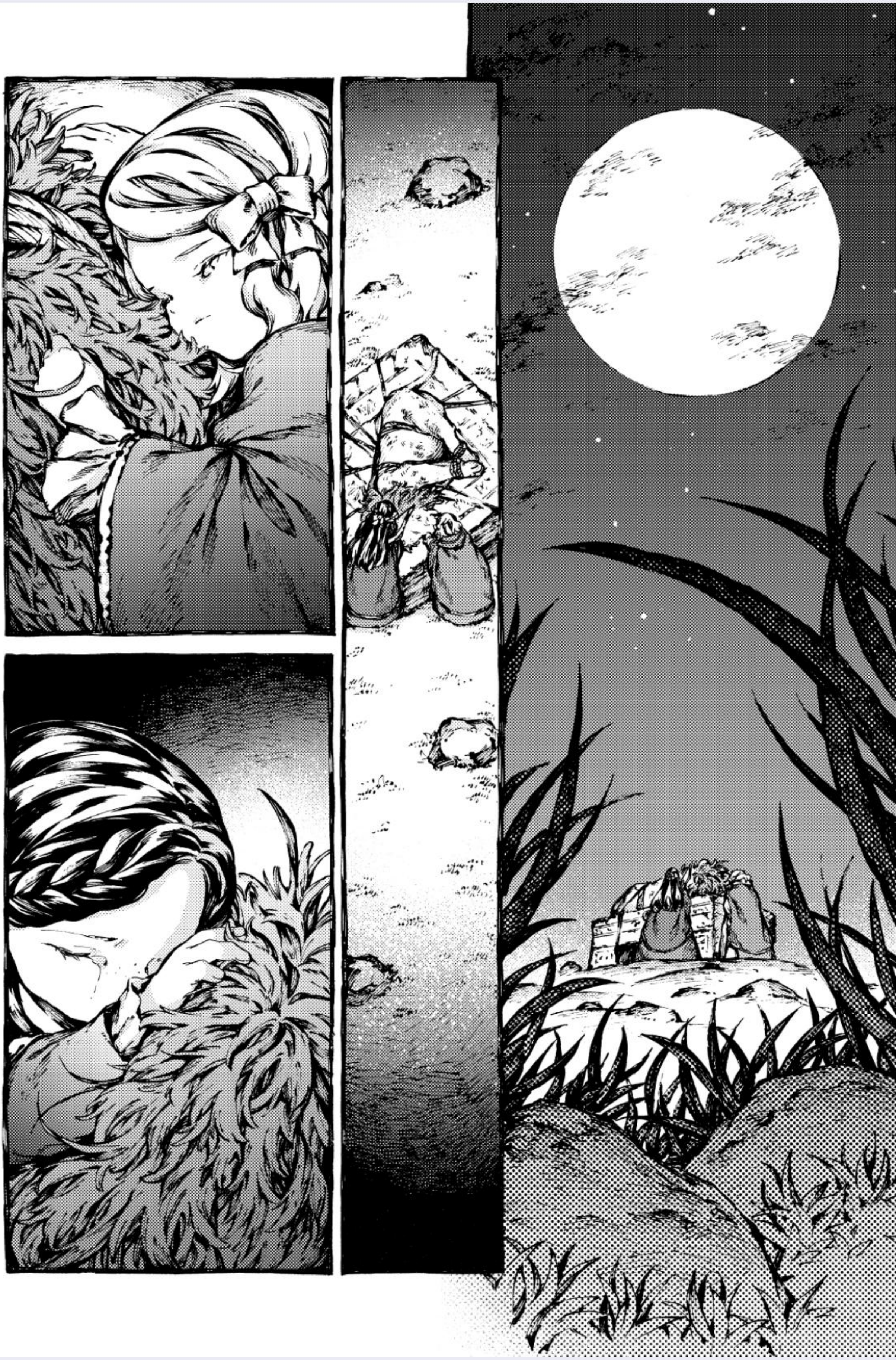
とても見ていられないわ

はずせないかしら？



からだに
かかっている縄も
はずせない
かしら？

…わたしたちの力ではどうにもならないわ



東の空が
一時間前ほど
真っ暗では
なくなってきたわ

……

…どうでもいいわ

カッ

カッ

いまさら

何が

どうなろうと

かまわないわ…

千千

げっ！

チチッ

なんて
やつらなの！

アスランの上を
ネズミが
這いまわってる

ヮ

こらっ

あっち行け！

待って！

ネズミが
何をしようと
してるか

わかる？

ワワワ

ワワワ

これって

もしかして
――？

ワワワ

信じられない！

わたしもそう思ったの

ネズミが縄を噛み切ろうとしてるわ！

ガジガジ

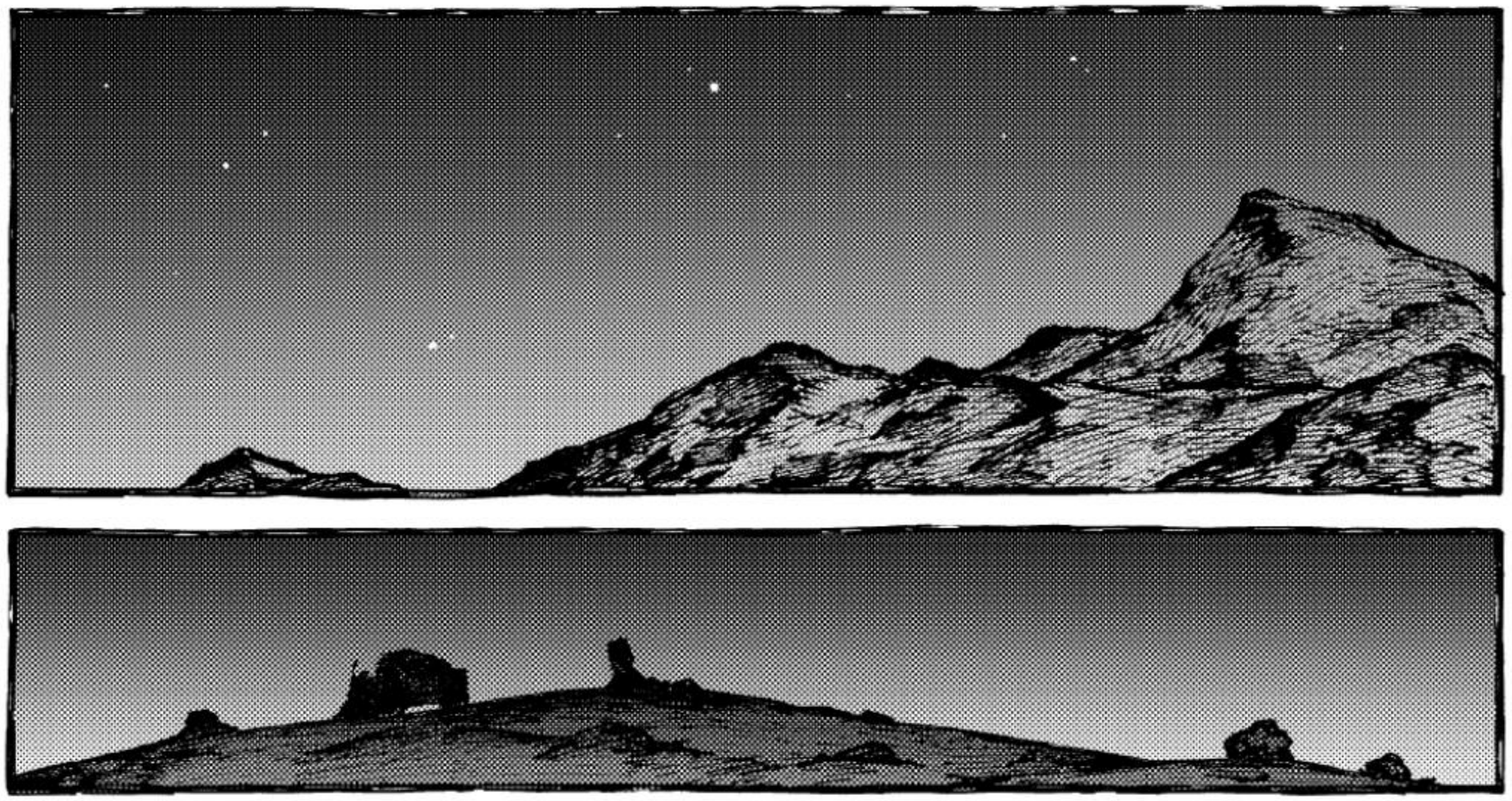
ガジガジ

きっと味方のネズミなんだと思う

ネズミたち

アスランが死んじゃったことがわからないのね

縄を解いてあげれば何とかなると思ってるんだわ

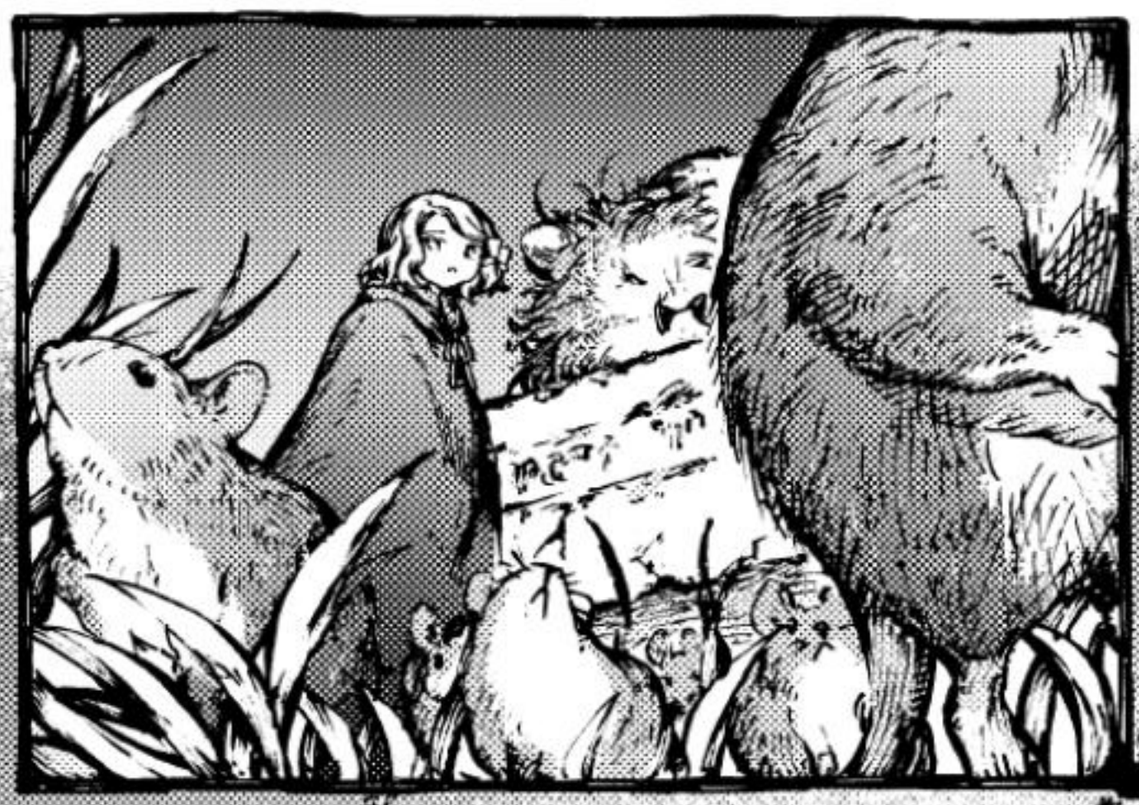


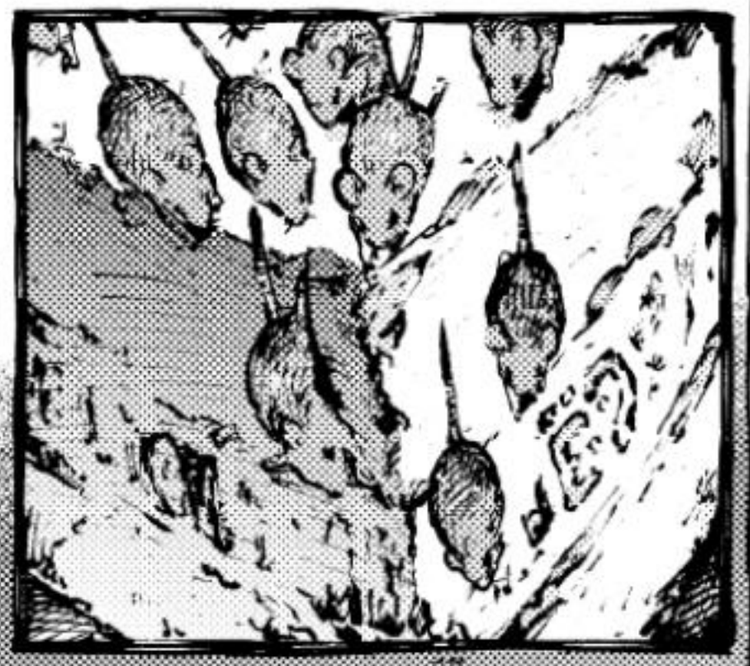




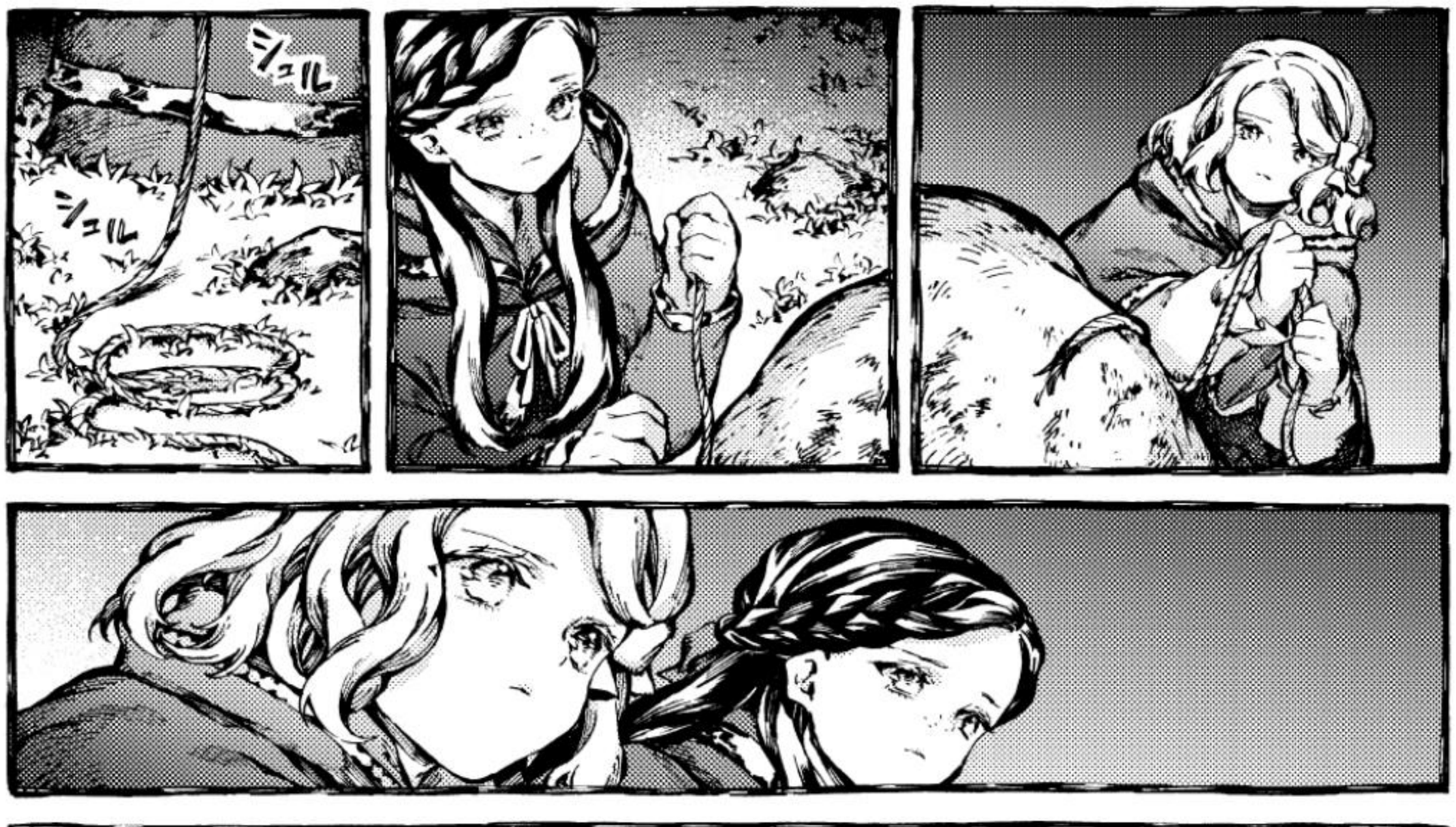



ガチ
ガチッ
ガチ








シュル
シュル





ヒヒ…！

小鳥だわ…

ピヨピヨ!!

チチチ…

ピヨ

とっても
寒いわ

わたしも

少し
歩きましょう







何？

わたし——

……わたし

怖すぎて
ふりむけない

何か
恐ろしいことが
起こってるんだと
思う

アスランに

もっと
悪いこと
してるんだわ！

行かなくちゃ！

ギュッ



ああ！

ああ

ひどすぎるわ

なきがらぐらい

そっとしておいてくれたっていいのに

誰がこんなことしたの？

どういうこと？

これもまた魔法なの？

そうだ！



これもまた
魔法なのだ

アスラシード！

つづく

アスラン…！

第29話　いにしえよりも古い魔法（後編）

アスラン

死んでは
いないのね？

いまは
死んでは
いない

という
ことは——

あの——？

…幽霊？

そんなふうに
見えるかな？

ああ
本物なのね！
本物なのね！
ああ
アスラン！

それに
しても
これは いったい
どういうこと
なのですか？

それは
こういうこと
なのだ

魔女は

〈いにしえの
魔法〉は
知っていた

〈いにしえよりも
古い魔法〉が
存在することを
知らなかったのだ

しかし

魔女が
知っている
魔法は

時の初めより
こちらのこと

しかし

もう少し
さかのぼって

別の魔法を
読み解けたはずだ

時の初めより
さらに前の
静寂と暗闇に
目を凝らしたならば

それは

裏切りを
おかしたことの
ない者が
みずから進んで
いけにえとなり

裏切り者の
かわりに
捧げられた場合

〈石舞台〉が
割れて

死は時を
さかのぼる

という
定めなのだ

さて

それでは——

それでは
——？

ドキドキ

ヒョヒョヒョ

おお
子どもたちよ

わたしは
ふたたび力が
みなぎるのを
感じている

さあ
子どもたちよ

わたしを
つかまえて
ごらん！

ガトロ




ｽｯ…
あっ
ｽﾄｯ…

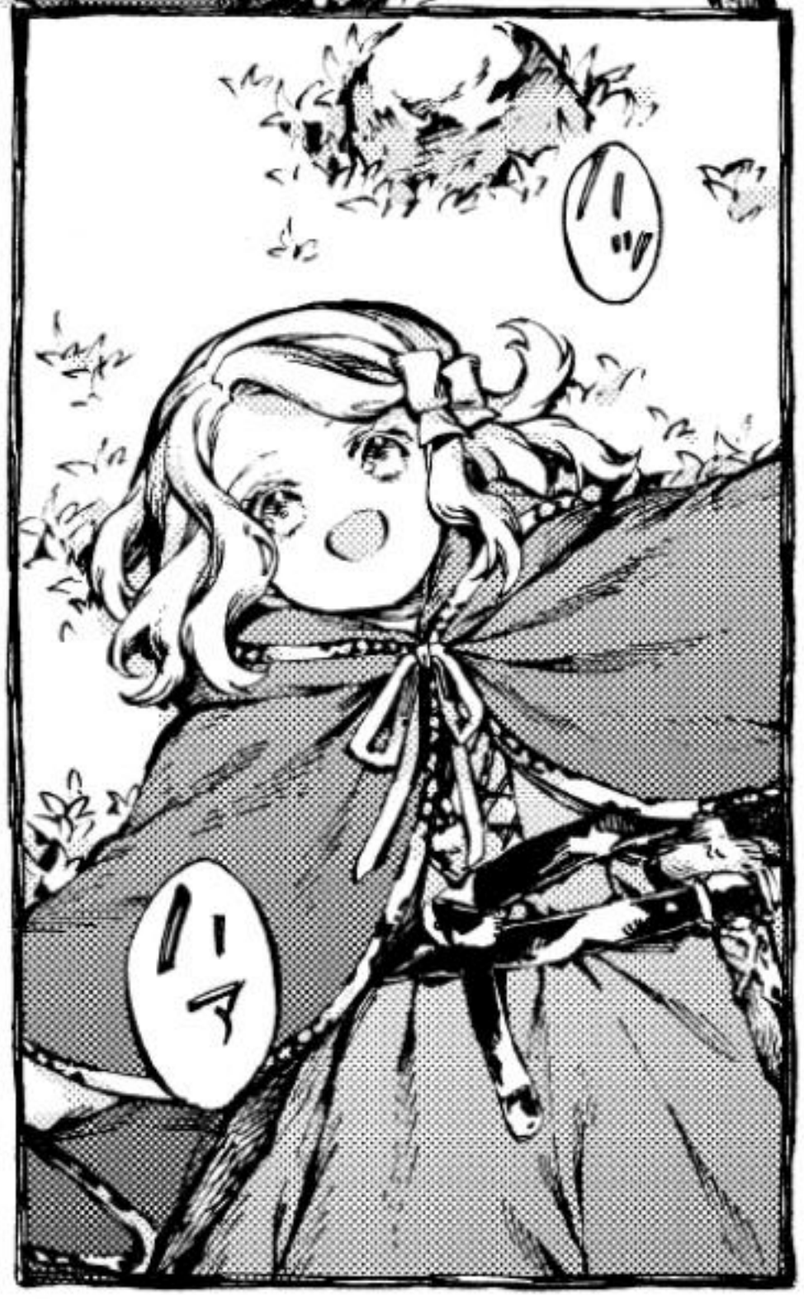






ゴゴ
ゴゴ
ゴゴ




！
ハァ


まるで雷神との
取っ組みあいか
仔ネコとの
じゃれあいの
ようだわ！
ハァッ

疲れも

空腹も
のどのかわきも
感じないなんて

不思議だわ



それでは
仕事に
取りかかろう

わたしは ひとつ
吼えようと思う

あなたがたは
指で耳をふさいで
おいたほうが
よかろう

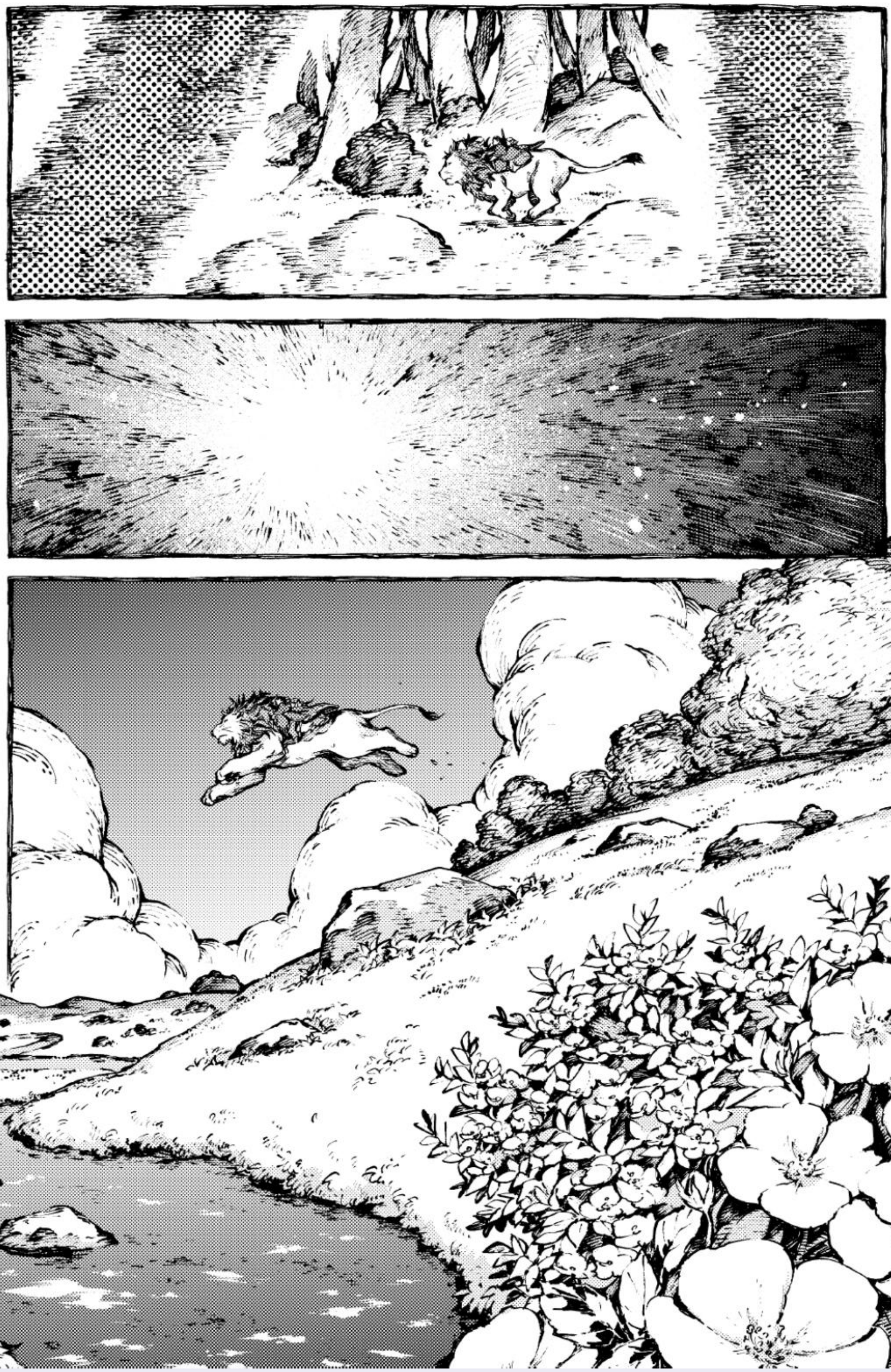


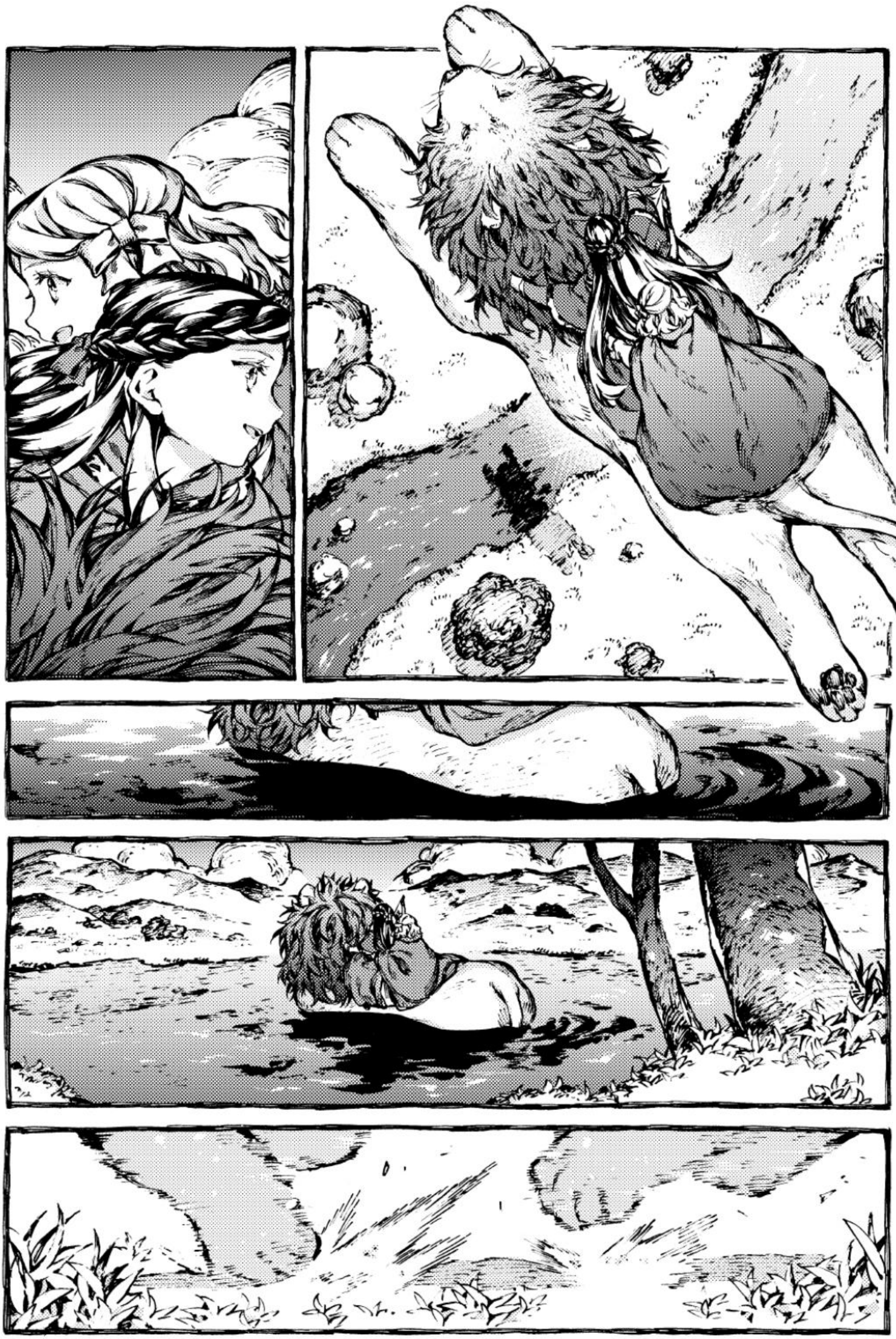


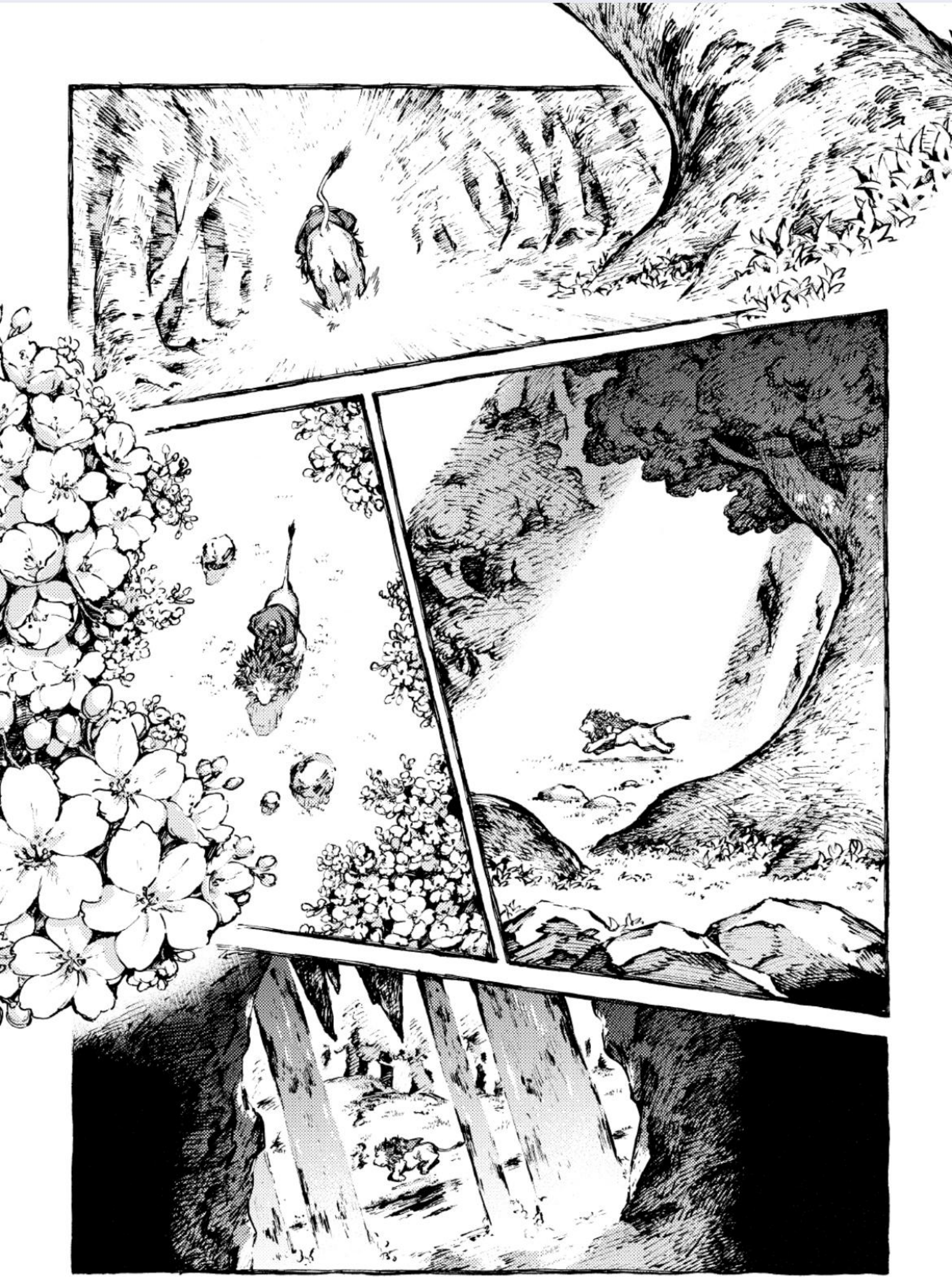
これから
長い道のりに
なる

あなたがたは
わたしの背中に
乗りなさい





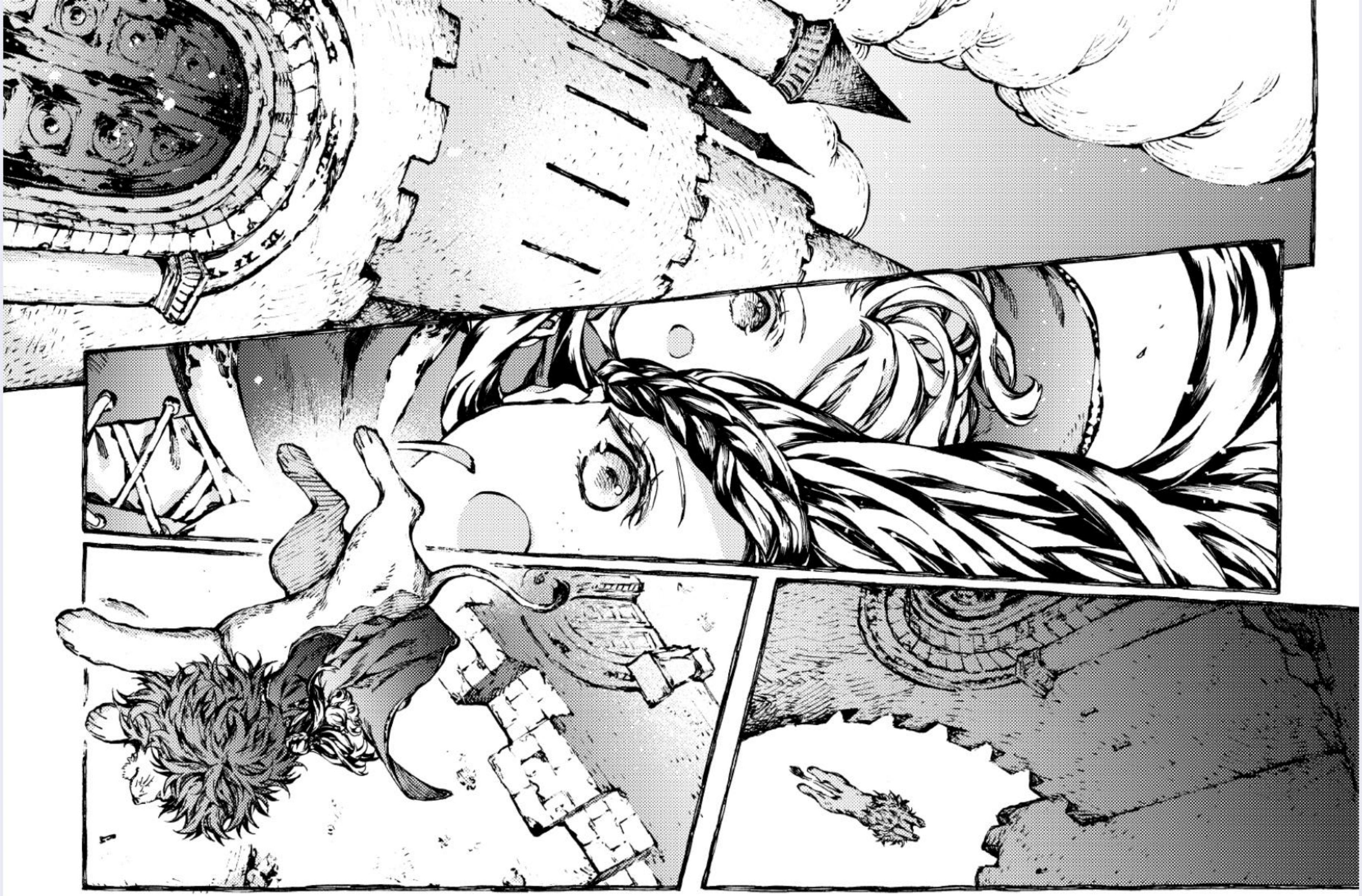







魔女の館だ！



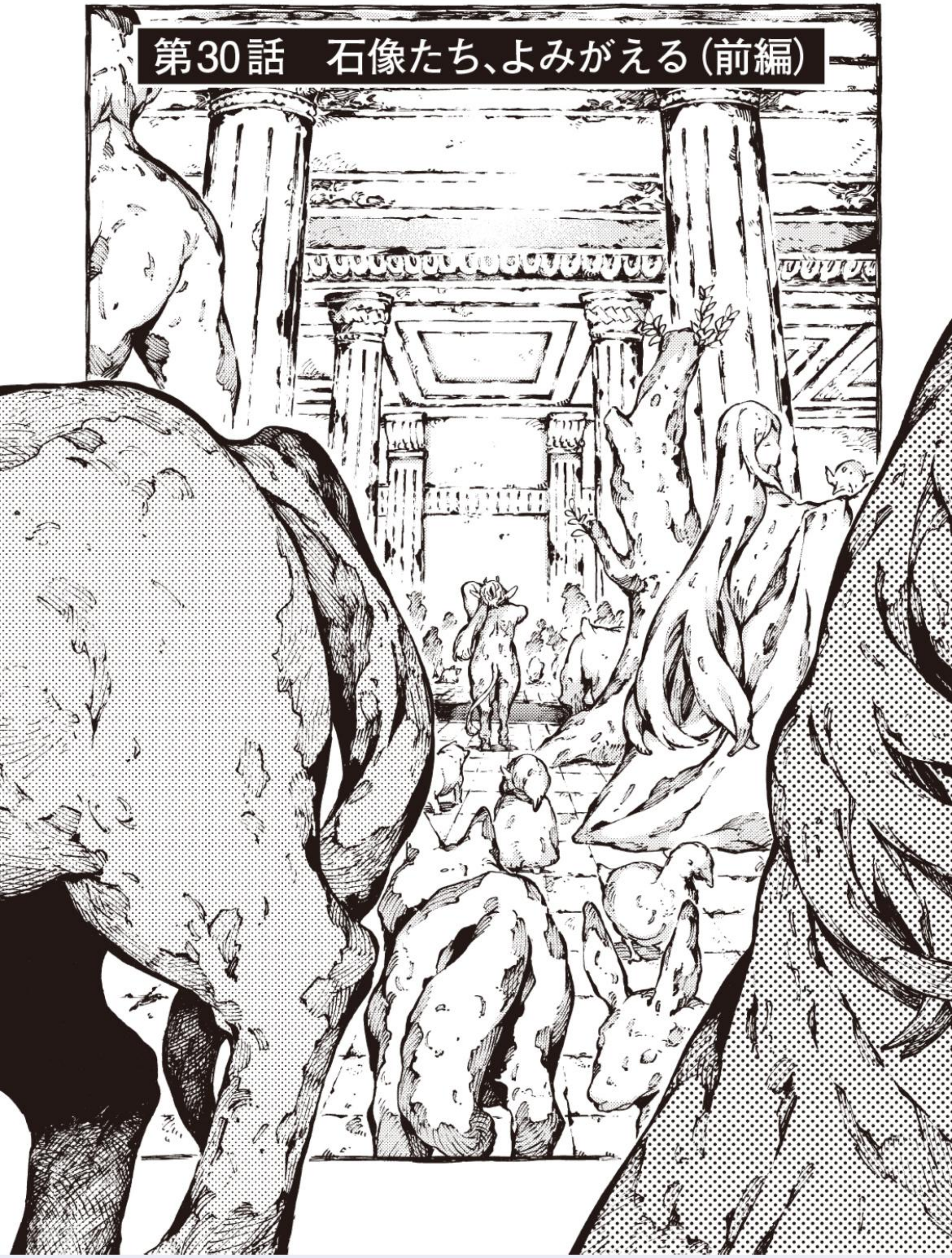



ガオー



つづく

第30話　石像たち、よみがえる（前編）



なんて
変てこりんな
場所なの！

石の動物が
こんなに
いっぱい

それに
石の人も

なんだか――

…美術館
みたい

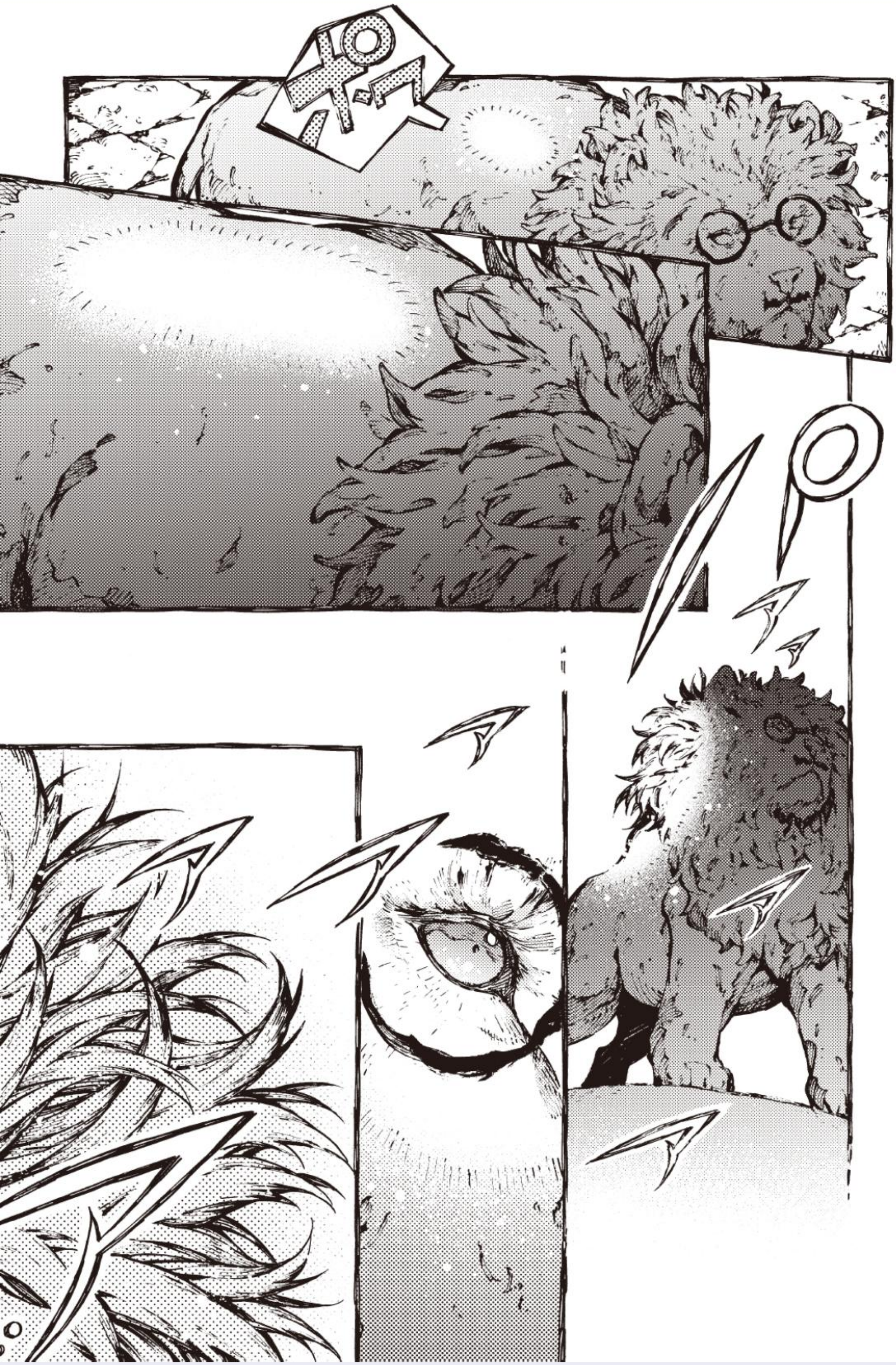
しっ

アスランが
何か
してるわ



あの
ライオン
見て！

わぁ
スーザン！


KO



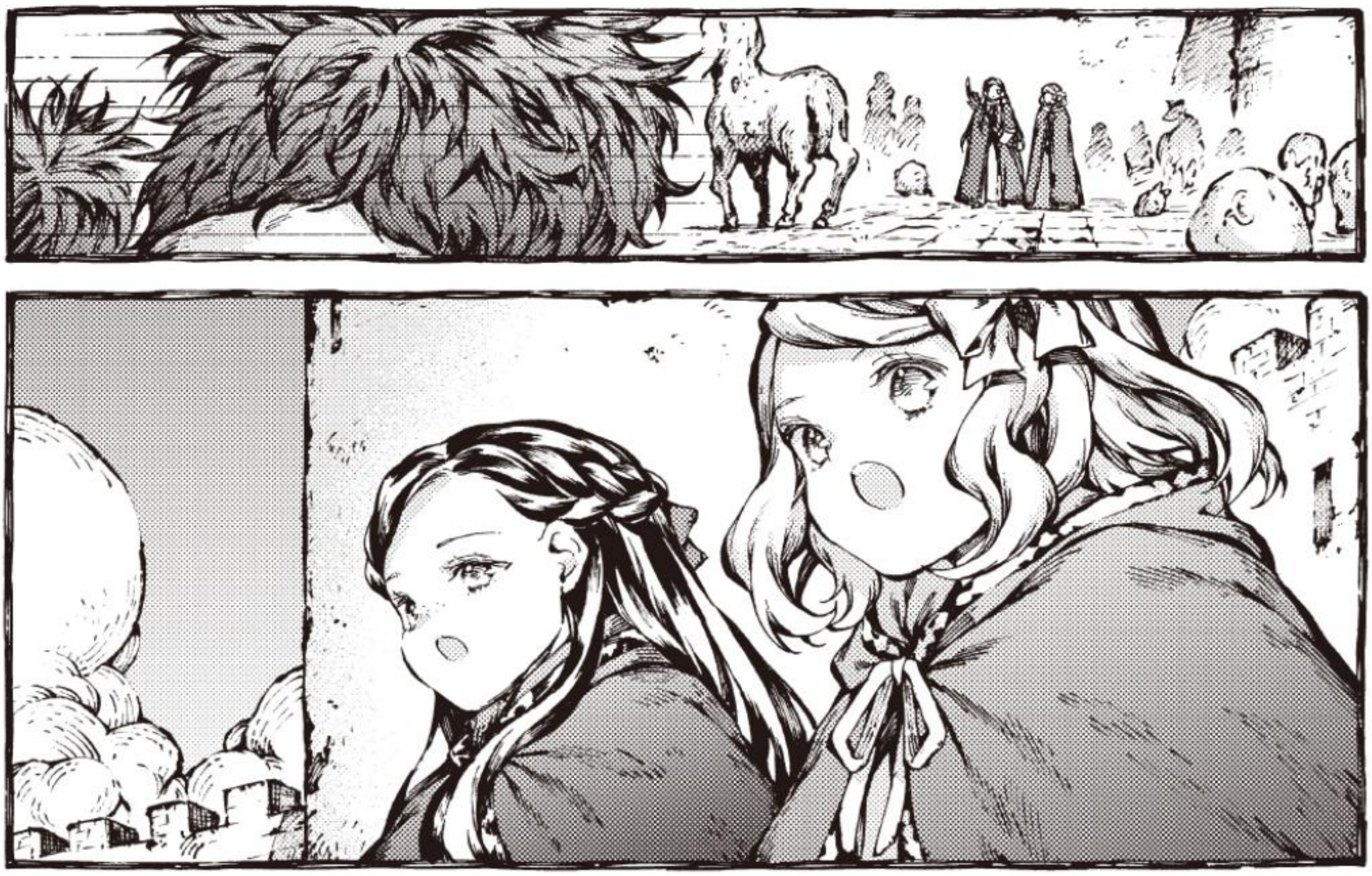
ワ〃〃

ワーン

ワーン

ワーン

OEN







チチッ

ワーワー

動物園のようだわ！

ア

ア

ア

ばんざーい!!

ばんざーい!

ばんざーい!!

ばんざーい!!

あら!

見て!

あれ
危なくないのかしら?

だいじょうぶだ！

足がもとどおりになれば

上のほうももとにもどる

そういう意味じゃないんだけど

ゴゴゴ



いやぁ
驚いたなぁ！

おら

眠っち
まったに
ちげえねえ

やれやれ！

地べたを
走りまわっておった
あのいまいましい
チビの魔法使いめは
どこ
行っただ？

おらの足の
すぐそばに
おっただが……

…んん？

あのね——

ズバッ

もういっぺん
言ってくれろ

なるほど
なるほど

ゴロ


さあ

急げ！

館の中へ！

上の階も

下の階も

女王の間も
見のがすな！

すみから
すみまで
探すのだ

どこに囚人が
幽閉されているか
わからないぞ



地下牢を
忘れるな

手を
貸してくれ
このドアを
開けたい！

ここにも
小さい
らせん階段が
あるぞ

あ！
カンガルーだ

かわいそうに

アスランを
呼んでくれ

気をつけろ

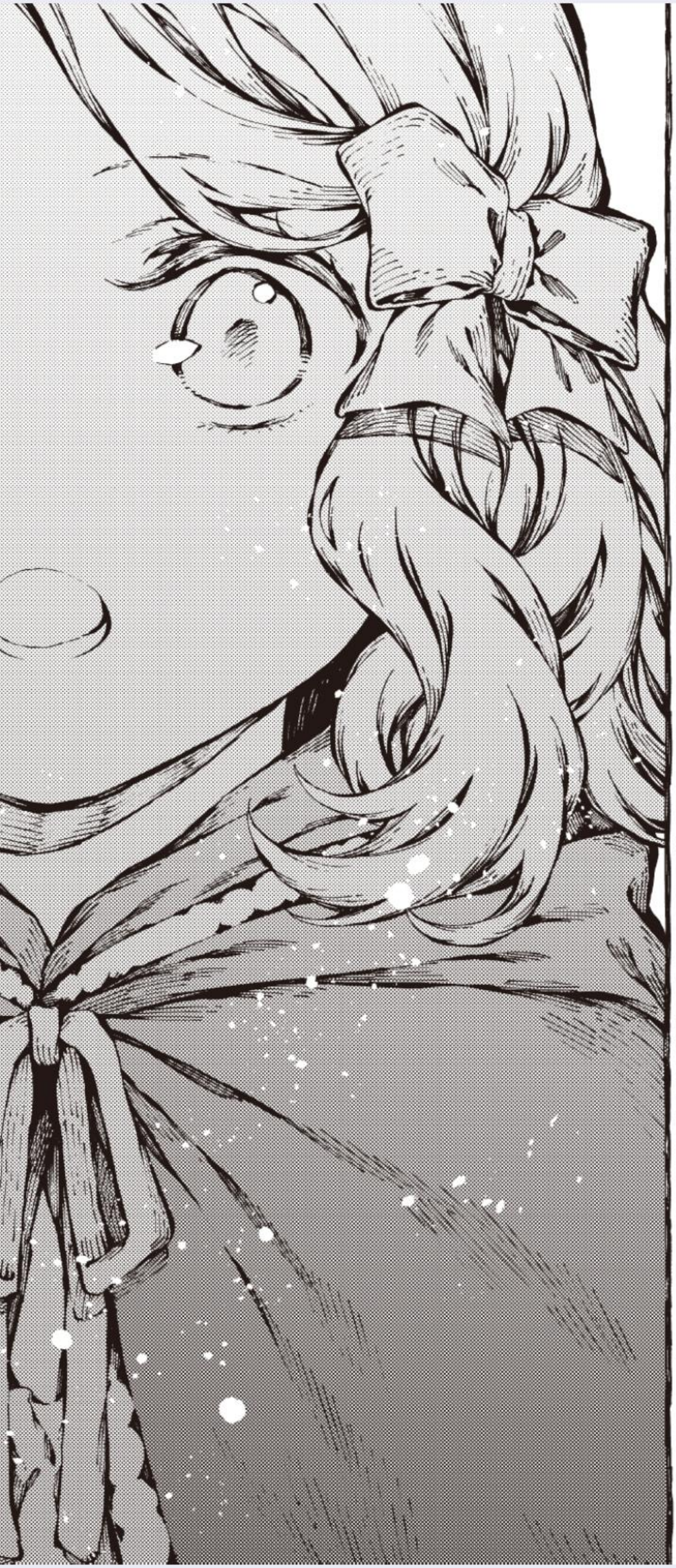
落とし戸があるぞ

ふうっ！

なんてひでえ臭いだ

こっちの上！

踊り場にまだいっぱいいるぞ！





ガブッ

アスラン！
アスラン！

タムナスさんを
見つけたの！

はやく来て！



ワ
ワ
ワ

わたし
タムナスさんに
いっぱい
話したいことが
あるの！

つづく

第31話　石像たち、よみがえる（後編）

壁を跳び越えて
はいってきたから

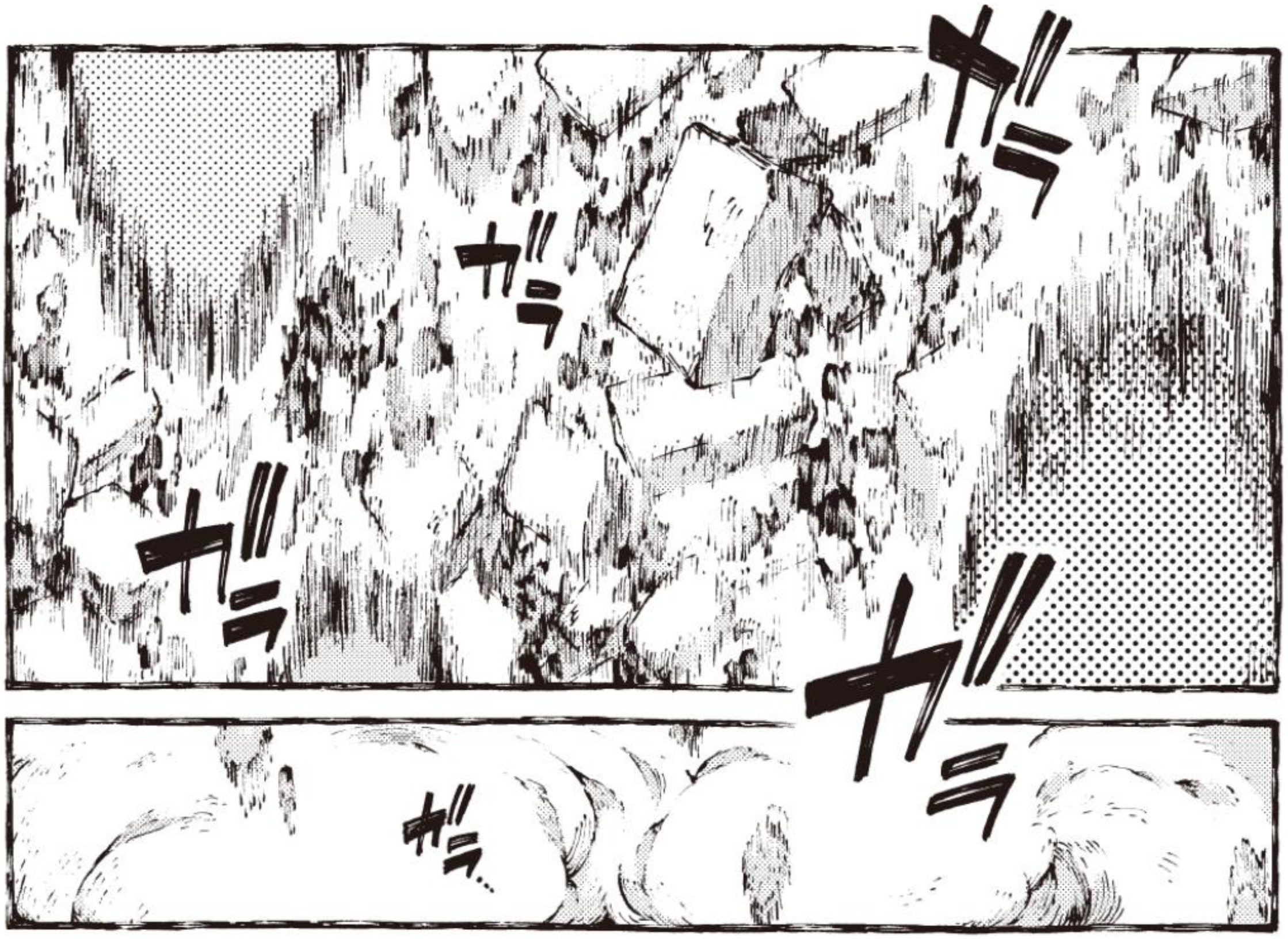
どうやって
ここから
出るんですかね？

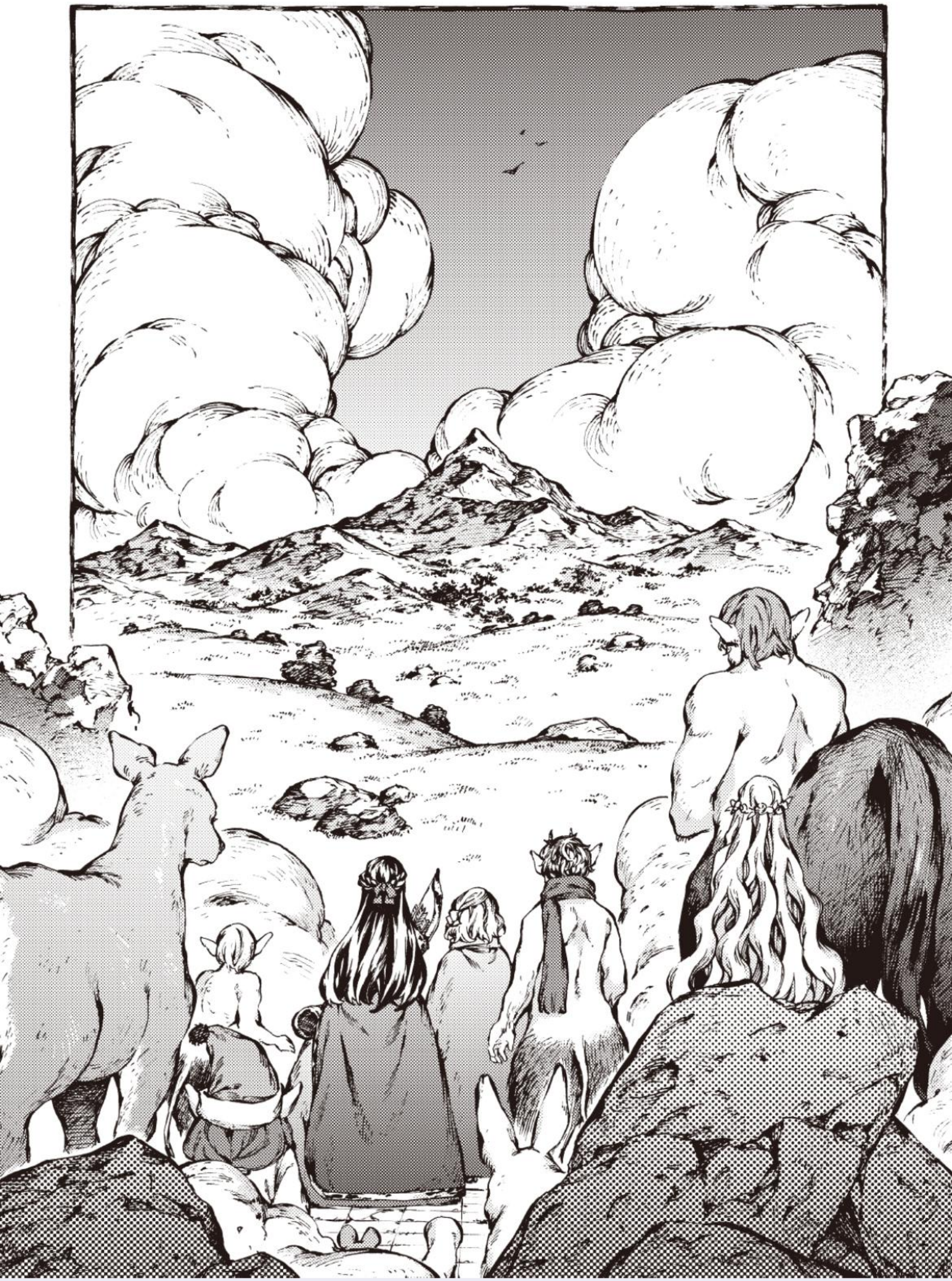
館の門は
まだ鍵が
下りたままだわ

心配ない

やあ！
そこの
上のほうの人
名前は
何と言う？
へえ
巨人の
ランブルバフィンと
申しますです
それでは
巨人の
ランブルバフィンよ
われわれを
ここから出して
もらえるかな？
がってんで
ごぜえます
はい
喜んで
小さい
みなさんがた
門から
よ～く後ろへ
下がっておいて
おくんなさい
のっし
のっし


ゴゴゴ…
ドドド


カラ
カラ
カラ
カラ
カラ…



大汗かいちまっただよ

まだ
本調子じゃ
ねえからだな

嬢ちゃん
がた

ハンケチー
なんぞは持って
おられんかね？

ゴッ

ゴッ

ええ
あるわよ

ありがとうな
嬢ちゃん

ｏｕｕ

こりゃ
驚いた！

ハンケチーじゃなくて
嬢ちゃんを
つまんじまったわい

ごめんよ
嬢ちゃん

あんたが
ハンケチーだと
思っただだよ！

いいのよ
どういたし
まして！

はい
これですよ

どうぞ！

ちまっ！

ワナ

ワナ

ワナ

ワナ

ランブル
バフィンさん

コヨ

コヨ

あまり
お役に立たない
みたいで

ごめんな
さいね

どう
まして

どういたし
まして

こんなすてきな
ハンケチーは
見たことがねえだよ

その——

…なんちゅうか

えらく
りっぱで

えらく
使い心地の
ええもんだ

よう
わからん
けども

あの
巨人さん
とっても
いい人なのね！

ええ
そうですとも

バフィン一族は
むかしから
善人ぞろいです

ナルニアの
巨人族のなかでも

とくにりっぱな
家柄なんですよ

まあ

頭は さほど
よくは
ありません
けどね

頭のいい
巨人なんて
聞いたことも
ありません
からね

でも
名門では
あります

伝統と
格式のある

そうでなけりゃ
魔女に石に
されるはずが
ありませんからね

われわれの
仕事は

まだ
終わった
わけではない

きょうのうちに
魔女を打ち負かす
つもりならば

ただちに
戦いの場へ
赴かねばならない

そして
戦いに
加勢する！

そうですよね！

もちろん
そのとおりだ

では
よろしいか！

ついて
歩くのが
難しい者

足の速い者

——すなわち
ライオン

ケンタウロス

ユニコーン

——すなわち
子どもたち

ドワーフたち

小さな
動物たち——は

馬

巨人

そして
ワシ——の
背に乗ること

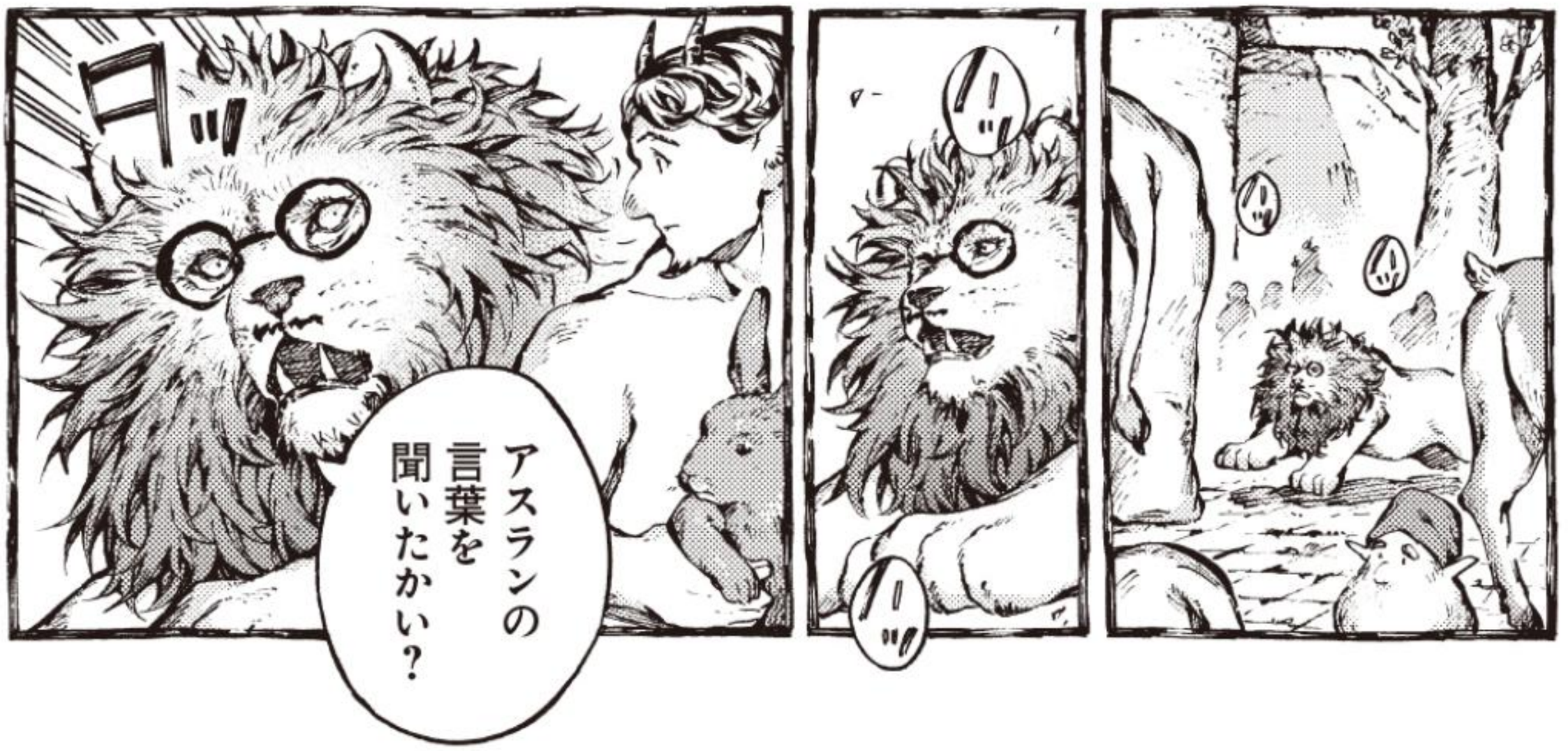
鼻の
きく
者たちは

われわれ
ライオンとともに
先頭に立ち

戦いの場を
嗅ぎあてなくては
ならぬ

急いで
整列せよ




アスランの
言葉を
聞いたかい？

『われわれライオン』って言ったんだぜ

われわれってのは アスランとおれのことさ

『われわれライオン』ときたもんだ

アスランのそういうとこがおれは好きなんだよね

と偉ぶったとこがなくてつんけんしてなくてさ

『われわれライオン』だってよ

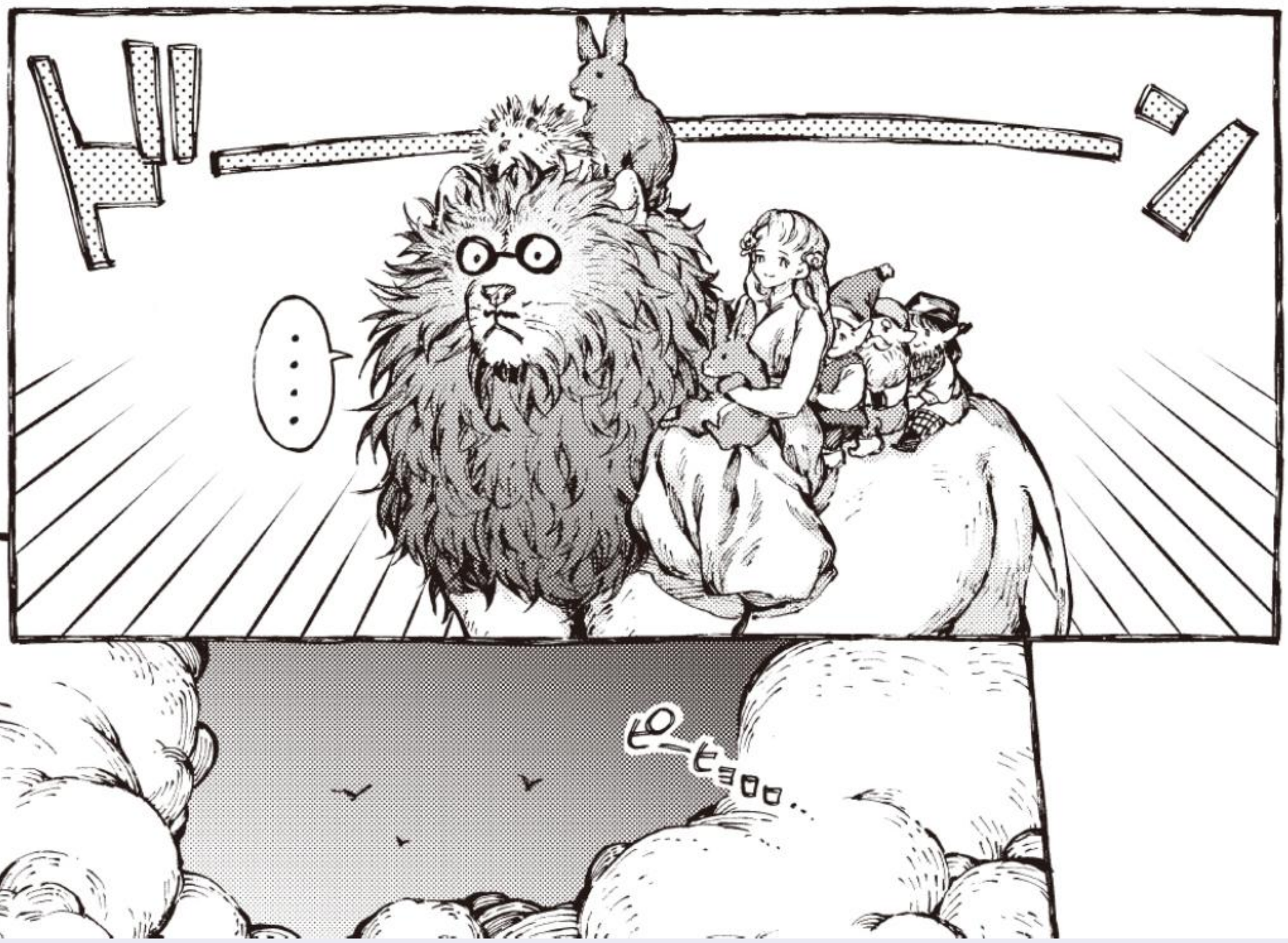
トン

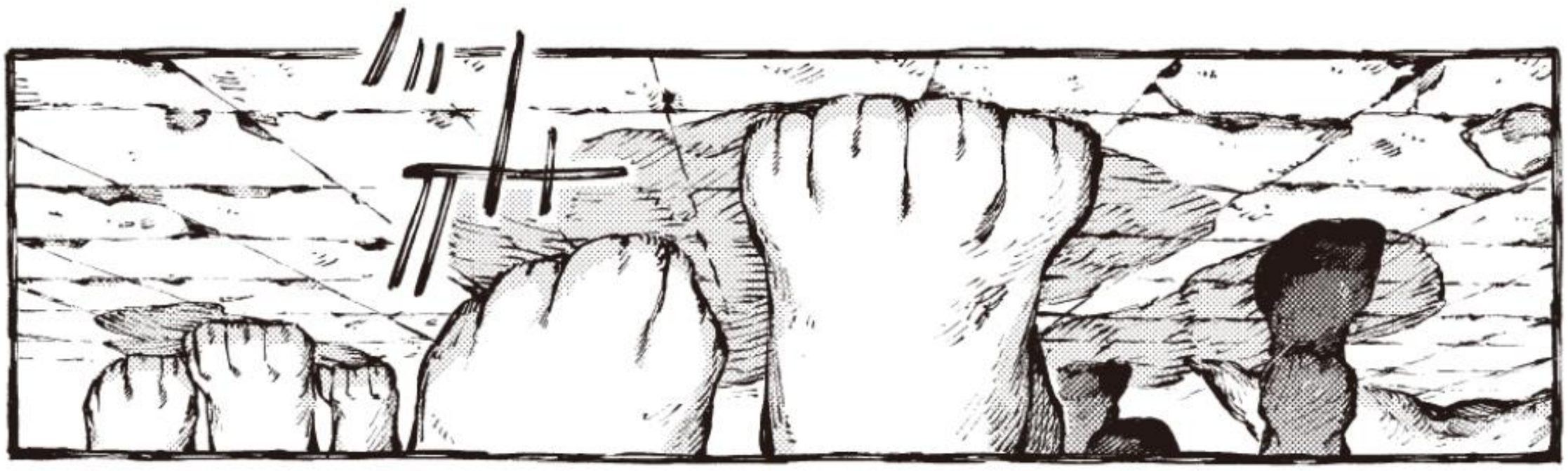
それってアスランとおれのことなんだよ

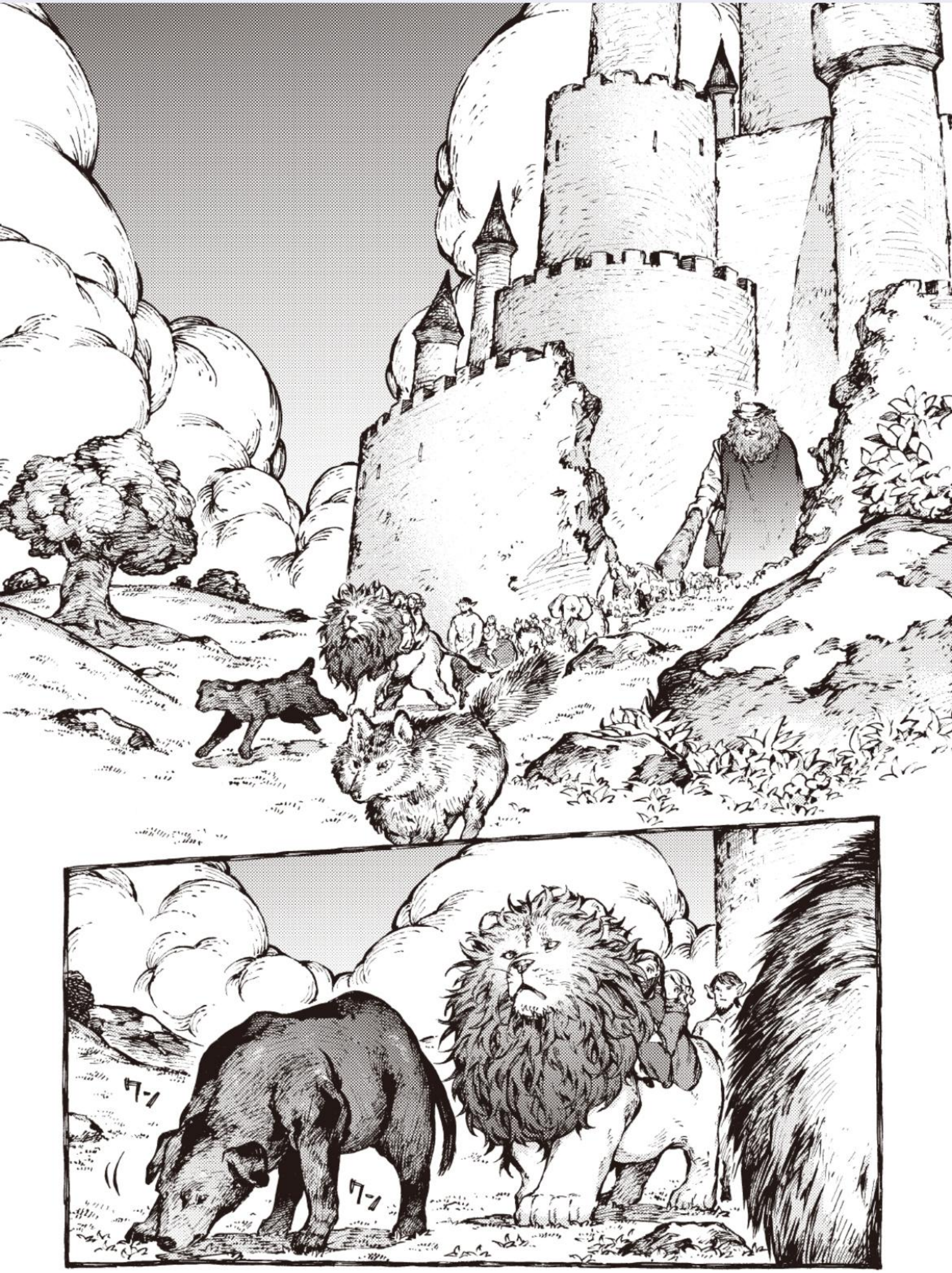
二二

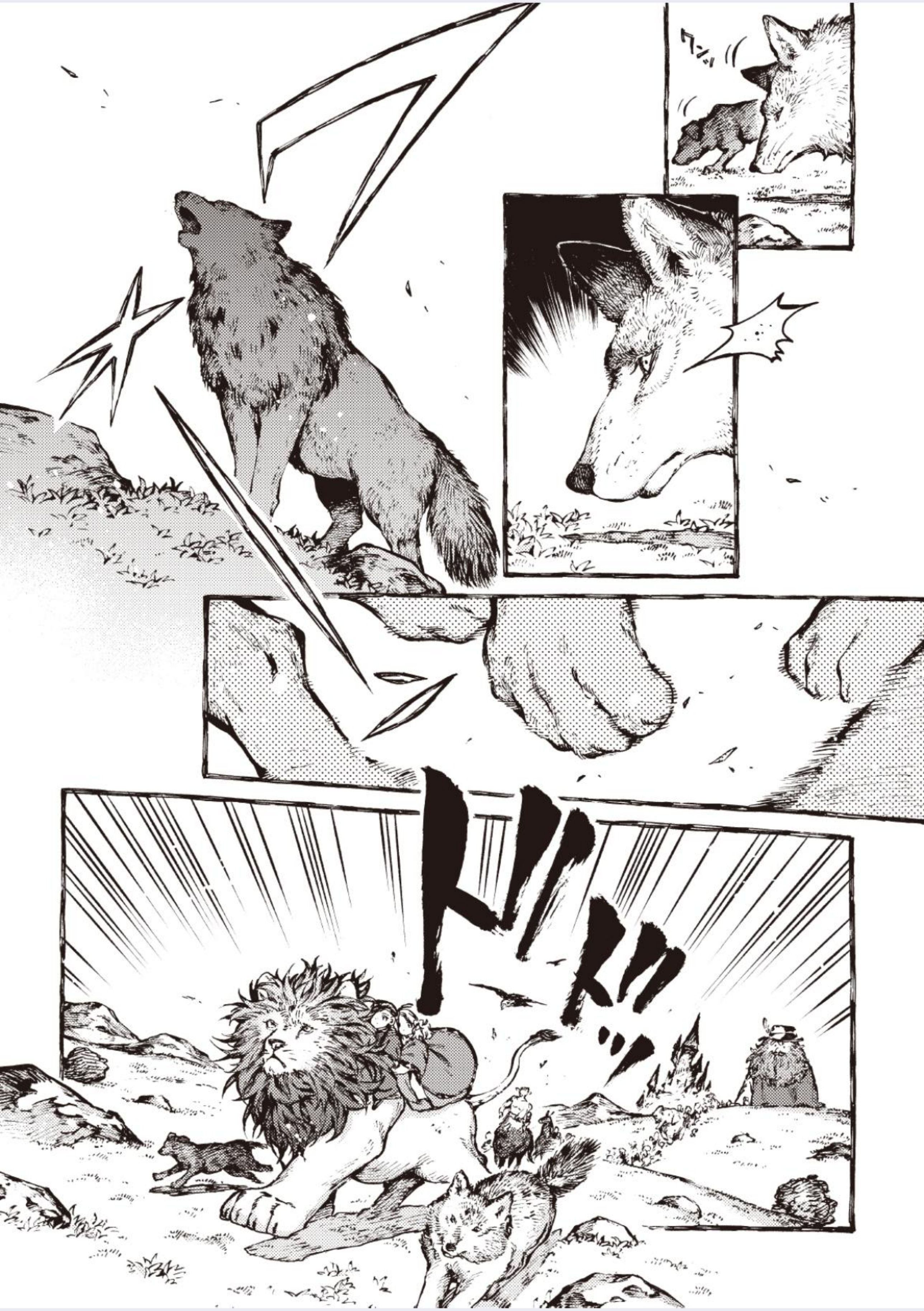

グミミ…!




…
ピーヒョロロ…





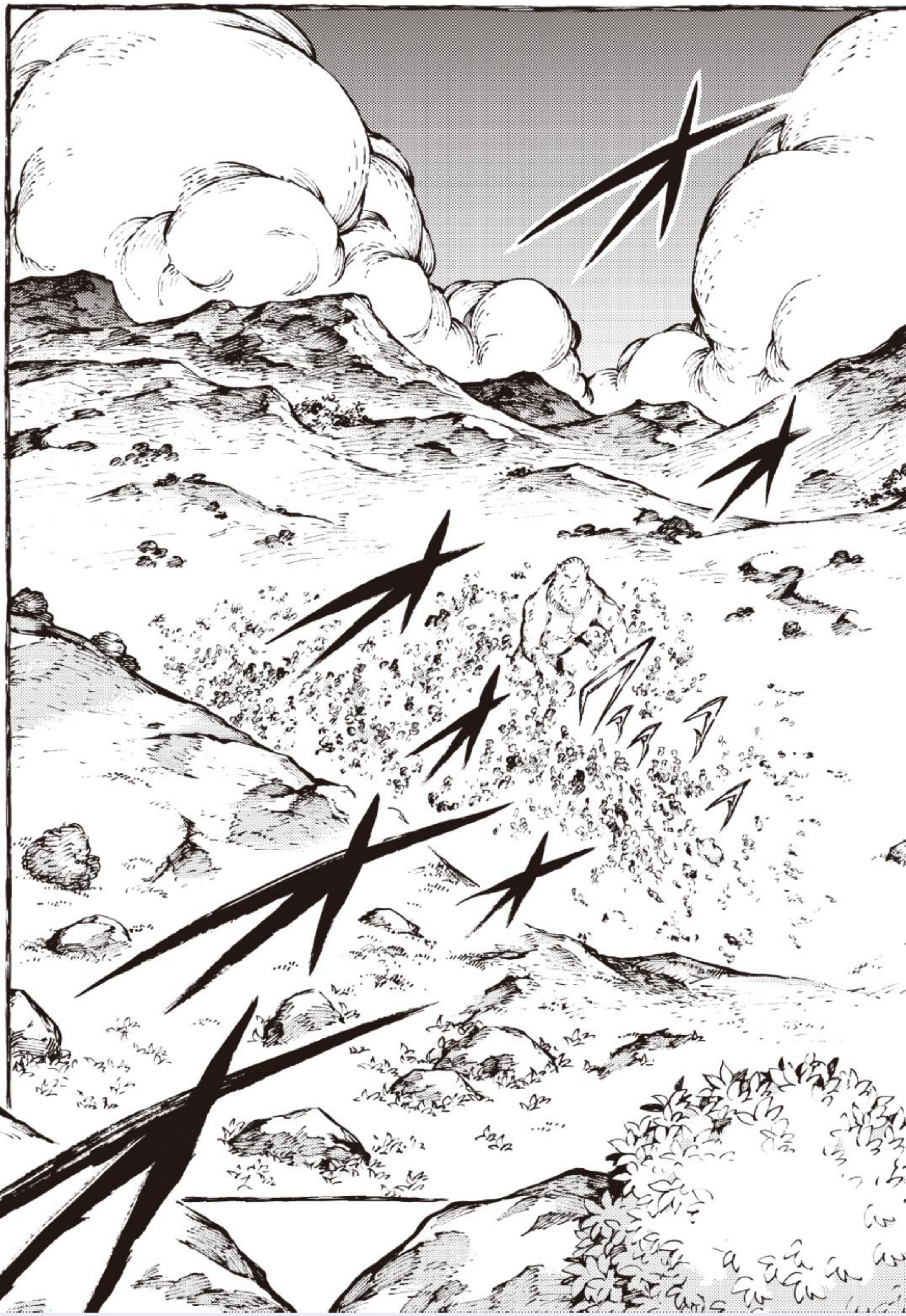



ドド
ドド
ドド
ドド
ドドドド…





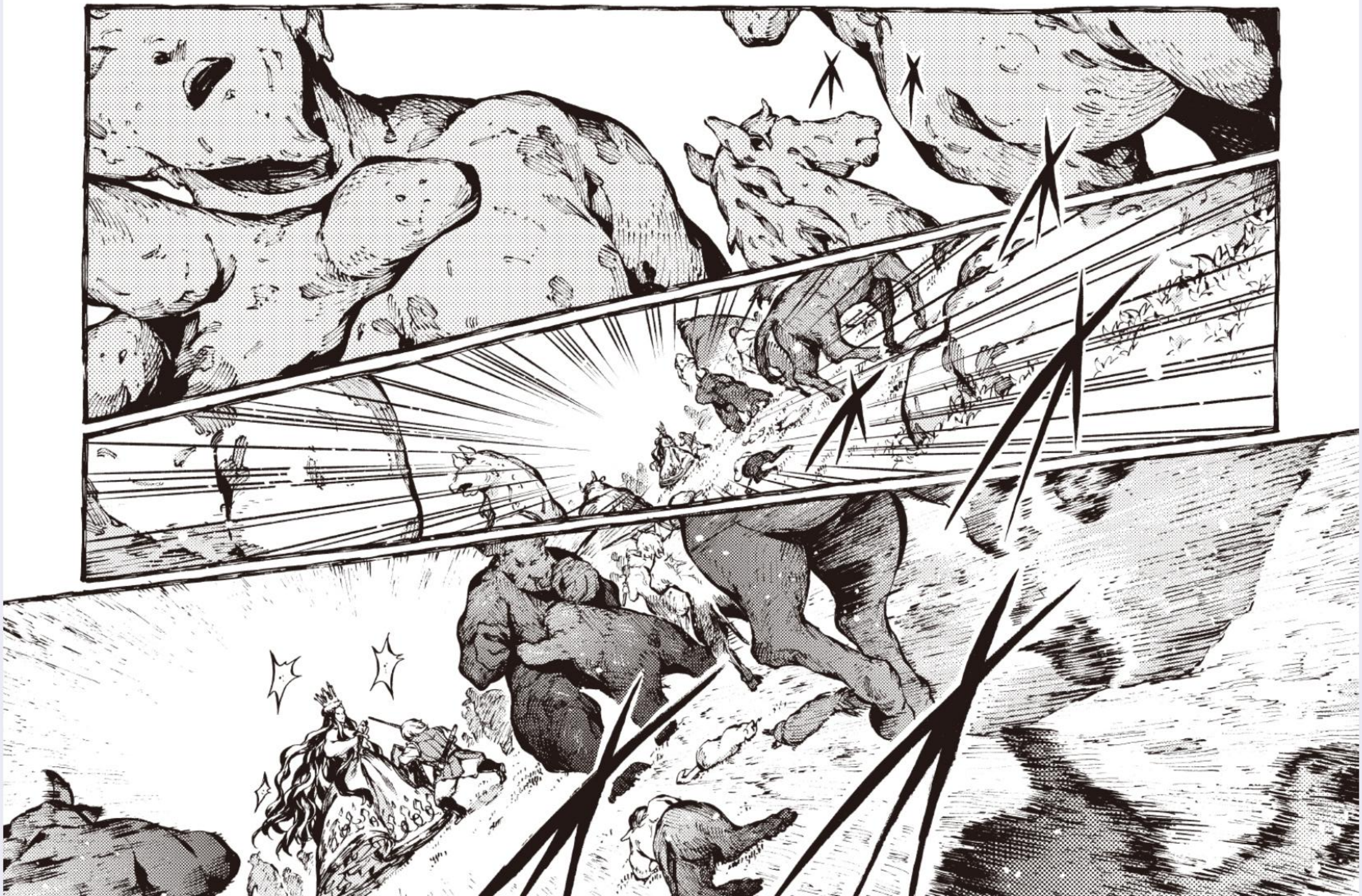




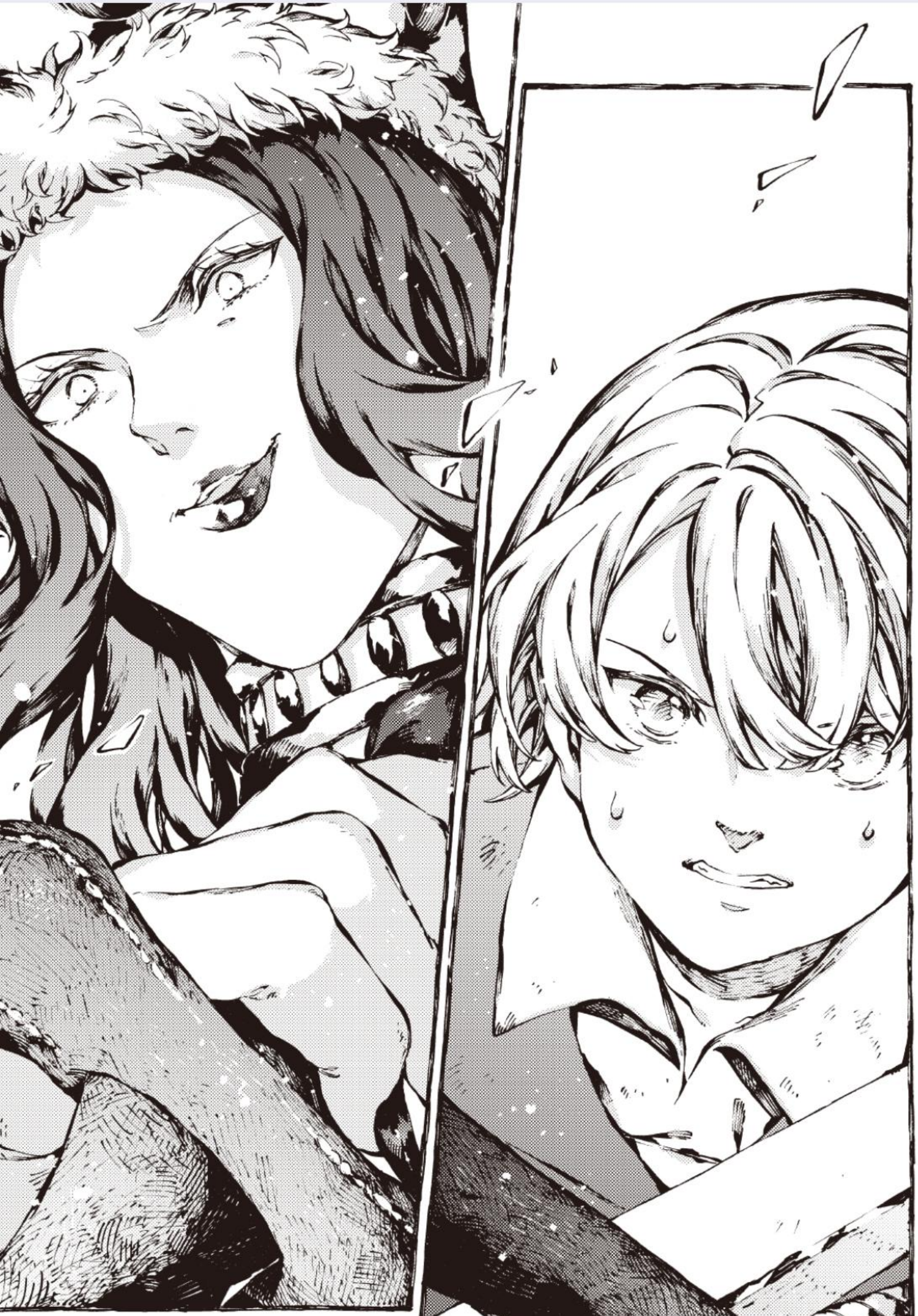










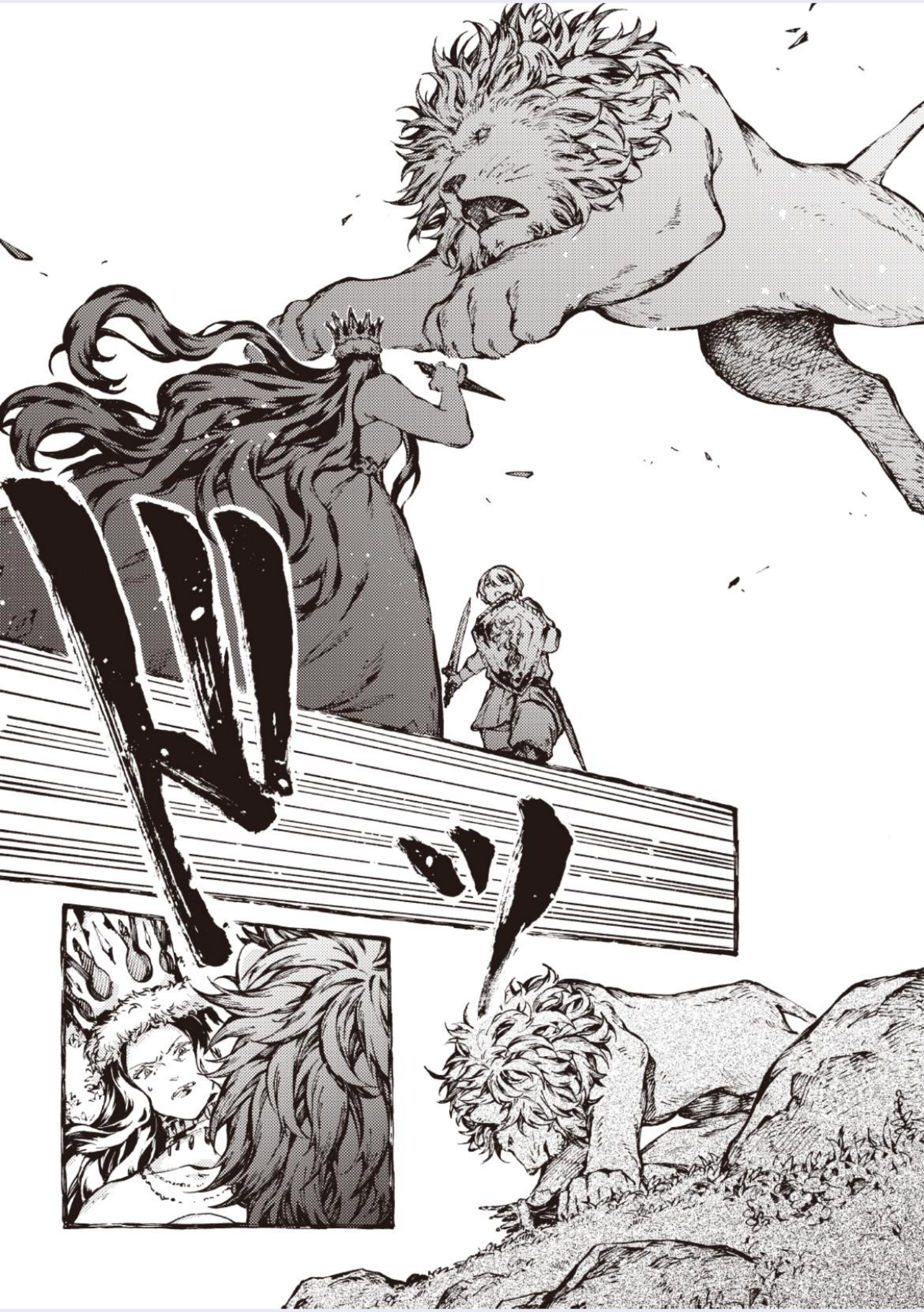


子どもたち
下りなさい






ドッ








ドン
ドン
ドン

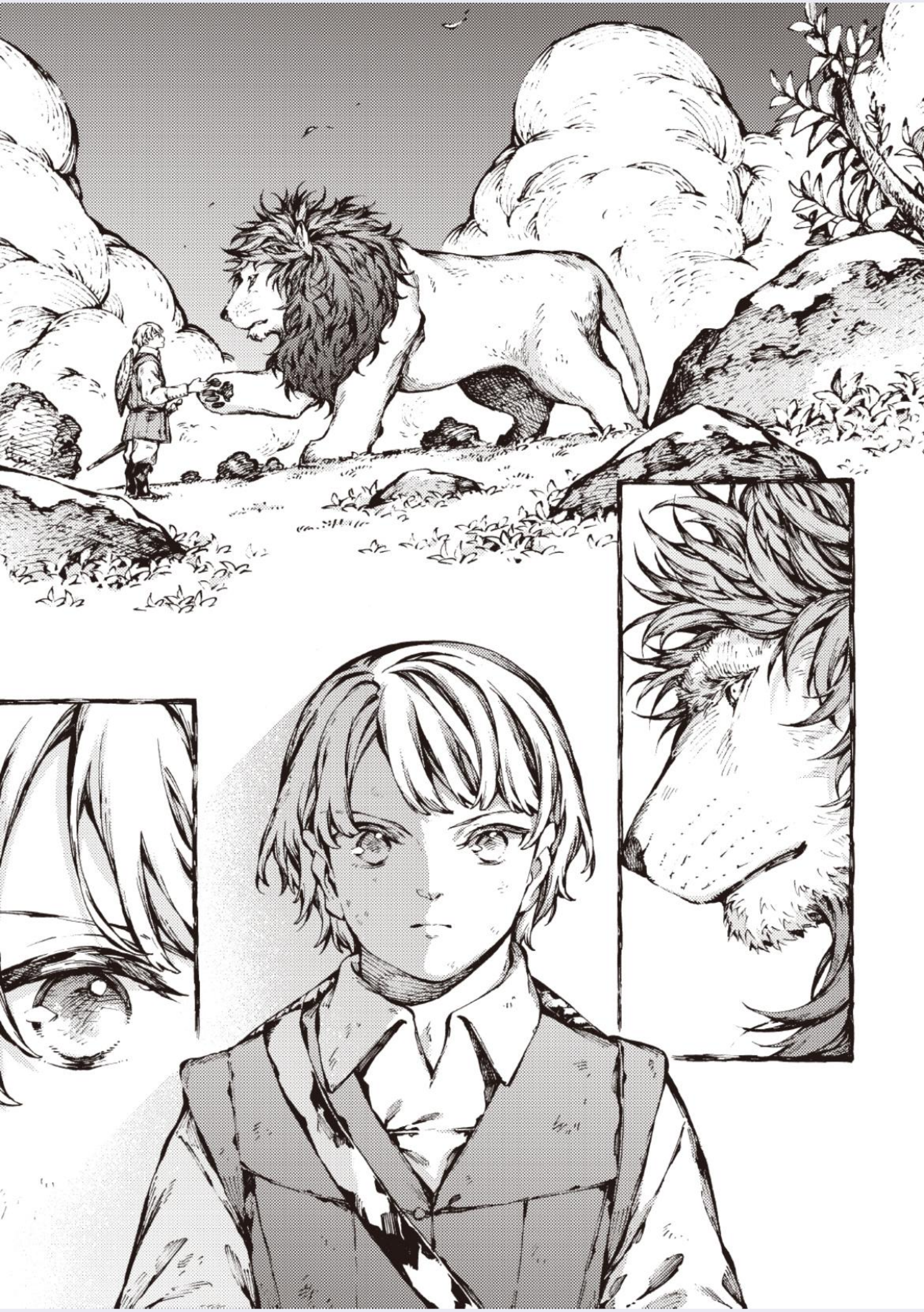


つづく

第32話　白シカ狩り（前編）

キョロ

キョロ



アスラン

これは すべて
エドマンドの
手柄なのです

エドマンドの
働きが
なかったら

ぼくらは
負けて
いたでしょう

魔女は
わが軍を
次から次へと
石に変えて
いきました

でも
エドマンドは
少しも
ひるまなかった

エドマンドは
人食い鬼を
三匹やっつけて

魔女があなたの
ヒョウの片方を
石に変えようと
しているところへ
斬りこんで
いったんです

魔女に
近づいた
エドマンドは

それが
よかったんです

もし魔女に
正面から
斬りかかって
いたら

石像にされて
おしまいだったと
思います

また魔刀で
魔法の杖を
たたき切り
ました

ほかの
者たちは

みんな
やられたんです
それで

魔法の杖が
壊れたあとは
ぼくらも多少は
勢いを
盛り返しました

でも
それまでの
犠牲が
多すぎて……

エドマンドも
深傷(ふかで)を
負いました

見に行って
やらないと

ルーシー
はやく



ゴク…

ええ
わかって
います

ほかにも
けがをしている
者たちがいる

少し待って
いただけませんか

イヴの娘よ

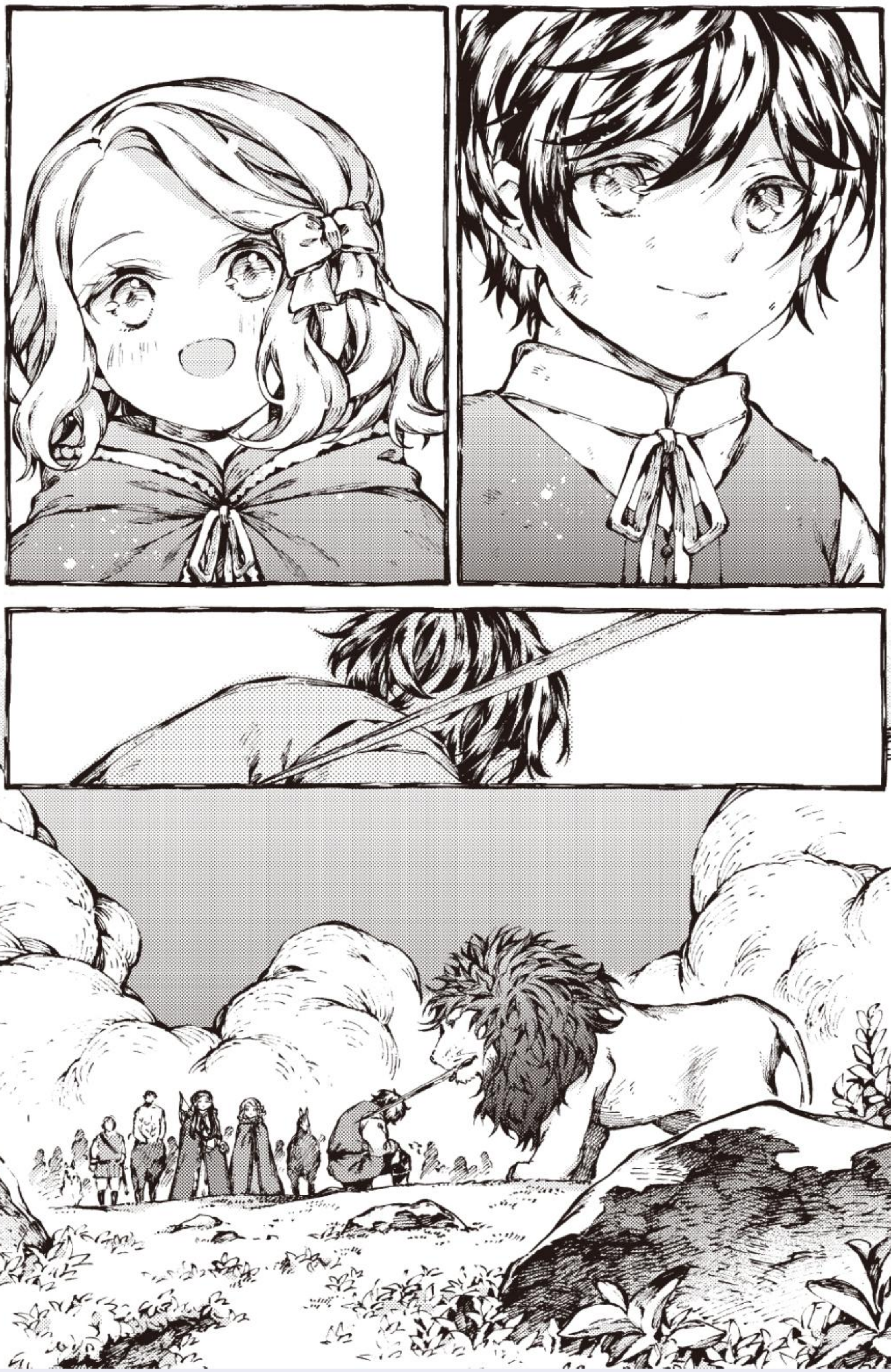
ほかにも死にかけている者たちがいるのだ

エドマンドのために

このうえまだほかの者を死なせようというのか？

ごめんなさい アスラン

こんなに
晴れ晴れとした
エドマンドは
見たことないわ









ヒソ…

エドマンドは
知ってるの？

アスランが
エドマンドのために
したことを？

魔女との
申し合わせが
ほんとうは
どういうこと
だったのか
知ってるの
かしら？

しっ！

もちろん
知らないに
きまってるわよ

知るべき
じゃない？

知らなくて
いいわよ

ショックが
大きすぎるもの

自分が
エドマンド
だったら
どう思うか
考えてみたら？

それでもやっぱり知るべきだと思うけど――

パチ

パチ

パチ

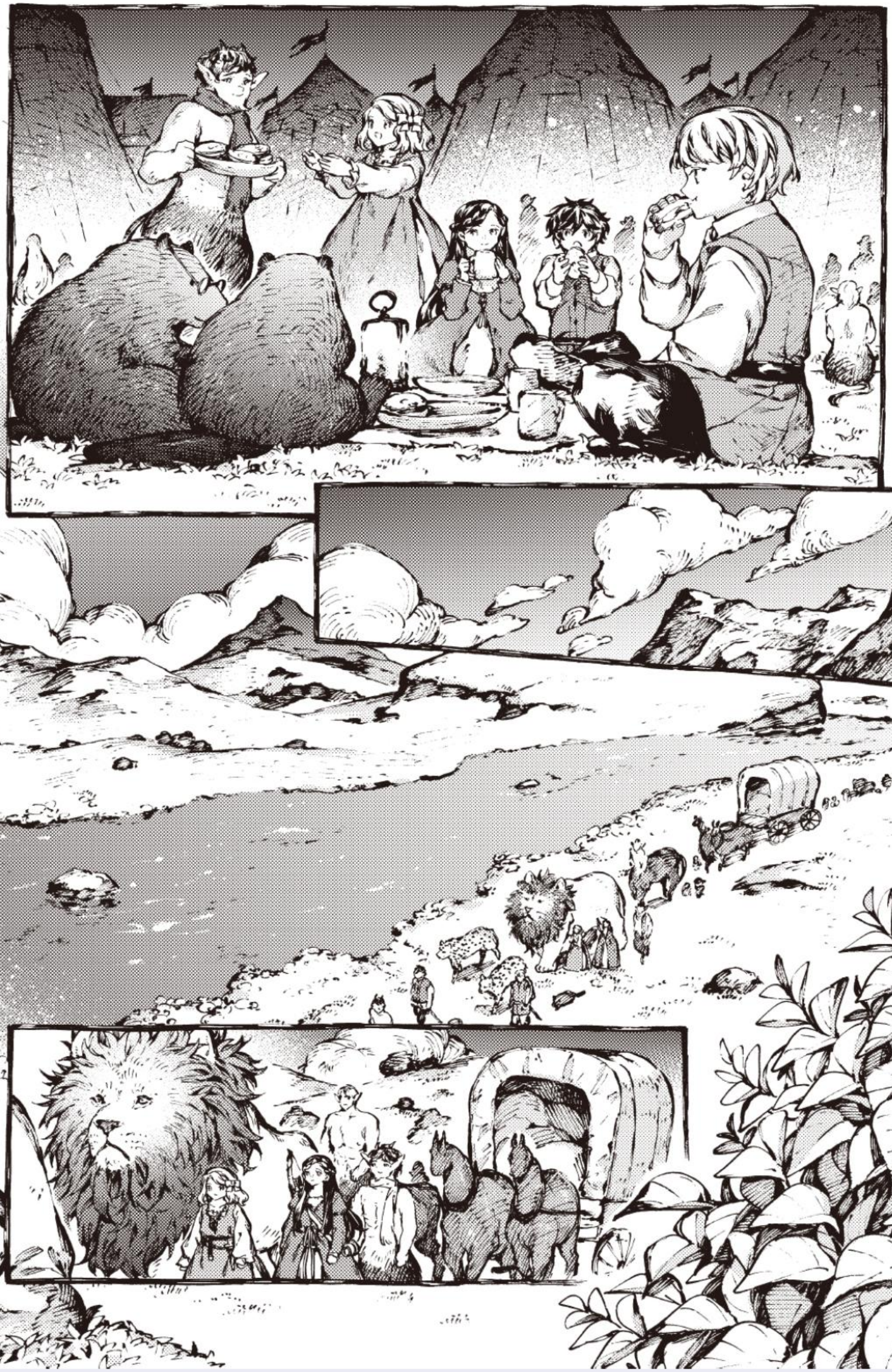
パチ

パチ

パチ

ワーワー

ワーワー

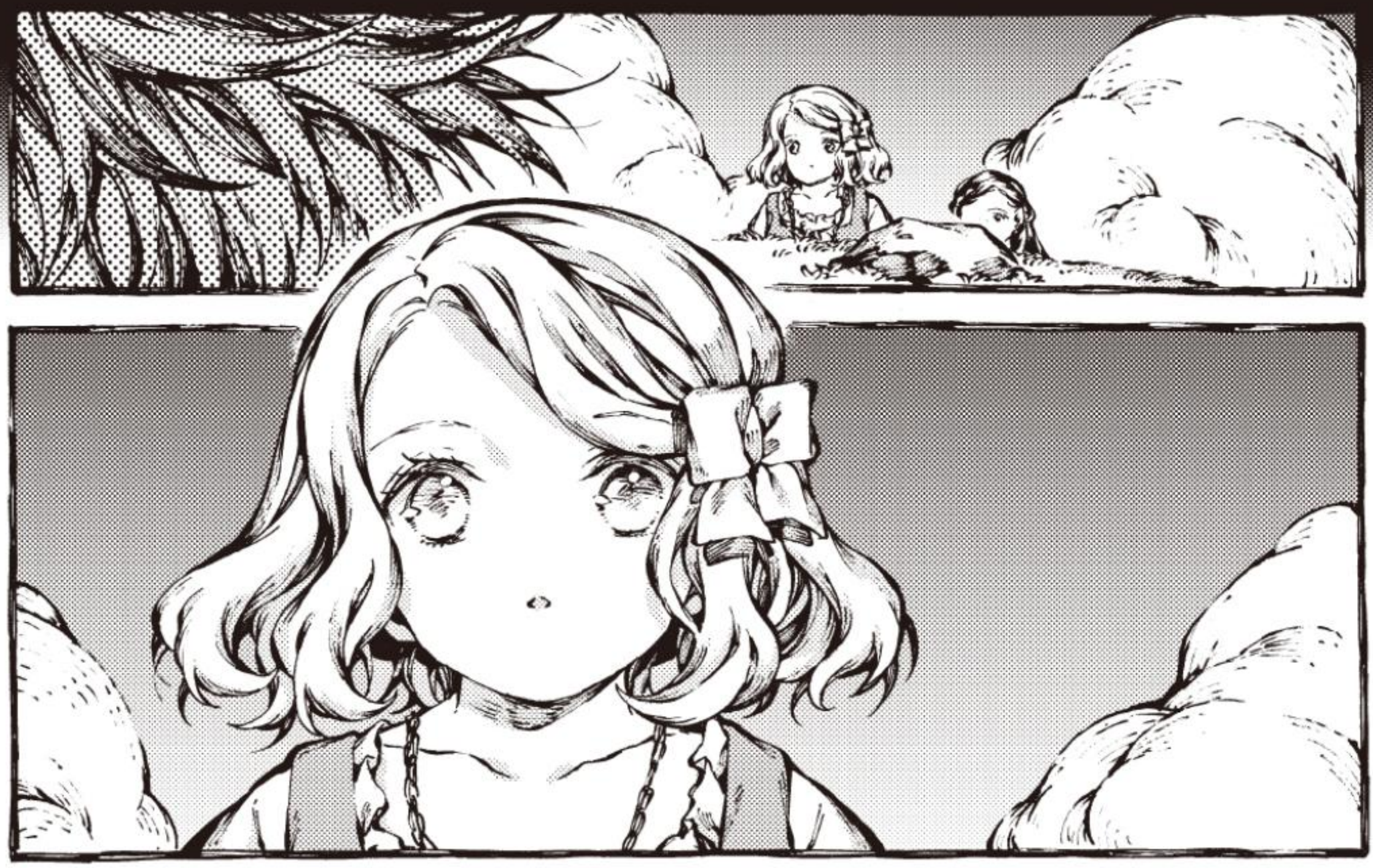


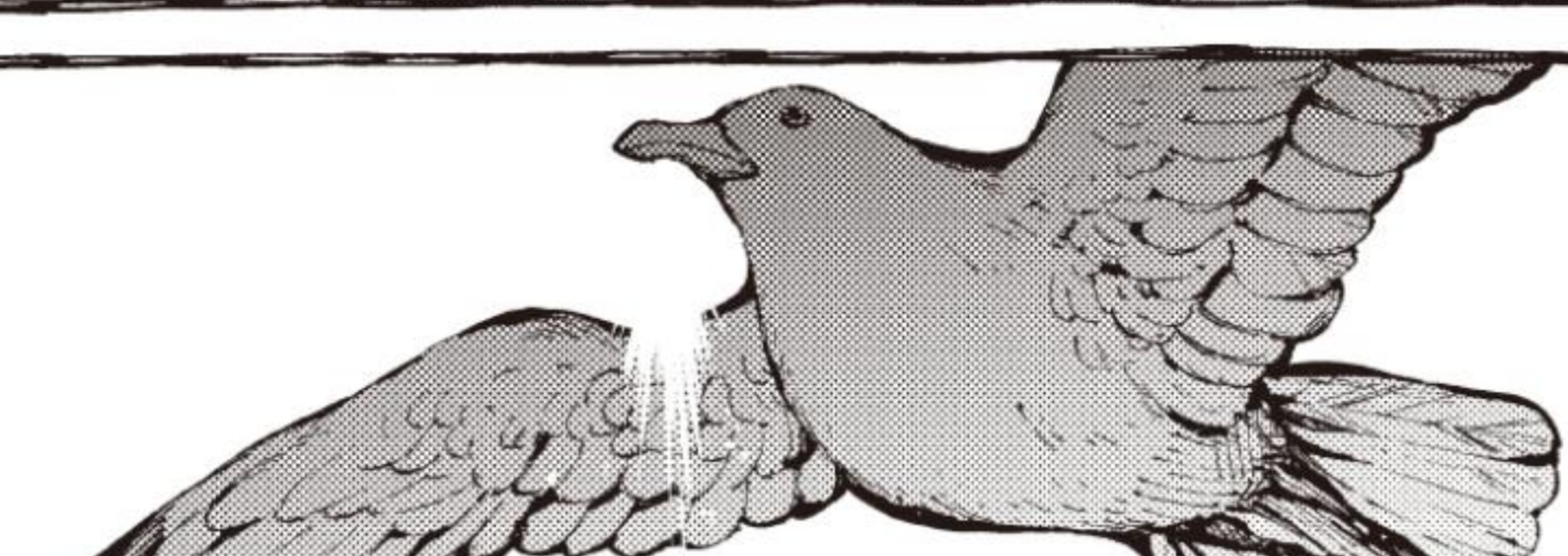


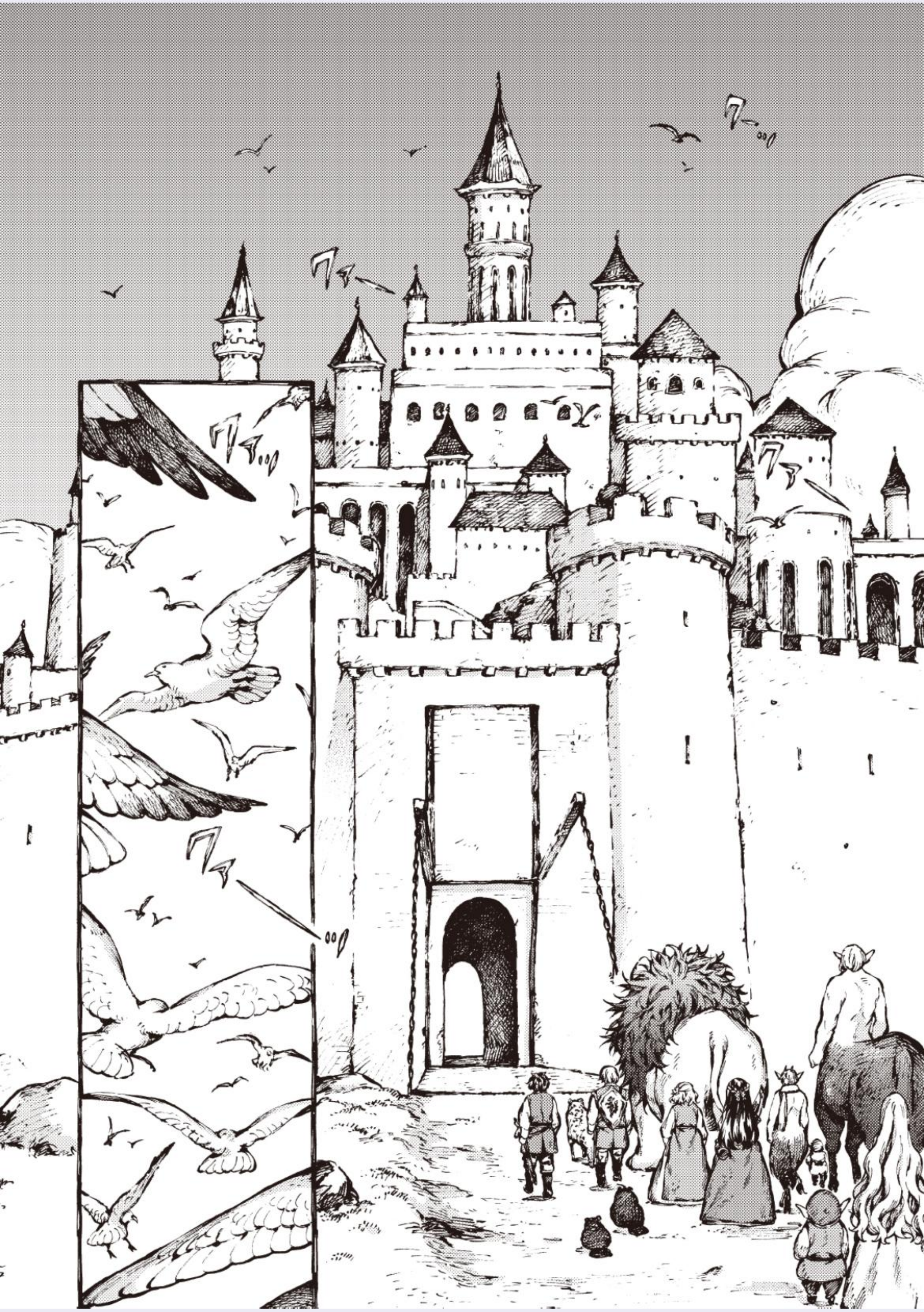




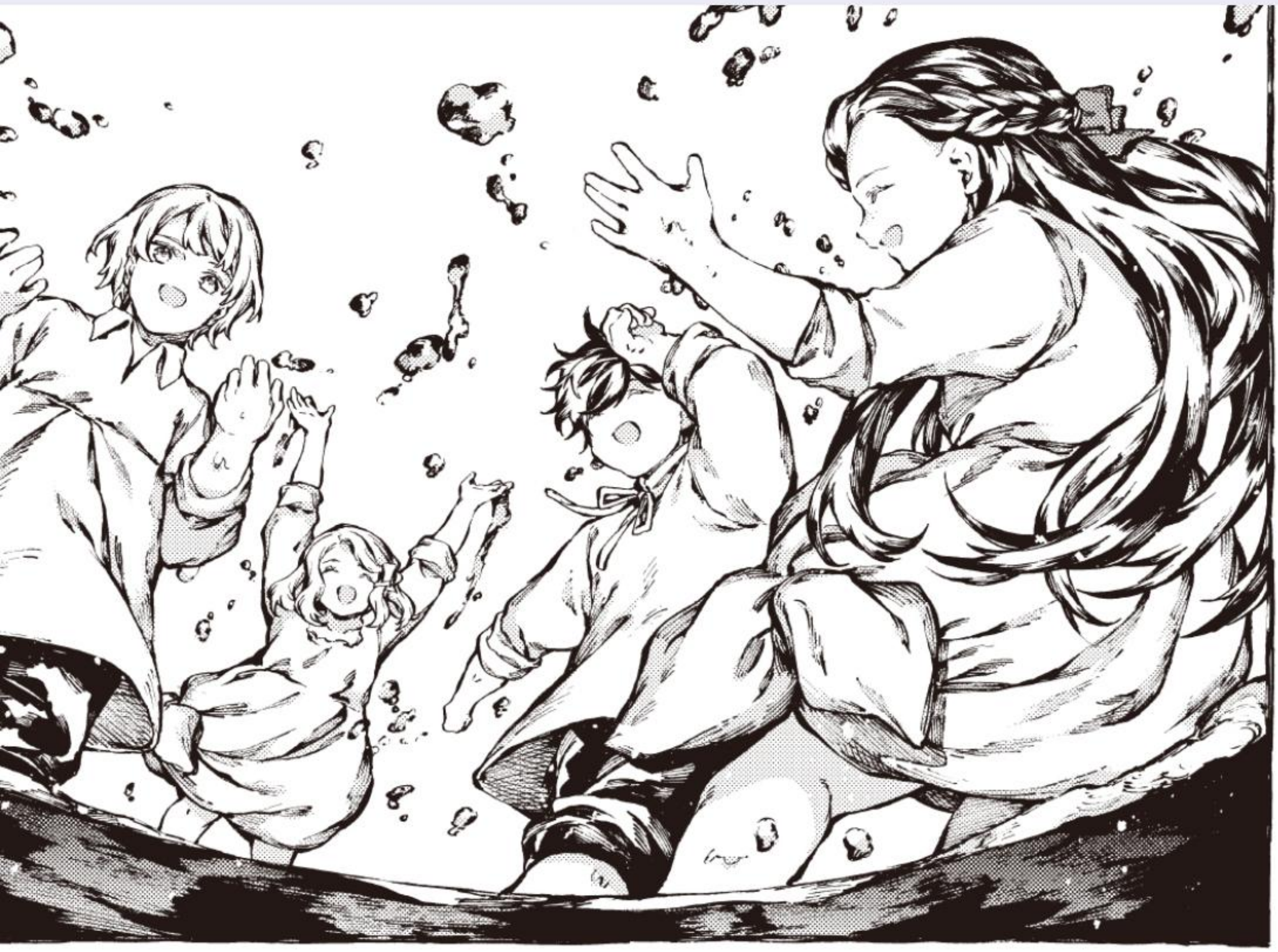




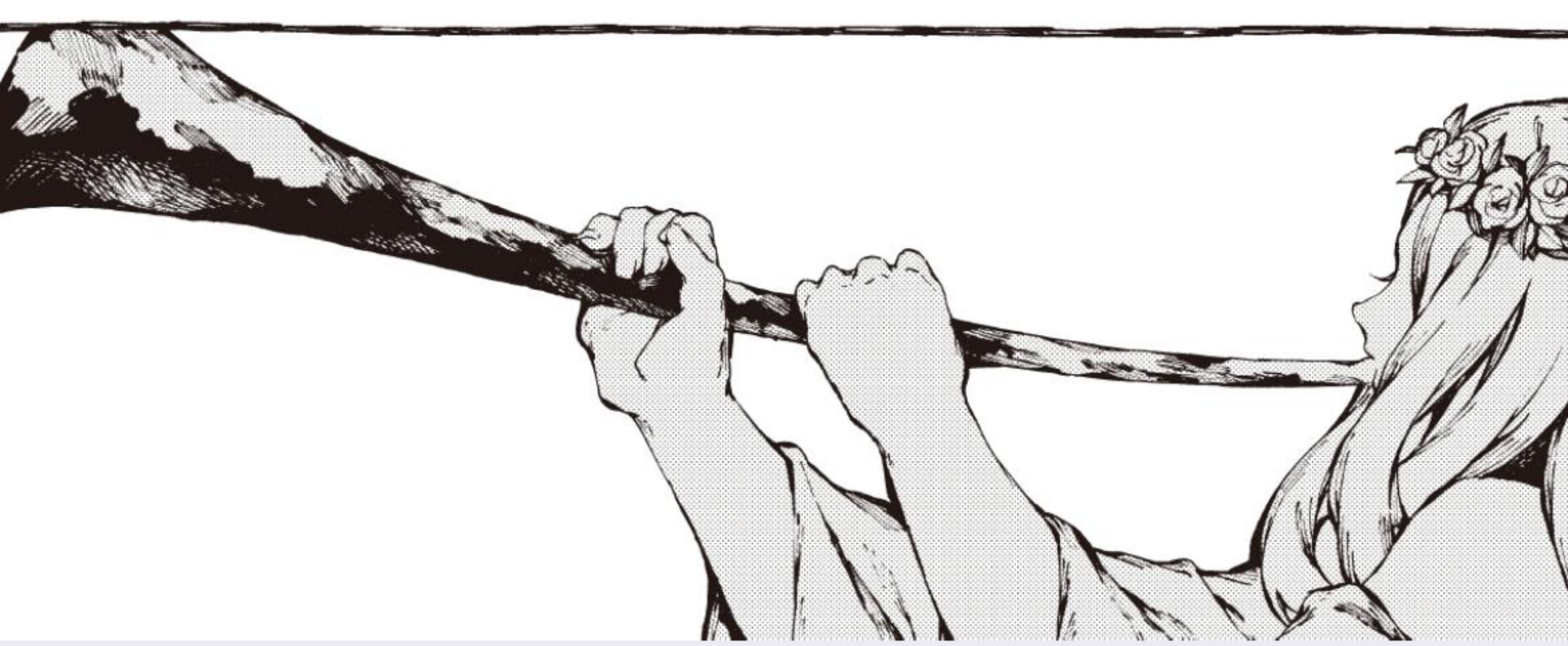




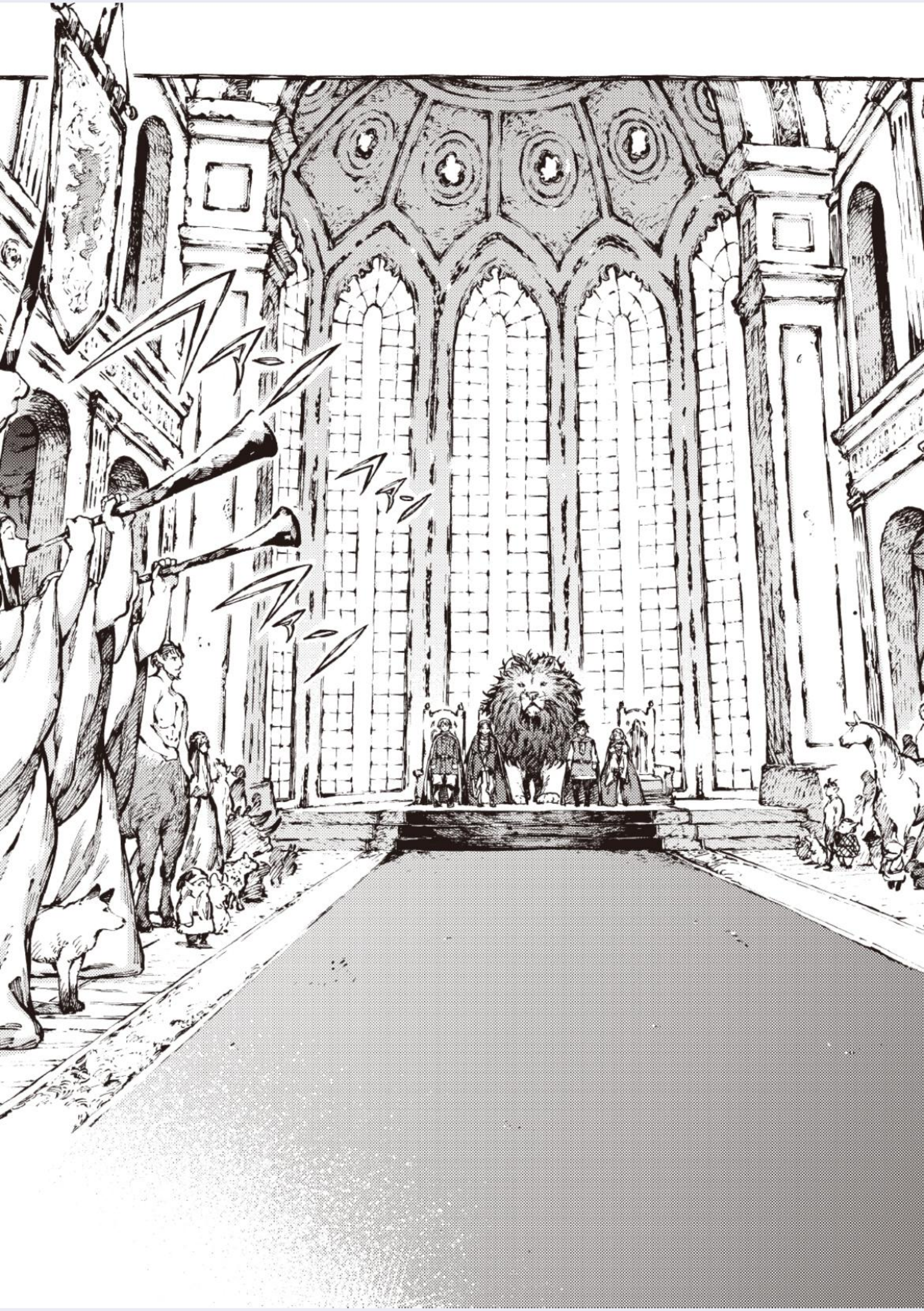


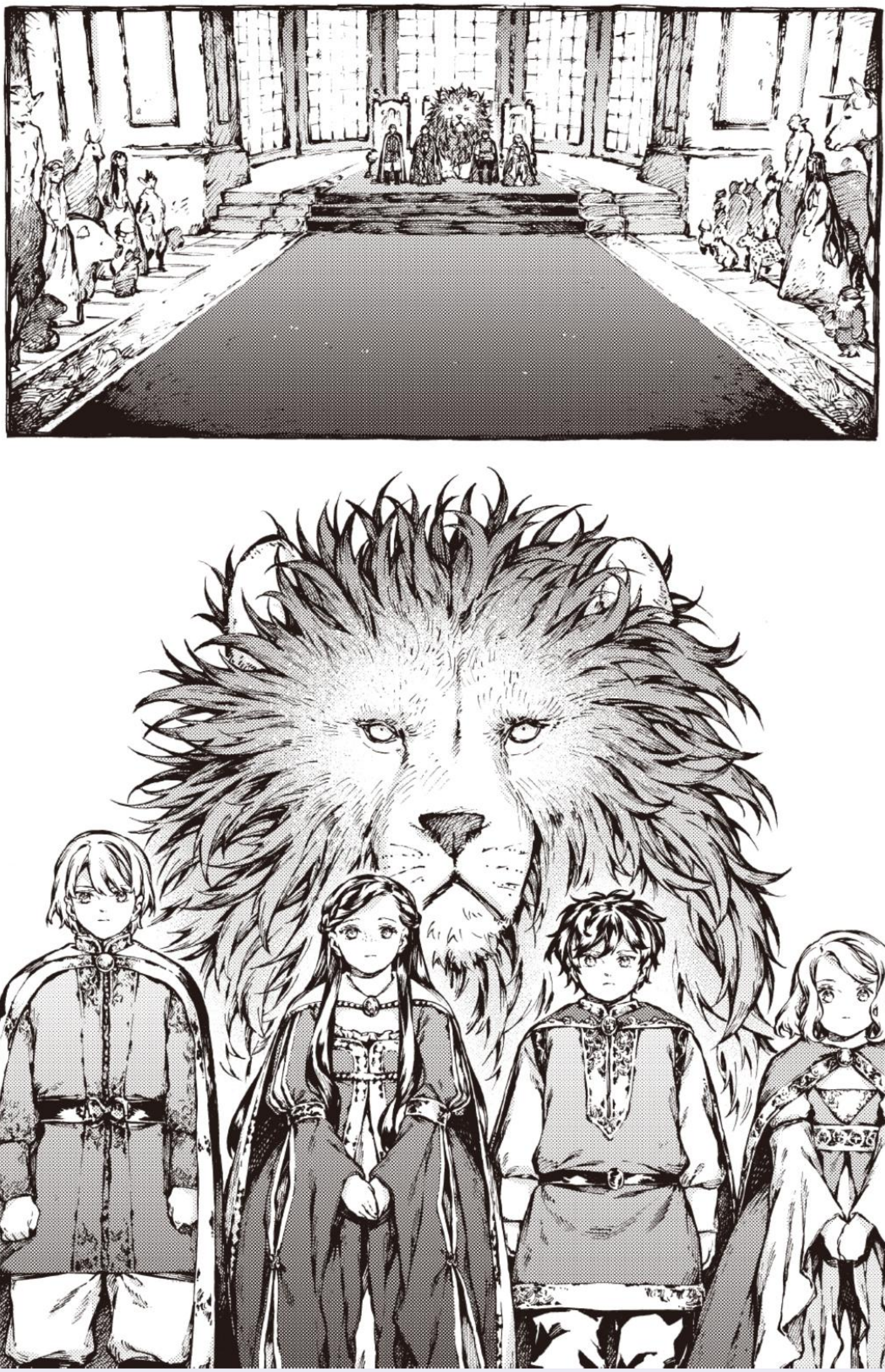














スーザン女王
万歳！

ピーター王
万歳！

エドマンド王
万歳！

ルーシー女王
万歳！

一度
ナルニアの王座に
就いた者は

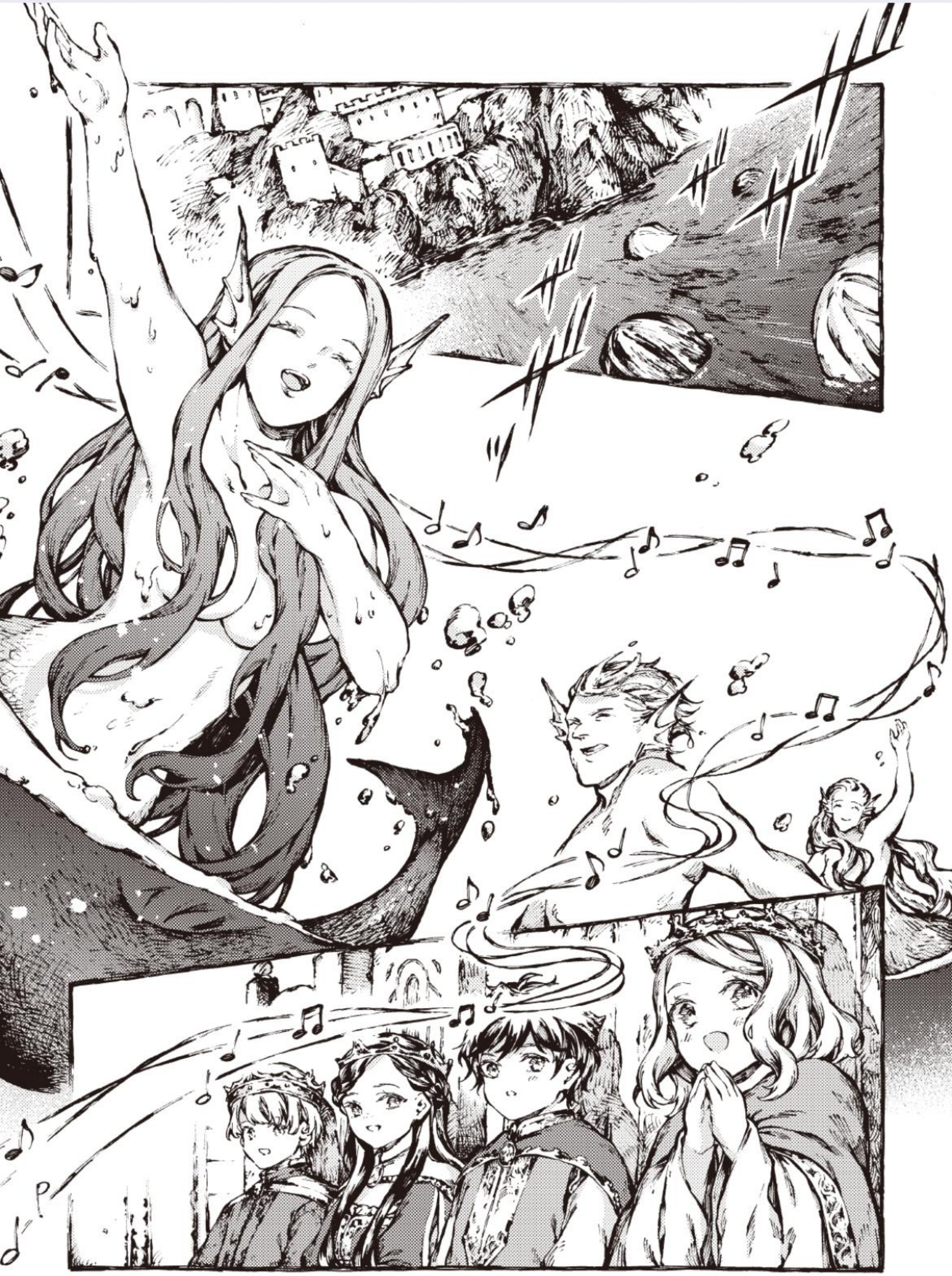
終生
ナルニアの王
である

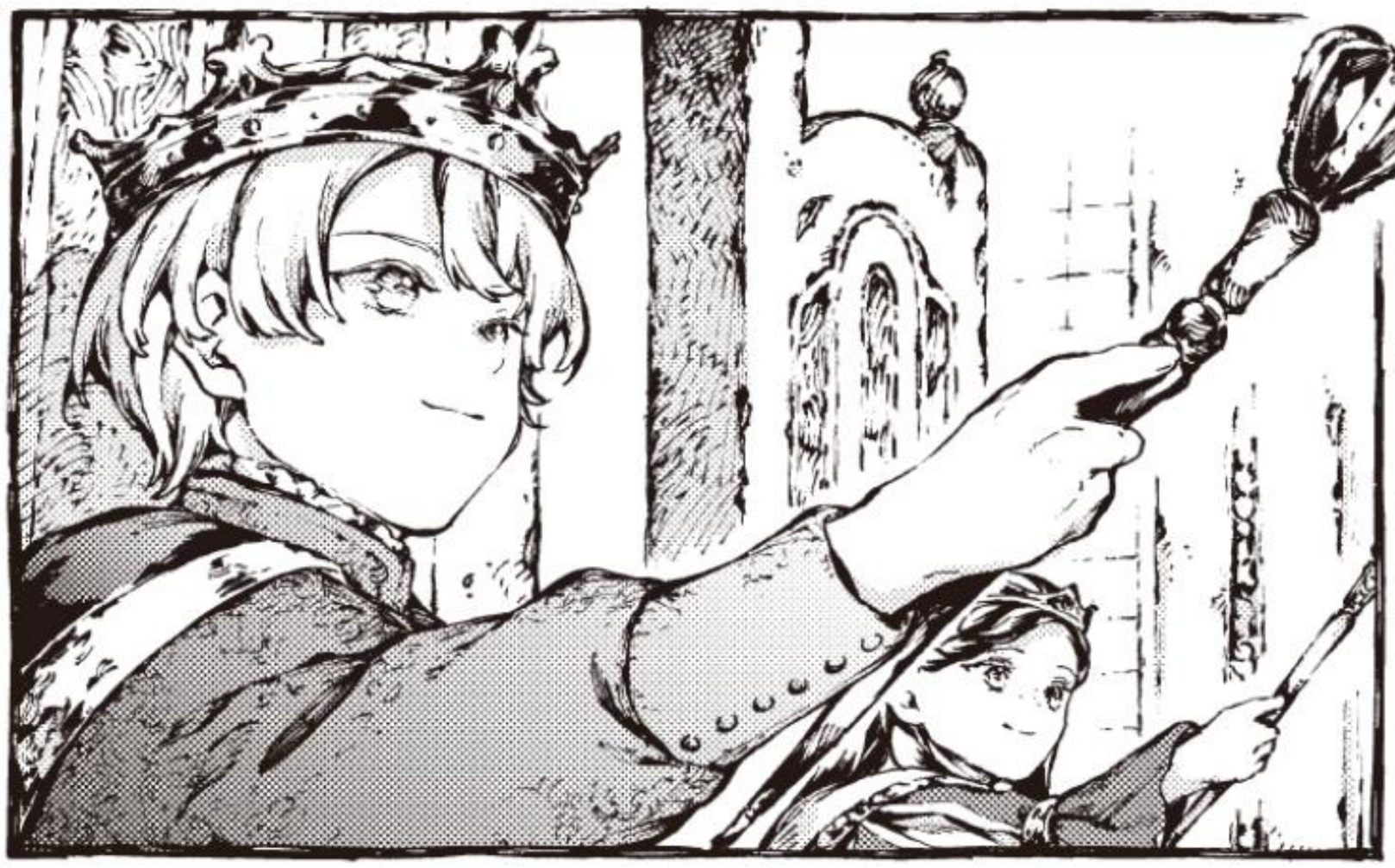
しかと
胸に刻んで
おくがよい

アダムの
息子たちよ！

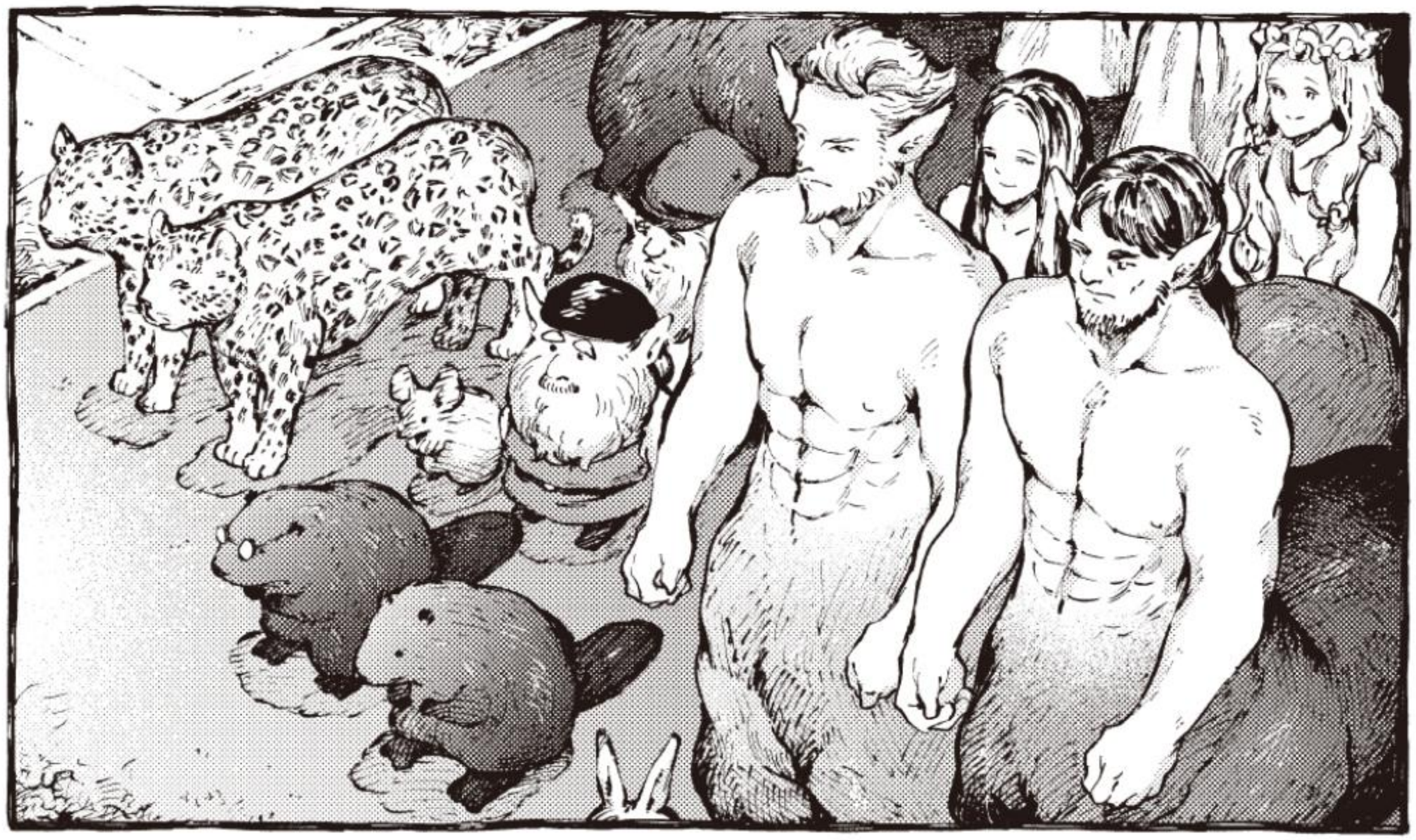
しかと
胸に刻んで
おくがよい

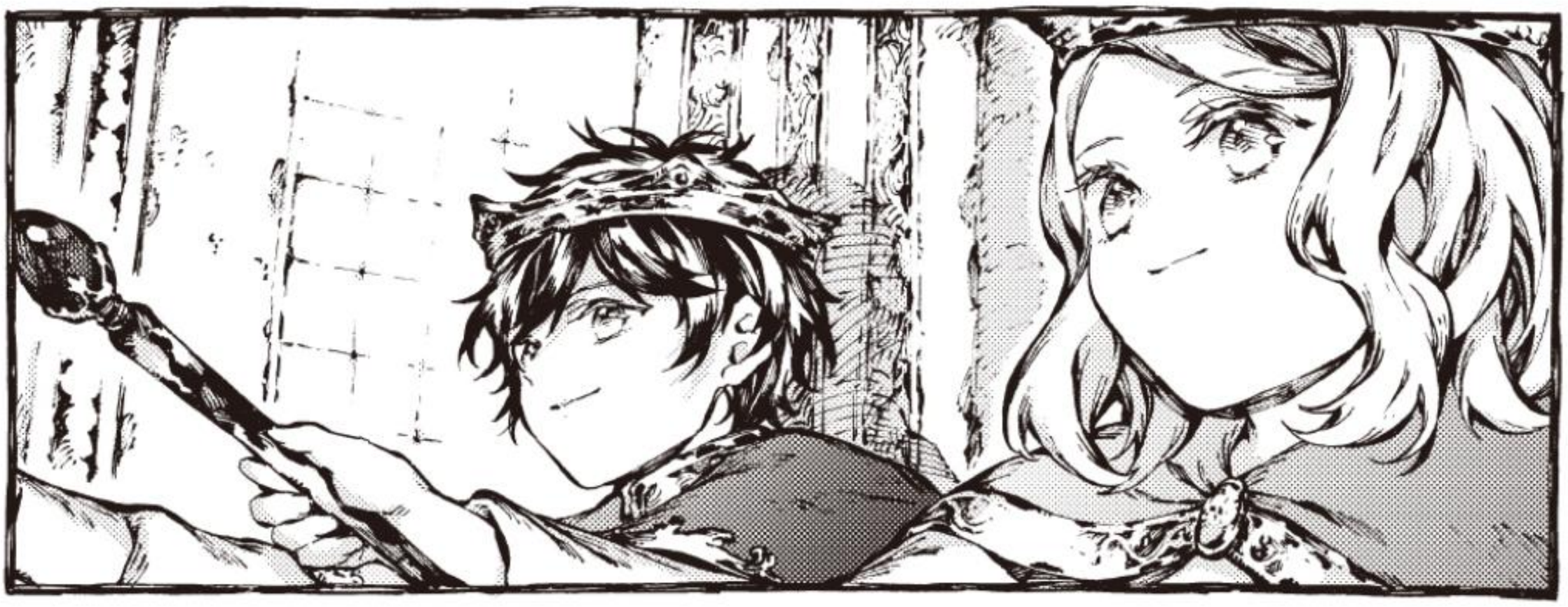
イヴの
娘たちよ！












ガオー!



アスランは
いつの間にか
やってきて

いつの間にか
いなくなる

きょう
アスランの姿を
見かけたとしても

あすには
姿が見えなく
なるかも
しれません

アスランは
縛られるのが
嫌いなのです

もちろん

だいじょうぶ

ほかにも
目配りを
しなければ
ならない国々が
あるし

ときどきは
姿を見せて
くれますから

ただ

アスランに
無理強い
することは
できません

アスランは
野生ですから



飼いならされた
ライオンとは
ちがうのです

つづく

第33話　白シカ狩り（後編）

――さて

そういうわけで

この物語はほぼ
（完全にではないが）
終わりに近づいた
ことになる

二人の王と
二人の女王は
ナルニアを
よく治め

その治世は
長く続き

幸せな
時代であった

初めの
うちは

多くの時間が
白い魔女の軍の
残党狩りに
費やされ

辺境の森で
邪悪な生き物が
うろついているという
報告が聞かれた

実際
長いあいだに
わたって

どこそこで
幽霊が
出たとか

どこそこで
殺害事件が
起こったとか

人狼を
見たという
報告が
あったかと思えば

翌月には
鬼婆が
出たという
報告があったり

しかし
最後には
いまわしい
化け物どもは
撲滅された

四人の
王と女王は
正しい法を定め

平和を守り

善良な木々が
不必要に
切り倒されるのを
防ぎ

解放し
つまらない学校から
子どもたちを
サタイアの
ドワーフや

他人への
いらぬ世話焼やきや
口出しを
やめさせて

ナルニアを
誰もがそれぞれに
楽しく生きられる
国にした

ズン

北方から
獰猛な巨人族
(ランブルバフィンとは
大きく異なる
種類の巨人族)が
国境を越えて
攻めてきたときには

これを
撃退した

ナルニアは
海のむこうの
国々とも
友好関係を結び

王や女王が
国賓として
彼の地を
訪問したり

また
相手国の王族を
国賓として
ナルニアに
招いたりした

歳月を
重ねるに
つれて

四人は成長し
変化していった

ピーターは
長身で胸板の厚い
りっぱな戦士となり

〈偉大なる
ピーター王〉と
呼ばれた

海のかなたの
国々の王たちは
使者をよこして
スーザンに結婚を
申しこむようになった

スーザンは
背の高い
優雅な女性に
成長し

黒髪が
足にとどくほど
長くなり

スーザンは

〈優美なる
スーザン女王〉と
呼ばれた

エドマンドは
ピーターよりも
まじめで
口数の少ない
青年に成長し

会議や
裁判において
高い能力を
発揮した

エドマンドは
〈心正(うらただ)しき
エドマンド王〉と
呼ばれるように
なった

金髪のルーシーは
長じても明るく
陽気な性格は
変わらず

ほうぼうの国の
王子たちが
ルーシーを
王妃として
迎えたいと望んだ

ルナニアの人々は
ルーシーのことを

〈勇敢なる
ルーシー女王〉と
呼んだ

こうして四人は
おおいなる
歓びの日々を送り

こちらの世界の
暮らしを
思い出すときが
あったとしても

それは
むかしに見た夢を
思い出すような
感覚でしか
なくなった

そして
ある年

タムナスが
川を下って
やってきて

タムナスの
住んでいるあたりに
また白シカが
姿を見せたという
知らせを届けた

白シカを
とらえれば
望みをかなえて
もらえると
言われていたので

二人の王と
二人の女王は
宮廷のおもだった
者たちを連れて
馬にまたがり

角笛を持ち
猟犬たちを
連れて

白シカを追って
〈西方の森〉へ
狩りに出た

じきに
白シカが
姿を見せた

一行は
白シカを追って
丘や谷を越え

木立ちや草原を
駆けつづけたが

そのあいだに
廷臣たちの馬は
すべて疲れて
落伍し

王と女王の
四人だけが
狩りを続けた

やがて

白シカは
馬では進めない
森の深いしげみに
はいってしまった

ブルル…

ピーター王が
ほかの三人に
声をかけた

おたがた

ここで
下馬いたし
これより先は
徒歩(かち)にてシカを
追うことと
いたしましょう

わが生涯に
おいて
かくも
高貴なる獲物を
狩ったためしは
ありませぬゆえ

御意(ぎょい)

されば
仰(おお)せのように

みなさまがた

かなたに異なるものが……

どうやら鉄でできた木のごとくに見受けますするが

いかにも

されど

目を凝らして
見ますれば

あれは
鉄の柱の上に
ランタンを
載せたものと
見受けまする

ライオンの
たてがみに
かけて

なんと
不可思議なる
代物よ

かくも
木々の繁き
ところ

木々の高く
茂りおる場所に

ランタンを
置くとは

たとえ火を
ともしたとしても

これでは
誰の目にも
届かぬではないか！

兄上

おそらくは
この柱とランプが
ここに据えられし
折りには

あるいは
皆無（かいむ）であったのかも
しれませぬ

あたりの
木々が小さく

あるいは
少なく

この森は
いまだ
若くして

しかるに
鉄の柱は
ずいぶん古いもの
見受けまするが
ゆえ

何ゆえか
わかりませぬが

夢の中で
あったような……

このような
鉄柱にのせた
ランプは

わが心に
不思議な働きを
およぼしまする

このような
いつぞや
見たことが
あるような気がして
なりませぬ

いや

夢のまた
夢であった
ような

いかにも

わが胸中にも
同じ思いが

それだけでは
ござりませぬ

わが
胸中に

なぜか
振り払うことの
できぬ思いが……

この柱と
ランタンを越して
先へ進めば

不思議な冒険を
見出すか

はたまた
運命の
おおいなる変化が
起こらんとするやに
存じます

さよう

わが胸にも
同様なる
胸騒ぎが

弟王よ
わが胸にも
同じく

そして
わが
胸にも

し

しからば
すみやかに
馬にもどりて

これ以上の
深追いは
見合わせるのが
賢明では
ござりませぬか

…お言葉だが

されば

わたくしは これにてお暇を いただきたく

われら四人が ナルニアの 王となり 女王となってから 今日(こんにち)まで

戦にせよ

冒険の旅にせよ

武芸にせよ

正義の裁きにせよ

何事であれ いったん 重要なことがらに 着手したからには

結果を得ずして 中途で あきらめたことは ござりませぬ

われらは 着手した 以上

何ごとによらず 成しとげて まいったでは ござりませぬか

姉上

兄上の
おっしゃる
とおりです

恐れや
胸騒ぎを理由に
あきらめると
あらば

われらが
名折れと
存じまする

これほどの
高貴なる
獲物を

わたくしも
同意見に
ござりまする

この胸騒ぎが
いかなる
意味を有する
ものなるかを

わたくしは
ぜひとも
明らかにしとう
存じます

ナルニア全土と
すべての島々における
最高の宝石を
引き換えにと
言われても

ここでおめおめと
引き下がるわけには
まいりませぬ

…しからば

アスランの
名にかけて

皆々様が
さように
申されるならば

ともども
先へ進み

ふりかかる
冒険を受けて
立ちましょうぞ

ｻﾞﾊｯ…

ｻﾞﾊｯ

…さきほど
見たもの……

あれは…
「街灯」という
名前だった

これは木々の枝ではなく

毛皮のコートだわ





家政婦のマクレディさんと見学の人たちだ！

ガヤ…

……衣装だんすの
中から
コートが四着
なくなっている
理由を

教授に
説明しなければ
ならないよね


——いや

コートを取りに
もういちど
衣装だんすから
むこうの世界へ
もどろうとする
考えには
賛成しかねる

・・
そのルート
からは
もう二度と
ナルニアに
はいることは
できないだろう

それに
たとえ
取りもどしたとしても
もうコートは
使い物に
ならんだろう！

え？
何だって？

一度
ナルニアの
王座に
就いた者は

終生
ナルニアの王
なのだからね

ああ
もちろん

いつか
ナルニアに
もどる日は
来るだろう

しかし
同じルートを
もう一度使おうと
考えてはいけない

というより

自分から
ナルニアへ
行こうとしては
ならない

ナルニアに
もどる
チャンスは

思っても
みないときに
やってくる
ものだ

それから
もうひとつ

きみたち
きょうだいの
あいだでも
ナルニアのことは
あまり話題に
しないほうがよろしい

ほかの人
にも
話を
しないように

その人たちが
同じ冒険を
してきたことが
はっきりしている
場合は 別だがね

なんだって？
どうしたら
わかるか
…って？

ああ
それは
ちゃんと
わかるよ

そういう人たちは
風変わりなことを
言うからね

それに
見た目も
変わっている

だから
おのずから
秘密があらわれて
しまうのだ

目を
よく開いて
見ていなさい

まったく

いまの学校は
生徒に
何を教えて
おるのかね

これで
衣装だんすの
冒険物語は
終わりだが

教授の
言うことが
正しいとすれば

これは
ナルニアの
冒険物語の
ほんの始まり

ということ
になる

おわり